

村東遺跡

—姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ—

2018

姫路市教育委員会



1 村東遺跡 遠景(南から)



2 村東遺跡 遠景(西から)



3 1次調査 全景(上空から)



4 3次調査 全景(上空から)



5 6-1区 ST01(西から)



6 11区 ST01(東から)

村東遺跡

—姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書Ⅰ—

2018

姫路市教育委員会

序

姫路平野の西部、手柄山と夢前川にはさまれ『播磨国風土記』に「伊和里」あるいは「英賀里」と記された英賀保駅周辺地区において中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業が計画されました。本地区は市街地に近く、姫路市の総合基本計画において住宅地として位置づけられています。

区画整理事業の計画に伴い、平成12年度から3ヵ年をかけて国庫補助事業により試掘調査を行いました。その結果、西から村東遺跡、池ノ下遺跡、大淨口遺跡、豆田遺跡の4遺跡が新たに発見されました。区画整理事業の進捗に合わせて進めてきた発掘調査において、旧石器時代から戦国時代にかけての数多くの遺構・遺物が発見され、わたしたちの先祖が本地区一帯を連綿と生活の場としていたことがわかつてまいりました。

今回報告する村東遺跡は夢前川に近い飾磨区山崎に所在します。遺跡の南側には播磨の中世史を語る上で欠くことのできない「英賀」がありますが、その実態についてはほとんどわかつていません。発掘調査によって、村東遺跡は「英賀」が出現する以前の集落跡であることがわかつてきました。ここに調査成果を報告し、地域の調査・研究の進展に資する所存であります。

最後に事業実施にあたり、多大なご協力を賜りました姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合、山崎自治会、その他関係者各位に心から御礼申し上げます。

平成30年(2018年)3月31日

姫路市教育委員会

教育長 中杉 隆夫

例　　言

1. 本書は姫路市が姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合の委託を受け、姫路市飾磨区山崎において実施した村東遺跡の第1次から第9次までの発掘調査報告書である。
2. 発掘調査の実施ならびに本報告書の刊行に際しては、姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合に多大なるご協力を頂いた。記して感謝申し上げる。
3. 現地調査及び整理作業、報告書の編集は、姫路市教育委員会 生涯学習部 埋蔵文化財センターが実施した。
4. 遺跡の名称については、当初「英賀保駅周辺遺跡第1地点」と呼称していたが、小字名に基づき「村東遺跡」と改称した。また、これまでに現地説明会等で本遺跡について言及したものもあるが、整理作業の進展に伴い見解を変更した部分もあるため、本報告書をもって正式な報告とする。
5. 発掘調査で得られた出土遺物、図面、写真等は姫路市埋蔵文化財センターにおいて保管している。
6. 発掘調査・出土品整理および報告書作成においては、下記の方々・機関より御協力・御教示を賜った。深く感謝の意を表したい。(敬称略、五十音順)
加東郡教育委員会、神戸市教育委員会、神戸市埋蔵文化財センター、たつの市埋蔵文化財センター、兵庫県教育委員会、兵庫県立考古博物館、山崎自治会、池田征弘、今里幾次、宇那木隆司、片岡潤、岸本道昭、中村大介、藤原光平、松本正信、森下大輔

凡　　例

1. 遺構名の表記は、文化庁文化財部記念物課監修の『発掘調査のてびき』記載の略号を使用した。ただし、略号については調査時の見解のままであるため本来の遺構の分類と異なっているものもある。また、遺構名は調査区ごとに1番から番号を付したが、調査の進捗に合わせて採番したため順序等が整然としていない。合わせてご容赦いただきたい。報告書上では、遺構の性格が明らかな場合は溝、建物跡等と適宜明示している。
2. 発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位は全て座標北である。標高は東京湾平均海面(T.P.)を使用した。
3. 土層注記に用いた色調は『新版 標準土色帳』(1999年度版)に準拠している。
4. 遺物実測図の掲載にあたっては、須恵器のみ断面中塗りとした。
5. 一覧表の記載の記号については以下のとおりである。
切合い関係 (時代が新しい遺構:+、時代が古い遺構:-)
遺構名の変更 (調査時の名称は【】で表示)
遺物の略号 (緑:縫釉陶器、黒:黑色土器、白:白磁、青:青磁、瓦:瓦器
布:布目瓦、土:土錐、羽:繩羽口)
6. 本報告における時期区分は土師器の変遷に基づきⅠ期からⅣ期とし、必要に応じて新段階、古段階に分けた。時期区分の詳細は第Ⅳ章第1節にまとめている。
7. ヘラ切り・糸切りについてはいずれもロクロを使用したものと認識しているため、本書では特に断らない限り、回転ヘラ切り、回転糸切りの意で使用している。また、本書時期区分Ⅰ期の底部に指圧痕未調整を有す土師器については、有軸で一定の回転力をを持つロクロを使用していないという意味で非ロクロ成形と記載している。
8. 遺物の記載、観察表の作成にあたっては、以下の文献を参考にした。

土師器：

・小森俊寛・上村憲章 1996「京都の都市道路から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財團法人京都市埋蔵文化財研究所

・岸本分類：龍野市教育委員会 1994「布勢駅家II」

須恵器：須恵器については下記の分類に従い記載したが、産地を特定しているわけではない。

・森田分類：森田稔 1986「東播系中世須恵器生産の成立と展開」『神戸市立博物館研究紀要』第3号
1995「中世須恵器」『概説 中世の土器・陶磁器』

・相生窯分類：兵庫県教育委員会 2003「縫ヶ丘窯址群Ⅲ」兵庫県文化財調査報告第253冊

・口縁部分類：中世土器研究会事務局 2015「東播系須恵器鉢の分類と編年」『中近世土器の基礎研究』26

磁器：太宰府市教育委員会 2000「太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-」太宰府市の文化財第49集

縫釉陶器、黒色土器、瓦器：中世土器研究会編 1999「概説 中世の土器・陶磁器」

土製煮炊具：菅原正明 1982「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』

長谷川真 2007「播磨の土製煮炊具」「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～補遺編」全国シンポジウム「中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～」実行委員会

備前焼：乘岡実 2000「備前焼描録の編年について」『第3回中世備前焼研究会資料』中世備前焼研究会

目 次

第Ⅰ章	調査に至る経緯と経過	
第1節	調査に至る経緯	1
第2節	調査の体制	1
第3節	調査の経過	2
第Ⅱ章	遺跡の立地と歴史的環境	
第1節	遺跡の立地と基本層序	3
第2節	歴史的環境	5
第Ⅲ章	調査の成果	
第1節	調査の概要	9
第2節	1区の調査	13
第3節	2区の調査	16
第4節	3区の調査	19
第5節	4-1区の調査	21
第6節	4-2区の調査	48
第7節	5区の調査	64
第8節	6-1区の調査	70
第9節	6-2区の調査	80
第10節	7区の調査	85
第11節	8区の調査	88
第12節	9区の調査	90
第13節	10-1区の調査	96
第14節	10-2区の調査	110
第15節	11区の調査	111
第16節	12-1区の調査	129
第17節	12-2区の調査	132
第18節	12-3区の調査	136
第Ⅳ章	総括	
第1節	出土遺物の位置づけ	138
第2節	村東遺跡の変遷	145
第3節	村東遺跡の位置づけ	148
遺物観察表		153

挿図目次

図1 遺跡の位置	xvii	図34 SA01平面図・断面図	48
図2 年次調査範囲	2	図35 4-2区平面図・土層断面図	49
図3 村東遺跡土層柱状図	3	図36 SB01・SB02平面図・断面図、 出土遺物実測図	50
図4 村東遺跡調査前等高線図	4	図37 ST01平面図・断面図、出土遺物実測図、 歯写真	51
図5 周辺の道路	5	図38 4-2区溝平面図・断面図、 SK02平面図・断面図	53
図6 讃垣内遺跡出土遺物実測図	7	図39 4-2区溝出土遺物実測図	54
図7 英賀城跡出土遺物実測図	7	図40 4-2区柱穴・土坑位置図	56
図8 調査区全体図	11・12	図41 SK11・SK17平面図・断面図 出土遺物実測図・馬齒写真	57
図9 1区平面図・土層断面図	14	図42 4-2区土坑・柱穴出土遺物実測図	58
図10 1区出土遺物実測図	15	図43 4-2区包含層出土遺物実測図(1)	60
図11 2区SA01平面図・断面図	16	図44 4-2区包含層出土遺物実測図(2)	61
図12 2区平面図・土層断面図	17	図45 SB01平面図・断面図	64
図13 2区出土遺物実測図	18	図46 5区平面図・土層断面図	65
図14 3区出土遺物実測図	19	図47 SD02平面図・断面図、遺物出土状況図	66
図15 3区平面図・土層断面図、SD01断面図	20	図48 SD02出土遺物実測図	67
図16 4-1区平面図・土層断面図	23	図49 SK10平面図・断面図、出土遺物実測図	69
図17 SB01・SB02平面図・断面図、 出土遺物実測図	24	図50 5区造構・包含層出土遺物実測図	69
図18 SB03・SB04平面図・断面図、 出土遺物実測図	25	図51 6-1区平面図・土層断面図	71
図19 SB05・SB06平面図・断面図、 出土遺物実測図	26	図52 6-1区柱穴・土坑位置図	71
図20 SA01・SA02・SA03平面図・断面図、 出土遺物実測図	27	図53 SB01平面図・断面図、出土遺物実測図	72
図21 柱材実測図、SP254断面図	27	図54 SB02・SB03・SB04平面図・断面図、 出土遺物実測図	74
図22 SE01平面図・断面図、出土遺物実測図	29	図55 ST01平面図・断面図、出土遺物実測図	75
図23 4-1区溝平面図・断面図、SK53平面図・断面図	30	図56 SK06断面図、6-1区造構出土遺物実測図	76
図24 4-1区溝出土遺物実測図	31	図57 6-1区包含層出土遺物実測図	78
図25 4-1区柱穴・土坑位置図	33	図58 6-2区平面図・土層断面図	81
図26 SK50平面図・断面図、出土遺物実測図	35	図59 SB01・SB02平面図・断面図、 出土遺物実測図	82
図27 SK13・SK25・SK54平面図・断面図、 出土遺物実測図	36	図60 6-2区包含層出土遺物実測図	82
図28 4-1区土坑出土遺物実測図	37	図61 6-2区造構位置図・造構断面図、 造構出土遺物実測図	84
図29 SP33・SP89・SP178・SP179・SP253平面図・ 断面図、出土遺物実測図	39	図62 7区平面図・土層断面図	86
図30 4-1区柱穴出土遺物実測図(1)	40	図63 7区出土遺物実測図	87
図31 4-1区柱穴出土遺物実測図(2)	42	図64 SK01平面図・断面図、 SK01・SK02出土遺物実測図	88
図32 4-1区包含層出土遺物実測図(1)	43		
図33 4-1区包含層出土遺物実測図(2)	44		

図65	8区平面図・土層断面図	89
図66	SB01平面図・断面図	90
図67	9区遺構出土遺物実測図	90
図68	9区平面図・土層断面図・柱穴位置図	92
図69	SK03・SK04・SK05平面図・断面図	94
図70	9区出土遺物実測図	95
図71	10-1区平面図・土層断面図	97
図72	SB01平面図・断面図・出土遺物実測図	98
図73	SB02・SB03平面図・断面図・出土遺物実測図	99
図74	ST01平面図・断面図・出土遺物実測図	101
図75	ST02平面図・断面図・出土遺物実測図	101
図76	10-1区土坑・溝平面図・断面図、 出土遺物実測図	103
図77	SD06平面図・断面図・出土遺物実測図	104
図78	10-1区遺構位置図	105
図79	SP08・SP18平面図・断面図、 出土遺物実測図	106
図80	10-1区柱穴出土遺物実測図	106
図81	10-1区包含層出土遺物実測図	108
図82	10-2区平面図・土層断面図	110
図83	11区平面図・土層断面図	112
図84	SB04・SB05・SB06平面図・断面図、 出土遺物実測図	113
図85	SB07・SB08・SB09平面図・断面図、 出土遺物実測図	114
図86	ST01出土遺物実測図	116
図87	ST01平面図・断面図	117
図88	SX01・SX02・SD01・SK02・SK03平面図・断面図	119
図89	SD02・SK02・SK03・SK11・SX01 出土遺物実測図	120
図90	SX01出土遺物実測図	121
図91	11区遺構位置図	123
図92	SP56・SP68・SP72・SP80平面図・断面図、 出土遺物実測図	124
図93	SP88平面図・断面図・出土遺物実測図	126
図94	11区柱穴出土遺物実測図	126
図95	11区包含層出土遺物実測図	127
図96	12-1区平面図・土層断面図	129
図97	SB01・ST01平面図・断面図、 12-1区遺構出土遺物実測図	131
図98	12-2区平面図・土層断面図	133
図99	SD01・SK01・SK02平面図・断面図	133
図100	SD01出土遺物実測図	134
図101	SE01・SE02・SK04平面図・断面図	136
図102	12-3区平面図・土層断面図	137
図103	播磨における土師器変遷図	142
図104	村東遺跡主要遺構配置図	145
図105	村東遺跡主要遺構 方位別配置図	146
図106	村東遺跡主要遺構 時期別配置図	146

挿表目次

表1	調査一覧	2
表2	1区遺構一覧	15
表3	2区遺構一覧	18
表4	4-1区溝一覧	32
表5	4-1区土坑一覧	34
表6	4-1区柱穴一覧(1)	45
表7	4-1区柱穴一覧(2)	46
表8	4-1区柱穴一覧(3)	47
表9	4-2区溝一覧	52
表10	4-2区墓・土坑一覧	57
表11	4-2区柱穴一覧(1)	62
表12	4-2区柱穴一覧(2)	63
表13	5区遺構一覧	68
表14	6-1区溝一覧	73
表15	6-1区墓・土坑一覧	76
表16	6-1区柱穴一覧(1)	77
表17	6-1区柱穴一覧(2)	79
表18	6-2区遺構一覧	83
表19	7区遺構一覧	85
表20	8区遺構一覧	88
表21	9区遺構一覧	93
表22	10-1区遺構一覧	102

表23	10-1区柱穴一覧	109
表24	11区遺構一覧	122
表25	11区柱穴一覧(1)	125
表26	11区柱穴一覧(2)	128
表27	12-1区遺構一覧	130
表28	12-2区遺構一覧	132
表29	12-1区柱穴一覧	135
表30	12-2区柱穴一覧	135
表31	12-3区遺構一覧	137
表32	東播磨の土器様相	139
表33	西播磨の土器様相	140
表34	播磨地域の土器様相	141
表35	包含層出土遺物数量表	147

写真図版目次

写真図版 1

- 1 村東遺跡周辺空中写真(昭和33年 姫路市撮影)
- 2 村東遺跡より夢前川を望む(東から)
- 3 1次調査近景(北から)
- 4 3次調査近景(東から)

写真図版 2 1区

- 1 調査区全景(東から)
- 2 調査区西端遺構(北から)
- 3 調査区西壁(南東から)
- 4 調査区東部全景(西から)
- 5 SD01(東から)
- 6 SK01(南東から)
- 7 西壁石材(東から)

写真図版 3 2区

- 1 調査区全景(東から)
- 2 調査区北壁(西から)
- 3 SA01(東から)
- 4 調査区東端(南西から)
- 5 SD01(南から)
- 6 SD02・SD04(南から)
- 7 SD03(南東から)

写真図版 4 3区

- 1 調査区全景(南から)
- 2 調査区西壁(南東から)
- 3 SD01A-A断面(南から)
- 4 SK01(南から)
- 5 SD01西側杭列(南から)
- 6 SK01西側杭列(北から)
- 7 杭(南から)

写真図版 5 4-1区

- 1 調査区全景(西から)
- 2 調査区北壁(南東から)
- 3 SD17周辺遺構(北から)
- 4 SK50周辺遺構(北から)
- 5 SB01(東から)

写真図版 6 4-1区

- 1 SB02(南から)
- 2 SB04(東から)
- 3 SB05根石検出状況(東から)
- 4 SE01(北から)
- 5 SE01井戸(南から)
- 6 SE01南西隅部材(東から)
- 7 SE01断削り(東から)
- 8 SD02・SD03(南から)

写真図版 7 4-1区

- 1 SD04断面(南から)
- 2 SD32断面(西から)
- 3 SD35断面(南から)
- 4 SD38断面(南から)
- 5 SK13遺物出土状況(北西から)
- 6 SK25遺物出土状況(北から)
- 7 SK36遺物出土状況(北から)
- 8 SD30・SK36断面(南から)

写真図版 8 4-1区

- 1 SK50遺物出土状況(南から)
- 2 SK54遺物出土状況(西から)
- 3 SP33遺物出土状況(西から)
- 4 SP178・SP179遺物出土状況(東から)

- 5 SP89検出状況(北西から)
6 SP253遺物出土状況(北から)
7 SP254断割り(南から)
8 SK53完掘状況(西から)
- 写真図版9 4-2区
1 調査区全景(東から)
写真図版10 4-2区
1 調査区南壁(北東から)
2 SB02(北から)
3 調査区西部溝群(北東から)
4 ST01(北から)
5 ST01(東から)
6 ST01歯・遺物出土状況(北東から)
7 SD10以西溝群(南東から)
8 SD05断面(南から)
- 写真図版11 4-2区
1 SD07断面(南から)
2 SD10断面(南から)
3 SD11(東から)
4 SD11南端遺物出土状況(北から)
5 SD12・SD13(北から)
6 SD13北側断面(北から)
7 SD17(東から)
8 SD17断面(西から)
- 写真図版12 4-2区
1 SD17周辺溝群(北西から)
2 SD25周辺溝群
3 SD18(南から)
4 SK02断面(南から)
5 SK11遺物出土状況(北から)
6 SK17断面(南から)
7 SK17完掘(南から)
8 SK17歯出土状況(南から)
- 写真図版13 5区
1 調査区全景(北から)
2 SB01(南から)
3 SK10(北から)
4 SD01(南西から)
5 SD02(北西から)
- 6 SD02A-A'断面(南東から)
7 SD02遺物出土状況(西から)
写真図版14 6-1区
1 調査区全景(西から)
写真図版15 6-1区
1 SB01・SB02・SB03(東から)
2 ST01遺物出土状況(北から)
3 ST01木棺痕跡(西から)
4 ST01木棺南側小口(南から)
5 ST01掘方内石材(東から)
6 ST01断割り(北から)
7 SD03(南西から)
8 SK06(南西から)
- 写真図版16 6-2区
1 3次調査区全景(東から)
2 5次調査区全景(東から)
3 6次調査区全景(東から)
4 3次調査区北壁(南西から)
- 写真図版17 6-2区
1 SP04遺物出土状況(東から)
2 SP05遺物出土状況(南西から)
3 SD01(北から)
4 SD01断面(南から)
5 SK01遺物出土状況(西から)
6 SD02・SX04・SK01断面(北東から)
- 写真図版18 7区
1 調査区全景(東から)
2 調査区南壁(北東から)
3 調査区南壁里道断面(北から)
4 調査区西端造構(東から)
5 調査区西端造構(西から)
- 写真図版19 8区
1 調査区全景(西から)
2 調査区南壁(北東から)
3 杖列(西から)
4 SK01断面(南から)
5 SD03(南から)
6 SK01周辺鶴溝(南から)
7 調査区東端鶴溝(南から)

写真図版20 9区

- 1 調査区全景(東から)
- 2 SD02周辺(北から)
- 3 SD03B-B'断面(北から)
- 4 調査区北壁(南東から)
- 5 調査区南端(東から)
- 6 SD03-SK01・SD02A-A'断面(北から)
- 7 SK03(南から)

写真図版21 10-1区

- 1 3次調査区全景(北から)
- 2 10-1区・11区垂直写真

写真図版22 10-1区

- 1 調査区東壁(北西から)
- 2 SB01(南から)
- 3 SB02(東から)
- 4 SB03(北から)
- 5 ST01・ST02(南から)

写真図版23 10-1区

- 1 ST01(東から)
- 2 ST01遺物出土状況(東から)
- 3 ST02遺物出土状況(北から)
- 4 SD06遺物出土状況(南から)
- 5 4次調査区全景(北西から)
- 6 SD06(東から)

写真図版24 10-1区・10-2区

- 1 SK01断面(北から)
- 2 SK03断面(西から)
- 3 SP06遺物出土状況(西から)
- 4 SP08遺物出土状況(北から)
- 5 SP18遺物出土状況(西から)
- 6 SP24遺物出土状況(西から)
- 7 10-2区全景(北から)
- 8 10-2区南部西壁(北東から)

写真図版25 11区

- 1 調査区全景(東から)
- 2 調査区東部(西から)

写真図版26 11区

- 1 調査区全景(西から)
- 2 6次調査区全景(東から)

3 調査区東部北壁(南西から)

- 4 調査区西部北壁(南東から)
- 5 SB04・SB05(西から)
- 6 SB06(東から)
- 7 SB07(北東から)
- 8 SB08・SB09(北西から)

写真図版27 11区

- 1 ST01検出状況(東から)
- 2 ST01C-C'断面(南から)
- 3 ST01棺内埋土断面(東から)
- 4 ST01全景(北から)
- 5 ST01棺内遺物出土状況(北から)
- 6 ST01北側小口(南から)
- 7 ST01南側小口(北から)
- 8 ST01棺外遺物出土状況(北から)

写真図版28 11区

- 1 SX02A-A'断面(東から)
- 2 SX01B-B'断面(東から)
- 3 SX01C-C'断面(西から)
- 4 SK11断面(東から)
- 5 SD01断面(南から)
- 6 SD02(南から)
- 7 SK02・SK03断面(北から)
- 8 SK03断面(西から)

写真図版29 11区

- 1 SP72遺物出土状況(南西から)
- 2 SP75遺物出土状況(南から)
- 3 SP80遺物出土状況(北東から)
- 4 SP88遺物出土状況(西から)
- 5 SP56遺物出土状況(西から)
- 6 SP102遺物出土状況(北から)

写真図版30 12-1区

- 1 調査区全景(北から)

写真図版31 12-1区

 - 1 調査区東・南壁(北西から)
 - 2 SB01(北から)
 - 3 ST01(北から)
 - 4 ST01遺物出土状況(南から)
 - 5 ST01A-A'断面(南から)

6 調査区西壁間知石積み(東から)

写真図版32 12-2区

- 1 調査区全景(東から)
- 2 調査区全景(北から)
- 3 SK01(北から)
- 4 SD01(西から)
- 5 SD01 水輪出土状況(南から)
- 6 SD01 空風輪出土状況(北から)

写真図版33 12-3区

- 1 6次調査区全景(北から)
- 2 8次調査区全景(北から)
- 3 6次調査区西壁(北東から)
- 4 SE02・SK04断面(北から)
- 5 SE01(北から)
- 6 SE02(北から)

写真図版34 緑釉陶器

写真図版35 黒色土器

写真図版36 白磁碗・皿、青白磁

写真図版37 青磁碗

写真図版38 瓦器碗・皿

写真図版39 土師器皿

写真図版40 土師器皿・托皿

写真図版41 土師器碗・杯

写真図版42 須恵器皿・杯・蓋

写真図版43 須恵器碗

写真図版44 須恵器碗

写真図版45 須恵器鉢

写真図版46 須恵器壺・甕

写真図版47 土師器・瓦質土器羽釜

写真図版48 土師器羽釜・甕

写真図版49 瓦

写真図版50 土錘、風字硯他

写真図版51 土師器蓋、甕他

写真図版52 石製品

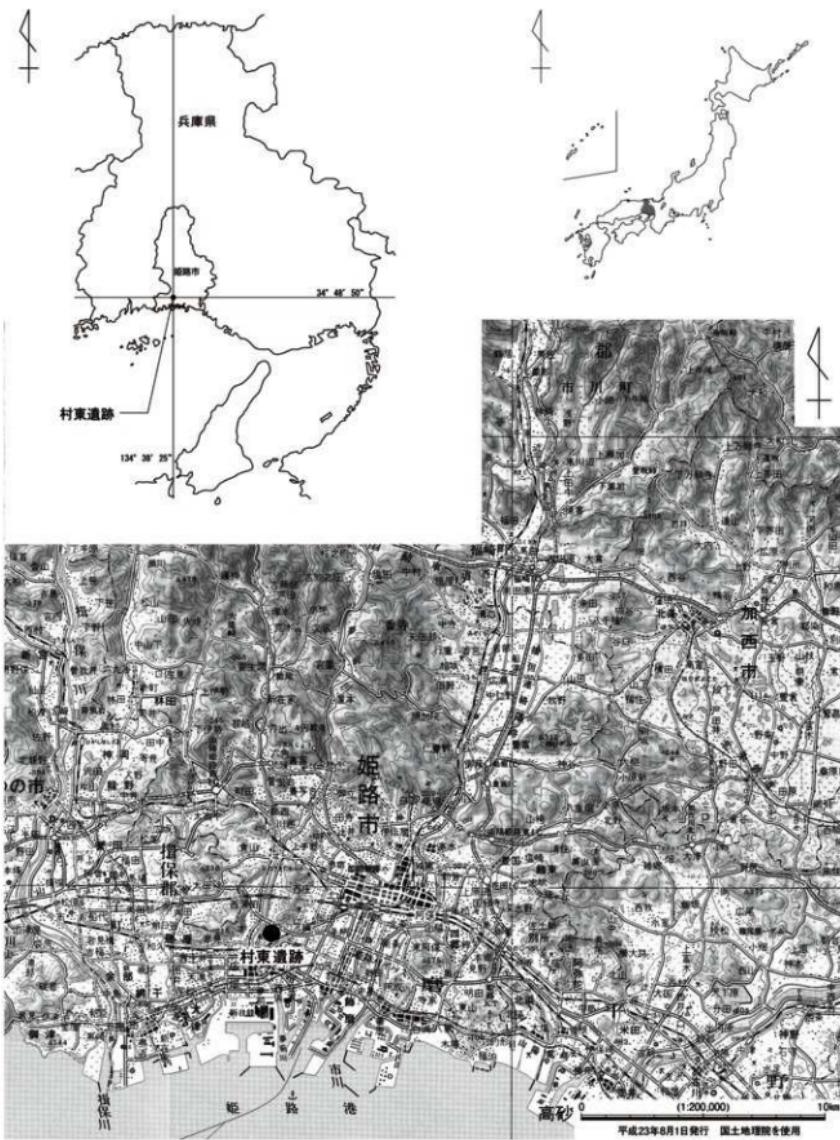


図1 遺跡の位置 (S=1 : 200,000)

第Ⅰ章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

姫路市苦編、町坪、玉手、飾磨区山崎において中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業が計画された。施行地区的面積は69.5haである。事業計画時点では土地区画整理事業地内には埋蔵文化財包蔵地は知られていなかったが、周辺の山塊あるいは平野部に遺跡の分布する状況から事業地内にも遺跡の存在が十分に想定された。このため平成12年度から平成14年度にかけて文化庁の国庫補助事業として事業地内において試掘調査を実施した。その結果、飾磨区山崎において村東遺跡が、苦編・町坪において池ノ下遺跡が、町坪・玉手において豆田遺跡、大淨口遺跡の4遺跡が発見された。

姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合から提出された文化財保護法第57条の2(現93条)の届出に基づく協議の結果、工事により遺跡に影響が及ぶ区画整理道路部分については記録保存の取扱いとなり、本発掘調査を行うことになった。本発掘調査は平成13年度に豆田遺跡から開始し、毎年継続的に調査を実施している。そのうち大淨口遺跡は平成15年度に、村東遺跡は平成27年度に区画整理道路部分の全ての調査を終えた。豆田遺跡と池ノ下遺跡は現在も継続して調査を行っている。

第2節 調査の体制

発掘調査及び整理作業は姫路市と姫路市英賀保駅周辺土地区画整理組合の協定に基づき、姫路市教育委員会が実施した。平成29年度の体制は以下のとおりである。

姫路市教育委員会	(試掘調査開始から平成28年度までに在籍した職員)
教育長	中杉隆夫 (松本健太郎、高岡保宏)
教育次長	名村哲哉 (八木優、林尚秀、後藤純二、小河紀人、大前信也、石塚勝行、池田宏)
生涯学習部 部 長	岡田俊勝 (植原正則、小林直樹、芝原政博、芳賀秀文、南都彰、山田吉則、西沢徹也)
文化財課	
課 長	花幡和宏 (福永明彦、芝原政博、玉岡路三郎、牛尾誠)
課長補佐	大谷輝彦
埋蔵文化財センター	
館 長	前田光則 (秋枝芳、大橋勉)
課長補佐	岡崎政俊
係 長	森恒裕 (岸本幸男、大西文雄、小林利夫)
主 事	岡本武平 (小林啓祐、鷗田祐)
技術主任	小柴治子、福井優、中川猛、南憲和、関梓 (多田暢久)
技 師	黒田祐介 (堀本裕二)
技師補	山下大輝
嘱託員	韋美紗、黒岩紀子、清水聖子、田中章子、玉越綾子、野村知子、松田聰子、三輪悠代
臨時職員	寺本祐子、藤村由紀、宅見春美、鈴木千枝美、長谷川鈴代

第3節 調査の経過

村東遺跡の調査は平成14年11月28日から第1次調査を開始し、表1のとおり途中中断をはさみつつ第9次調査まで実施した。第9次調査の完了をもって本遺跡における土地区画整理事業に伴う調査を終了した。総調査面積は6,892m²である。

調査にあたってはバックホウで盛土・造成土・擾乱土を除去した。その後、遺構検出面まで人力で掘削し、遺構検出及び検出した遺構の発掘を行った。遺構発掘の進展に伴い適宜、記録写真撮影、遺構実測を行い、調査の終盤で空中写真測量を実施した。

第1次調査中の平成15年3月23日と第3次調査中の平成18年9月16日に現地説明会を開催した。



平成14年度 現地説明会風景

表1 調査一覧

調査次数	調査期間	調査面積	調査区	調査担当
第1次調査	平成14年11月28日 — 平成15年3月28日	3,681m ²	1~8区	小柴・中川
第2次調査	平成15年6月3日 — 平成16年3月12日	783m ²	9区	小柴
第3次調査	平成18年6月6日 — 平成18年9月23日	1,417m ²	10-1区、11区・12-2区	中川
第4次調査	平成20年10月28日 — 平成21年1月13日	305m ²	10-1区、12-1区	中川
第5次調査	平成21年12月10日 — 平成22年3月18日	78m ²	6-2区	堀本・中川
第6次調査	平成23年8月11日 — 平成23年11月28日	346m ²	6-2区、11区、12-3区	南
第7次調査	平成24年11月10日 — 平成24年12月18日	26m ²	10-2区	南
第8次調査	平成26年7月24日 — 平成26年8月21日	116m ²	12-3区	黒田
第9次調査	平成27年6月19日 — 平成27年8月9日	140m ²	10-2区	関

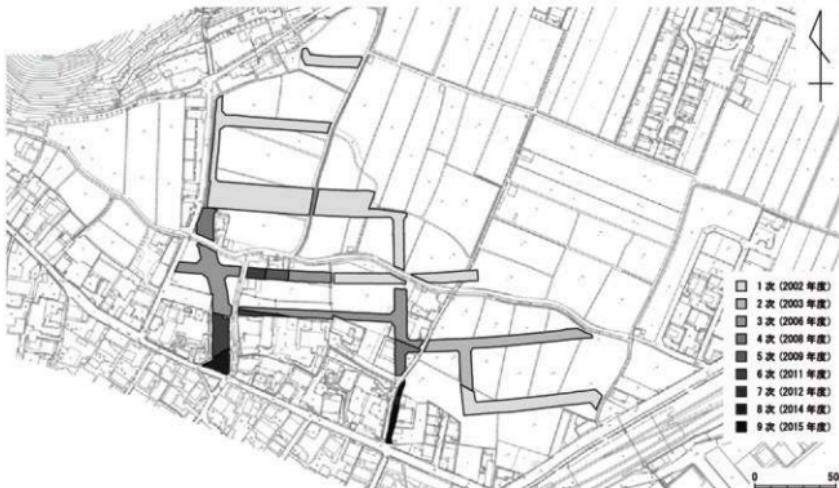


図2 年次調査範囲 (S=1:3,000)

第Ⅱ章 遺跡の立地と歴史的環境

第1節 遺跡の立地と基本層序

遺跡は姫路平野の西部、夢前川の左岸に立地している。現在の海岸線からは約3.2km内陸に位置し、かつての海岸線と想定されている山陽電鉄沿線付近からは約1.6kmを測る。遺跡の範囲は東西約300m、南北約250m、調査前の現地表の標高は3.8m～3.0mである。遺跡の所在する山崎は、その名が示すように山塊の先端に位置する。現在も淨土真宗本願寺派の西山廟所の西方に岩盤の露頭を確認することができる。その岩盤に近接して集落の中を市道八幡74号線が北西から南東方向に通っている。この市道の法線が集落の立地する自然堤防の尾根筋に沿っているとみられる。「姫路市史」によれば、現在の山崎の集落は夢前川の形成した自然堤防上に立地し、遺跡の所在する集落背後の耕作地一帯は後背湿地にあたるとしている⁽¹⁾。

調査区の層位については、個別の調査区毎に土層断面図を呈示している。ここでは、村東遺跡の立地する微高地に関する層位について記載する。本書で報告する1次から9次にわたる区画整理道路部分の調査時には断割りを実施していないため、平成29年度に実施した第10次調査での断割り成果に基づいた柱状図(図3)で説明する。

層序は、最上層が盛土もしくは耕土である。調査時にはほとんどの調査区が耕土(2層、厚さ20cm)を最上層としている。その下に床土(3層、厚さ8～10cm)、褐灰色細砂の遺物包含層(4層、厚さ5～10cm)がある。その下位で黄褐色～黄灰色の細砂もしくは砂礫層(5層、厚さ25～30cm)を検出した。調査区によってこれらの細砂と砂礫のいずれかが検出される。第1次から第9次調査ではこの層を地山と認識し、遺構は全てこれらの層の上面で検出した。しかし、土層断面の観察から包含層内に立ち上がりが認められる遺構がある。また、遺構検出中に原位置を保った遺物が出土している。これらのことから本来の生活面は遺構検出面より上位に存在していた。

地山とした5層中には弥生土器等の遺物がわずかに含まれている。ただし、遺構面が別に存在するのではなく、堆積の過程で流入したものと推測できる。

遺構検出面である細砂もしくは砂礫層の下位には、さらに砂と砂礫の互層(6～9層、厚さ25～30cm)が続いている。内部は固くしまっており、遺物の出土は認められない。その下位に砂層もしくはシルト層(9・10層、厚さ約1m)が堆積している。湧水が激しかったため、これ以上の断割り調査は行っていないが、下層については検土棒による調査を行った。標高1.4m前後で礫層に到達し、その上部に

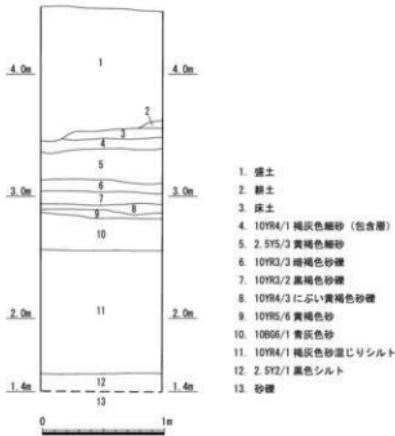


図3 村東遺跡土層柱状図 (S=1:40)

有機質起源とみられる黒褐色シルト～粘土(12層、厚さ約15cm)が堆積している。このことから遺跡の所在する場所は当初、後背湿地であり、堆積により微高地が形成されたことがわかる。この微高地は図4の調査前等高線が示すように、北西から南東方向へ延びる。調査を実施した道路予定地と山崎集落との現地表面での比高差は約90cmある。後述する10-2区や12-3区の成果に基づけば、この差は盛土等による近現代の嵩上げによるもので、地山自体の標高は調査地と集落側とで大きく変わらない。このことから遺跡は、現在の集落と一連の微高地上に立地しているといえる。

現在の集落の縁辺部にあたる位置に北東から南東方向へ流れる水路がある。この水路は夢前川を水源とし、集落への灌漑用水を供給している。同時に下流に位置する英賀、付城、高町の35haの田畠を灌漑する基幹水路でもある。

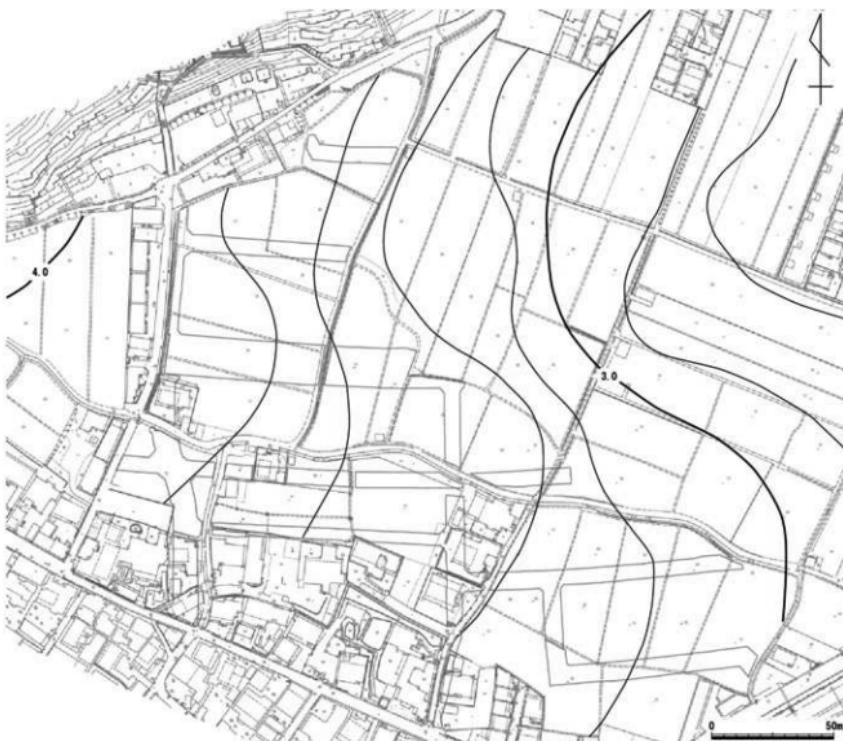


図4 村東遺跡調査前等高線図 (S=1:2,000)

第2節 歴史的環境

遺跡は、姫路市域の西部を南北に貫く夢前川によって形成された平野部に位置する。夢前川は姫路市夢前町に所在する標高915mの雪彦山を源流とする延長約39.7kmの2級河川である。流域には西の比叡山とも称され、多くの文化財を有す書写山円教寺や播磨國守護赤松氏の居城である置塙城跡を擁する。実態は明らかではないが、河口部には播磨における淨土真宗の広がりを語る上で欠くことのできない本徳寺を擁した英賀があった。このように夢前川は姫路あるいは播磨の歴史上重要な遺跡・史跡を育んできた河川といえる。

遺跡の所在する夢前川の河口部は、「播磨國風土記」に記載された「英賀里」に比定されている(2)。風土記に伝える「阿賀比古」「阿賀比売」は、それぞれ英賀本町の英賀神社と広畠区才の天満神社に祀られている。遺跡の北西、夢前川と山崎山の山塊が最も近接する部分が「稚児ヶ淵」と呼ばれる。この付近で北の青山・蒲田から続く一連の平野が一旦途切れる。対岸の才村には旧河道の痕跡が明瞭に観察できる。山崎と才の集落を過ぎる付近から一気に河口平野が広がる。現在、住居表示に「英賀」と付く地名は夢前川左岸に限られているが、本来は河口部の平野一帯

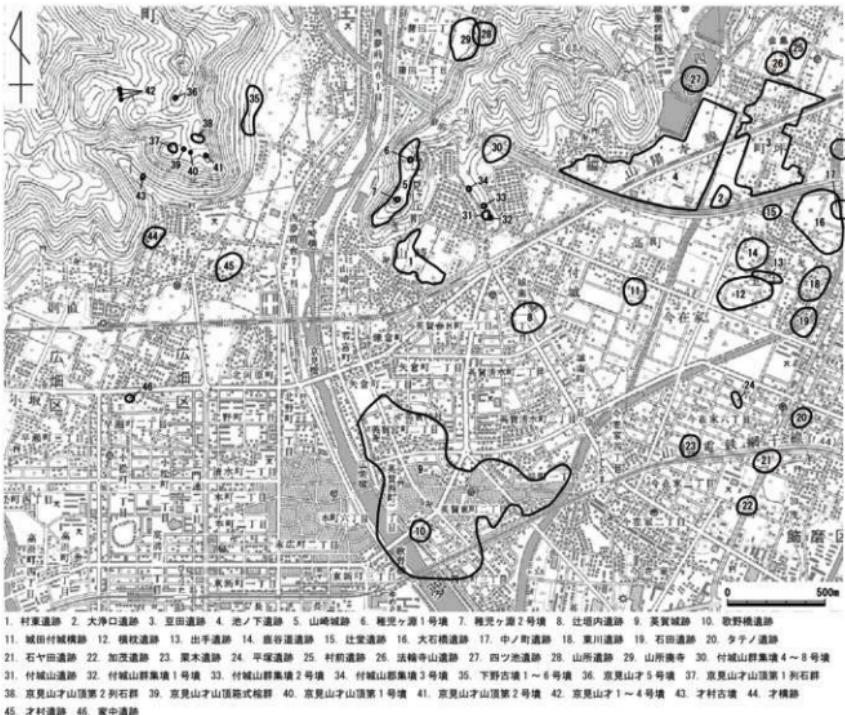


図5 周辺の遺跡 (S=1/25,000)

を指していたと思われる。観応三年(1352)九月「法觀寺文書」に「八坂法觀寺料英賀散在田」と記され、長享二年(1488)八月「藤原軒日録」に「又真満院領英賀東西之内細工所有之」と見える。その後は、播磨地域における浄土真宗の信仰拠点として文献上に頻繁に登場する。享禄二年(1529)『鶴庄引付』によれば英賀津に赤松政村の守護館が置かれている⁽³⁾。

こうした「英賀里」には、多くの遺跡が存在する。旧石器時代の角錐状石器が町坪の豆田遺跡(3)から出土している。縄文時代後期前半の中津式土器、後期後半の元住吉山I式土器が庵谷道遺跡(14)から見つかっている。縄文時代晚期後半に位置づけられる突帯文土器が出手遺跡(13)と池ノ下遺跡(4)から出土し、池ノ下遺跡においては旧河道から弥生時代前期前半の資料が見つかっている。英賀城跡(9)と重なる歌野橋遺跡(10)においても弥生土器が採取されているようで、村東遺跡の南にある砂堆への居住時期の一端をうかがうことができる。弥生時代中期以降になると調査地周辺のみでなく市内全域に遺跡数が増加していく。当該期の集落維持に欠かせない祭祀具である銅鐸片が東川遺跡(18)から出土している。四ツ池遺跡(27)からは時期は不明であるものの鳥形木製品が採取されている⁽⁴⁾。

古墳時代になると池ノ下遺跡から前期の小型丸底土器や中期の土師器が出土している。当該時期の古墳としては、夢前川右岸の京見山の尾根上に築かれた京見山才5号墳(才小屋ヶ谷古墳)(36)が知られている。約38mの前方後方墳で、後方部は一辺約20mを測る。発掘調査を行っていないため詳細な時期は不明であるが、埋葬施設は堅穴系石室と目され古墳時代前半期に位置づけられている⁽⁵⁾。対岸の苦編地区の山塊からは2面の鏡の出土が伝えられている。一例は現在ギメ国立博物館所蔵品となっている変形四神四獸鏡、もう一例は現品不明であるが内行人文鏡である⁽⁶⁾。こうした出土例から周辺の山塊上には古墳が点在していたと考えられる。古墳時代後期の集落跡は船場川流域で確認されているものの調査例は未だ多くなく、古墳の数に比べると集落域の実態は明らかになっていない。当該期の古墳は苦編山から派生する丘陵の山麓に付城山古墳群(30・32~34)・蒲田古墳群等がある。対岸の京見山には、尾根筋に通称「四ツ塚」として知られる京見山才1~4号墳(42)、東山麓には下野古墳群(35)がある。このうち京見山才1・2号墳については近年の調査により6世紀中葉の墳長約23mの前方後円墳(才北山古墳)である可能性が指摘されている⁽⁷⁾。下野古墳群については、当初1~6号墳が知られるだけであったが、近年の分布調査等によって現在では約20基の古墳が知られるようになっている⁽⁸⁾。

奈良時代から平安時代にかけては唐三彩が出土した池ノ下遺跡、類例の少ない唐草文を施した瓦塘が出土した山所遺跡・山所廃寺(28・29)、奈良時代の井戸が見つかった家中遺跡(46)がある。また、場所は不明ながら「大字英賀保小字窪山」において隆平永宝16枚を含む銭39枚が採集されたと伝わっている⁽⁹⁾。遺跡の東側には平安時代の遺物が出土した辻垣内遺跡(8)が存在する。辻垣内遺跡からは村東遺跡と共に通する時期の遺物が採取されている。調査の詳報は採集者である矢内澄氏によって既に為されている⁽¹⁰⁾。図6に示した資料が姫路市埋蔵文化財センターで保管されており、それらの資料を呈示した。土師器はいずれも非口クロ成形のⅠ期新段階の資料である。10は篠窯産の須恵器鉢とみられ、縄IV A期、9世紀末頃に位置づけられる⁽¹¹⁾。残念ながら遺物の出土状況の詳細は明らかでなく、共伴関係等は不明であるが、これらの資料の時期は村東遺跡の初現期と重なっている。遺跡周辺は早くに市街化したため旧地形の復元は難しいが、村東遺跡から延びる微高地の延長上に遺跡が位置していると思われる。

現在、知られている遺跡は山麓から平野部を中心に展開し、江戸時代にはこれらの山際を通り姫路から室津に至る室津道が整備された。平野部と対照的に海岸部は遺跡数が少なく、調査

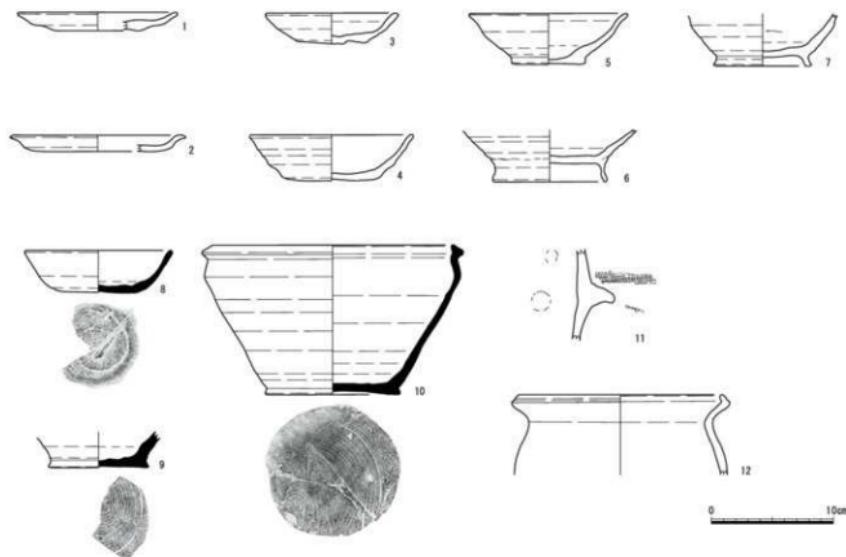


图6 塘堰内遗迹出土遗物实测图 (S=1/4)

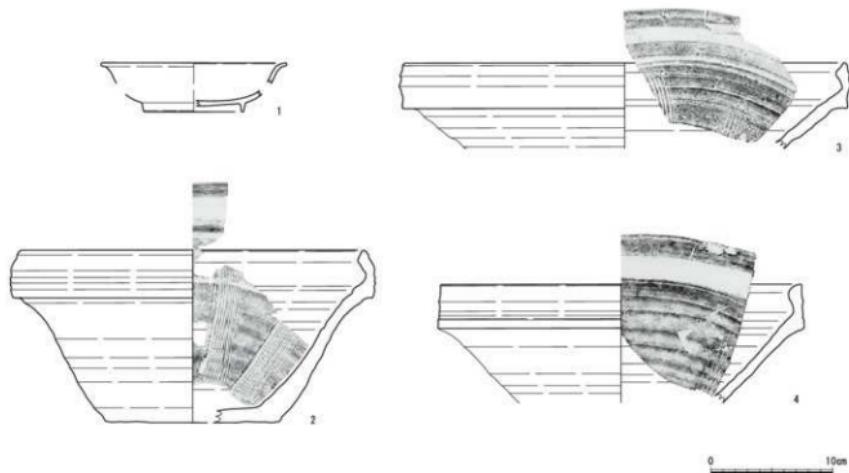


图7 英箕城跡出土遗物实测图 (S=1/4)

例も乏しい。中世後半に栄えたとされる英賀城跡(9)についてもかつて堺や炭化米が出土したと伝わるが、その実態は考古学的には不明のままである。近年、歌野橋付近の調査地(字西苅屋)において焼土層とともに図7に示した16世紀代の遺物が出土し、英賀の様相を知るうえで貴重な手がかりが得られている。

山崎集落の東方に氏神である野杉春日神社が鎮座する。当初からこの位置かどうかは不明であるが、遺跡の立地する自然堤防の延長上に所在している。江戸時代の地誌『播磨鑑』の記すところでは、文治二年(1186)に「吉川但馬守次郎」が勧進奉斎したと伝わる。この頃、吉川氏は揖保郡福井荘の地頭として文献上現れる⁽¹²⁾。英賀にも関与していたかどうかは不明であるが伝承として残っている。

山崎村の文献上の初見は近世になってからである。正保三年(1646)の播磨国郷帳の村明細によれば658石9斗3升2合、約200年後の天保五年(1834)播磨国郷帳では829石5升4合と記される⁽¹³⁾。

註

- (1)姫路市 1998『姫路市史』第7巻上 資料編 自然 付図
- (2)秋本吉郎校注 1958『風土記』日本古典文学大系2 岩波書店
- (3)姫路市 2005『姫路市史』第八巻史料編 古代中世1
- (4)姫路市教育委員会 1998『TSUBOHORI-平成8年度姫路市文化財調査略報-』
- (5)姫路市史編集専門委員会編 2010『姫路市史』第7巻下 資料編 考古
- (6)前掲註4
- (7)前掲註4
- (8)姫路市埋蔵文化財センター 2016『姫路の横穴式石室をたずねて』
- (9)下間虎儀 1918『発掘裁の報告』『古鏡』第二巻第六号
- (10)矢内 清 1959『姫路市飾磨区英賀字辻垣内遺跡』『姫路古代誌』No5 姫路古代文化研究会
1960『辻垣内遺跡出土資料 追加』『姫路古代誌』No6 姫路古代文化研究会
1962『姫路市辻垣内遺跡出土の資料』『古代学研究31』
- (11)大阪大学考古学研究室篠塙調査団 2012『篠塙跡大谷3号窯の研究』大阪大学文学研究科考古学研究報告第5冊
- (12)前掲註2
- (13)姫路市史編集専門委員会編 1996『姫路市史』第11巻上 史料編近世2

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 調査の概要

調査は9次にわたる。調査区の呼称にあたっては同一法線を同一区とし、1~12区と呼称した。里道や水路で延長が途切れる場合には枝番号を付した。同一法線上を年次をまたぎ細切れに調査した箇所も存在するが、本報告ではそれらをまとめて報告している。そのため、以下の調査区については調査時と名称を変更した。

- ・ 1次調査6区→6-1区、3次6-1区・4次6-2区・5次6-3区→6-2区
- ・ 3次調査10区・4次10-1区→10-1区、7次10-1区・8次10-3区→10-2区
- ・ 3次調査12区→12-2区、4次調査12-1区→12-1区、7次12-2区・9次12-3区→12-3区
- ・ 3次調査11区・7次11-1区→11区

これらに伴い遺構名も一部名称変更しているが、数は多くないため一覧表に記した。
検出した遺構は以下のとおりである。

1区	溝1条、土坑1基、柱穴2基、杭穴
2区	柵1列、溝5条、土坑8基、柱穴22基
3区	溝1条、土坑1基、杭穴
4-1区	掘立柱建物跡6棟、柵3列、井戸1基、溝36条、土坑45基、柱穴286基
4-2区	掘立柱建物跡2棟、柵1列、土坑墓1基、溝25条、土坑17基、柱穴164基
5区	掘立柱建物跡1棟、溝2条、土坑9基、柱穴21基
6-1区	掘立柱建物跡4棟、土坑墓1基、溝4条、土坑6基、柱穴152基
6-2区	掘立柱建物跡2棟、溝2条、土坑2基、柱穴15基、落込み5
7区	土坑2基、柱穴15基
8区	溝3条、土坑2基、柱穴3基、鋤溝、杭穴
9区	掘立柱建物跡1棟、溝4条、土坑4基、柱穴29基、鋤溝、杭穴
10-1区	掘立柱建物跡4棟、土坑墓2基、溝7条、土坑7基、柱穴98基
10-2区	遺構なし
11区	掘立柱建物跡5棟、土坑墓1基、溝4条、土坑11基、柱穴120基、落込み2
12-1区	掘立柱建物跡1棟、土坑墓1基、溝3条、土坑3基、柱穴37基
12-2区	溝1条、土坑2基、柱穴31基
12-3区	井戸2基、土坑5基、鋤溝

4-1区、4-2区、5区、6区、10-1区、11区、12-1区で遺構が集中し、これらの調査区を中心として遺構が展開するものと思われる。1区、2区、3区、7区、8区、9区、10-2区、12-2区、12-3区は遺構が希薄であり、遺跡の縁辺に該当すると思われる。こうした状況から当時の集落の範囲が概ね判明した。遺物は主にⅠ期新段階からⅣ期新段階にかけてものが出土しており、概ね10世紀前半から13世紀前半にかけて集落が存続していることが判明した。統いて調査区毎に成果を述べる。

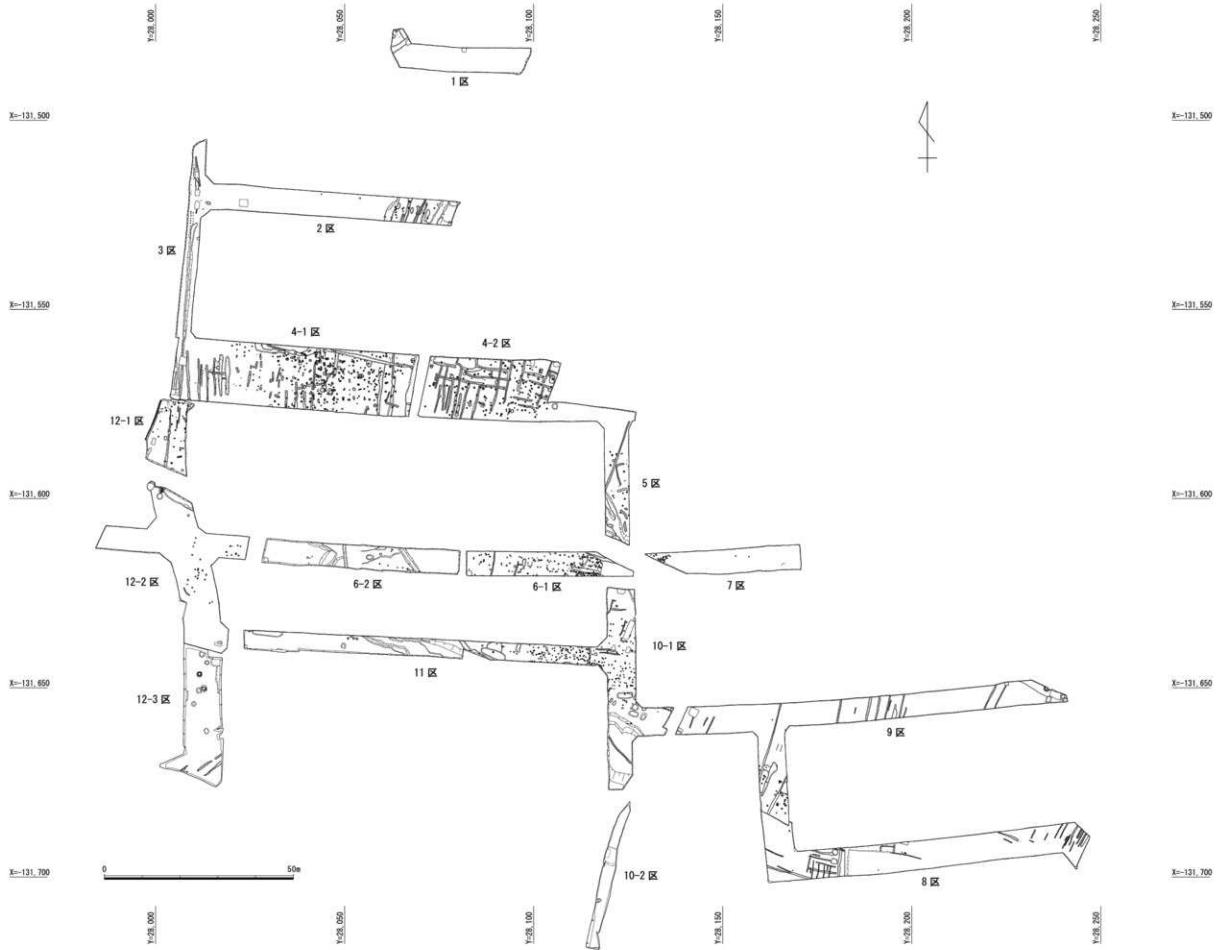


図8 調査区全体図 (S=1/1,000)

第2節 1区の調査(図9・10、表2)

位置	遺跡の北端、山崎山の山麓部に位置する。調査地の北側には浄土真宗本願寺派の西山廟所があり、道路をはさんで調査地となる。この道路は近世には姫路城下町から室津へ至る主要街道で、室津道と呼ばれる。道路から約2m下位に調査地が位置する。調査区は延長約37m、幅は6.5mを測る。
層序	基本層序は耕土、床土、灰色シルト混じり砂を経て、遺構検出面に至る。遺構検出面は調査区の東部では灰色細砂であるが、調査区が屈曲する付近から西側においては地形が徐々に高まっていく。検出面の標高は西側で3.2m、東端で2.8mを測る。その部分に堆積した北側の山塊から派生する黒褐色細砂が調査区西端では遺構検出面となる。
検出遺構	遺構は調査区西側で検出した。東側への遺構の広がりは確認できなかった。検出した遺構は溝1条、土坑1基、柱穴2基、杭穴等である。その他、遺構とは認識しなかったが、地形が徐々に高まっていく位置で、石の集積を確認した。
SD01	調査区が屈曲する付近で検出した。延長5.3m、上幅2.3m、深さは遺構検出面から最大で50cmを測る。溝の断面形は緩やかな皿状を呈している。溝の走向は地形に沿い、N58°Eである。
	遺物は、底部糸切りの平高台須恵器椀1、瓦2・3が出土した。出土量が少なく明確な時期は特定しがたい。
	SD01の南側約1mの西壁際で、石の集積を確認した。調査区において明確な広がりが確認できなかつたため、遺構名は与えていないが、位置的に地形の変換点にあたることから何らかの意図を持って集積されたと思われる。遺物が出土していないため時期は不明である。
SK01	調査区西端で検出した。調査区外に広がるため全容は不明である。平面プランは円形を呈すと考えられ、検出部の平面規模は南北方向で93cm、東西方向で64cm以上を測る。明確に検出できた平面プランに対して、深さは遺構検出面から2cmと極めて浅い。上部を相当削平されていると思われる。
	その他、杭穴を9基確認した。明確なまとまりはないが、杭が残存しているものもあり耕作に伴うものと考えられる。
遺構に伴わ ない遺物	遺構検出中に遺物が144点出土した。その内訳は破片数で食膳具(土師器皿・杯・椀、須恵器皿・杯・椀、磁器碗等)56.9%、調理具(須恵器鉢・土師器壺)15.9%、貯蔵具(須恵器甕・壺)15.9%、その他瓦等である。そのうち図化に耐えるものを図示した。4・5は糸切りの土師器椀、II期新段階以降出現する内面見込みが大きく凹む器形である。6は縁釉陶器椀、軟陶で削り出し高台である。外面高台脇まで部分的に施釉されている。7は白磁碗IV類。8・9は底部糸切りの須恵器椀、10は底部ヘラ切りで輪高台を貼り付ける須恵器椀。11・12は短い頸の付くいわゆる揖津C型と呼ばれる羽釜である。13・14は布目瓦である。13は丸瓦でSD01から出土したものと同様である。14は平瓦で凸面に格子タタキ、側面を面取りする。これらの遺物は時期幅を持つが概ねIII期を中心とした時期に主体があると考えられる。

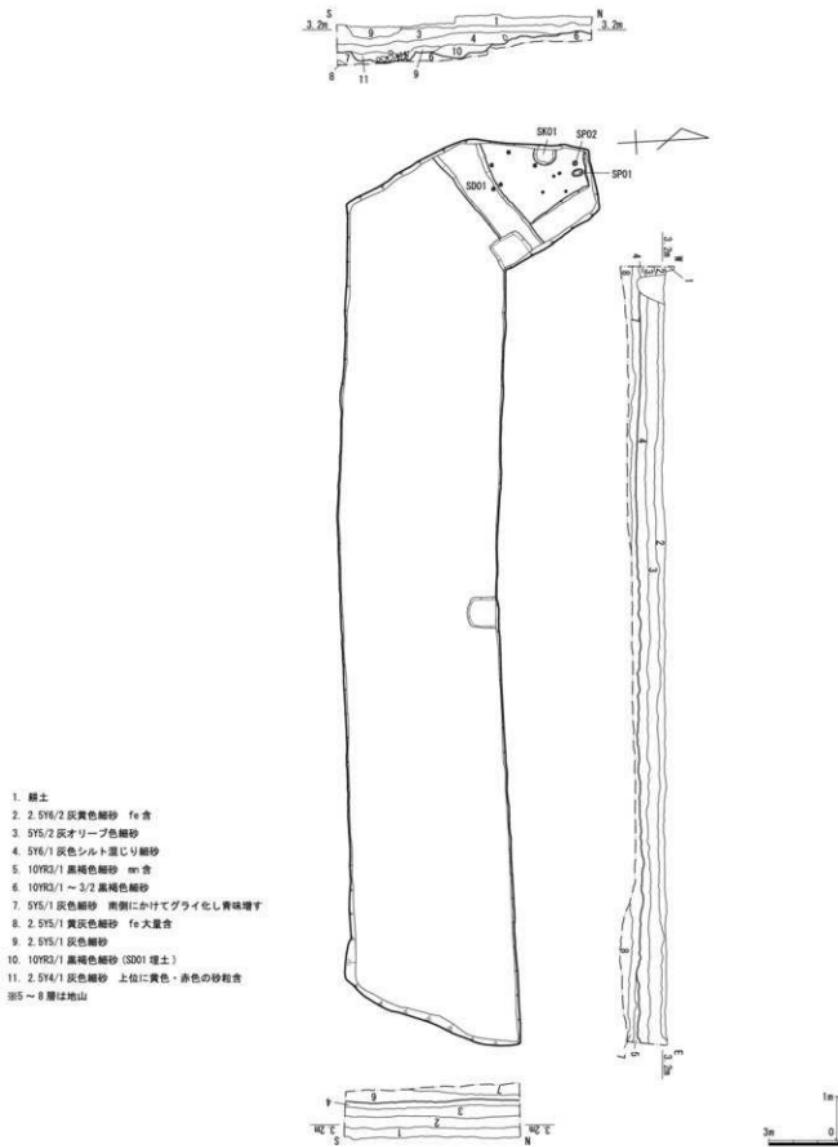


図9 1区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)

表2 1区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	焼成遺物	土加熱食器類		浜生器食器類		その他食器類		食器具合計		調理具合計		貯藏具合計		その他の遺物		不明	
						点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
SP01	(53)1	230	28	-	1~3	15	81	68	-	24	147	8	195	90	230	462	253	1	20	-	-
SP01	93	64	2	-	3	12	2	28	-	8	40	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
SP01	46	27	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP02	16	17	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

SD01

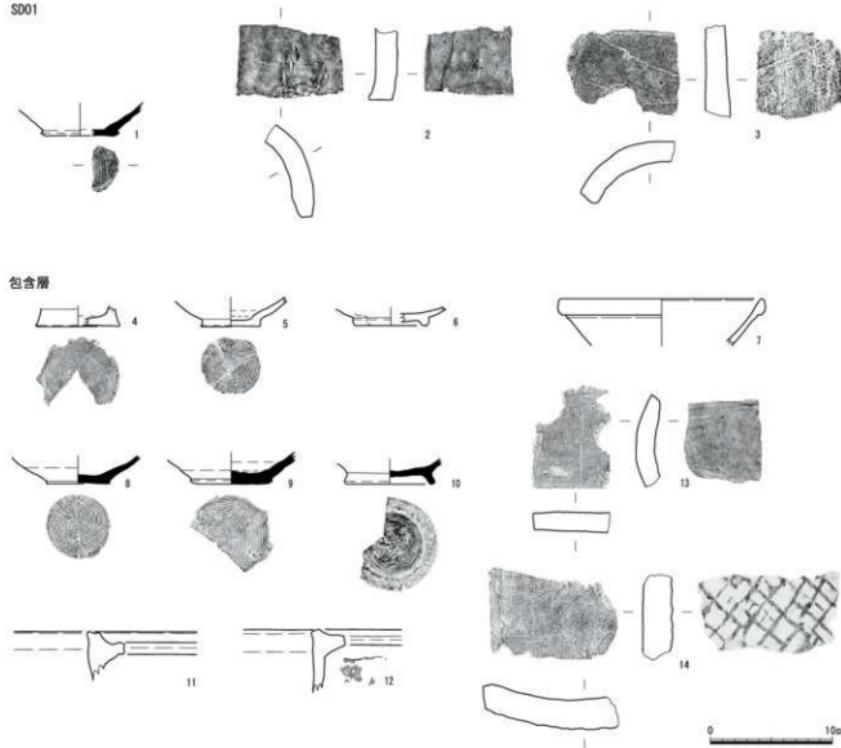


図10 1区出土遺物実測図 (S=1/4)

第3節 2区の調査(図11~13、表3)

- 位置** 1区の南に位置する。調査前の現況は西側がやや高く、旧表土上面で標高3.55m、東側が一段下がり3.3mを測る。調査区の延長は約68m、幅は6.5m。
- 層序** 調査区の基本層序は耕土、旧耕土、床土、褐灰色細砂の遺物包含層を経て、遺構検出面に至る。検出面の標高は西端で3.25m、東端で3.0mを測り、西側に向かって緩やかに地形が高まっている。
- 検出遺構** 調査区の東側で柵1列、溝5条、土坑8基、柱穴17基を検出した。
- SA01** 調査区の東部で検出した。柱穴が一列に並び、対になる柱穴が検出できないため柵と認識した。SP10-14で構成され、SD05を切っている。主軸方向はN7°Wで、周辺で検出された溝群とは方位が異なる。延長は2.9m、柱間寸法は北側から78cm、70cm、62cm、80cmを測る。
- SD01** 5条の溝のうち最も東側で検出した溝である。SK02を切っている。延長は約7m、上幅は最大で2.16m、深さは遺構検出面から最大で30cmを測る。溝の横断面はコの字状を呈し、溝の両肩は平行している。溝の軸は概ねN25°Eを測る。なお、SD03はN15°Eを測り、他の3条の溝についてはSD01とSD03の間の軸方向であった。土師器の輪高台椀15は底部外間に指圧痕が残り、非口クロ成形である。
- SK01** SD01とSD02の間で検出した南北に細長い不定形の土坑である。SP03に切られている。平面規模は南北3.4m、東西最大97cm、深さは遺構検出面から最大で9cmを測る。土坑の主軸は前述の溝群と概ね共通する。遺物は糸切り平高台の須恵器椀16・17が出士した。
- SK08** SD03とSD05の間で検出した。SD05に切られているため、全容は不明である。検出部は長辺1.7m、短辺70cm、深さは遺構検出面から6cmを測る。遺物は糸切り平高台の須恵器椀18と須恵器椀の口縁部19のみ図示した。
- 遺構に伴わ
ない遺物** 調査区東部での遺構検出中に遺物が379点出土した。その内訳は食膳具約70%、調理具13.2%、貯蔵具15.3%である。そのうち図化に耐えるもののみ図示した。20~24は土師器杯で、21・23・24は底部ヘラ切りの杯である。25・26は土師器椀、25は底部ヘラ切りで、26は底部糸切りである。27は土師器羽釜で外面刷毛調整で短頸が付く。28は白磁碗II-5類、29~32は須恵器椀で30~32はいずれも底部糸切りである。33は底部ヘラ切りの須恵器杯である。34・35は須恵器壺で35の底部は糸切りである。遺物の時期は概ねI~III期である。

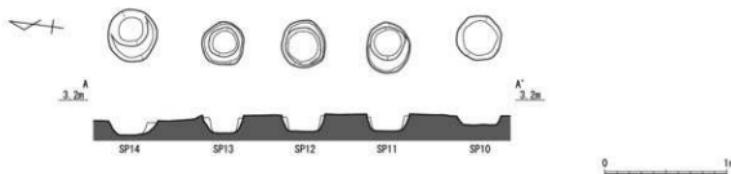


図11 2区SA01平面図・断面図 (S=1/40)

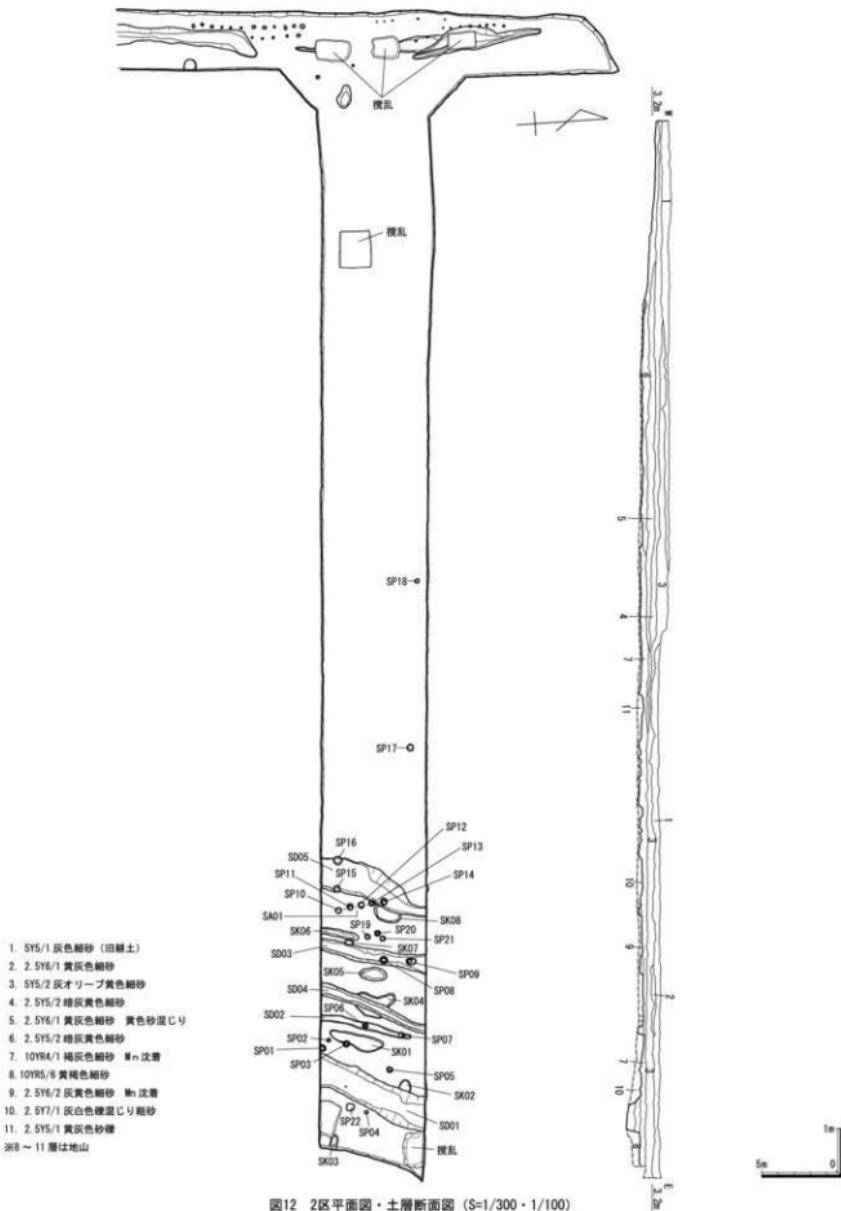


図12 2区平面図・土層断面図 (S=1/300・1/100)

表3 2区遺構一覧

遺構名	長さ(cm)	幅さ(cm)	深さ(cm)	特記事項		周縁部高	底面周縁高	底面周縁高	その他の標高		食糧高合計	調理高合計	その他の高さ	不明						
				品目	高さ(cm)				品目	高さ(cm)										
SK01	(885)	216	18	SP02+		15	12	180	8	62	-	20	247	9	206	-	-	-	5	40
SK02	(963)	416	7	SP08-, SP07-		-	1	3	1	5	-	-	2	8	-	-	-	-	-	-
SK03	(950)	190	10	SP08-, SP09-		-	8	40	2	21	-	-	10	61	2	23	1	105	-	-
SK04	48	21	21	SP10-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	106	-	-
SK05	(884)	700	10	SP13-, SP14-, SP15-, SP16-, SK06+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK06	337	97	9	-		16-17	-	-	2	45	-	-	2	45	-	-	-	-	-	-
SK07	73	43	4	SK01-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK08	(70)	45	10	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK09	47	93	7	SK04-		-	3	39	-	-	-	3	20	1	8	-	-	-	-	-
SK10	170	84	8	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK11	332	45	7	SK03-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK12	52	30	9	SK03+, SK06+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK13	(70)	70	6	SK05-		18-19	1	3	3	20	-	4	23	-	-	1	27	-	-	-
SK14	47	93	7	-		-	2	12	-	-	-	2	12	-	-	-	-	-	-	-
SK15	23	72	12	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK16	38	37	13	SK01+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK17	24	20	3	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK18	37	37	12	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK19	29	35	10	SK02+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK20	35	33	16	SK01+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK21	50	44	19	SK03+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK22	60	42	19	SK03+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK23	37	35	13	SK01		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK24	47	93	7	-		-	3	5	-	-	-	1	5	-	-	-	範囲1	範囲2	-	-
SK25	38	35	14	SK01		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK26	35	36	13	SK01, SK05+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK27	42	40	11	SK01, SK05+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK28	41	40	12	SK05+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK29	32	31	13	SK05+		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK30	42	37	11	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK31	26	26	9	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK32	33	33	9	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK33	20	34	14	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK34	29	29	9	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK35	48	45	5	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

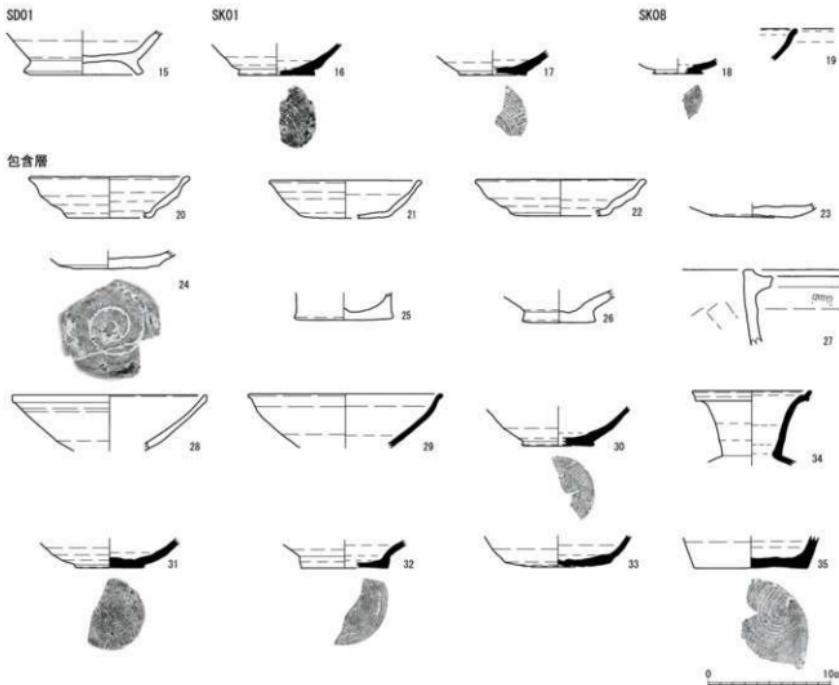


図13 2区出土遺物実測図 (S=1/4)

第4節 3区の調査(図14・15)

- 位置** 調査地の西端に位置し、南北方向に長い調査区である。2区及び4-1区と交差する。調査区の西側は西山廟所の参道にあたり、遺構検出面と道路天端との比高差は約1mである。調査区は延長52.5m、幅は4mを測る。
- 層序** 基本層序は上から参道盛土、耕土、床土、灰黄色細砂、黄灰色シルトとなる。遺構は全て黄灰色シルト上面で検出した。
- 検出遺構** 検出した遺構は溝1条、土坑1基、杭穴である。
- SD01** 調査区の中央で検出した。4-1区から延びている。一旦途切れるが、SK01に切られる形で北側への延長部分を確認した。4-1区の検出分も含めた総延長は約59mである。上幅は最大で2.16m、深さは遺構検出面から最大で16cmを測る。溝の主軸方向はN3°Eである。遺物は12点出土した。内訳は食膳具5点(土師器1、須恵器3、青磁1)、調理具は土師器甕1点である。その他は細片のため不明である。図化に耐える青磁碗36を図示した。
- SK01** SD01の北側部分で検出した南北に長い不整形の土坑である。埋土には床土を含むことから耕作に伴う遺構であろう。遺物の出土はない。
- 杭穴** 列をなす箇所が3ヶ所あり、SD01に平行する杭列は延長約7mを測る。一部には杭そのものが遺存している。耕作に伴う遺構と考えられる。
- 遺構に伴わない遺物** 遺構検出中に遺物が108点出土した。その内訳は食膳具56.4%、調理具15.7%、貯蔵具5.5%である。細片が多く図示に耐えるものは少ない。37は和泉型瓦器椀、38は黒色土器A類で、口縁端部内面に沈線が巡る。39は瓦器椀、40・41は須恵器椀。42・43は平瓦である。42は凸面に砂が付着する。

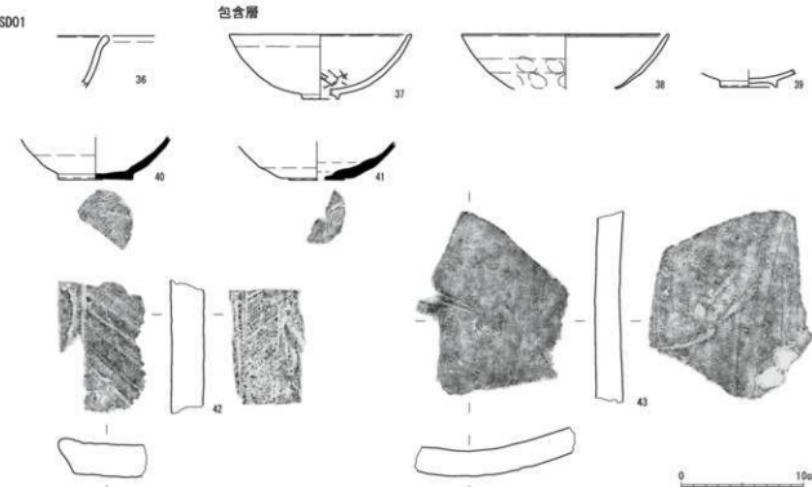


図14 3区出土遺物実測図 (S=1/4)

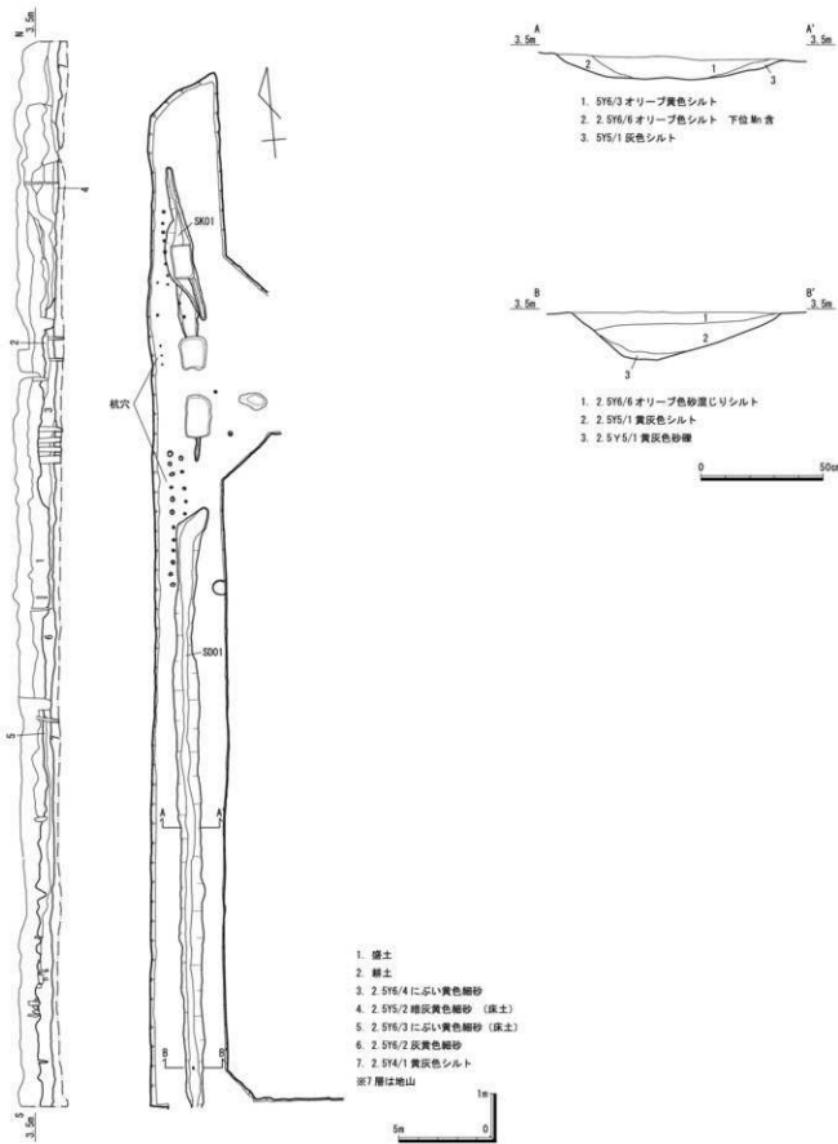


図15 3区平面図・土層断面図 ($S=1/250 \cdot 1/100$)、SD01断面図 ($S=1/20$)

第5節 4-1区の調査(図16~33、表4~8)

- 位置** 2区の南側、3区の東側に位置する調査区である。4区は里道を境に4-1区と4-2区に区分した。4-1区の幅員は約16m、延長は約65mを測る。
- 層序** 基本層序は耕土、床土、遺物包含層である褐灰色細砂を経て、遺構検出面である黃灰色細砂または砂礫層に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は西側で3.4m、東側で3.2mである。
- 検出遺構** 検出した遺構は掘立柱建物跡6棟、柵3列、井戸1基、溝36条、土坑45基、柱穴286基である。遺構の検出状況は西側では溝が多く、柱穴や土坑は希薄であるが、東側に向かって遺構数が増加していく。多くの遺構を検出したが、総じて遺構の切合いは少ない。また、湧水が多く、調査終盤ではやや落ちていたものの深い遺構内には當時水が溜まっている状態であった。
- SB01** 調査区東部で検出した。SB06の南側に位置し、平面プランはSB02と切り合う。平面的には確認できていないが、SP137はSB02とも共有しており、調査段階では認識しえなかっ切合いが存在した可能性は否定できない。1間×4間の側柱建物跡である。SP140-SP143を基準とした棟方向はN1°Wである。平面規模は梁行1間2.7m、桁行4間10.7mで、平面積は28.89m²である。柱間寸法は北側のSP98-SP143で西側から2.4m、2.8m、2.6m、2.6mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは直径27~89cmを測る。深さは遺構検出面から13~22cmを測る。
- 遺物はSP130から須恵器椀44・45が出土した。SP143から土師器椀46、須恵器口縁部47、SP157から須恵器椀48が出土した。細片が多く、時期は決めがたい。
- SB02** 調査区の南部で検出した。平面プランはSB01とSB03と重なるが、柱穴の直接の切合い関係は確認できない。検出位置から調査区外に広がる可能性はあるが、検出状況では2×2間の縦柱建物跡である。SP116-SP58を基準とした建物の主軸はN2°Eを測る。平面規模は2間4.7m×2間5.0mで、平面積は23.5m²である。柱間寸法は同ライン上で北から2.3m、2.9mを測り、西端のSP116-SP58間では北から2.3m、2.4mとなる。東西方向のSP116-SP137間は2.0m、3.0mである。柱通は南北方向で良好に揃う。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは39~74cmを測る。深さは遺構検出面から10~22cmを測る。
- 遺物はSP116から須恵器椀49・50、SP96の掘方から土師器椀51、SP127掘方から土師器椀52が出土した。51は非ロクロ成形、52は直線的に延びる口縁部を有することからI期新段階～II期古段階に位置づけられる可能性がある。
- SB03** 調査区の中央部南側で検出した。検出状況はSB02とSB04と重なるが、柱穴の直接の切合い関係はない。検出した位置から建物跡は調査区外に広がると想定され、2間×4間以上の縦柱建物跡と考えられる。SP97-SP222を基準とした棟方向はほぼ真北である。平面規模は梁行方向2間で4.4m、桁行方向4間で9.4mを測る。平面積は約41m²である。柱間寸法は北側のSP50-SP97で西側から2.4m、2.3m、2.3m、2.5mを測る。梁行方向は2.2m等間である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径37~69cmを測る。東端の柱通の柱穴の規模が総じて小さい。深さは遺構検出面から10~22cmを測る。埋土は暗褐色細砂である。

- 遺物はSP94から須恵器椀53、SP97から須恵器椀54、SP53から須恵器椀口縁部55が出土した。SP178からは図29に示すように須恵器椀184が出土している。
- SB04** 調査区の中央部南側で検出した。平面プランはSB03と切り合う。建物跡は調査区外に広がると想定される。検出状況で1間×3間の縦柱建物跡と推測する。SP41-SP43を基準とした棟方向はN4°Eである。平面規模は梁行1間2.0m、桁行3間6.5mを測る。南東隅の柱穴は検出できていない。柱穴間の寸法は北側のSP41-SP52間で西側から2.0m、2.1m、2.4mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは29~50cmを測る。深さは遺構検出面から12~20cmを測る。埋土は暗褐色細砂が中心となる。図示に耐える遺物の出土はない。
- SB05** 調査区の中央部北側で検出した。平面プランはSD17と切り合い、SP185とSP180をSD17の底面で検出した。SD17上面でこの柱穴が検出できなかつたことからSD17に先行する遺構と考える。検出した位置から調査区外へ広がる可能性もある。検出状況で2間×5間の建物跡で、平面規模は梁行2間5.3m、桁行5間11.9mと考えられる。桁方向の柱通は通るが、梁方向の柱通は一部揃わない。一番北側の柱通のSP21-SP20・SP25には根石が伴う。建物の主軸はSP21-SP18の棟方向でN24°Wを測り、他の建物に比べて西に傾いている。柱間はSP21-SP18間でそれぞれ2.5m、2.7mを測り、南側の間隔が広い。桁行方向ではSP18-SP87間で西から順に1.7m、2.8m、1.8m、2.5m、2.6mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは33~84cmを測る。深さは遺構検出面から6~18cmを測る。埋土は暗褐色細砂が中心となる。
- 遺物はSP30から土師器杯56、SP83から土師器皿57、SP84から土師器杯58が出土した。SP87からは須恵器椀59、SP185から底部に指圧痕の残る土師器皿60、底部ヘラ切りの須恵器杯61が出土した。SP33からは図29に示すように須恵器甕178が出土している。厳密な時期は決めがたいが、概ねⅠ期新段階に位置づけられる。
- SB06** 調査区の東側中央部、SB01の北側で検出した。検出状況はSE01とSA01と重なる。SE01の掘方にSP156を掘りこんでいることからSE01がSB06に先行する。また、SP200とSA01のSP199との切り合いからSB06はSA01に先行する。検出状況で1間×3間の側柱建物跡である。建物の主軸はSP162-SP156の棟方向でN12°Eである。建物の規模は梁行1間2.3m、桁行3間6.6mである。柱間は梁行方向2.3m、桁行方向は西から1.7m、2.5m、2.4mを測る。柱穴の平面形は円形を呈し、大きさは27~49cmを測る。深さは遺構検出面から17~28cmを測る。
- 遺物はSP175から口縁部が強く外反する非クロコ成形の土師器皿62が出土した。
- SA01** 調査区の東部、SD33とSD35の間で検出した。南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。西側に約2.5m離れた位置で検出したSA02との対応関係を検討したが、明確に対になる柱列ではないことからそれぞれ独立した遺構と判断した。平面プランはSB06、SD36と切り合い関係にある。柱穴の直接の切合いからSB06に後行し、SD36に先行する遺構である。規模は延長7m、柱間隔は北から2.5m、2.3m、2.4mを測る。遺構の主軸はN1°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は44~60cm、深さは遺構検出面から22~30cmを測る。
- SA02** 調査区の東部、SD33の西側で検出した。SA01と同様に南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。検出状況はSB06と重なるが、柱穴の直接の切合いがないことから新旧は

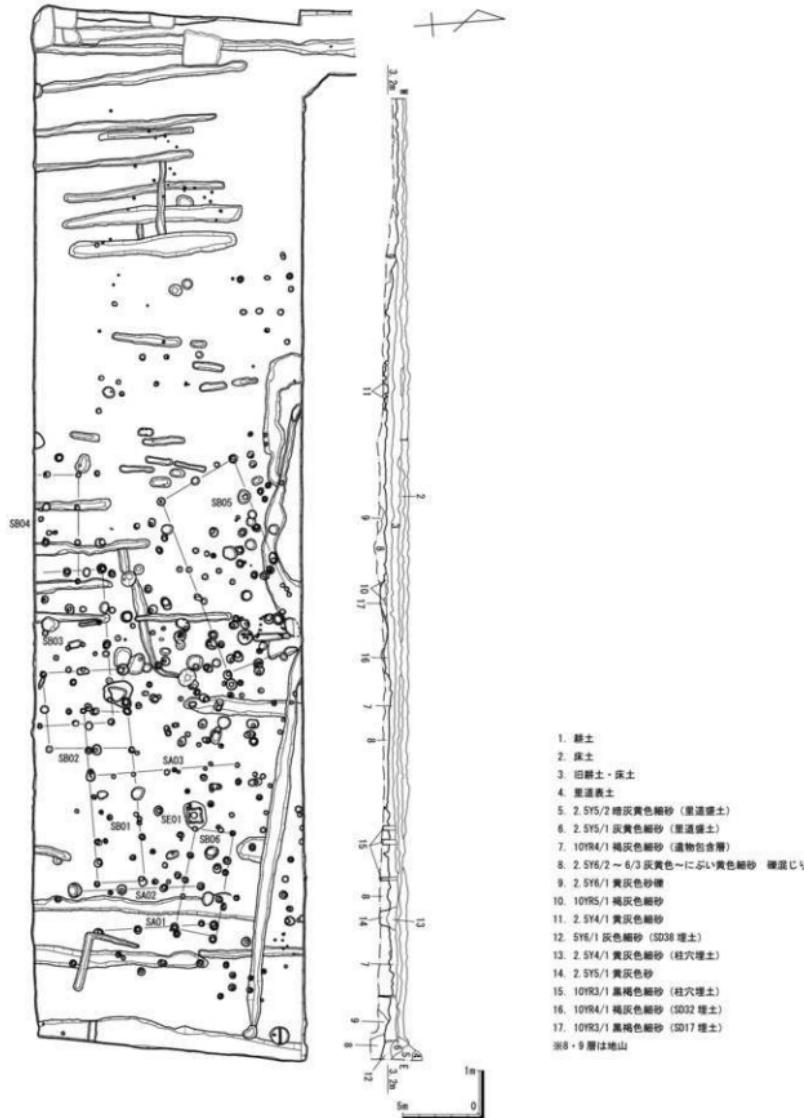


図16 4-1区平面図・土層断面図 (S=1/300・1/100)

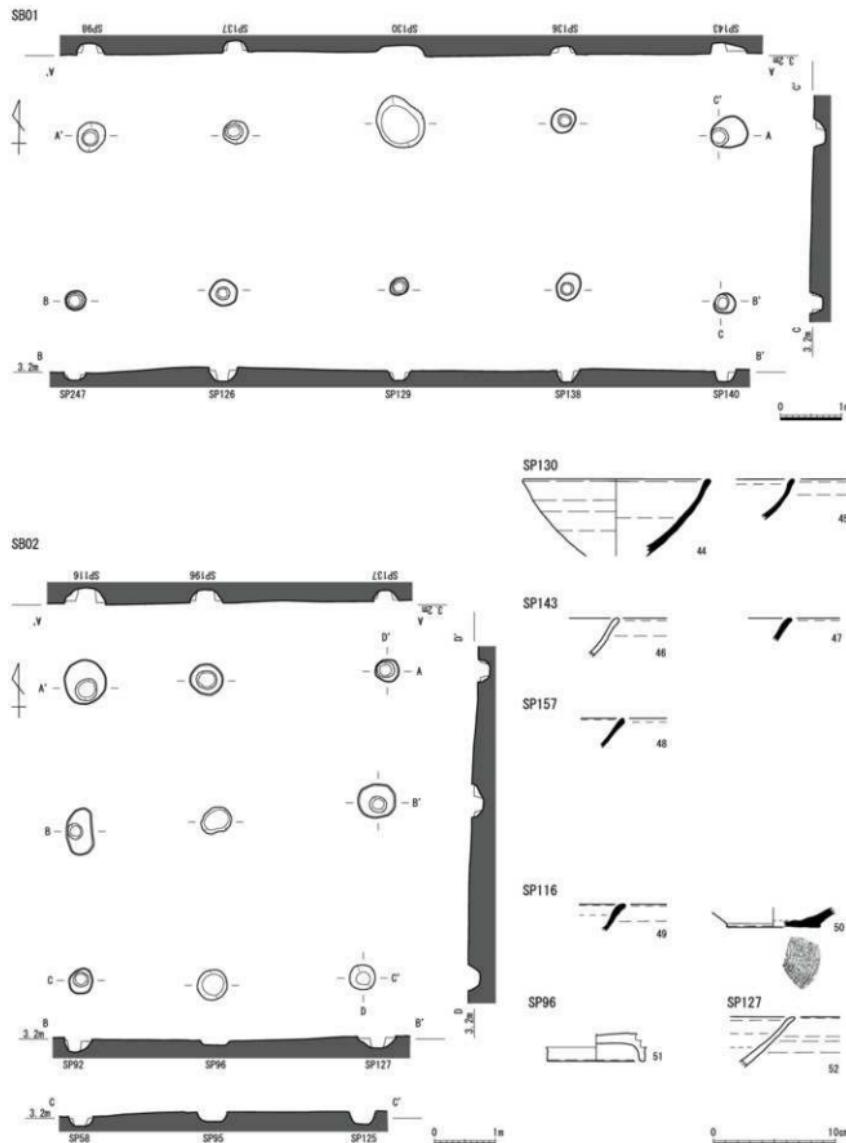
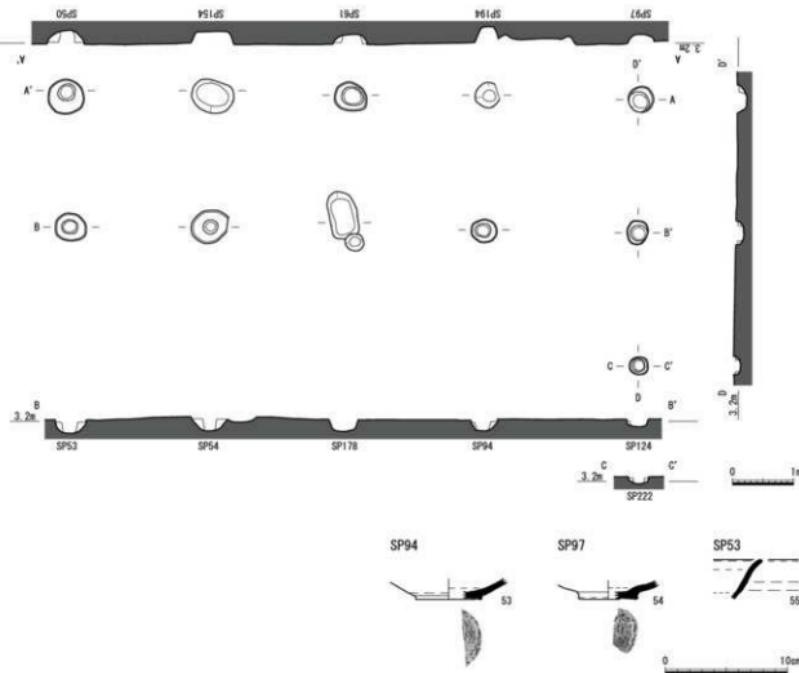


図17 SB01・SB02平面図・断面図(S=1/80)、出土遺物実測図(S=1/4)

SB03



SB04

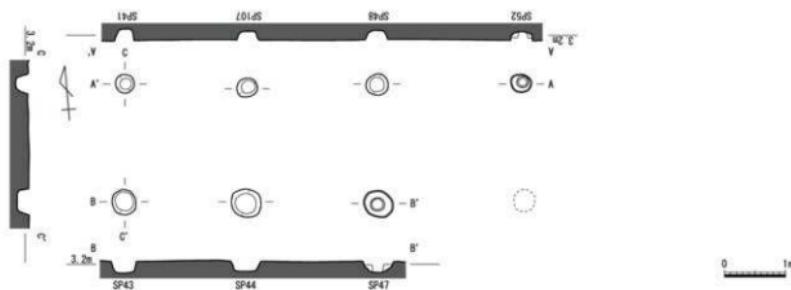


図18 SB03・SB04平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物実測図 (S=1/4)

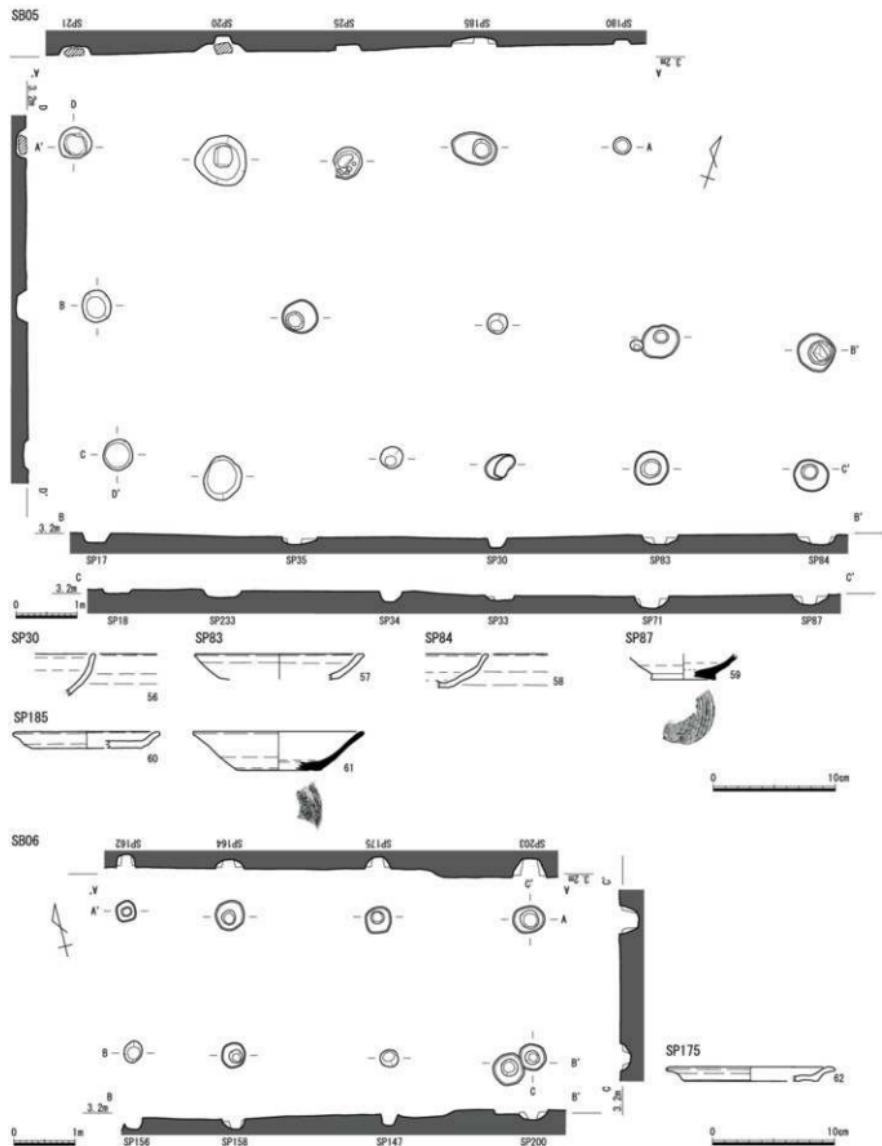


図19 SB05・SB06平面図・断面図 ($S=1/80$)、出土遺物測定図 ($S=1/4$)

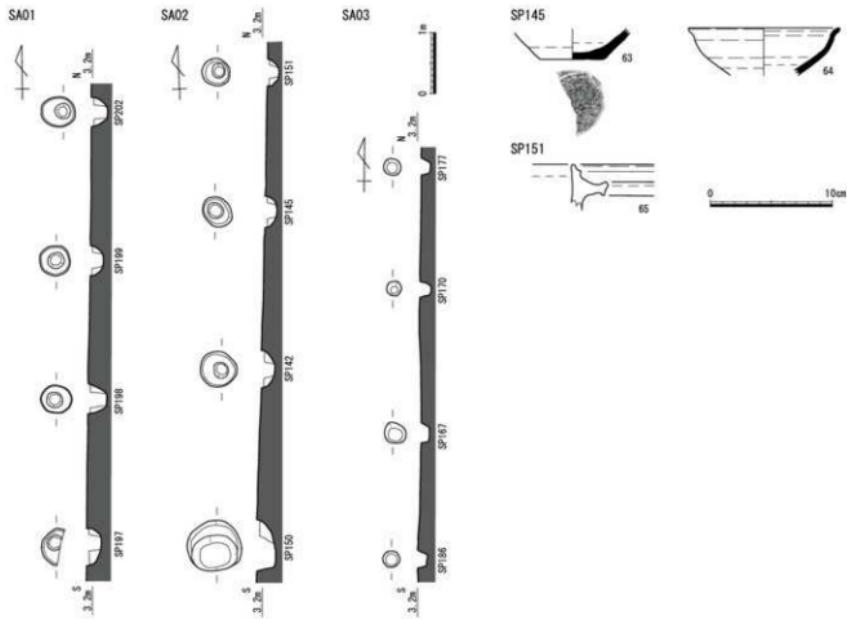


図20 SA01・SA02・SA03平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物実測図 (S=1/4)

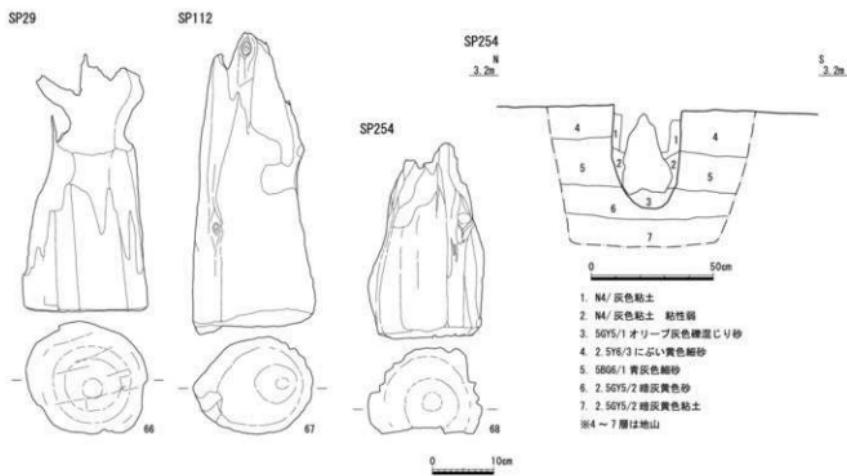


図21 柱材実測図 (S=1/8)、SP254断面図 (S=1/20)

不明である。規模は延長8m、柱間隔は北から2.2m、2.6m、3.0mとなり、一定していない。遺構の主軸はN2°Eである。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は45~91cmを測る。深さは遺構検出面から18~30cmである。

SP145から須恵器椀63と64が出土した。63は掘方からの出土であり、底部糸切りである。SP151からは羽釜65が出土した。

SA03 調査区の東部、SD32の南側、SA02の約7.2m西側で検出した。南北方向に4基の柱穴が一列に並ぶ。対応する柱列の確認に努めたが確認されなかった。平面プランはSB01と切合い関係にあるが、柱穴の直接の切合い関係はない。規模は延長6.4m、柱間隔は北から2.0m、2.4m、2.1mを測る。遺構の主軸はN1°Wであり、SA01とSA02と共に通する。柱穴の平面形は円形を呈し、直径は24~30cm、深さは遺構検出面から16~20cmを測る。

SE01 調査区東部のほぼ中央、SB01の北側、SB06の西側で検出した。SB06の柱穴のうち南西隅にあたるSP156がSE01の埋土を掘り込むことからSB06が後行する。井戸は方形縦板組みで隅柱を持ち、湧水層に曲物を設置する。調査時点でも著しく湧水があった。掘方は東西に長い円形を呈し、東西方向1.7m、南北方向1.28m、遺構検出面から深さ70cmを測る。埋土は大きく3層に分層できる。井側を構成する隅柱は直径10~14cmの部材を使用している。北西隅のもののみ一回り以上細いものを使用している。横桟の存在は不明である。縦板は基部のみ遺存していた。板材は幅12cm前後、厚さ2cm前後で各面に5~6枚を並べていたと推測される。曲物は直径約40cm、高さ約20cmを測る。

遺物は最下層にあたる曲物内から底部に指圧痕の残る土師器杯69と底部ヘラ切りの須恵器杯70が出土した。埋土上層からは土師器椀の底部71、須恵器椀72~74が出土した。須恵器椀はいずれも底部糸切りである。概ねⅠ期新段階に位置づけられ、遺構の主軸からもSB01等の北向きの建物群に伴うものであろう。

溝 36条の溝を検出した。このうち灰色から黄灰色の埋土のSD03、SD05~SD14、SD18~SD20は耕作に伴う可能性が高い。SD38は調査区の東端で検出した溝で里道下に潜る。この溝も耕作に伴う水路と考えられる。遺物は主に埋土が暗褐色から黒褐色の溝から出土した。

溝出土遺物 SD02からは黒色土器椀B類77、須恵器椀78・79が出土した。SD04からは土師器皿80、底部糸切りの須恵器椀81が出土した。SD09からは底部糸切りの須恵器椀82が、SD10からは底部ヘラ切りの土師器杯83が、SD16からは底部糸切りの須恵器椀84が出土した。SD17からは比較的多くの遺物が出土した。土師器皿90・91、土師器杯92、土師器椀93・94はいずれも底部未調整で指圧痕が残る非ロクロ成形である。底部ヘラ切りの須恵器杯96~98、杯口縁部95が出土している。99は須恵器壺底部である。100と101は土師器羽釜と目されるが、101の頸は小さく突線に近い。SD25からは内外面火襷のある須恵器杯B85、SD27からは底部ヘラ切りの土師器皿86、底部ヘラ切りの須恵器杯87は白色を呈し口縁部に重焼痕が明瞭に残る。88は底部糸切り輪高台の須恵器突帯椀で相生窓の製品であろう。色調は白色を呈す。SD35からは土師器杯の口縁部89が出土した。SD31からは土師器皿102、土師器椀103、須恵器壺104が出土した。102は直線的に延びる口縁部を持つ。103とともに非ロクロ成形である。

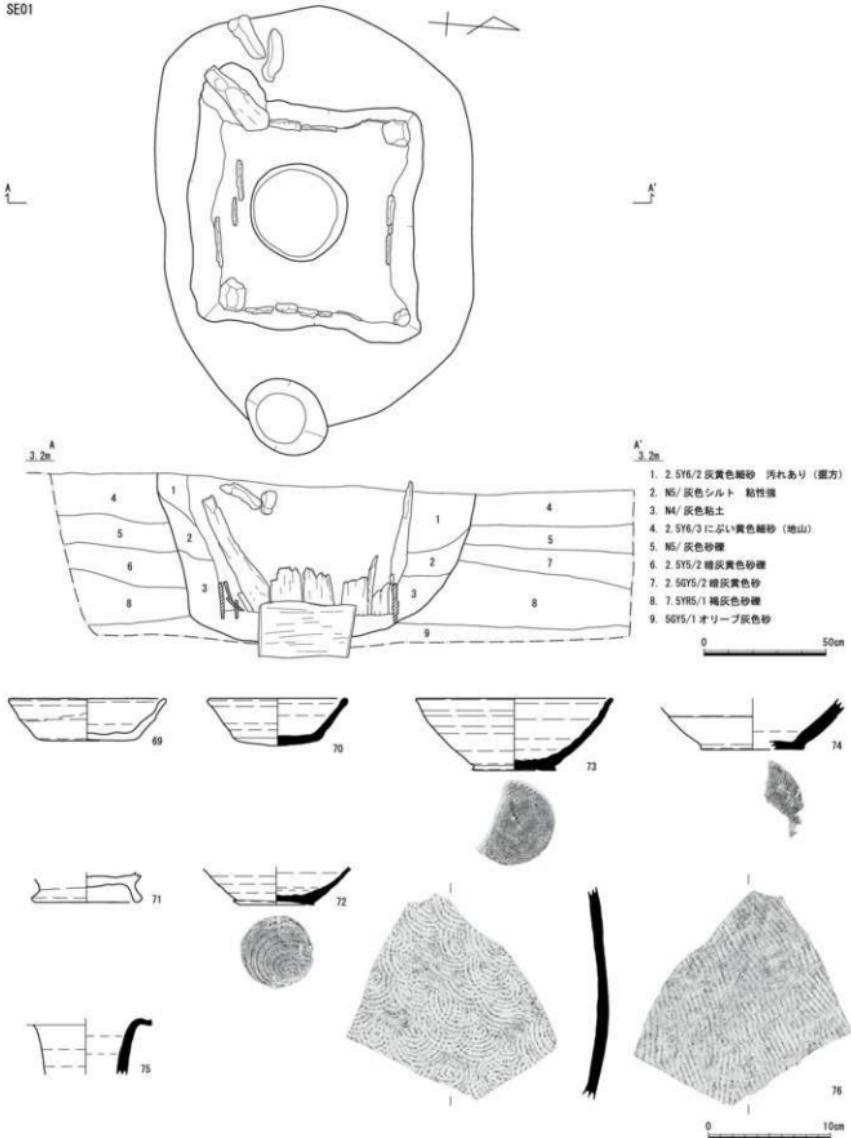


図22 SE01平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

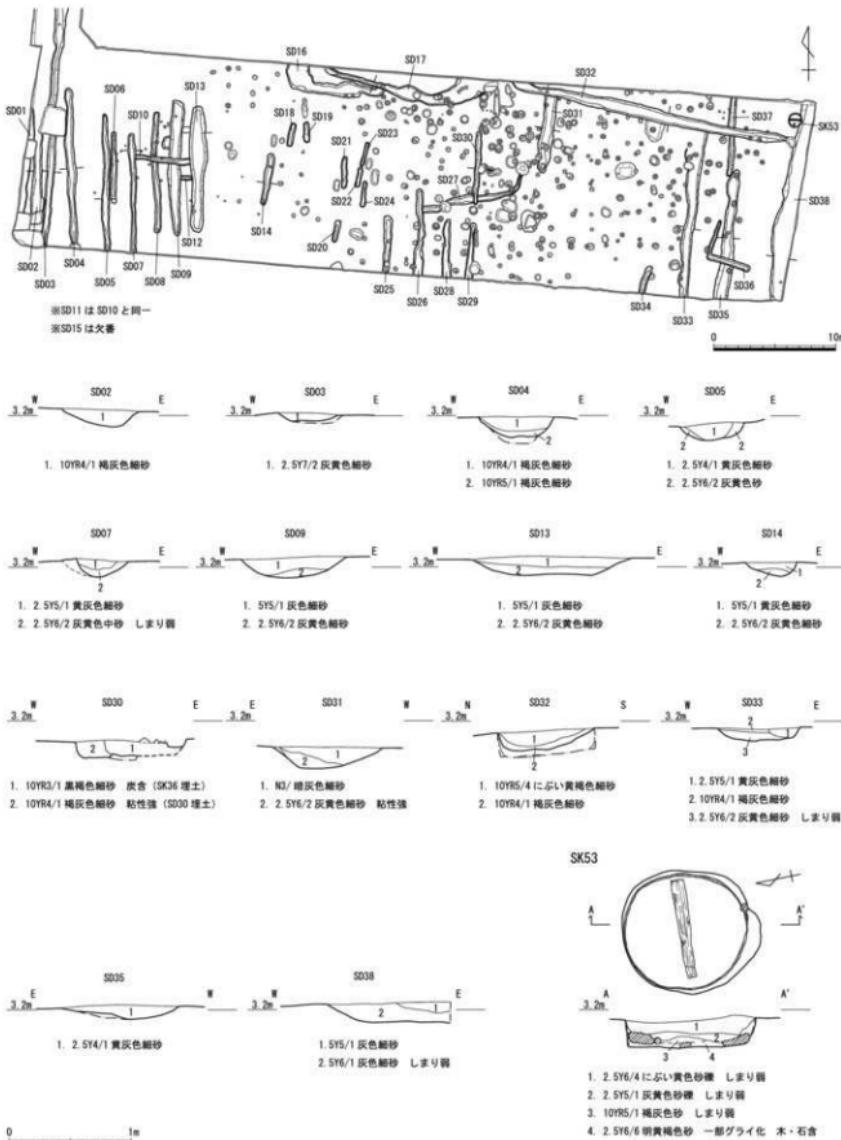


図23 4-1区溝平面図・断面図、SK53平面図・断面図 (S=1/400・S=1/40)



图24 4-1区溝出土遺物実測図 (S=1/4)

SD32からは非クロコ成形の土師器椀105と土師器杯106、底部糸切りの須恵器椀107、土錐108、土師器羽釜109が出土した。SD33からは指圧痕を残す土師器椀110、須恵器杯111、底部糸切りの須恵器椀112、土師器羽釜113が出土した。遺物は概ねⅠ期に位置づけられる。平高台椀の須恵器を伴うことから総体としてⅠ期新段階であろう。SD27はヘラ切り土師器皿を含むことからⅡ期に位置づけられる。

表4 4-1区溝一覧

遺構名	長辺(m)	幅辺(m)	深さ(cm)	特記事項	周縁地物	土師器骨董品		須恵器骨董品		その他の骨董品		食器類合計		調理器具合計		野菜類合計		その他の遺物		
						品目	個数	品目	個数	品目	個数	品目	個数	品目	個数	品目	個数			
SD01	(1.33)	50	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD02	(0.50)	100	19	—	—	73-78-79	2	10	4	81	1	8	7	99	—	—	—	—		
SD03	(4.67)	160	19	19cmに傾く	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD04	(1.02)	70	21	—	—	90-91	7	68	3	80	—	—	10	148	1	19	1	20		
SD05	(0.72)	60	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD06	800	—	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	80	—	—	—		
SD07	970	40	14	SB10+、 SB11+	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD08	1,000	30	10	SB10+、 SB11+	—	10	44	8	18	—	—	16	62	2	23	—	—	3	6	
SD09	1,110	90	17	SB10+、 SK01+	82	18	137	9	147	—	—	27	294	9	185	1	10	—	57	
SD10	(4.50)	40	5	SB08+、 SB09+、 SD07-、 SD12-	83	8	67	1	20	—	—	9	87	—	—	—	—	—	—	
SD12	20	30	18	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	1	8	1	1	—		
SD13	1,063	140	14	SB10+、 SB12+	—	7	65	5	38	—	—	12	103	—	—	2	23	—	—	
SD14	430	66	17	—	—	2	10	—	—	—	—	8	10	—	—	1	50	—	18	
SD16	(3.00)	190	10	SB11+	84	7	40	14	143	—	—	21	185	5	115	6	125	SB11	60	
SD17	(1.350)	190	11	SB16+、 SK33-、 SK50-	95-99	81	564	26	146	—	—	100	1010	13	236	4	184	SB11	172	
SD18	180	47	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD19	170	50	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD20	47	42	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SD21	260	46	2	—	—	8	30	8	48	—	—	16	79	—	—	2	29	—	—	
SD22	166	40	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	8	—	—	—	—	
SD23	209	34	4	—	—	4	22	—	—	—	—	4	22	1	7	1	20	—	—	
SD24	213	7	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SD25	(4.60)	64	10	—	—	85	2	10	1	30	—	—	3	40	1	40	—	—		
SD26	170	40	10	SB27+	—	—	—	—	—	—	—	—	—	35	—	—	—	—	—	
SD27	820	75	10	SB26-、 SB30-、 SK34-、 SK25-、 SB28-	86-88	10	181	8	187	—	—	18	358	—	—	2	35	—	18	
SD28	(4.68)	70	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SD29	(4.50)	54	8	SB16+	—	6	30	2	10	—	—	8	40	1	6	—	—	—	—	
SD30	595	50	14	SB27+、 SK36-	—	10	61	1	3	—	—	11	64	2	45	—	—	1	15	
SD31	970	110	10	SB27-、 SK27-、 SB31+	—	15	215	4	25	—	—	19	240	1	10	3	90	SB11	72	
SD32	(3.64)	80	29	SB31+、 SK34+	—	50	30	42	266	—	—	60	686	13	280	6	182	SB12	11	
SD33	(3.60)	150	10	SB31-、 SK27-、 SB39-	—	110-113	5	52	5	222	—	—	8	235	2	180	—	—	1	18
SD34	(2.76)	50	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SD35	(1.056)	118	11	SB36-	89	26	159	20	157	—	—	49	314	10	237	6	416	—	30	
SD36	650	118	11	SB35+	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SD37	646	58	13	SB37-	—	1	2	1	2	—	—	2	4	2	30	—	—	—	—	
SD38	(1.836)	175	17	SB53-	—	2	5	11	125	—	—	13	130	2	21	4	89	—	23	

*SD01, SD01は空巣

土坑 45基確認した。検出時に比較的大型で平面形が円形もしくは不定形の穴を土坑SKと呼称した。性格的には柱穴となるものもあるが、それらをまとめてSK表記としている。遺物がまとまって出土した土坑はSK25とSK50である。その他、出土状況を確認したSK13とSK36、SK54について記載する。

SK50 調査区のほぼ中央、北壁沿いで検出した。SD17を切る遺構である。平面形は側溝の掘削時に一部削平したが、本来は隅丸長方形を呈していたと考えられる。長辺1.02m、短辺57cm、深さは遺構検出面から16cmを測る。土坑からは比較的まとまった数量の遺物が出土した。整理段階でSK50周辺の包含層から出土した遺物との接合関係も確認できた。そのため、SK50に伴うかどうか厳密には不明ではあるが、遺物の様相が類似していることからここで報告している。

114～127はSK50の埋土中から出土した遺物である。土師器皿114、土師器杯119・121は土坑底からわずかに浮いた位置で出土した。土師器皿114と115は底部に指圧痕を残し、口縁部が強く外反するタイプである。116～122は土師器杯である。116～121は皿同様、底部に指圧痕が観察できる。117は口縁部が直線的に延び、118・120・121は口縁端部をナデによりわずかに外反させる。122は底部ヘラ切りの土師器杯である。須恵器椀は123～127が出土した。126・127は底部糸切りである。128～139は周辺の包含層から出土した遺物である。土師器皿128、土師器杯129～132は非



图25 4-1区柱穴、土坑位置图 (S=1/200)

ロクロ口成形である。133は輪高台の土師器椀である。134は底部糸切り後輪高台貼付けの須恵器椀である。135～137は底部糸切りの須恵器椀である。138・139は土師器甕で、138は内外面ともハケ調整している。これらの遺物の様相からⅠ期新段階に位置づけられる。

SK13 調査区の西部で検出した。南北に長い長円形を呈し長辺1.22m、短辺51cm、深さは遺構検出面から5cmを測る。土坑の中央部で土師器甕140の底部が出土した。体部は削平により失われていたが、正位置に据えられていた可能性がある。

SK25 調査区の中央部で検出した、SD27を切る土坑である。直径約1m、深さは遺構検出面から最大で50cmを測る。埋土上層から遺物がまとまって出土した。土師器皿141は口縁部が緩やかに外反する。土師器皿142はいわゆる「て」の字状口縁で薄手の作りである。薄作りの「て」の字状口縁は京都ではⅢ期(930頃～1010頃)に位置づけられている。143・144は土師器杯、144は底部ヘラ切りである。145～147は須恵器椀で、147は底部糸切りである。148は土錘、149は土師器羽釜の口縁部である。概ねⅠ期新段階からⅡ期古段階に属す。

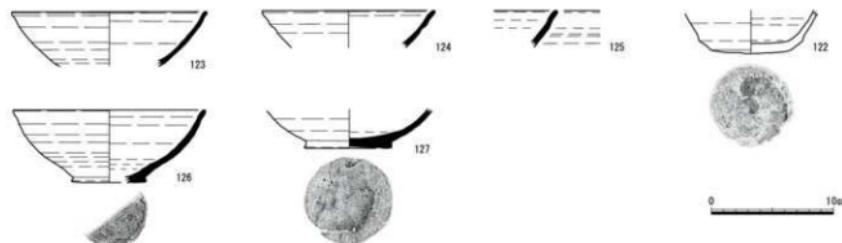
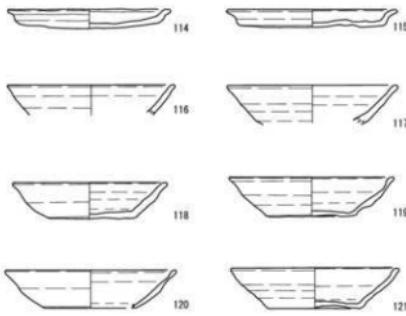
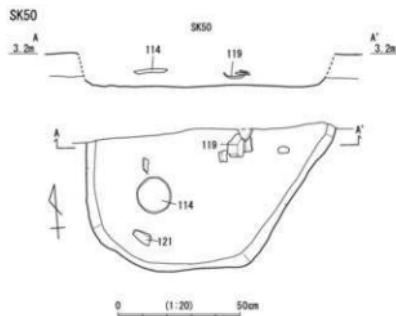
SK36 調査区の中央で検出した、SD30を切る不整形な土坑である。長辺95cm、短辺61cm、深さは14cmを測る。遺物がなく時期は不明であるが、埋土中に炭とともに被熱した石材を大量に含んでいた。何らかの生産活動に伴うものであろうか。

SK54 SK50の東側で検出した不定形の浅い土坑である。SP89、SK49、SK51と切り合う。東側は緩やかに掘り込まれるが、西側では明瞭な掘方が確認できなかった。遺物は底

表5 4-1区土坑一覧

遺物名	高さ(cm)	幅さ(cm)	深さ(cm)	特記事項	陶製遺物		土師器食器類		須恵器食器類		その他食器類		食器類合計		調理器具類		野籠具合計		その他の遺物		不明		
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
SK01	100	(65)	0	SD09-	-	-	2	20	2	20	-	-	4	40	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK02	64	61	15	-	-	-	5	10	2	4	-	-	7	14	1	14	-	-	-	-	-	-	
SK03	78	69	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK04	97	77	17	SD04+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK05	88	43	-	SD14見疎上	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK06	160	43	5	SD19見疎上	154	6	27	6	34	-	-	12	81	4	48	-	-	-	-	-	-	-	
SK07	94	91	5	-	(55)	4	21	3	35	-	-	7	58	3	40	-	-	-	-	-	-	-	
SK08	68	62	24	-	156	2	12	1	11	-	-	3	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK09	85	81	13	SP278-	-	4	10	3	32	-	-	7	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK10	47	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK11	82	51	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK12	115	86	6	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	3	20	-	
SK13	122	61	5	-	140	-	-	3	23	-	-	3	23	11	845	-	-	-	-	-	-	-	
SK15	73	68	30	-	-	4	20	7	38	-	-	11	58	4	51	-	-	-	-	-	-	-	
SK16	106	91	23	SD29+	-	-	20	2	20	-	-	8	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK17	(72)	63	17	SD19見疎上、SK18-	157	4	18	2	23	-	-	6	41	-	-	-	-	-	-	1	30	-	
SK18	123	93	17	SK18+	-	-	9	1	1	-	-	8	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK22	58	55	25	SD23+	158	5	25	4	24	-	-	9	48	1	23	-	-	-	-	-	-	-	
SK23	81	66	-	SD23+	174	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土錘1	9	-	
SK24	94	62	13	SD27+	159-160	6	35	13	90	-	-	19	125	-	-	-	1	95	-	-	-	-	
SK25	103	100	40	SP101+、SP270+	161-169	41	393	19	271	黒3	24	64	718	17	380	8	243	土錘2	11	2	90	-	
SK26	104	97	42	-	(175-176)	18	78	6	57	-	-	26	136	1	27	-	-	土錘2	7	2	18	-	
SK27	66	51	27	SD31+	165	-	1	13	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK28	67	62	13	SDP7+	166	4	13	3	21	-	-	7	34	-	-	-	-	-	3	11	-		
SK29	65	47	13	SD32+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8	-		
SK33	103	123	16	SD21+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK35	83	54	28	-	-	6	12	2	18	-	-	8	31	3	74	1	14	-	-	-	-	-	
SK36	99	61	14	SD30+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK37	65	49	16	-	-	1	2	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK38	78	77	13	SD29+	-	2	2	-	-	-	-	2	2	1	6	-	-	-	-	-	-	-	
SK39	64	44	14	SD30+	-	-	1	1	-	-	-	1	1	1	40	-	-	-	-	-	-	-	
SK40	64	48	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	1	13	-	-	1	3	-	
SK41	67	35	15	-	177	4	49	-	-	-	-	4	40	-	-	-	-	土錘1	4	-	-	-	
SK42	81	44	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK43	75	38	33	SP21+	167	5	35	3	26	-	-	8	61	1	6	-	-	-	-	-	-	-	
SK44	64	52	16	SD22+	-	-	168	8	81	2	6	-	-	10	93	-	-	-	-	-	-	-	
SK45	77	47	10	-	(171-172)	8	81	2	6	-	-	2	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK47	162	161	16	SD22-	-	2	22	-	-	-	-	2	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK48	180	160	8	SP104+、SP105+、SP106+、SP107+	168	7	78	2	25	-	-	9	103	-	-	-	-	-	-	3	11	-	
SK49	230	47	43	SD30+	169	1	4	2	8	-	-	3	12	-	-	-	-	土錘1	6	-	-	-	
SK50	102	57	16	SD17+	174-179	85	972	17	375	黒1	2	83	1349	8	139	3	83	-	-	-	-	-	-
SK51	52	11	SD34+	-	170	4	32	1	6	-	-	5	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK52	111	103	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK54	(115)	90	-	SD51+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK55	94	70	27	SD33+、SD38+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

©SK14, 17, 18, 21, 30, 31, 32, 34, 52は欠番



SK50周辺包含層

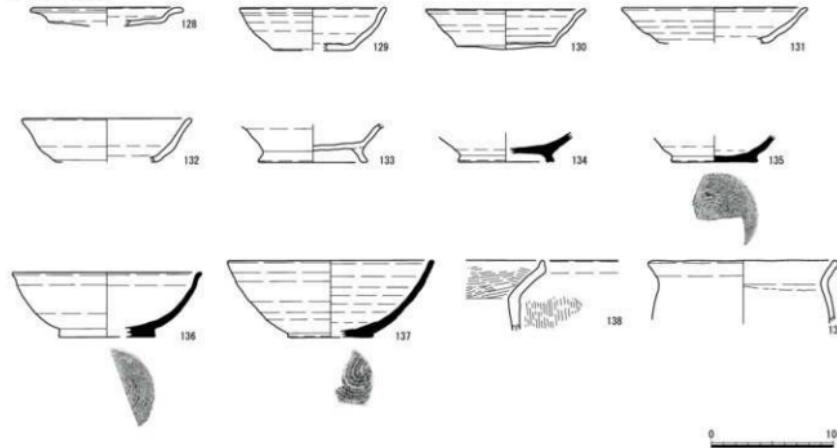
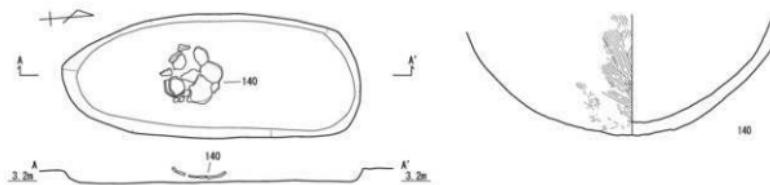
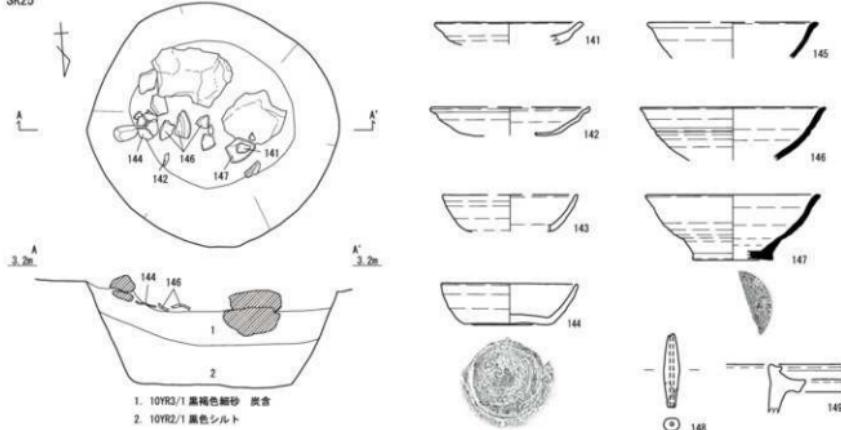


図26 SK50平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

SK13



SK25



SK54

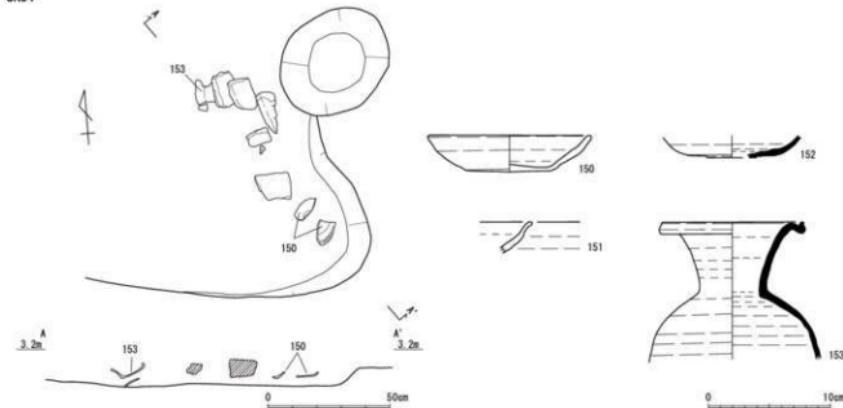


図27 SK13・SK25・SK54平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

**土坑出土
遺物**

面からわずかに浮いた状態で150～153が出土した。150は底部ヘラ切りの土師器杯、151は土師器椀の口縁部であろう。152は底部ヘラ切りの須恵器杯、153は須恵器壺である。

土坑から出土した遺物は大半が細片である。図化に耐えうるもののみ図示した。SK06からは口縁部の屈曲した須恵器杯154が出土した。SK07からは土師器椀の口縁部155が、SK08からは底部ヘラ切りの須恵器杯156が、SK19からは底部ヘラ切りの須恵器杯157が出土した。SK22からは底部糸切りの須恵器椀158、SK24からは須恵器壺159と須恵器椀160、SK26からは須恵器椀161～164が出土した。164は体部に段を有する個体である。SK27、SK28、SK43、SK48、SK49からは須恵器椀165～169が出土している。168は色調が白色を呈し口縁部に重焼痕が明瞭に観察できる。SK51からは土師器杯170、SK46からは底部ヘラ切りの土師器杯171・172、底部糸切りの土師器椀173が出土した。SK23、SK26、SK41からは管状の土錘174～177が出土した。これらの遺物の時期は概ねⅠ期～Ⅱ期に位置づけられる。

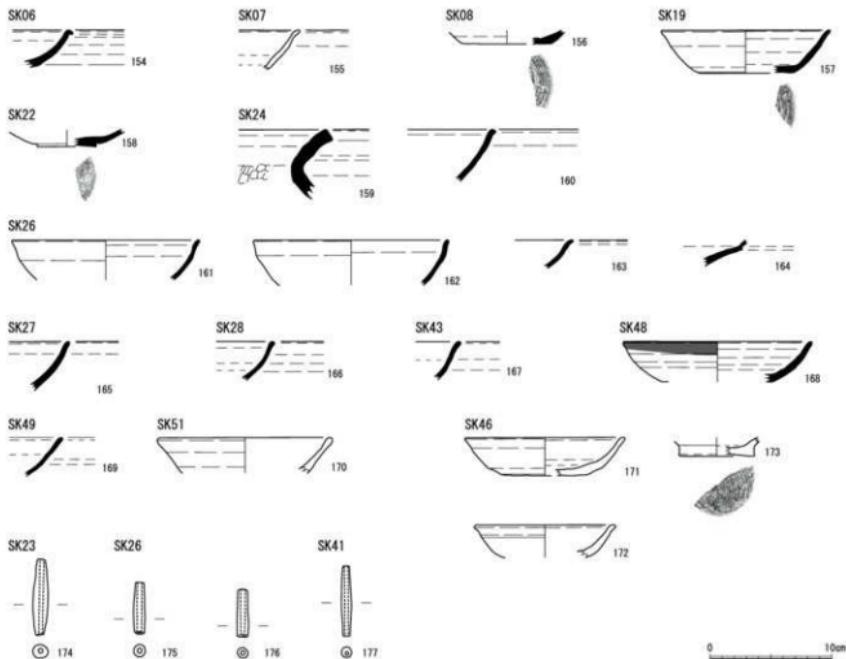
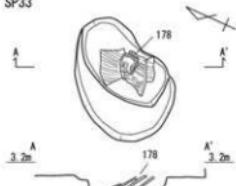


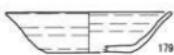
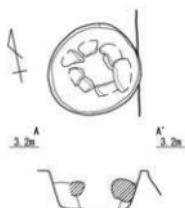
図28 4-1区土坑出土遺物実測図 (S=1/4)

- 柱穴** 286基確認した。一覧表は節末に添付した。
- そのうち建物に伴うものは60基で、柵に伴うものが12基である。残りの214基については建物等を構成せず、性格は不明である。図21はSP29、SP112、SP254の柱材**66・67・68**である。いずれも柱根が残存したもので、直径約20cmの丸太材である。柱根の小口はいずれも水平に切断されている。遺物の出土状況を確認した、SP33、SP89、SP178・179、SP253について記載する。
- SP33** SB05を構成する柱穴である。埋土中から須恵器壺178が出土した。壺は口縁部、底部を欠き胴部片のみで、4枚重なった状態で出土した。接合すると胴部下半部の破片となる。壺は外面に縱方向のタタキ、内面には同心円状の当て具痕が残る。出土状況からは単に埋土に含まれたものとは考えにくく、性格は不明であるが意図的に埋められたものであろう。
- SP89** SD31の西肩で検出し、SD31を切っている。柱痕跡の周囲を河原石が取り巻いており、柱を補強したものと考えられる。遺跡内においてこうした構造を持つ柱穴は他に確認できていない。柱を抜き取った埋土中から底部ヘラ切りの土師器杯179・180と底部糸切りの須恵器壺181が出土した。
- SP178・
SP179** SP178はSB03を構成する柱である。調査時点では明確な柱痕跡を確認できなかつたが、掘方が南北に細長いことから抜取りをおこなった可能性がある。埋土の最上面から底部糸切りの須恵器壺184が出土した。SP178に近接してSP179を検出した。SP179からは2枚の土師器皿が出土した。182は底部ヘラ切り、183は底部糸切りである。2枚は密着した状態ではなく、わずかに隙間を空けて重なっていた。法量からⅢ期古段階に位置づけられる。
- SP253** SD32の南側で検出した。埋土中から底部糸切りの須恵器壺185が出土した。明確な柱痕跡は確認できなかつたが、柱抜取り後の埋土に含まれたと思われる。
- 柱穴出土
遺物** SP13からは土師器杯186が、SP15からは須恵器壺187が出土した。底部には粘土が付着している。SP16からは土師器杯の口縁部188、SP27からは底部糸切り後に輪高台を貼り付けた壺189、SP22からは土師器杯190、綠釉陶器191は細片であるが硬陶で釉の色調は濃緑色を呈す。192・193は須恵器壺で、193は体部に沈線を有す。194は底部ヘラ切りの須恵器杯である。SP37からは口縁部の屈曲した土師器皿195、SP57からは内外面とも黒色を呈する壺196が出土した。端部がやや肥厚することから須恵器の可能性もある。SP65からは底部糸切りの須恵器壺底部197、SP70からは土師器杯の口縁部198、SP71からは須恵器壺199・200、SP72からは底部に指圧痕の残る土師器皿201、土師器杯202、SP75からは底部糸切りの須恵器壺203が、SP76の掘方からは須恵器壺口縁部204、SP77からは底部に指圧痕の残る土師器杯205が出土した。SP79からは土師器杯206・207、須恵器杯B208、糸切り平高台の皿209が出土した。SP90から出土した須恵器蓋210は中央部を欠損するが摘みの付かないものであろう。SP111の掘方からは土師器羽釜211、SP144からは須恵器杯B212、SP147からは糸切り底の須恵器壺213、SP152からは糸切り底に輪高台を貼り付ける須恵器壺214、SP160の掘方からは土師器杯215、SP165からは底部糸切りの須恵器壺216と土師器羽釜217が出土した。SP174からは口縁部が直線的に外方へ延びる土師器皿218、SP181からは白色を呈す須恵器杯219、SP183からは底部ヘラ切りの須恵器杯220が

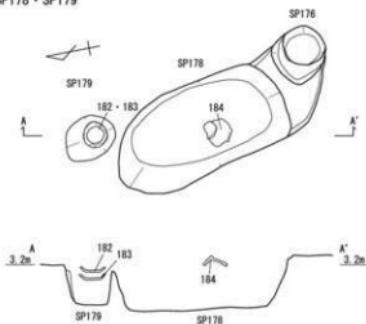
SP33



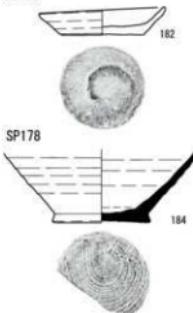
SP89



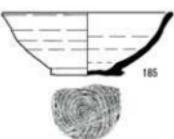
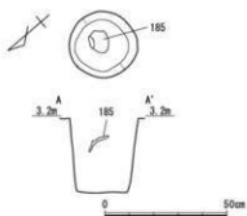
SP178 · SP179



SP179



SP253



0 10cm

図29 SP33 · SP89 · SP178 · SP179 · SP253平面図・断面図 (S=1/20) 、出土遺物実測図 (S=1/4)

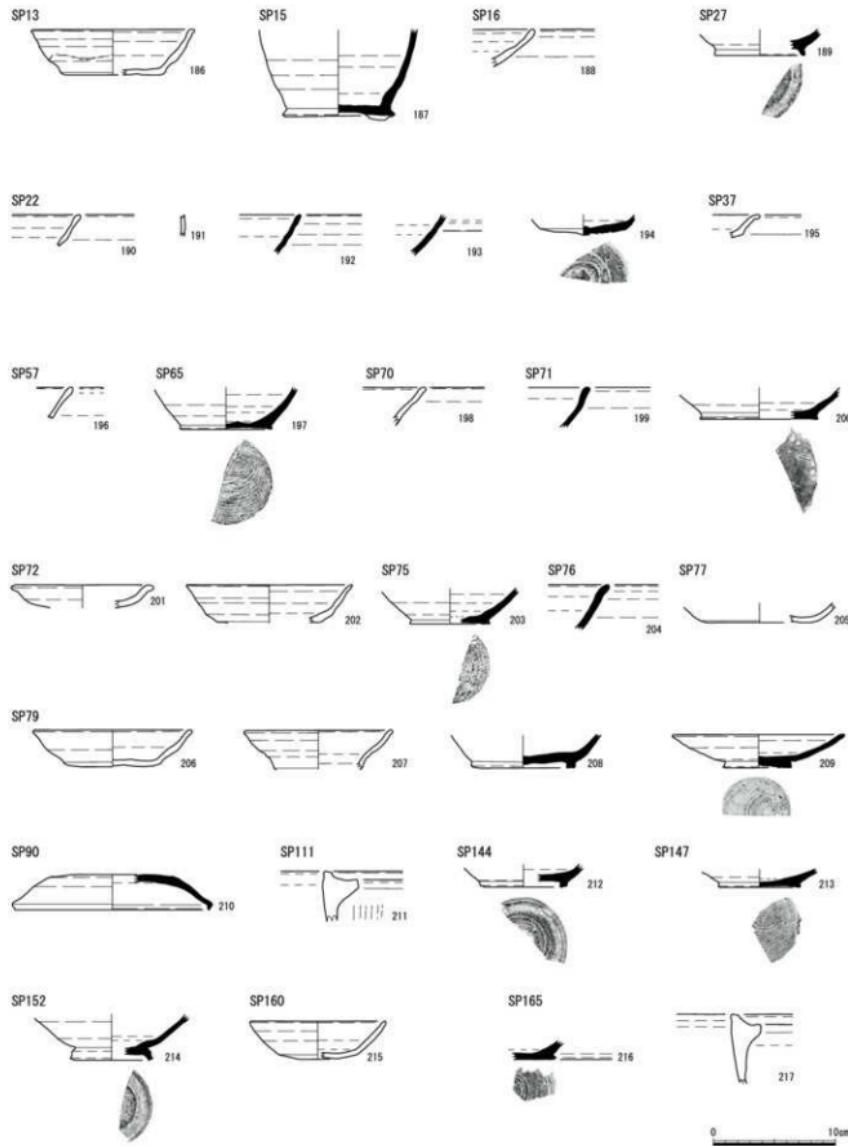


図30 4-1区柱穴出土遺物実測図(1) ($S=1/4$)

出土した。SP184からは須恵器杯221、SP187からは内外面に平行タタキを施す須恵器甕222、SP189からは須恵器椀223、同掘方からは土師器杯224が出土した。SP191からは指圧痕の残る土師器杯225、底部ヘラ切りの須恵器杯226、須恵器椀227が出土した。SP192からは非口クロ成形の土師器杯228・229とヘラ切り後に輪高台を貼り付けた須恵器皿230が出土した。SP201からは須恵器椀231、SP214から出土したヘラ切り土師器杯232の底部には板状圧痕が残る。SP219からは須恵器椀の口縁部233、SP225からは土師器杯の口縁部234が出土した。SP226からは非口クロ成形の土師器皿235と須恵器蓋236、須恵器皿の底部237が出土した。SP250からは輪高台の土師器椀238、SP251からは土師器杯239と糸切り底の須恵器椀240、SP224からは口縁部が内側へ屈曲し、端部を摘み上げる須恵器鉢241が出土した。これらの遺物は時期幅を持つが、主体となる時期はⅠ期新段階からⅡ期である。

遺構に伴わない遺物 包含層から3,007点の遺物が出土した。内訳は食膳具66.7%、調理具17%、貯蔵具8.9%である。遺物は細片が多いが、図化に耐えうるものについて図32・33に図示した。

242～245は土師器皿である。242～244は底部指圧痕を残し、口縁部が強く外反する。245は底部ヘラ切りである。246～250は土師器杯で、248は底部ヘラ切りである。251～254は土師器椀である。250を除き底部は糸切りである。252は部分的な残りであるが、小丸丸遺跡で椀C1と分類された内面見込みが大きく凹む器形の平高台椀であろう。255は白磁碗、256～259は縁釉陶器椀である。256は硬陶で濃緑色を呈し、257は硬陶で有段輪高台を貼り付ける。258は軟陶で削出し蛇の目高台、259は硬陶の削出し蛇の目高台である。

260と261は須恵器蓋で、261は摘みのない器形であろう。262・263は須恵器杯Bで、263には高台外面に爪形状圧痕が観察できる。264と265は須恵器椀であり、265は糸切り後輪高台を貼り付けている。266～268は底部ヘラ切りの須恵器杯、269～277は須恵器椀である。276は底部糸切りの後、低い輪高台を貼り付け、内面には段を有す。白磁碗を模倣したものであろうか。278～281は須恵器壺である。281は双耳壺で、貼付け突带上に耳を貼り付けている。282は白色を呈す須恵器鉢である。口縁端部は玉縁状に丸くおさめている。283・285は須恵器甕口縁部である。284と286は壺もしくは甕の底部であろう。284は底部ヘラ切りで杯もしくは鉢の可能性もある。

287～289は土師器甕である。いずれも内外面ともハケによる調整を行っている。288と289は長胴甕であろう。290～292は土師器羽釜である。頸端部を四角くおさめる290と上方に立ち上がる291と292に分けられる。293は輪羽口で先端部を欠損する。294～296は土鍤である。包含層中からは土鍤が計30点出土している。297・298は平瓦である。いずれも凸面は縄目タタキを施し、298はその後粗い斜め方向のハケ調整を施している。299は流紋岩製の砥石で、2面の使用面が確認できる。300は円筒埴輪の基部である。透孔の下端がわずかに残存する。外面にはタテハケを施し、内面には粘土接合痕が残る。摩滅していないことから近辺にあったものであろう。総じてⅠ期～Ⅲ期の遺物が出土している。

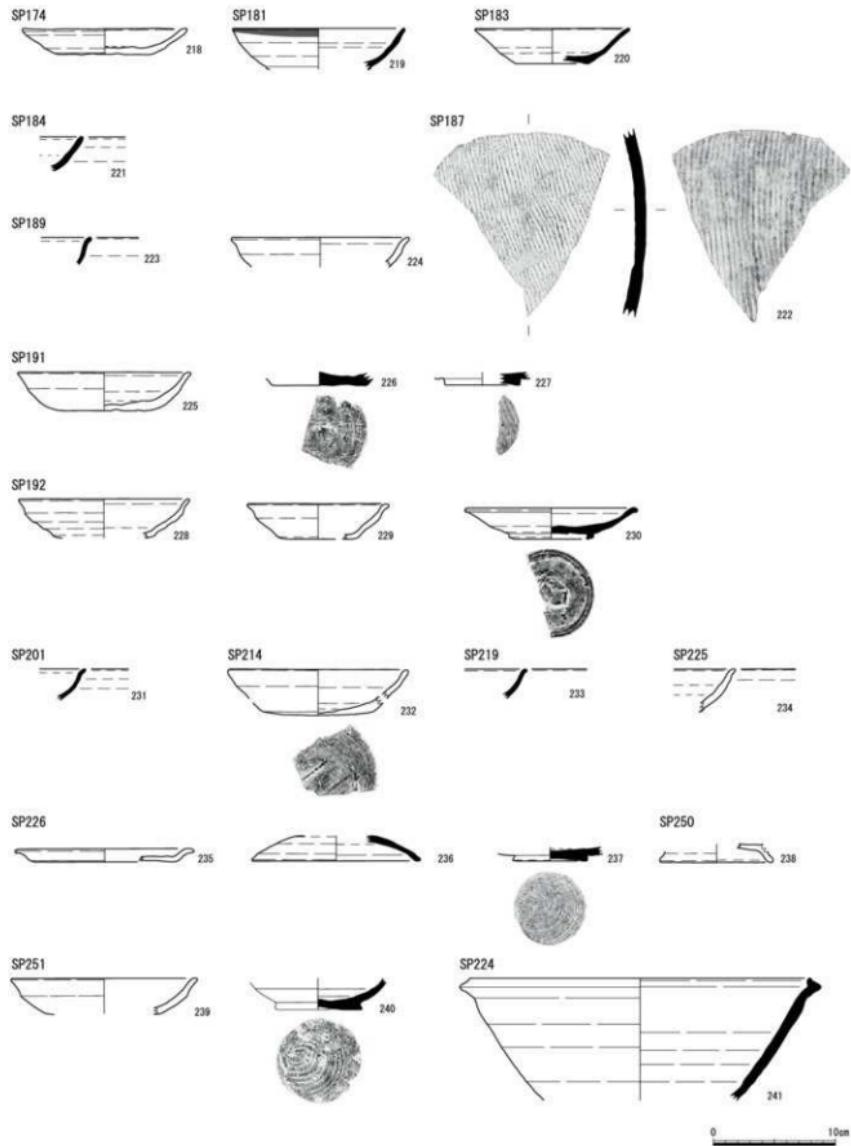


図31 4-1区柱穴出土遺物実測図 (2) (S=1/4)

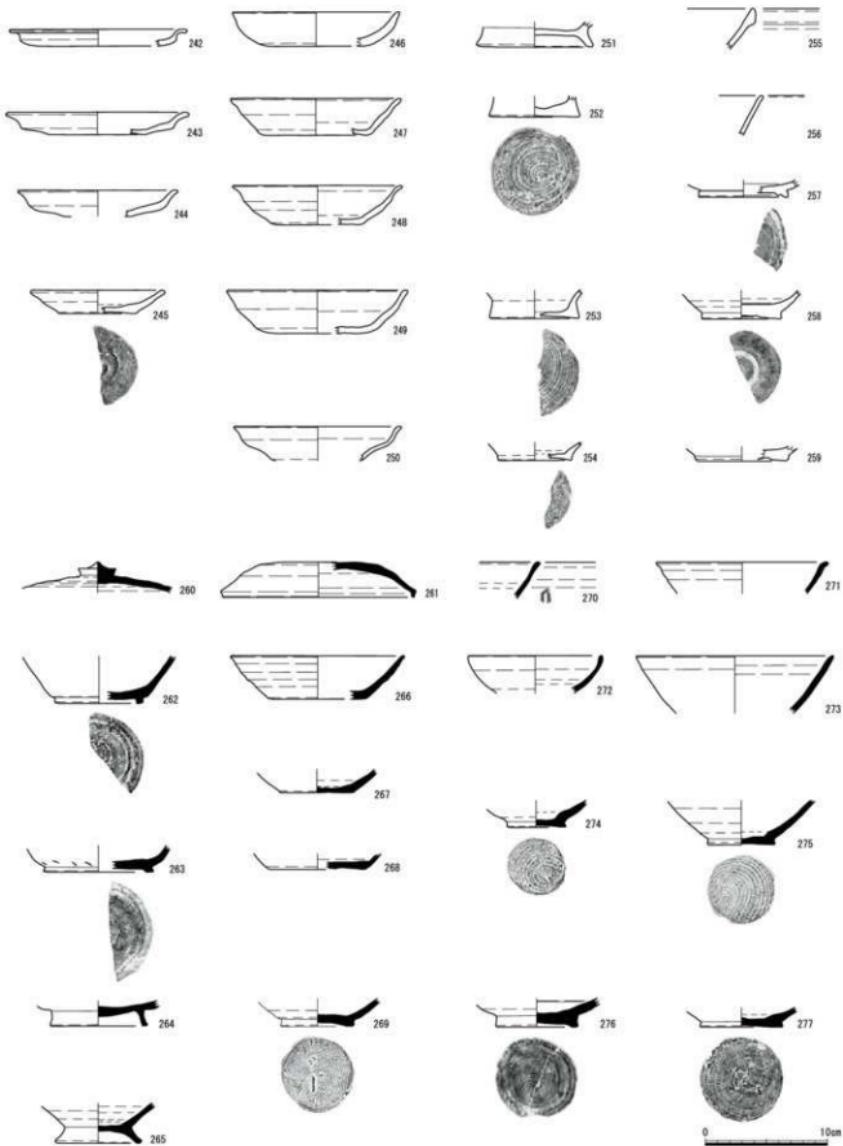


图32 4-1区包含层出土遗物实测图 (1) (S=1/4)

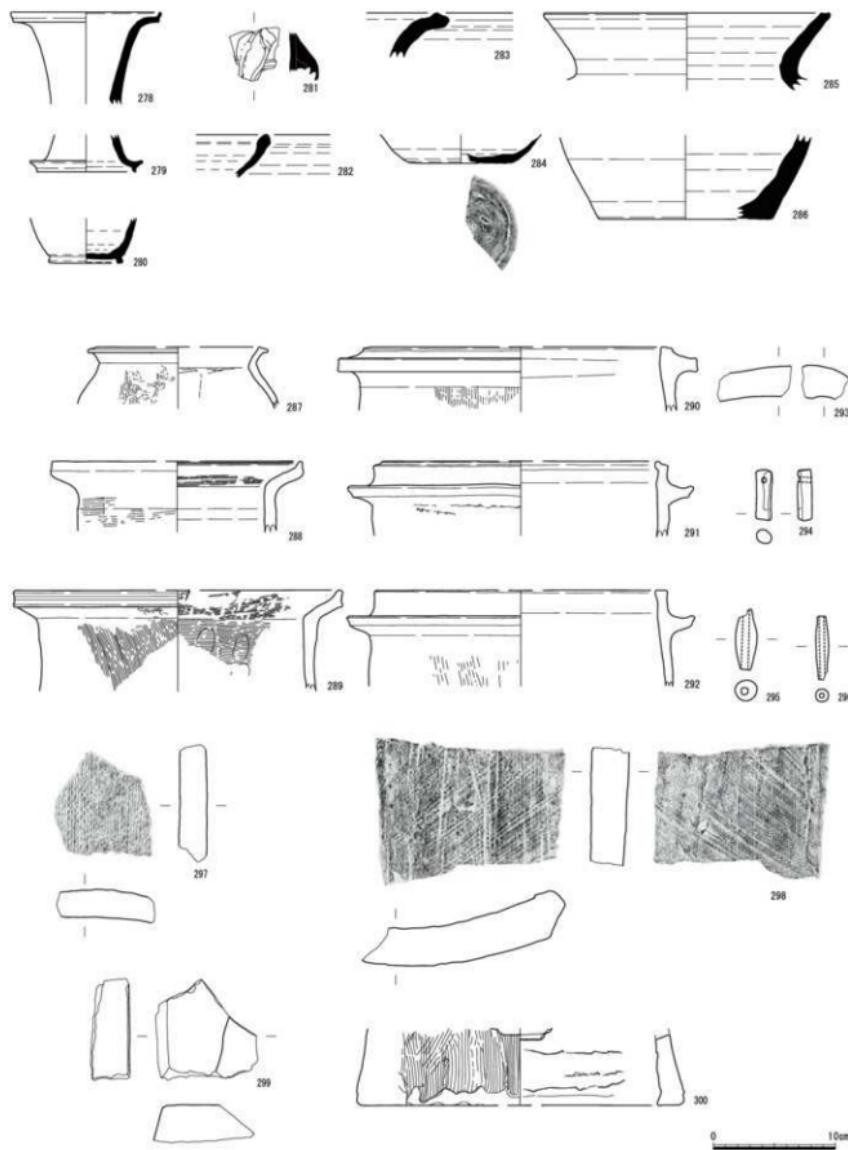


图33 4-1区包含层出土遗物实测图 (2) (S=1/4)

表6 4-1区柱穴一覧(1)

透析名	長さ(cm)	幅さ(cm)	奥行き(cm)	特記事項	間取構造		土師食器類		漆器食器類		その他食器類		食器総合計		調理器具類		調理器具合計		他の道具類		不明			
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
SP01	45	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP02	38	38	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP03	37	30	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP04	35	26	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP05	42	28	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP06	36	35	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP07	44	35	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP08	40	32	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP09	37	34	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP10	30	28	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP11	46	41	20	—	—	—	1	3	1	5	—	—	2	8	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP12	32	25	13	—	—	—	1	7	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP13	67	47	14	—	186	8	164	1	2	—	—	9	166	1	15	4	250	—	—	—	—	—		
SP14	39	34	29	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP15	39	30	12	—	—	—	187	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP16	35	33	12	—	186	2	27	—	—	—	—	2	27	—	—	—	—	—	—	2	197	—		
SP17	51	49	17	SP05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP18	50	49	9	SP05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP19	32	26	7	SP17+	—	—	—	1	7	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP20	84	76	17	SP05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	35	—		
SP21	52	52	13	SP05、櫛窓あり	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP22	41	39	16	—	190~194	8	44	4	36	SP11	1	13	91	2	63	1	111	—	—	—	—	19		
SP23	54	49	5	SP24+	—	2	5	—	—	—	—	2	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP24	57	49	16	SP23-	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP25	(55)	47	8	SP05、SP24-	—	2	13	—	—	—	—	2	13	—	—	1	7	—	—	—	—	—		
SP26	54	46	20	—	189	3	18	1	2	—	—	4	20	—	—	3	158	—	—	—	—	—		
SP27	50	47	17	—	189	2	22	2	25	—	—	4	47	—	—	—	—	—	—	土鍋1	8	—		
SP28	39	17	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP29	65	64	5	柱窓有	66	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP30	34	33	16	SP05	56	1	7	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP31	39	37	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP32	41	37	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	土鍋1	5	—		
SP33	52	37	13	SP05	178	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	470	—		
SP34	39	39	16	SP05	—	2	8	—	—	—	—	2	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP35	59	52	13	SP05	—	1	7	1	5	—	—	2	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP36	56	36	13	—	—	2	12	—	—	—	—	2	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP37	52	43	19	—	195	8	47	3	25	—	—	11	72	—	—	—	—	—	—	土鍋1	5	—		
SP38	37	33	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP39	54	32	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP40	26	21	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP41	31	31	18	SP04	—	—	—	1	11	—	—	—	—	1	11	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP42	51	48	19	—	—	—	—	1	4	—	—	1	4	2	103	—	—	—	—	—	—	—		
SP43	41	37	20	SP04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP44	48	46	18	SP04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP45	45	20	20	—	—	—	—	1	8	—	—	—	—	1	5	—	—	—	—	—	—	1	22	
SP46	27	28	13	—	—	—	—	1	10	—	—	1	10	—	—	1	29	—	—	—	—	—	—	
SP47	50	41	19	SP04	—	—	—	—	1	10	—	—	1	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP48	37	35	15	SP04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP49	47	47	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SP50	59	56	16	SP05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP51	55	52	12	SP05	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP52	39	29	13	SP02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16	
SP53	25	23	8	—	—	—	—	1	8	—	—	—	—	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP54	42	36	14	—	—	—	—	3	13	—	—	—	—	3	13	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP55	39	37	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP56	57	56	20	—	187	1	6	—	—	—	—	1	6	—	—	—	—	—	—	1	70	—		
SP57	64	41	17	—	—	—	—	1	9	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP58	31	27	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP59	27	23	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP60	69	60	21	SP30-	—	2	6	—	—	—	—	2	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP61	47	49	14	SP72+	—	195	2	7	—	—	—	—	3	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP62	57	53	17	SP05、SP24+	—	57	2	13	—	—	—	—	2	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP63	62	59	18	SP05、SP25+	—	58	4	25	—	—	—	—	4	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP64	63	47	19	SP04	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP65	35	31	9	—	—	—	—	11	81	1	5	—	—	12	86	2	40	—	—	—	—	—	—	
SP66	58	51	16	SP05、SK29+	—	59	3	10	2	28	—	—	5	38	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP67	34	33	15	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP68	39	37	11	石臼	—	179~181	6	113	1	145	—	—	7	258	—	—	—	—	—	—	—	2	5	
SP69	41	39	20	—	—	210	—	1	30	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP70	43	40	20	SP02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP71	36	33	15	—	—	53	—	—	1	19	—	—	1	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP72	41	37	19	SP03	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP73	50	47	18	SP02	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP74	51	42	18	SP02	—	51	1	21	—	—	1	21	—	—	1	21	—	—	—	—	—	—	—	
SP75	41	41	12</																					

表7 4-1区柱穴一覧(2)

遺跡名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	測量番号	土面食器類		漆面食器類		その他食器類		食器合計		調査高合計		約調査高合計		他のもの		不明
						点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
SP98	51	43	17	SB01, SK49+	-	-	-	1	10	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	
SP99	39	39	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP100	47	39	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	37	-	-	
SP101	34	33	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP102	59	47	26	SP102-	-	1	13	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	
SP103	29	23	10	SP102+	-	1	8	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	
SP104	43	36	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP105	(51)	46	36	SK25-, SP170+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	104	-	-	
SP106	47	37	17	SB01+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP107	32	31	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	639	
SP109	30	29	23	-	-	1	13	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	
SP110	50	36	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP111	69	53	4	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	73	-	-	-	
SP112	73	55	13	粗陶器	67	3	22	-	-	-	-	3	22	-	-	-	-	-	-	
SP113	27	19	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP114	39	29	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP115	25	25	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP116	74	70	29	SB02, SK19+, SK20+	49-50	4	23	8	73	-	-	12	98	1	19	-	-	-	-	
SP117	43	27	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP118	33	29	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP119	30	27	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP120	25	24	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP121	26	(17)	3	SK43-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP122	37	36	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP123	35	31	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP124	40	35	11	SB03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP125	41	40	23	SB02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP126	46	42	20	SB01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP127	64	54	19	SB02	52	4	45	1	5	-	-	5	50	1	5	-	-	-	-	
SP128	75	54	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP129	32	27	16	SB01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP130	89	74	17	SB01	44-45	-	2	45	-	-	2	45	-	-	1	20	-	-	-	
SP131	34	32	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP132	33	29	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP133	29	27	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP134	29	(27)	11	SP130-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP135	30	25	6	SP134+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP136	41	36	14	SB01	-	1	7	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-	-	-	
SP137	41	38	18	SB01, SB02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP138	45	37	22	SB01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP139	54	50	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP140	35	33	20	SB01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP141	25	25	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP142	61	58	22	SB02	-	3	14	-	-	-	-	3	14	-	-	-	-	-	-	
SP143	62	52	17	SB01	8-47	1	6	3	SB01	3	3	12	-	-	-	布1	90	-	-	
SP144	37	33	17	-	-	715	-	1	22	-	-	1	22	-	-	-	-	-	-	
SP145	51	43	20	SB02	63-64	2	8	64	-	-	-	6	69	-	-	-	-	-	-	
SP146	26	24	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP147	29	27	18	SB06	213	-	1	20	-	-	1	20	-	-	-	-	-	-	-	
SP148	42	40	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP149	40	37	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP150	43	43	21	SB02	65	2	18	-	-	8	15	1	40	-	-	-	-	-	-	
SP151	37	32	10	-	214	-	1	39	-	-	1	39	-	-	-	-	-	-	-	
SP152	31	29	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP153	69	53	21	SB03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP155	36	31	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP156	49	39	17	SB06, SB01+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP157	43	36	19	-	48	-	1	4	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	
SP158	41	39	18	SB06	-	-	-	1	6	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	
SP159	85	73	19	-	-	1	14	-	-	-	-	1	14	-	-	-	-	-	-	
SP160	29	(24)	14	SP161-	215	1	32	-	-	-	-	1	32	-	-	-	-	-	-	
SP161	32	32	22	SP160+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP162	32	32	22	SP06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP163	49	41	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP164	49	46	18	SB06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP165	38	36	27	-	216-217	-	1	10	-	-	1	10	1	38	-	-	-	-	上耕1	
SP166	61	54	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP167	38	36	14	SA03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP168	21	21	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP169	43	40	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP170	24	23	13	SA03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP171	29	24	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP172	45	41	34	SK47+	-	-	1	5	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	
SP173	36	31	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP174	43	39	10	SB03+	218	1	70	-	-	-	-	1	70	2	22	-	-	-	-	
SP175	47	43	29	SB06, SB03+	42	2	18	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-	-	-	
SP176	34	28	18	SK17+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP177	26	26	17	SA03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP178	75	47	18	SB03, SP176-, 179-	164	8	25	3	158	-	-	9	183	2	18	-	-	上耕1	2	-
SP179	29	26	19	SK17+	182-183	2	166	-	-	-	-	2	166	-	-	-	-	-	-	-
SP180	29	26	19	SK17+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP181	27	25	11	SK17+	219	-	-	2	11	-	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-
SP182	29	24	6	SK17+	-	2	16	1	3	-	-	3	19	-	-	-	-	-	-	
SP183	51	48	7	SP188+, SK17+	220	3	45	4	74	-	-	7	119	1	55	1	10	上耕1	2	1
SP184	47	40	15	-	221	1	5	2	9	-	-	3	14	-	-	-	-	-	-	
SP185	75	52	14	SB05, SB17+	60-61	5	34	2	24	-	-	7	38	-	-	-	-	-	-	
SP186	27	26	15	SA03	-	5	22	2	6	-	-	7	28	-	-	-	-	-	-	
SP187	61	52	19	SK17+	222	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	207	-	-	
SP188	56	50	18	SB03, SK17+	-	1	11	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	
SP189	49	40	15	SK17+	223-224	6	32	2	9	-	-	8	41	1	7	-	-	-	-	
SP190	36	21	9	SB17+	-	2	15	-	-	2	15	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP191	64	64	27	SP192+	225-227	6	77	5	64	-	-	11	131	-	-	-	-	-	-	
SP192	57	50	19	SK17+	228-230	6	61	5	85	-	-	11	148	1	41	1	112	-	-	
SP193	25	22	11	-	-	-	-	1	15	-	-	1	15	-						

表8 4-1区柱穴一览 (3)

中學P108次頁

第6節 4-2区の調査(図34~44、表9~12)

SA01



位置 4-1区の東側、5区の北側に位置する調査区である。延長約57m、幅員約16mを測る。

層序 基本層序は耕土、床土、遺物包含層である黄灰色細砂を経て、灰黄色細砂または砂礫層に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は西側で3.4m、東側で3.25mである。

検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物跡2棟、柵1列、土坑墓1基、溝25条、土坑17基、柱穴164基である。溝・柱穴とともに調査区全域で確認したが、柱穴は溝の少ない調査区の東部にやや多く分布している。また、調査区東部のSK02以東では遺構数は極端に減少する。

SA01 調査区の西側中央部で検出した。対になる柱穴が確認できないことから柵とした。検出状況はSD02からSD12間の溝と重なるが、直接の切合い関係はSD12のみで認められる。総延長はSP111-SP78間で16.3mを測る。柱間寸法は西側から3.5m、2.5m、2.4m、2.3m、2.3m、3.3mで、西端と東端の間隔が広い。このことから西端のSP111と東端のSP78は他の柱穴とは本来一連となる可能性もある。溝の主軸は検出プランの直交方向でN5°Eである。

SB01 調査区の東側で検出した。検出状況はSD18-SD19・SD20と重なる。遺構の切合いからSD19とSD20が先行する。2間×4間以上の総柱建物跡と考えられる。SP35-SP121を基準とした棟方向はN14°Eである。平面規模は梁行方向2間で4.2m、桁行方向3間で7.1mを測る。平面積は約30m²である。柱穴間の寸法はSP121-SP141間で西側から2.4m、2.2m、2.5mを測る。梁行方向は概ね2.1m等間である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25~40cm、深さは遺構検出面から8~32cmを測る。埋土は暗褐色細砂を中心とする。2間×3間の建物跡と考えるが、調査区西端で検出したSP137とSP143を含めると2間×4間となる可能性もある。建物内の北東隅にあたる場所からST01を検出した。

遺物はSP120から土師器杯301が出土した。

SB02 調査区の東部で検出した。SB01の南側に位置する。3間×3間の総柱建物跡である。SP56-SP65を基準とした棟方向はN20°Eで、SB01とやや異なる。平面規模は梁行方向3間で6.0m、桁行方向3間で7.1mを測る。平面積

図34 SA01平面図・断面図 (S=1/80)

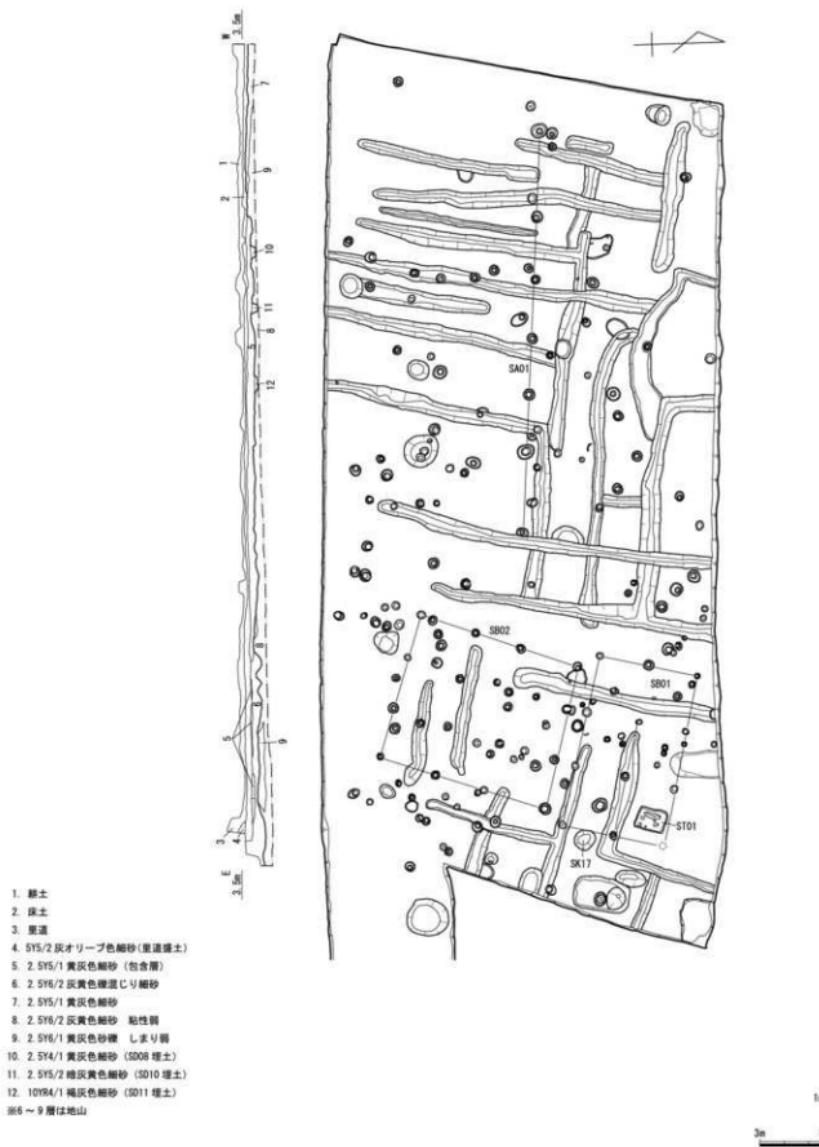
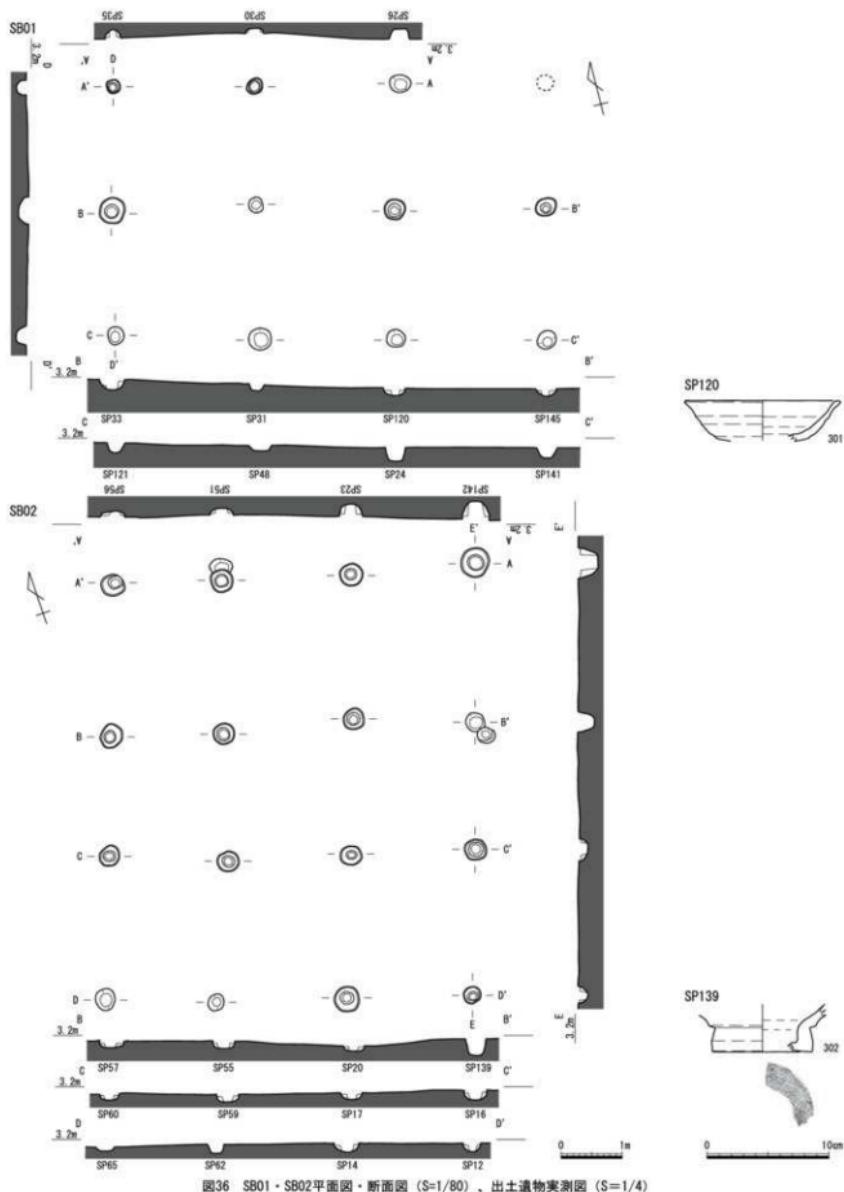


図35 4-2区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)



は42.6mである。柱穴間の寸法はSP56-SP142間で西側から1.8m、2.1m、2.0mを測る。南北方向のSP56-SP65間で北側から2.5m、1.95m、2.35mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25~40cmを測る。深さは遺構検出面から8~30cmを測る。埋土は暗褐色の細砂である。遺物はSP139から底部糸切りの土師器椀302が出土した。中央部が大きく凹む形態で、岸本分類の椀C1に該当する。II期新段階以降に位置づけられる。

ST01

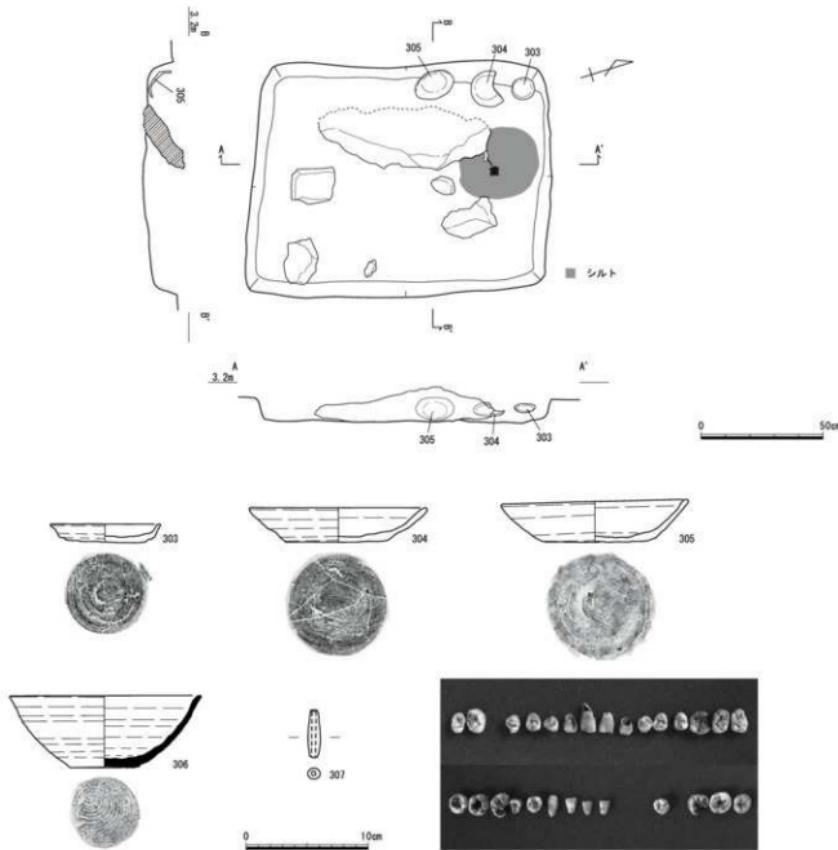


図37 ST01平面図・断面図(S=1/20)、出土遺物実測図(S=1/4)、歯写真(上段：上顎、下段：下顎)

ST01

調査区の西端、SB01の北東隅にあたる場所で検出した。平面形は長方形を呈している。長辺1.24m、短辺94cmを測る。深さは遺構検出面から10cmを測る。検出段階では、土坑上部に石材の一部が露出していた。埋土の土質には細かい差異はなく、大きく1層であった。板状の石材の下部を精査中に人骨(歯)を確認したため、周辺の土壤を採集し篩選別を行い、歯の回収に努めた。歯を検出した付近の土壤のみ周辺に比べやや暗い色調を呈していた。この色調変化は被葬者の頭位に関係するものと考えられる。歯の検出位置から頭位は北方向である。木棺の痕跡等は全く確認できなかつたが、板状の石材については、検出状況では傾いていたものの、本来は被葬者側に面を持つかたちで据えられていたと想定される。後述する11区ST01を参考にすれば、本来は埋葬に係る設備があった可能性もある。板状の石材の外側からは土師器皿303、土師器杯304と305が土坑の側面に一列に並んだ状態で出土した。埋土中からは須恵器碗306と土錘307が出土した。土師器皿303は底部ヘラ切りである。306は西播系の須恵器碗である。高台が痕跡程度に残ることから相生窯の編年でD段階に位置づけられる資料で、Ⅲ期新段階以降共伴が確認できる。墓から出土した歯は上顎の第1大臼歯、下顎の側切歯、犬歯、第2小白歯を欠く他は全て遺存していた。出土遺物からⅢ期新段階に位置づけられる。

溝

25条検出した。溝は互いに切り合っている。耕作に伴う溝も含まれると推測できるが、総体として溝の性格ははっきりしない。溝の主軸はSD18を境に東西で異なる。SD18以西ではN9°E(SD12)前後に掘り、以東ではN19°E(SD19)前後に掘る。SD11・13・17は埋土に炭化物を含んでいる。西側の溝の切合関係を整理するとSD04とSD10が最も古く、SD02・SD03・SD07・SD14→SD01・SD08・SD11→SD13・SD17・SD25→SD15と続き、SD15を切るSD12が最も新しい。以上から少なくとも6時期にわたる時期差がある。東側の溝はSD21・SD24がSD20とSD19に先行する。そのうちSD20はSB02と一定の距離を持ち、主軸もほぼ掘っていることからSB02に伴う雨落ち溝である可能性が高い。SB01はSD20を切ることからSB02と同時併存ではないと考えられる。SD05・06・09・18・22・23は他の溝との切合関係がない。

溝出土遺物 遺物は細片が多く、図示できるものは少ない。SD07からは308~310の須恵器碗と

表9 4-2区溝一覧

溝番号	長さ(cm)	幅(最深)(cm)	深さ(cm)	特記事項	埋蔵遺物		出土新規遺物		その他遺物		食器類		調理具		野籠具		その他の道具		不明		
					品目	数	品目	数	品目	数	品目	数	品目	数	品目	数	品目	数	品目	数	
SB01	313	43	10	SD02+、SD03+	-	4	SD02	2	SD03	-	-	6	SD04	-	-	1	SD05	26	-	-	
SD01	215	27	11	SD01+	-	6	SD01	2	SD02	-	-	6	SD03	2	SD04	3	SD05	110	1	14	
SD02	587	20	11	SD01+、SD04+	-	3	SD01	2	SD02	-	-	3	SD03	2	SD04	-	SD05	-	-	-	
SD04	3460	61	4	SD14-、SD02+、SD03+	-	3	SD14	1	SD02	-	-	4	SD15	-	-	-	-	-	-	-	
SD06	377	22	13	-	-	2	SD01	8	SD02	20	-	6	SD03	-	-	-	-	-	-	-	
SD08	327	18	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD07	480	35	29	SD14(後縫)	306~311	22	SD12	14	SD11	118	SD02	4	SD03	235	SD04	8	SD17	-	-	-	
SD08	369	28	10	SD02+、SD14+	317	7	SD01	9	SD02	20	SD03	5	SD04	87	SD05	9	SD06	-	-	2	
SD09	343	28	9	-	-	9	SD01	-	SD02	-	-	9	SD03	-	-	-	-	-	-	10	
SD10	4800	34	29	SD14-	313~316	29	SD11	32	SD20	萬1	SD05	5	SD06	388	SD07	11	SD15	284	-	-	
SD11	780	35	11	SD13+、SD08-	317~319	53	SD20	30	SD17	萬1	SD05	2	SD06	977	SD07	17	SD14	342	2	180	
SD12	691	34	11	SD01+、SD15+、SD17+	320~321	24	SD16	7	SD15	-	-	31	SD17	210	SD18	11	SD21	-	-	1	
SD13	585	43	11	SD10+、SD13+、SD15+、SD17+	322~324	81	SD25	24	SD16	-	-	85	SD26	19	SD27	684	SD28	5	SD29	-	
SD14	465	40	11	SD10+、SD12+、SD13+	-	8	SD21	6	SD22	-	-	14	SD23	1	SD24	6	-	土縫1	2	2	
SD15	(3460)	70	10	SD12+、SD13+	325	-	-	-	SD23	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1288	
SD16	(86)	21	11	SD15+、SD17+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD17	(517)	40	21	SD17+	326~330	83	SD22	34	SD23	萬1	SD24	3	SD25	938	SD26	30	SD27	704	2	65	-
SD18	(420)	41	10	-	-	11	SD24	1	SD25	-	-	12	SD26	1	SD27	25	-	-	-	-	
SD19	493	42	10	SD24+	-	9	SD21	3	SD22	-	-	11	SD23	4	SD24	61	SD25	-	-	4	
SD20	(244)	31	9	SD21+	-	19	SD24	7	SD25	-	-	26	SD26	49	SD27	1	SD28	-	-	-	
SD21	(185)	34	10	SD20+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	SD24	35	-	
SD22	230	30	14	-	331	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD23	263	29	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD24	(117)	21	8	SD19+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD25	(412)	55	8	SD08+、SD15+、SD17+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

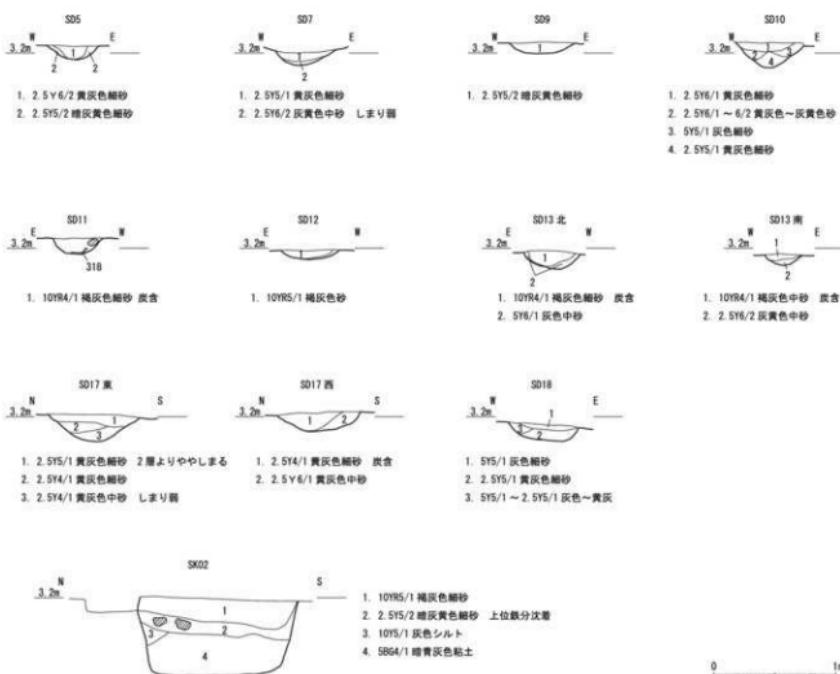
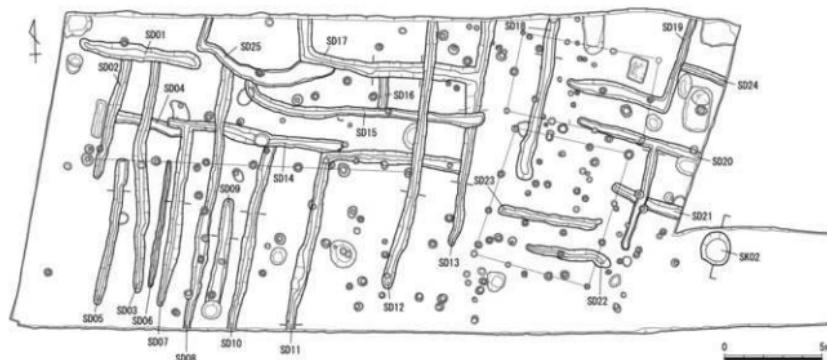


図38 4-2区溝平面図・断面図、SK02平面図・断面図 (S=1/250・1/40)

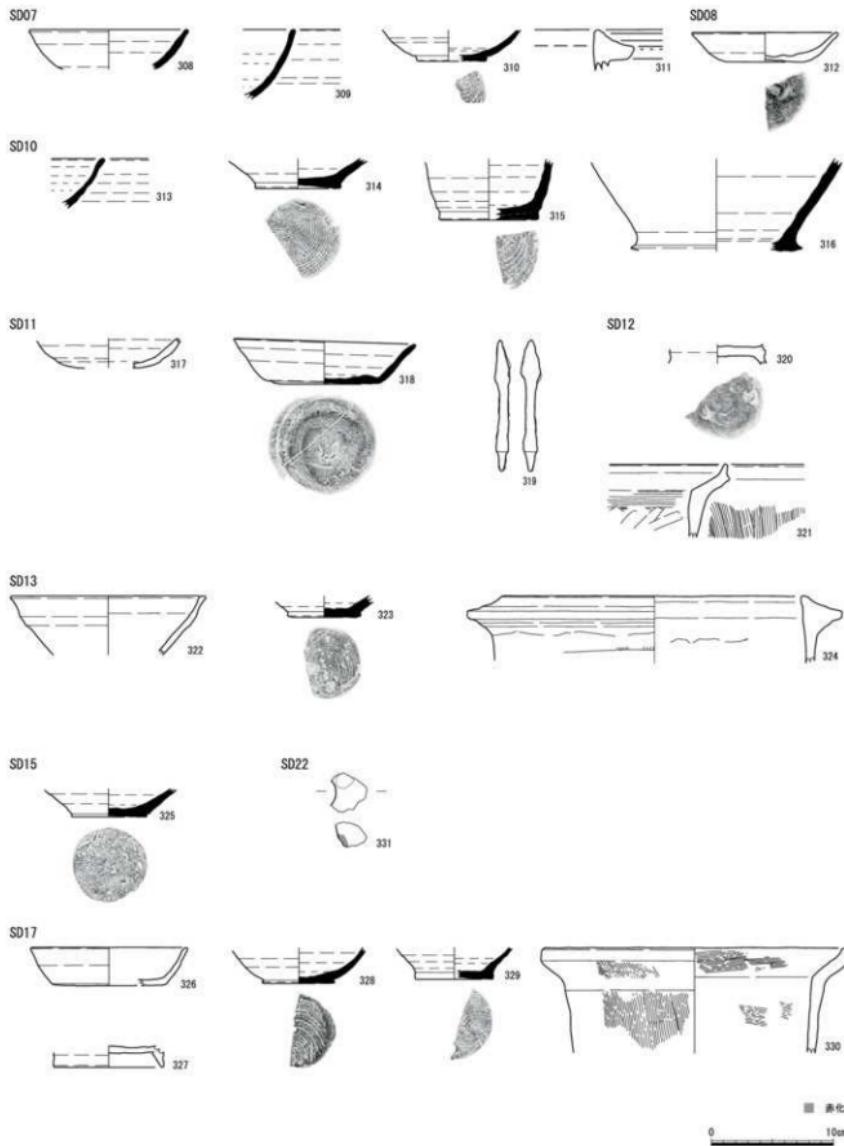


図39 4-2区溝出土遺物実測図 (S=1/4)

土師器羽釜311が出土した。SD08からは底部ヘラ切りの土師器皿312が出土した。SD10からは須恵器椀313・314、須恵器壺315、須恵器鉢316が出土している。SD11からは土師器杯317、底部ヘラ切りの須恵器杯318、鉄鎌319が出土している。SD12は底部ヘラ切りで輪高台を貼り付ける土師器椀320、口縁端部を上方へ摘み上げる土師器甕321が出土した。SD13からは土師器椀322、須恵器椀323、土師器羽釜324が出土した。SD15からは底部糸切りの須恵器椀325が、SD17からは底部ヘラ切りの土師器杯326、輪高台の土師器椀327、底部糸切りの須恵器椀328・329、内外面ともハケ調整の土師器甕330が出土した。SD22からは蘿羽口331が出土した。羽口先端にはスラグが付着し、内面は赤化している。これらの遺物は時期幅を持つが、Ⅱ期新段階～Ⅲ期が主体となる。

土坑 17基検出した。そのうち13基から遺物が出土しているが、いずれも性格が判明するものはない。比較的遺物のまとまって出土したSK07・SK11・SK17について記載し、他は一覧にて示す。

SK07 調査区の南部、SD11と12にはさまれた位置で検出した。平面形は東西にやや長い円形を呈し、規模は長辺1.46m、短辺1.27m、深さは遺構検出面から18cmを測る。土坑底でSP129とSP130を検出した。これらはSK07の平面検出時には確認できていないことからSK07が切っていると判断した。埋土中から土師器杯336・337、内面黒色の黒色土器A類椀338、底部糸切りの須恵器椀339が出土した。土師器杯はいずれも底部調整は不明であるが、直線的に延びる口縁部である。

SK11 調査区の南側、SD10と11にはさまれた位置で検出した。平面形は南北に長い長円形を呈し、規模は長辺89cm、短辺69cm、深さは遺構検出面から17cmを測る。遺物は検出段階において土坑の上面で検出した。そのため厳密にはSK11に属するものかどうかの確証はないが、出土状況等を勘案して本土坑へ帰属させた。遺物は底部ヘラ切りの土師器皿332、底部糸切りの土師器椀333、底部糸切りの須恵器皿334と須恵器椀335が出土している。土師器椀333は埋土中からの出土である。335は底部の凹む器形で相生窓群では椀C3と分類され、C2段階のみに出土するものである。土師器皿の法量と土師器糸切り椀、須恵器椀からⅢ期新段階に位置づけられ、ST01とほぼ同時期の遺構といえる。

SK17 調査区の西端、SB01の平面プランに接する位置で検出した。南北方向にやや長い円形を呈し、長辺77cm、短辺66mを測る。遺構検出面からの深さは16cmである。埋土は上層に焼土と炭の混じった細砂があり、その下部に炭の単純層を確認した。土坑北面の立ち上がり部分において底面に貼り付いた状態で馬の歯が出土した。歯はやや乱れた状態であったが、概ね原位置を保った状態と考えられる。遺存はしていなかったが、頭骨を埋納していた可能性が高い。土坑底は被熱により赤化している。遺物が出土していないため詳細な時期は不明であるが、全身ではないにせよ馬が当地にいたことを示す遺構である。

土坑出土遺物 SK03からは底部ヘラ切りの須恵器杯340と土師器羽釜341、SK19からは土師器椀342、SK21からは底部糸切りの土師器托皿343、SK22からは底部糸切りの須恵器椀344と土師器甕345が出土した。遺物の時期は幅を持つが、総じてⅡ期古段階からⅢ期にかけての遺構と位置づけられよう。

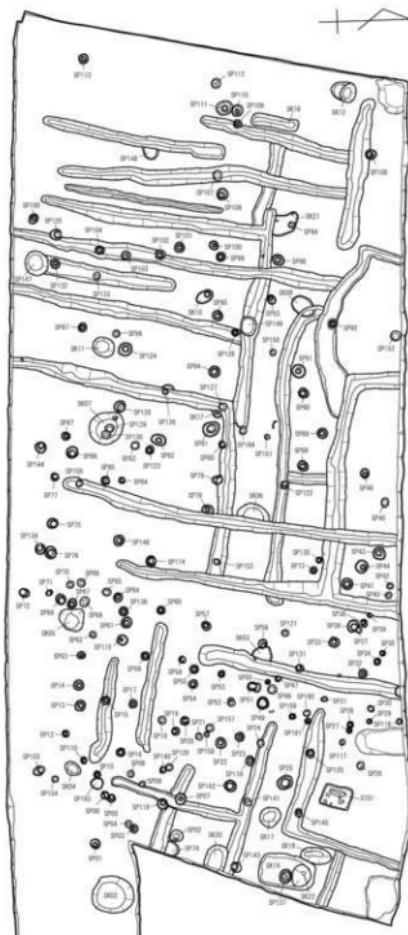


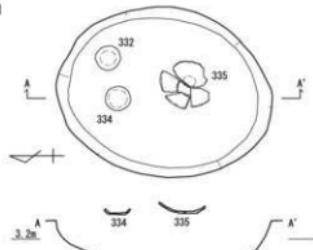
図40 4-2区柱穴・土坑位置図 (S=1/200)

表1 4-2区墓・土坑一覧

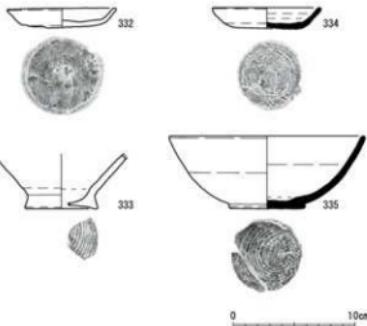
遺構名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	特記事項	陶器		土師器		漆器		金銀器		玻璃器		鉄器		その他		不明		
					品目	点数	品目	点数	品目	点数	品目	点数	品目	点数	品目	点数	品目	点数	品目		
SK01	124	94	10	-	303-307	12	474	9	186	-	21	680	19	245	-	-	土鏡1	4	1	5	
SK02	170	150	62	-	-	1	12	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK03	80	77	4	SP56-、SD18-	340-341	5	20	-	-	-	5	20	7	375	-	-	-	-	-	-	
SK04	70	52	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK05	104	90	25	-	-	-	-	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	
SK06	134	60	25	SD12-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK07	146	127	18	-	336-339	18	182	3	127	黒2	17	23	326	3	100	2	60	-	-	4	29
SK09	106	76	15	SD15-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK10	73	47	7	-	-	3	10	1	3	-	4	13	5	137	-	-	-	-	-	-	
SK11	89	70	11	-	332-335	11	117	6	269	-	-	17	366	2	14	-	-	-	-	-	-
SK12	101	90	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK16	85	23	7	-	-	4	12	2	12	-	6	24	3	30	-	-	-	-	-	-	
SK17	77	66	16	SD11-	-	8	51	3	10	瓦1	5	10	68	-	-	-	-	-	-	-	
SK18	128	66	25	SK10-	-	2	22	1	21	-	-	3	42	2	41	-	-	-	-	1	8
SK19	123	100	18	SK22+	-	242	23	261	5	25	黒1	4	29	22	1	17	5	-	-	-	-
SK20	98	89	19	SD20-	-	2	25	1	5	-	-	6	40	2	42	-	-	-	-	-	-
SK21	94	84	17	SD14-	340	1	85	-	-	-	1	85	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK22	94	76	38	SK19-	344-345	-	-	1	63	-	-	1	63	1	104	1	100	-	-	2	10

①SK01, 06, 13, 14, 15は文書

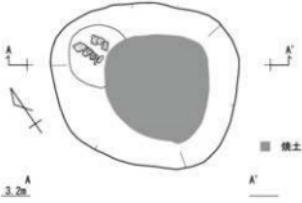
SK11



1. 10YR5/1 暗灰色細砂
2. 2. 5Y5/2 墓灰黃色細砂 上位鐵分沈着
3. 10Y5/1 灰色シルト
4. 5B64/1 紫青灰色粘土



SK17



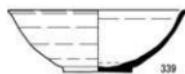
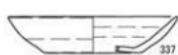
1. 10YR5/1 暗灰色細砂
2. 底單純層
3. 2. 5Y5/2 黃灰色細砂



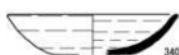
0 50cm

図41 SK11・SK17平面図・断面図 (S=1/20) 、出土遺物実測図 (S=1/4) 、馬齒写真

SK07



SK03



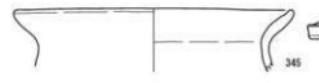
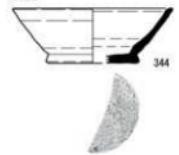
SK19



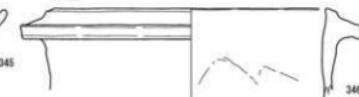
SK21



SK22



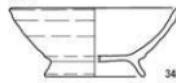
SP32



SP58



SP74



SP77



SP85



SP92



SP103



SP125



SP129



SP130



図42 4-2区土坑・柱穴出土遺物実測図 (S=1/4)

柱穴

検出した柱穴は164基あり、そのうち建物等に伴うものが34基である。建物に伴わないものが130基ある。各柱穴の概要は表11・12のとおりである。これらからは量は少ないものの遺物が出土している。出土遺物は大半が細片であるが、図化に耐えるもののみ図示した。

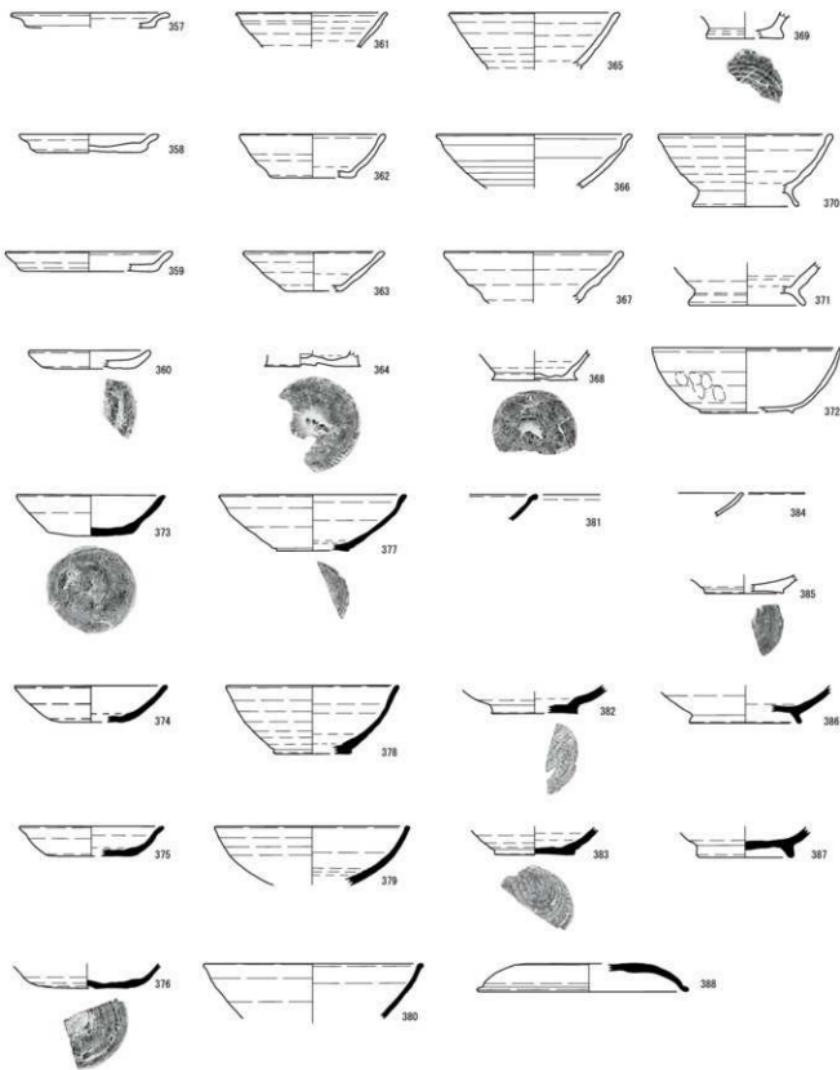
SP32からは土師器羽釜346、SP58からは底部糸切りで輪高台を貼り付けた土師器椀347、SP74からは輪高台貼付けの土師器椀356、SP77からは底部ヘラ切りの須恵器杯349、SP85からは外面ハケ調整の小型の土師器甕350、SP92からは底部ヘラ切りの須恵器杯351、SP103からは貼付け輪高台の土師器椀352、SP125からは底部ヘラ切りの土師器皿353と底部糸切りの須恵器椀354、SP129からは内面黒色の黒色土器A類椀355、SP130からは須恵器椀356が出土している。遺物は時期幅を有すが、主体となるのはⅡ期～Ⅲ期と考えられる。

遺構に伴わ ない遺物

4-2区からは遺構から遊離した状態で2,457点の遺物が出土した。内訳は食膳具73.6%、調理具15.6%、貯蔵具4.4%である。その大半が包含層からの出土である。細片が多く図化に耐えうるものは少ない。図化可能な遺物を図43・44に示した。

357～360は土師器皿である。360は底部ヘラ切りで、その他は底部に指圧痕を残し、口縁部の屈曲するタイプである。361～363は土師器杯である。底部調整の判明する個体はないが、指圧痕の残るタイプであろう。364～371は土師器椀で、364と368は底部ヘラ切りである。372は内面黒色の黒色土器A類椀で、口縁端部内側に沈線を有す。373～376は須恵器杯、375は底部糸切りで他はヘラ切りである。377～383は須恵器椀である。378は静止糸切りである。384・385は縁釉陶器で、ともに硬陶である。385は削出しの平高台である。386・387はヘラ切り後輪高台を貼り付ける須恵器椀である。388は須恵器蓋である。中央部を欠損するが、摘みの付かないタイプであろう。389は土師質の壺である。頸部に断面三角形の突帯を貼り付ける。生焼けの須恵器の可能性もある。390・391は須恵器壺、392は須恵器甕である。4-1区SP33出土の178と同タイプであろう。393・394は土師器甕である。395～398は土師器羽釜である。399は器種不明の土師器である。焼成前穿孔が2箇所に認められる。400～402は土鍤である。包含層からは9点の土鍤が出土している。

遺物はⅠ期～Ⅲ期までと幅を持っているが、土坑・柱穴出土遺物の時期と大きな矛盾はない。土鍤が4-1区と4-2区を合わせて59点出土している。細長い管状を呈すものが多い。また、4-1区包含層とSD22から輪羽口の小片が出土していることから、小規模な鍛冶を遺跡内でおこなっていたと考えられる。これらの遺物は村東遺跡の生業の一端を示している。



0 10cm

图43 4-2区包含层出土遗物实测图 (1) (S=1/4)

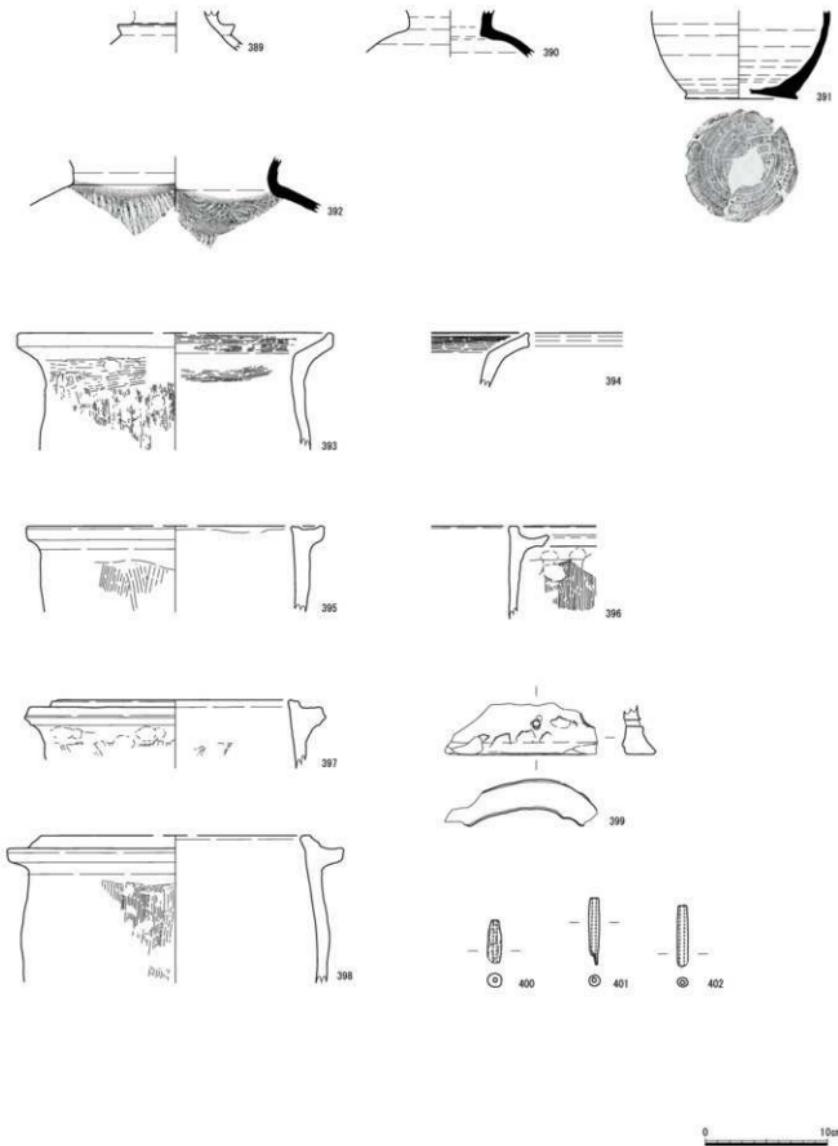


图44 4-2区包含层出土遗物实测图 (2) (S=1/4)

表11 4-2区柱穴一覧 (1)

逐項名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	周囲底面		土耕野菜類		供給野菜類		その他野菜類		全種類合計		周囲高合計		その他の過物		不明			
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
SP61	40	37	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP62	52	48	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP63	35	33	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP64	39	26	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP65	32	30	22	SP66-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP66	32	31	17	SP65+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP67	48	42	16	SP62+	-	1	9	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-			
SP68	27	23	19	SP62+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP69	28	26	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP70	(29)	27	8	SP163-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP71	30	24	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP72	27	26	14	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP73	44	41	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	280	-	-			
SP74	42	42	16	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP75	32	30	16	SP121+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP76	35	34	16	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP77	36	31	16	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP78	31	31	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP79	22	32	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP80	39	30	16	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP81	29	27	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP82	45	43	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP83	39	39	21	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
SP84	32	29	22	SP61, SP62+	-	-	-	-	1	8	-	-	1	8	1	10	-	-	-			
SP85	65	65	15	-	-	-	-	-	1	10	-	-	-	1	10	1	25	-	-			
SP86	29	30	19	SP61	-	-	-	-	2	10	-	-	-	2	10	-	1	45	-	1	7	
SP87	(24)	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP88	25	25	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP89	21	19	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP90	28	23	8	SP61	-	-	-	-	1	5	1	10	-	-	2	15	1	7	-	-	-	
SP91	26	19	10	SP61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP92	29	30	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP93	43	40	17	SP61	-	-	-	-	345	3	25	-	-	-	3	25	1	195	-	-	-	
SP94	30	27	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP95	22	21	14	SP61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP96	33	26	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP97	27	24	8	SP28+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP98	31	(46)	19	SP77-	-	-	1	9	-	-	-	-	1	9	1	7	18	-	-	-	-	
SP99	30	19	15	SP61+	-	-	1	15	-	-	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-	-	
SP100	27	25	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP101	46	43	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP102	26	25	11	-	-	-	-	-	3	8	-	-	-	1	8	-	-	-	-	1	17	
SP103	54	50	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP104	49	52	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP105	39	31	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP106	40	36	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP107	26	(24)	14	SP118-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP108	36	35	8	SP61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP109	51	48	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP110	21	19	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	
SP111	45	40	16	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP112	35	29	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP113	30	27	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP114	27	37	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP115	29	34	15	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP116	39	36	9	SP62, SK03+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP117	40	35	10	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP118	27	27	10	-	-	-	-	-	347	1	105	2	5	-	-	3	110	1	5	-	-	-
SP119	35	32	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP120	34	30	12	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP121	47	45	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP122	28	26	13	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP123	23	27	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP124	39	35	18	-	-	-	-	-	1	18	-	-	1	18	-	-	-	-	-	-	-	
SP125	36	31	6	SP62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP126	42	36	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP127	45	37	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP128	43	39	10	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	
SP129	33	31	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP130	29	29	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP131	28	22	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP132	43	34	8	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	2	8	-	-	-	-	1	281	
SP133	29	29	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP134	54	54	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP135	44	40	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP136	52	46	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP137	32	31	11	-	-	-	-	-	349	-	1	37	-	-	1	37	-	-	-	-	-	
SP138	47	40	23	SP61	-	-	-	-	-	3	13	2	14	-	-	5	27	2	62	-	-	-
SP139	45	39	20	SP111+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	27	-	-	-	-	-
SP140	32	29	19	SP111+	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	1	1840
SP141	72	60	22	SP61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP142	62	45	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP143	32	31	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP144	25	24	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP145	24	16	10	-	-	-	-	-	360	9	35	8	90	-	-	13	115	3	100	-	-	-
SP146	50	48	22	-	-	-	-	-	-	1	3	2	15	-	-	3	20	-	-	-	-	-
SP147	35	32	21	-	-	-	-	-	-	1	4	2	9	-	-	3	13	-	-	-	-	-
SP148	45	34	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP149	42	42	19	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	
SP150	47	41	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	27	4	41	-	-	-
SP151	65	64	23	-	-	-	-	-	-	9	30	-	-	-	9	30	1	5	-	-	-	
SP152	32																					

表12 4-2区柱穴一覧 (2)

調査名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	周囲地物		土耕野菜類		供給野菜類		その他野菜類		全植株合計		採集品合計		貯蔵品合計		その他の遺物		不明	
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	上耕1	上耕2	点数	重量(g)
SP199	37	37	27	SD01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP100	37	35	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP101	45	40	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP102	38	38	39	SD00+ SD01+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP103	37	37	26	SD00+	-	-	352	3	82	-	-	-	3	82	-	-	-	-	-	-	-	-
SP104	38	33	29	SD00+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP105	43	36	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP106	47	45	21	SD01	-	-	-	-	-	-	-	-	五1	4	1	4	-	-	-	-	-	-
SP107	41	35	17	SD02+	-	-	2	21	2	17	-	-	4	39	-	-	-	-	-	-	-	-
SP108	46	40	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP109	34	33	15	SD00+	-	-	1	2	1	8	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-
SP110	48	45	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP111	64	57	17	SD01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP112	29	36	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	55	-	-	-	-	-	-
SP113	49	39	17	-	-	-	1	40	-	-	-	-	-	1	40	-	-	-	-	-	-	-
SP114	44	40	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	-	-	-	-
SP115	44	43	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP116	26	21	7	-	-	-	1	11	-	-	-	-	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-
SP117	26	22	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP118	42	37	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP119	44	40	21	SD02+	-	-	1	4	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
SP120	36	33	11	SD01, SD19+	-	-	301	3	29	1	9	五1	5	43	-	-	-	-	-	-	-	-
SP121	29	26	11	SD01	-	-	1	4	-	-	-	-	1	4	1	5	-	-	-	-	-	-
SP122	32	32	11	SD15+	-	-	2	20	-	-	-	-	2	20	-	-	-	-	-	-	-	-
SP123	26	23	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	土耕1	3	-
SP124	25	18	15	-	-	-	1	8	-	-	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	1	9
SP125	45	44	19	SD00+	-	-	353-354	1	113	1	23	-	-	2	126	-	-	-	-	-	-	-
SP126	29	28	11	SD11+	-	-	1	5	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
SP127	32	30	11	SD11-	-	-	1	4	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-
SP128	49	45	29	-	-	-	1	8	1	4	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	-
SP129	36	31	13	-	-	-	355	1	8	-	-	五1	15	2	23	1	15	-	-	-	-	-
SP130	29	21	13	-	-	-	356	-	-	1	10	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-
SP131	33	29	15	SD18+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	15	-	-	-	-	-	-
SP132	41	38	11	SD09+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP133	30	29	11	SD09+	-	-	-	-	1	5	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
SP134	43	42	19	SD18-	-	-	-	-	1	3	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
SP135	24	23	10	SD11-	-	-	1	5	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-
SP136	40	22	7	SD11-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP137	58	50	32	SD01	-	-	4	30	2	5	-	-	6	35	-	-	-	-	-	-	-	-
SP138	37	35	20	-	-	-	1	24	-	-	-	-	1	24	-	-	-	-	-	-	-	-
SP139	30	29	21	SD02, SP140-	-	-	302	1	57	-	-	-	-	1	57	-	-	-	-	-	-	-
SP140	28	26	10	SP139+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP141	33	28	10	SD01, SD02+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP142	49	46	24	-	-	-	8	11	-	-	-	-	8	11	-	-	-	-	-	-	-	-
SP143	45	41	30	SD01, SD02+	-	-	4	45	2	15	-	-	8	80	-	-	-	-	-	-	-	-
SP144	45	43	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP145	35	29	11	SD01, SD19+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP146	44	43	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP147	59	51	29	SD00+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP148	46	46	10	SD00+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP149	78	64	30	SD14+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP150	25	24	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP151	21	19	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP152	42	39	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP153	27	26	13	SD11-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP154	26	24	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP155	52	36	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP156	28	26	4	SD12-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP157	33	31	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP158	23	19	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP159	27	27	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP160	38	25	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP161	25	24	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP162	45	19	12	SD18+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP163	50	47	4	SD10-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP164	33	29	10	SD14+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第7節 5区の調査(図45~50、表13)

位置 4-2区の南側、6区・7区の北側に位置する調査区である。幅員は6mを測り、延長は36mである。

層序 基本層序は耕土、床土を経てにぶい黄色～黄灰色細砂に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は3.2mである。

検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物跡1棟、溝2条、土坑9基、柱穴21基である。遺構の検出状況は調査区北部では希薄であるが、南に向かって数が増加する。

SB01 調査区東部で検出した。調査区外に延びるため全容は不明であるが、2間×4間以上の建物跡と考えられる。SP15-SP18を基準とした棟方向はN18°Eである。平面規模は南北方向4間で5.7m、東西方向1間で2.3m以上を測る。柱穴間の寸法はSP15-SP18間で概ね1.9mの等間である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径30～40cmを測る。深さは遺構検出面から14～18cmを測る。埋土は灰色系の細砂が中心である。柱穴内からは時期の特定できる遺物の出土はなかった。

SD01 調査区を北東から南西に斜行する溝である。延長は19.4m、幅は最大で76cmを測る。断面形は逆台形を呈し、深さは最も深い部分で遺構検出面から10cmを測る。溝底は北側から南側にわずかに傾斜している。溝の軸はN21°Eである。埋土は灰色～黄灰色である。

遺物の出土は少なく、底部ヘラ切りの須恵器杯440のみ図示した。

SD02 調査区の南部において北西から南東方向にかけて検出した。延長は約11.9m、上幅は最大で2.67m、深さは遺構検出面から約20cmを測る。西部では2条に分流し、調査区のはば中央で1条となる。西部の2条は検出状況では切合い関係が認められなかったため、南側を本流、北側を支流(SD02-1)とした。遺構の検出位置から、4-2区もしくは7区で同遺構の延長部が検出されることは十分考えられたが、両調査区においてその可能性のある遺構は確認できなかった。遺物は埋土の下層に多く、特に砂礫層との境付近でまとまって出土した。そのうち比較的良好な出土状態を確認することができた溝内南東部の遺物出土状態を図47に示した。

SD02とSD02-1からの出土遺物は709点、その内訳は食膳具が62.7%、調理具が26.1%、貯蔵具が8.6%である。図化に耐えうるもののみ図48に示した。

403は手づくね成形の土師器皿、404・405は瓦器皿、406は底部ヘラ切りの土師器杯、407・408は底部糸切りの土師器托皿、409・410は瓦器碗で、409は和泉型瓦器碗

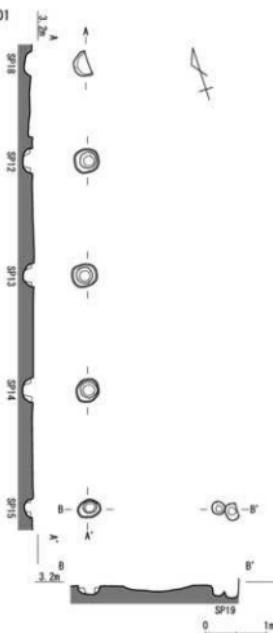


図45 SB01平面図・断面図 (S=1/80)

1. 細土
 2. 床土
 3. 2.SYS/2 柴灰色細砂
 4. 2.SYS/1 黄灰色細砂 粘合
 5. 2.SYS/3 ~ 5/3 に近い黄色~黄褐色細砂 (地山)
 6. 2.SYS/1 黄色砂礫
 7. 2.SYS/1 黄灰色細砂 (SD02 墓土)
 8. 2.SYS/1 灰色中砂 2.SYS/3 黄褐色砂混じり (SD02 墓土)
 9. 10YR5/1 褐灰色細砂 L.まり器
 10. 2.SY4/1 黄灰色細砂 粘性強
 11. 2.SYS/2 灰褐色細砂
 12. 10YR4/1 褐灰色細砂 (SK01 墓土)
 13. 2.SY7/3 浅黄色細砂 粘性強
 14. 7.SY6/1 灰色砂礫
 15. 2.SYS/1 黄灰色細砂 (SK01 墓土)
- ※5・6 層は地山

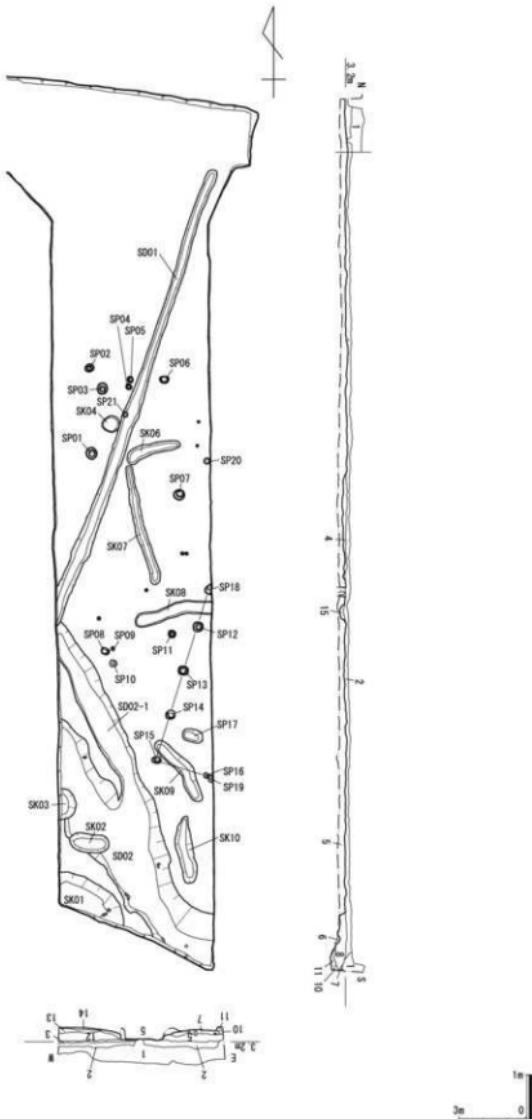
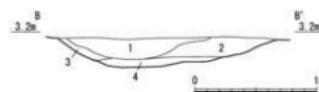
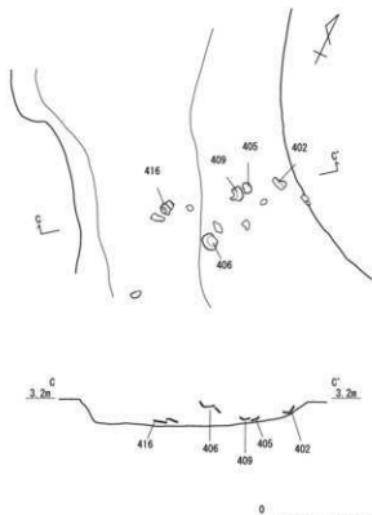
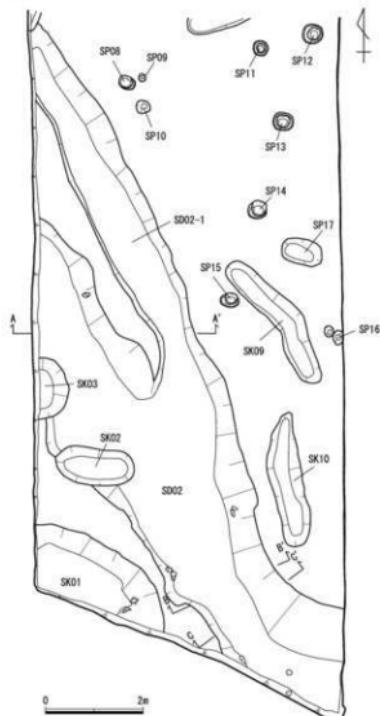


図46 5区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)

SD02



1. 2.5Y5/1 黄灰色細砂 (SD02-1 埋土)

2. 2.5Y5/1 黄灰色細砂

3. 2.5Y3/1 黑褐色細砂 (SD02-2 埋土)

4. 5Y6/1 灰色細砂 貼性強

1. 10YR5/1 暗灰色細砂

2. 2.5Y6/1 灰色細砂 赤色粒含

3. 2.5Y6/1 黄灰色細砂

4. 10Y5/1 灰色深混じり粗砂 ややグライ化

図47 SD02平面図・断面図 (S=1/100・1/40)、遺物出土状況図 (1/40)

SD02

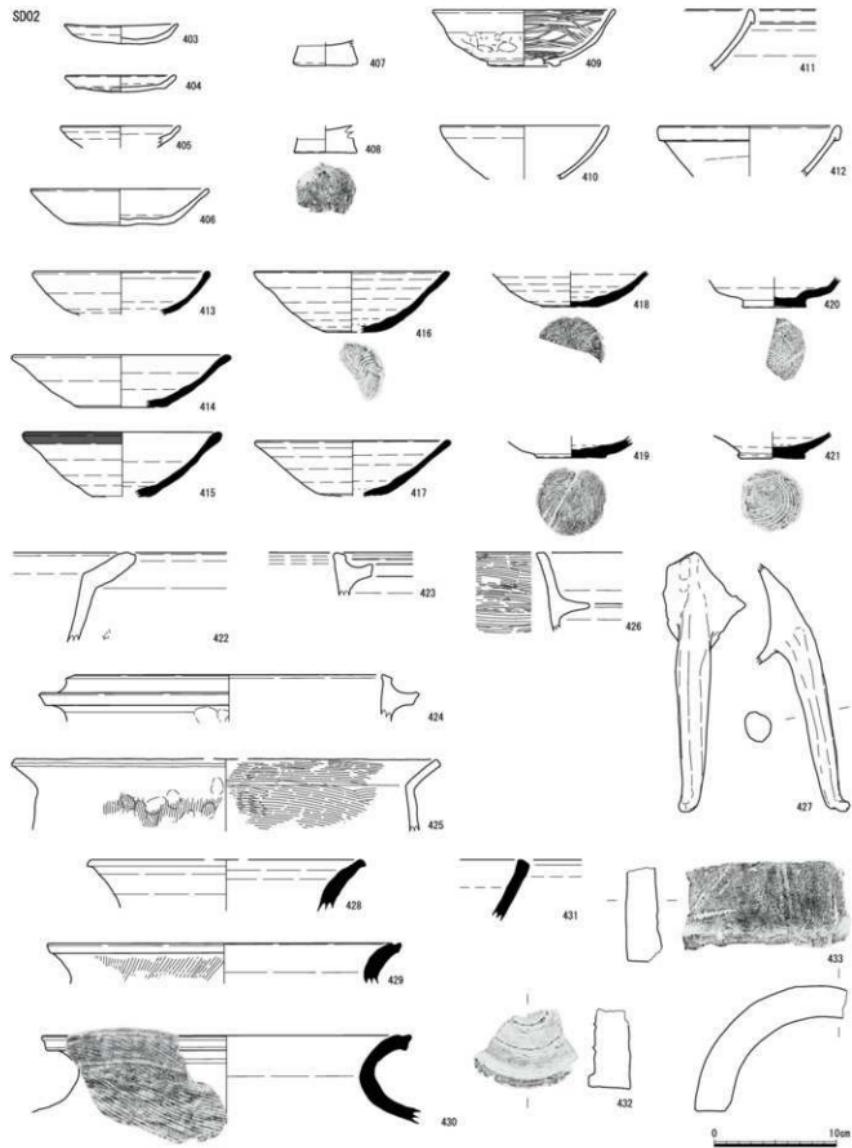


図48 SD02出土遺物実測図 (S=1/4)

である。411・412は白磁碗、413は須恵器杯、414～421は須恵器榤である。415の色調は白色を呈す。422・425は土師器甕、423・424・426は土師器羽釜、426は鉄製鍋を組形にもつ羽釜である。427は瓦質土器三足壺の脚部である。428～430は須恵器甕、431は須恵器鉢で口縁部を拡張しないものである。432は本町式軒丸瓦でSD02の南東端から出土した。摩滅しておらず、瓦当裏面には削りを施している。復元径は13.5cmを測り、本町式のS寸にあたる。433は丸瓦で、玉縁部分を欠損する。出土遺物の時期にはやや幅があるが、概ねⅣ期古段階を主体とする。

土坑 9基検出した。そのうち7基から遺物が出土しているが、細片が多く図化に耐えるものののみ示した。

SK10 SD02の東側で検出した。南北に長い不整な形状を呈し、平面規模は長辺2.74m、短辺69cmを測る。深さは遺構検出面から16cmである。

遺物量は多くないが、西肩から瓦器榤434と須恵器榤435が出土した。須恵器榤436は口縁部に重ね焼きの痕が明瞭に残る。437は須恵器鉢の底部、438は土師器甕、439は土師器三足壺の脚部である。

土坑出土遺物 SK03からは土師器羽釜441、SK06から須恵器榤口縁部442、SK09から須恵器榤口縁部443・444が出土した。

柱穴 21基検出した。図示に耐える遺物を出土した柱穴はない。

遺構に伴わない遺物 包含層から313点の遺物が出土した。その内訳は食膳具62.3%、調理具24.6%、貯蔵具8.6%である。445は底部ヘラ切りの土師器托皿、446は瓦器皿、447は瓦器榤である。

448・449は須恵器鉢で、いずれも口縁端部を上方へ拡張する。450・451は須恵器榤である。452は土師器甕で内外面ともヨコハケを施す。遺物はⅢ期～Ⅳ期古段階と幅を持つが、主体となるのはⅣ期古段階である。

表13 5区遺構一覧

遺構名	長辺(m)	短辺(m)	深さ(cm)	特記事項	埋蔵深度	土師器食膳具	須恵器食膳具	その他食膳具	食膳具合計	調理具食膳具	調理具合計	貯蔵具食膳具	貯蔵具合計	その他の遺物	不明
SD01	(1940)	76	10	SP21+	440	8	29	6	54	-	15	52	5	1	14
SD02	(1186)	267	27	-	-	129	1,003	212	2,195	萬1/百3/万40/3/96/220	285	2,589	180	5,692	56
SD02-1	(978)	126	10	-	-	11	66	45	456	萬4	15	40	537	3	47
SK01	(310)	(134)	25	-	-	23	100	18	85	萬3	5	40	190	10	180
SK02	180	75	15	-	-	1	13	-	-	-	1	13	5	58	-
SK03	125	(60)	20	-	441	-	-	-	-	-	1	3	21	-	-
SK04	71	48	7	-	-	3	7	-	-	-	3	7	-	-	-
SK06	237	54	5	-	443	-	-	1	9	-	1	9	-	-	-
SK07	500	42	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK08	315	57	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SK09	361	59	10	-	443-444	1	3	4	25	-	5	26	1	37	1
SK10	274	69	16	-	434-435	12	50	10	267	白1/萬1	20/155	24	492	12	499
SP01	50	45	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP02	27	38	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP03	47	41	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP04	23	23	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP05	27	23	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP06	37	29	20	-	-	3	12	2	6	-	5	18	-	-	1
SP07	45	43	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP08	33	28	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP09	17	14	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP10	28	27	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP11	31	31	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP12	41	40	14	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP13	41	35	18	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP14	38	38	17	SP01	-	-	1	4	-	-	1	4	-	-	-
SP15	38	29	13	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP16	27	18	15	SP11+	-	1	7	1	30	-	2	37	-	-	-
SP17	43	53	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP18	42	(22)	11	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP19	29	19	20	SP01, SP16-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP20	25	24	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP21	21	26	11	SP01-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※SP05欠番

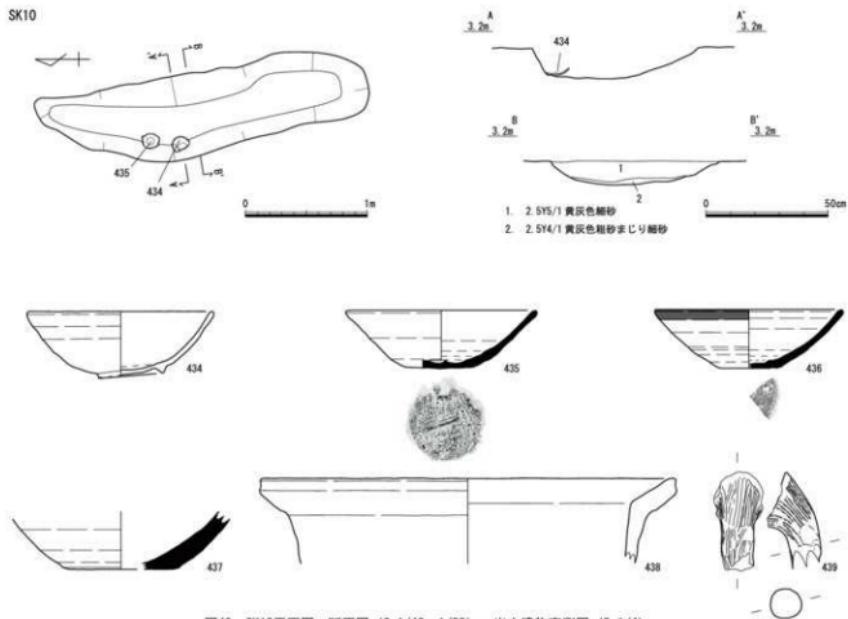


図49 SK10平面図・断面図 (S=1/40・1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

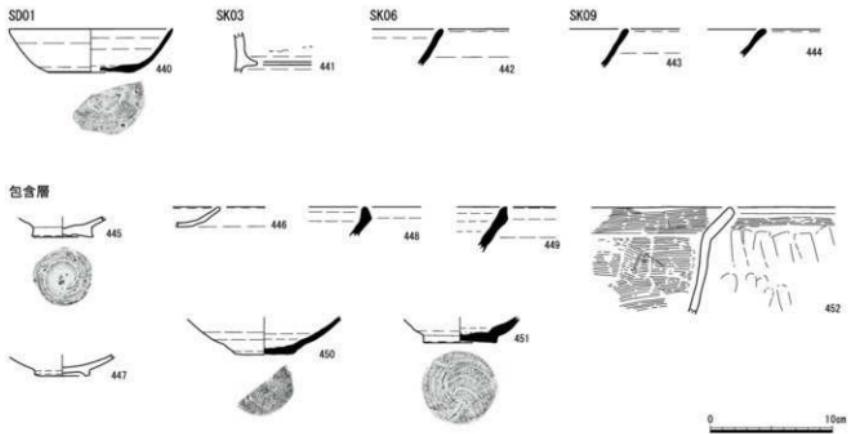


図50 5区遺構・包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

第8節 6-1区の調査(図51~57、表14~17)

- 位置** 6区は東西に長い調査区で、4区の南側、7区の西側に位置する。調査区の幅員は6.5m、延長は96.5mである。調査は4次にまたがるが、里道を境に東側を6-1区、西側を6-2区と呼称する。6-1区は幅員6.5m、延長は44.5mである。
- 層序** 基本層序は耕土、床土、遺物包含層である褐灰色細砂を経て、灰色細砂または黄灰色砂礫に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。断面観察から包含層中にも遺構の立ち上がりが認められたが、平面的には認識できないことから遺構検出面まで掘り下げて調査を行った。遺構検出面の標高は調査区の両端で3.2m、中央付近で3.4mである。
- 検出遺構** 検出した遺構は掘立柱建物跡4棟、土坑墓1基、溝4条、土坑6基、柱穴152基である。遺構は調査区全域で検出されたが、西側に行くにつれて遺構密度は希薄になる。東側では柱穴数が増加していくが、東端は地形が高まっているため、遺構は確認できなかった。
- SB01** 調査区の東部で検出した。検出状況はSB02とSB03と重なるが、柱穴の直接の切合は確認できない。北西部の柱穴が一部調査区外に位置するものの概ね全容を検出したと考えているが、北側へさらに広がっている可能性は否定できない。検出状況では2間×7間の総柱建物跡と考えられる。SP130-SP113を基準とした棟方向はN18°Eである。平面規模は梁行方向2間で4.3m、桁行方向7間で14.6mを測る。平面積は62.78m²である。柱穴間の寸法は桁行方向ではSP51-SP113間で西側から1.8m、1.7m、2.5m、2.1m、2.45m、2.15m、1.8mを測る。梁行方向はSP130-SP113間で南側から2.1m、1.8mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径35~60cm、深さは遺構検出面から10~30cmを測り、20cm前後のものが多い。埋土は暗褐色細砂を中心である。
- 遺物はSP64から土師器皿453・454、SP88からは手づくね成形の土師器皿455と底部糸切りの須恵器碗456、SP100からは土師器皿457と底部ヘラ切りの土師器杯458、須恵器碗459が出土した。SP139からは底部ヘラ切りの土師器杯460と須恵器碗461・462が出土した。これらの遺物から建物の時期は概ねⅣ期古段階に位置づけられる。
- SB02** 調査区の東側で検出した。検出状況はSB01と重なるが、直接的な切合がないため新旧は不明である。調査区外に広がるため建物の全容は不明である。一部検出できていない柱穴があるが、検出状況から2間×2間以上の総柱建物跡と考えられる。SP91-SP97を基準とした棟方向はN11°Eである。平面規模は梁行方向2間で4.4m、桁行方向2間で4.9m以上を測る。柱穴間の寸法はSP91-SP97の桁行きで北側から2.3m、2.2mを測る。SP97-SP128の梁行きで西側から2.5m、2.4mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径35~60cmを測る。深さは遺構検出面から8~42cmを測る。埋土は暗褐色細砂を中心である。
- 遺物はSP91から底部ヘラ切りの土師器皿467が出土した。出土遺物からは時期を特定することは困難であるが、SB01と時期差はあるものの大きな時間差は考えにくく、Ⅳ期古段階でおさまるものと想定される。
- SB03** 調査区のほぼ中央で検出した。平面プランはSB01と切り合うが柱穴に直接的な切

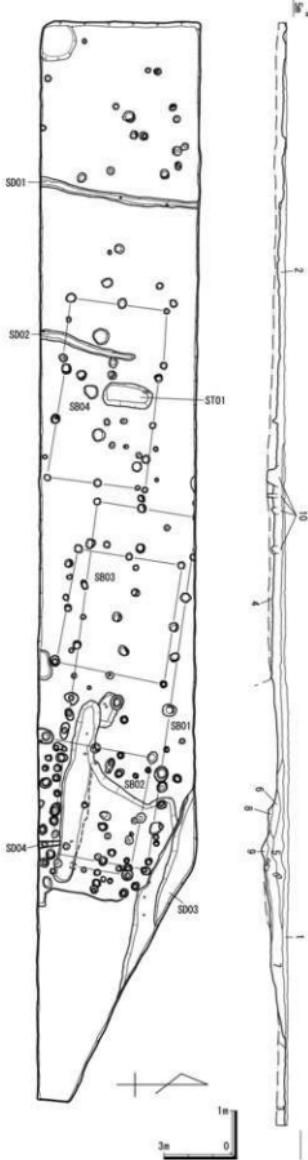


図51 6-1区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)

1. 填土
 2. 10YR4/1 黄褐色 + 10YR5/6 黄褐色細砂 (包含層)
 3. 10YR4/1 ~ 5Y5/1 黄褐色細砂
 10YR5/6 黄褐色細砂混じり
 4. 2.5Y4/1 ~ 3/1 黄灰褐色細砂
 5. 5Y5/2 灰オリーブ色細砂
 6. 5Y5/2 灰オリーブ色粗砂
 7. 5Y8S/6 明褐色細砂混じり
 7. 5Y5/1 ~ 5/2 灰色~
 灰オリーブ色細砂混じり粗砂
 8. 5Y5/2 灰オリーブ色砂
 9. 5Y6/1 灰色シルト
 10. 2. 5Y3/1 黑褐色細砂 (透構性土)
 10. 3. 4 黑色地山
- (SD03 填土)

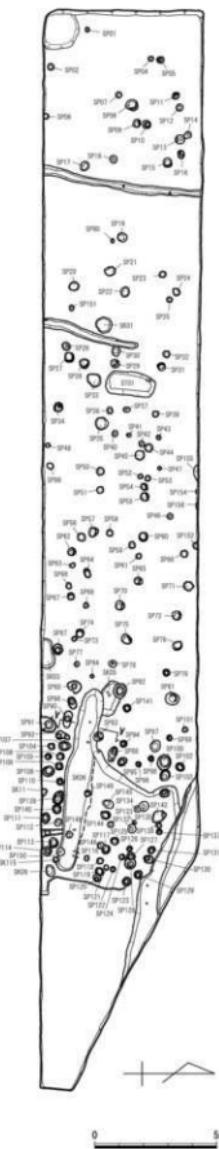


図52 6-1区柱穴・土坑位置図 (S=1/200)

SB01

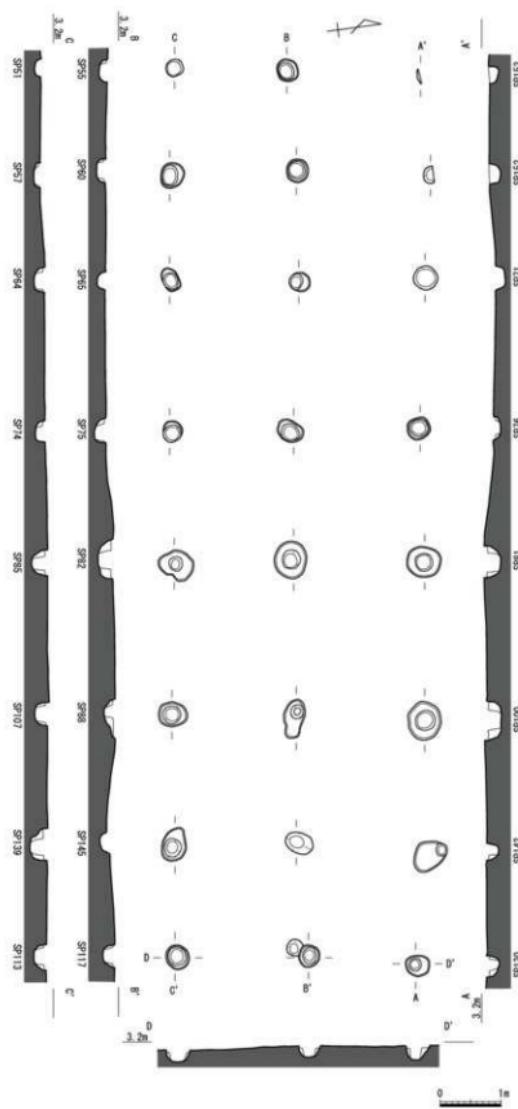
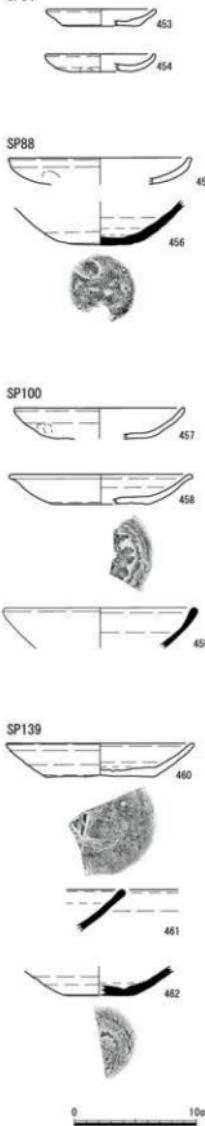


图53 SB01平面图·断面图 (S=1/80)、出土遗物实测图 (S=1/4)

SP64



合い関係がないため新旧は不明である。建物の全容を検出したと考えているが、さらに調査区外に広がっている可能性も完全には否定できない。建物の北端はSB02の北端と揃う。建物の棟方向も概ね共通することからSB02と03は同時併存の可能性が高い。3間×3間の総柱建物跡である。SP56-SP66を基準とした棟方向はN8°Eである。平面規模は梁行方向3間で4.5m、桁行方向3間で4.9mを測る。平面積は約22m²である。柱穴間の寸法は梁行方向SP56-66間で北側から2.2m、2.1mを測る。桁行方向はSP66-SP79間で西側から2.5m、2.4mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径32~44cm、深さは遺構検出面から10~34cmを測る。埋土は暗褐色細砂が主体となる。柱穴からは図示に耐える遺物の出土はなかった。

SB04

調査区の西側は中央で検出した。検出した位置から調査区外に広がる可能性は十分考えられる。検出規模で2間×3間の建物跡と考えられる。SP20-SP25を基準とした棟方向はN8°Eである。平面規模は梁行方向2間で4.1m、桁行方向3間で7.4mを測る。平面積は約30m²である。柱穴間の寸法は梁行方向SP20-SP22間で南側から2.1m、1.9mを測る。桁行方向SP22-SP53間で西側から2.2m、2.5m、2.6mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、掘方の大きさは直径25~40cmを測る。SP22-SP53の柱通については、直径約25cmと他の柱穴に比較して小さい。深さは遺構検出面から8~14cmを測る。埋土は暗褐色系の細砂が中心となる。SP26-SP32とSP27-SP31は近接して存在するが、切合い関係はない。これらの柱列を境に別棟と認識できる可能性もあるが、ここでは一連別棟の可能性を含んで一棟と理解している。なお、ST01はSB04の柱穴間に納まる位置で検出されているが、切合い関係がないため両者の関係は不明である。

遺物はSP31から須恵器椀463、SP50から須恵器椀464、SP53から底部ヘラ切り土師器皿465、須恵器皿466が出土した。時期はSB01と同様IV期古段階に位置づけられる。

溝

4条検出した。SD01-SD02-SD04は幅30~41cmを測り、主軸は概ね建物跡と平行する。深さは5~10cmで比較的浅く、建物跡との関連もうかがえず、性格等は不明である。図化に耐える遺物の出土はない。

SD03

調査区の東側、調査区と水路が交差する付近で検出した。包含層を切る遺構で、調査区外に広がるため全容は不明である。検出状況で延長9m以上、幅1.4m以上、深さは遺構検出面から最大で40cmを測る。検出した位置から北側を流れる基幹水路の前身であると考えられる。

遺物量は多くないが、図56に実測図を示した。溝底から砂岩製の空風輪483が出土した。こうした五輪塔の出土は、SD03と一連と見られる12-2区SD01でも認められる。他に土師器皿481、土錘482が出土した。

表14 6-1区溝一覧

遺構名	系図(区)	幅(米)	深さ(米)	特記事項	周辺遺物	土師器食器類		漆器類食器類		その他食器類		食器具合計		漆器具合計		其他の遺物		不明		
						品目	量(個)	品目	量(個)	品目	量(個)	品目	量(個)	品目	量(個)	品目	量(個)	品目	量(個)	
SD01	(440)	41	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD02	(396)	40	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD03	(840)	(135)	40	-	-	481-482	12	117	21	140	362	12	35	289	3	87	4	105	1	4
SD04	(840)	30	6	2K06-, SP156-	-	1	8	2	12	瓦1	9	4	29	-	-	1	13	-	-	

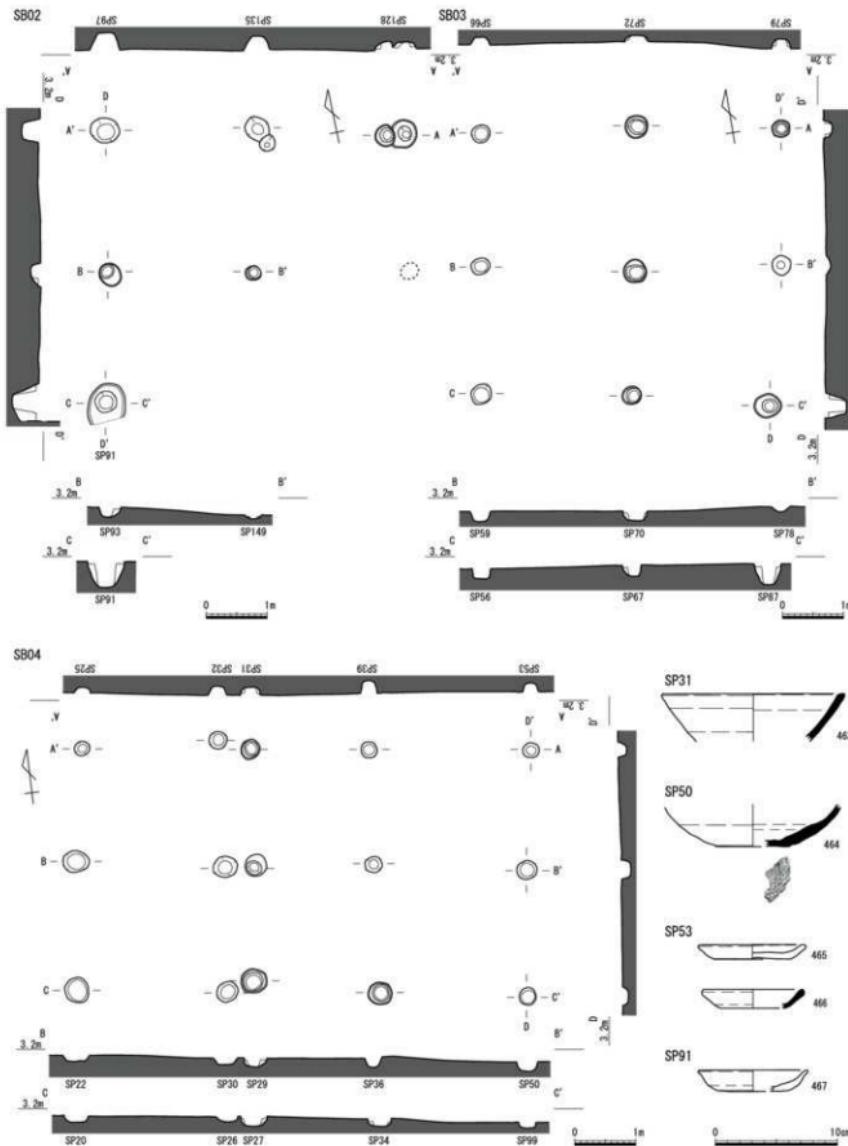


図54 SB02・SB03・SB04平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物実測図 (S=1/4)

ST01 木棺墓である。調査区の西部、SB04の中央北寄りの位置で検出した。地下水位の影響で木棺部材の一部が遺存していた。長さ1.7m、幅40cmを測る。棺の主軸はN8°EでSB01・SB03・SB04と共通している。棺内南側から白磁碗2点、白磁皿1点、土師器皿34点がほぼ原位置を保った状態で出土した。墓坑の掘方は南北2.2m、東西95cmを測る。墓坑底は棺底と同一で、遺構検出面からの深さは32cmを測る。木棺の構造は明らかでないものの釘等の連結金具が出土していないことから木組みによるものと考えられる。調査時に棺西側の掘方内から石材が3点並んで出土した。木棺側に崩れたため撤去したが、木棺の押さえであった可能性がある。

遺物は木棺床板に接して出土した。手づくね成形の土師器皿468～471、白磁碗472・473、白磁皿474である。白磁碗・皿、土師器皿471は棺内の東寄りから出土した。白磁はいずれも完形である。白磁碗473の対面にあたる棺内西寄りで土師器皿468・470が出土した。土師器皿469は底面に近い埋土中からの出土である。遺物の様相からⅣ期古段階に位置づけられる。

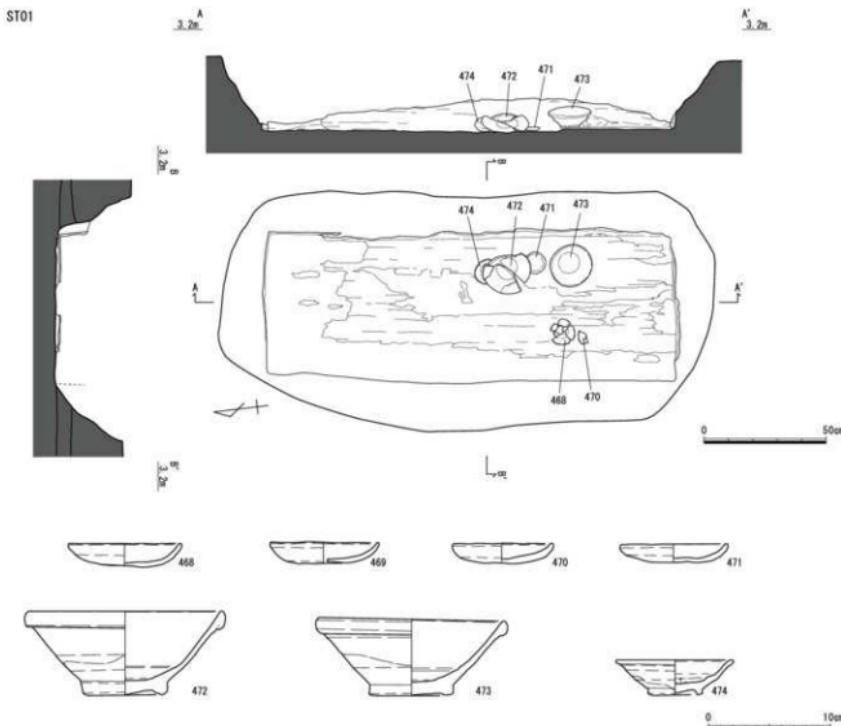


図55 ST01平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

土坑

6基検出した。

SK06

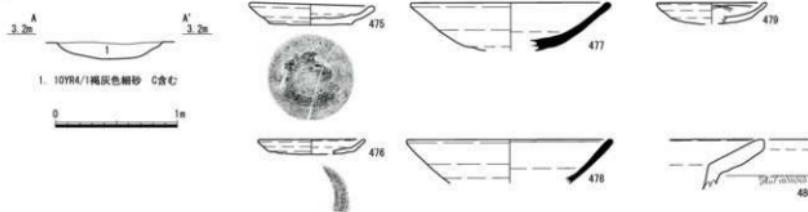
調査区の西部で検出した、東西に長い土坑である。平面プランはSB01、SB02と重なる。SP93がSK06を切ることからSB02に先行する遺構である。土坑の北肩については周辺の落込みと同一レベルであるため、一部不明瞭な箇所がある。平面規模は長さ7.5m、幅約1.0m、深さは遺構検出面から最大で10cmを測る。埋土中には微量であるが炭化物を含んでいる。遺物は底部へラ切りの土器器皿475・476、須恵器椀477・478、瓦器皿479、土器器皿480が出土した。

表15 6-1区墓・土坑一覧

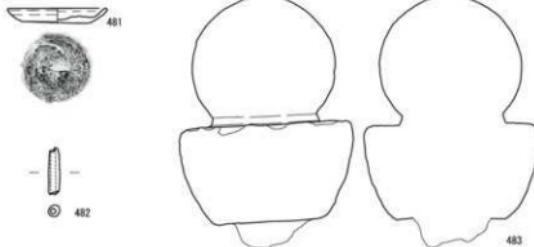
遺物名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁陶片	土器器皿類		須恵器類		その他の陶片		土器器皿合計		須恵器類合計		その他の遺物		不明		
						点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
SP10	62	95	32	木棺蓋約170、幅約40	469-474	14	237	10	82	白4	875	28	1184	7	35	2	82	-	1	3
SK01	65	64	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK02	118	69	10	須恵器外へ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK03	147	62	10	SP92-、SK06-	-	1	4	2	7	-	3	11	1	39	-	-	-	-	-	
SK05	749	111	16	SK05+、SP90、SP150、SP15-475-480	23	216	29	311	瓦3、白3	21.5	58	583	10	283	-	-	-	-	-	
SK09	51	38	32	-	-	3	7	4	20	-	7	37	1	20	-	-	-	-	-	
SK11	32	(19)	11	-	-	1	1	1	10	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	

© SK02、04、07、08、10は欠番

SK06



SD03



SP14



SP18



SP110



SP123



SP125



SP136



SP137



0 10cm

図56 SK06断面図(S=1/40)、6-1区遺構出土遺物実測図(S=1/4)

柱穴

152基検出した。各柱穴の概要は表16・17のとおりである。

柱穴からは細片であるが遺物が出土している。SP14からは底部ヘラ切りの須恵器杯484、SP18からは手づくね成形の土師器皿485、SP110からは土師器皿口縁部486、SP123からは土師器碗487、SP125からは土師器杯488、SP136からは須恵器碗口縁部489、SP137からは底部ヘラ切りの土師器皿490が出土した。

**遺構に伴わ
ない遺物** 包含層からは1,323点の遺物が出土した。食膳具が81.6%を占め、調理具が11.1%、貯蔵具が約4.7%を占める。本調査区では建物跡の占める面積が大きく、このことが組成中に占める食膳具の割合の大きさと密接に関係している可能性を指摘できる。

図57の491～495は手づくね成形の土師器皿、495は口縁部が直線的に立ち上がるタイプの皿である。496～498は須恵器碗、497と498は底部糸切りである。499は須恵器蓋で摘みのつかないタイプであろう。500～502は瓦器皿、503～507は瓦器碗で、503と504は和泉型瓦器碗、507は見込みに平行暗文が認められる。508・509は白磁碗、509の口縁～体部と底部は接合しないものの、同一個体と考えられる。510は龍泉窯系青磁碗である。511は直立する口縁部を持つ須恵器、512は胴部に斜め方向のタタキを有す須恵器甕、513は端部がわずかに上方へ抵抗する須恵器鉢である。514は須恵器鉢の底部、515～517は須恵器壺で、516は頸部に沈線2条、517は肩部に突帯2条が巡る。518は土師質の用途不明品で何らかの内型か台であろうか。519は土師器三足堀の脚部である。520～522は土師器甕である。523は凸面に縱方向の平行タタキを施す平瓦である。これらの遺物の時期はIV期古段階を主体とする。

表16 6-1区柱穴一覧(1)

遺物名	高さ(cm)	幅(底)(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁遺物		土陶新食膳具		漆表面食膳具		その他食膳具		食膳具合計		調理具合計		貯蔵具合計		その他の遺物		不明		
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
SP1	20	17	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP2	27	26	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	7	—	—	—	—	
SP3	22	29	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP4	20	29	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP5	22	(16)	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	84	—	—	—	—	
SP6	25	35	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP8	51	45	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP9	33	32	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP10	34	30	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP11	26	27	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP12	79	79	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP13	38	36	8	SP14+	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP14	(33)	27	12	SP13-	484	1	25	—	—	—	—	—	—	1	25	—	—	—	—	—	—	—	—
SP15	34	34	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	59	—	—	—	—	
SP16	35	35	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP17	39	35	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP18	32	30	22	—	485	3	39	1	4	—	—	4	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP19	28	37	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	11	1	18	—	—	
SP20	42	37	10	SP804	—	1	9	—	—	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP21	42	37	10	SP804	—	1	9	—	—	—	—	—	1	9	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP22	42	36	8	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP23	30	25	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP24	33	28	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP25	24	23	4	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP26	36	36	16	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP27	42	36	16	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP28	39	39	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP29	37	34	16	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP30	42	34	10	SP804, SDG2-	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP31	33	32	12	SP804	463	—	—	1	17	—	—	5	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP32	29	29	10	SP804	—	1	9	—	—	—	—	—	9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP33	61	53	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP34	39	36	14	SP804	—	1	10	—	—	—	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP35	53	51	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP36	28	23	18	SP804	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP37	27	27	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP38	25	24	18	SP804	—	8	29	—	—	—	—	—	8	29	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP40	20	16	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP41	20	16	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP42	25	24	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP43	20	19	11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP44	33	33	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP45	40	39	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP46	29	25	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP47	16	15	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP48	20	16	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP49	29	25	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP50	33	31	14	SP804	464	—	—	1	40	—	—	1	40	—	—	—	—	—	—	—	—	11	
SP51	26	27	7	SP801	—	3	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP52	21	19	8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

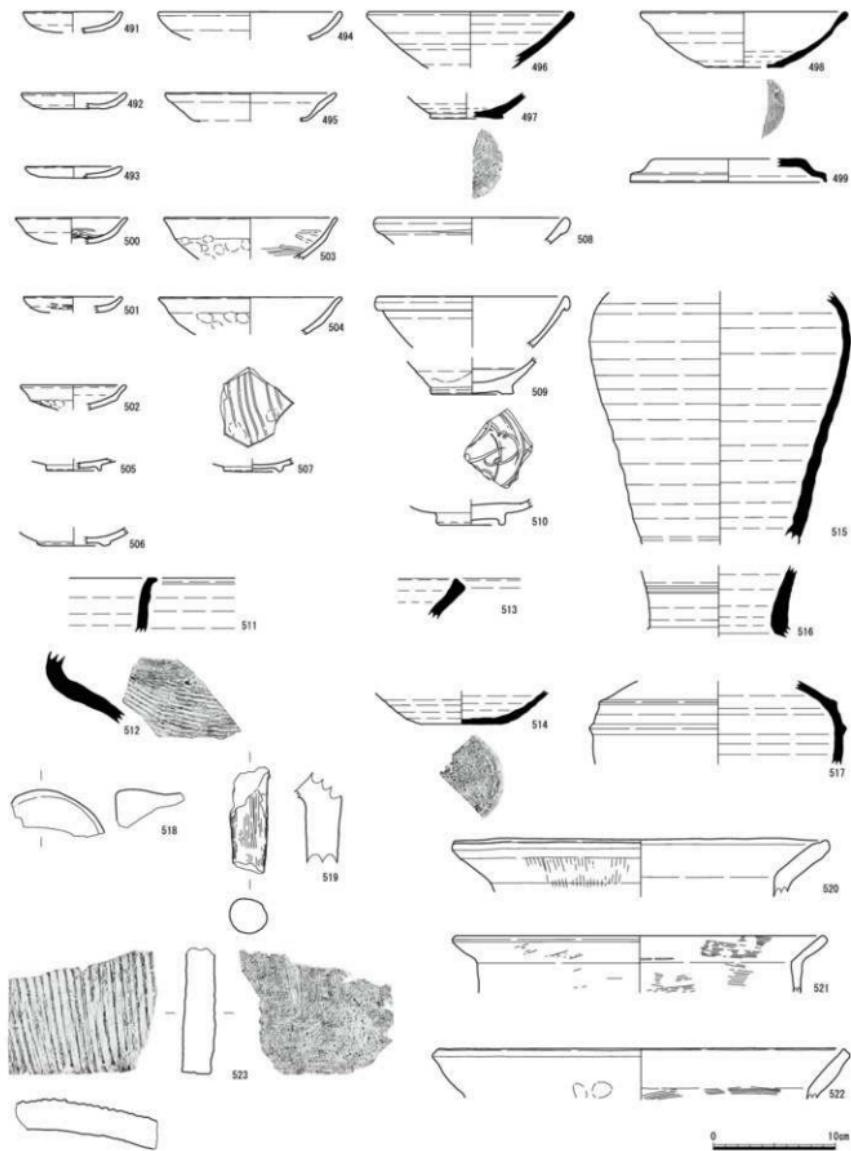


図57 6-1区包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

表17 6-1区柱穴一览 (2)

番号	品名	規格	寸法	記号	量(㌘)	特記事項	通算進出庫量		土産用食料品		清潔衛生用品		小物食料品		衛理機合計		貯蔵高合計		その他の消耗		不明		
							出庫量(㌘)	在庫量(㌘)															
SP53	24	32	14	SP004	465-466	2	31	1	5	-	-	3	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP54	32	29	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP55	37	29	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP56	37	33	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP57	40	39	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP58	29	27	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP59	30	29	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP60	34	34	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP61	38	39	16	SP003	-	-	-	-	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP62	30	37	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP63	22	22	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP64	27	22	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP65	29	27	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP66	27	27	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP67	21	21	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP68	27	26	10	SP002	-	2	18	-	-	-	-	2	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP69	28	28	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP70	32	32	16	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP71	57	66	26	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP72	62	65	22	SP001, SP003+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP84	15	15	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP85	58	53	26	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP86	50	50	22	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP87	44	44	22	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP88	65	33	17	SP001	455-456	2	24	1	85	-	-	3	109	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP89	22	21	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP90	70	34	12	-	-	-	-	1	8	8	31	-	8	37	-	-	-	-	-	-	1	5	
SP91	(62)	44	44	SP002	457	5	24	-	-	-	-	5	24	1	30	-	-	-	-	-	-	-	
SP92	45	45	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP93	29	33	14	SP002, SP006+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP94	28	37	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP95	41	31	19	-	-	-	1	9	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP96	22	21	21	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP97	49	49	27	SP002	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP98	24	23	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP99	28	26	10	SP004	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP100	65	46	26	SP001	455-456	13	119	1	17	-	-	14	132	-	1	28	-	-	3	3	-	-	
SP101	23	22	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP102	37	37	29	-	-	-	5	24	2	7	-	7	27	-	1	34	-	-	7	7	-	-	
SP103	47	40	20	-	-	-	1	1	4	36	-	5	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP104	28	25	15	-	-	-	1	1	1	1	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP105	27	26	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP106	48	41	41	SP001	-	-	3	10	-	-	3	10	-	1	34	-	-	-	-	-	-	-	
SP107	31	31	21	SP001	-	-	-	1	4	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP108	34	33	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP110	29	30	15	-	-	-	488	1	8	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP111	43	43	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP112	29	29	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP113	41	37	18	SP001	-	-	1	13	3	-	2	18	1	118	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP114	38	(37)	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP115	25	25	15	SP006+	-	1	2	1	9	-	-	2	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP116	22	22	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP117	36	36	15	SP001, SP146+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP118	29	24	15	-	-	-	-	1	3	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP119	33	31	21	SP130+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP120	33	31	21	SP119+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP121	23	19	12	-	-	-	2	3	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP122	27	27	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP123	37	34	24	-	-	-	487	4	31	2	5	-	6	38	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP124	24	22	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP125	31	34	25	-	-	-	488	11	48	2	16	-	12	64	-	-	1	32	-	-	-		
SP126	24	21	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP127	20	20	15	SP129+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP128	34	34	20	SP002, SP134+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP129	39	39	21	-	-	-	489	-	-	1	7	-	1	7	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP130	22	22	18	-	-	-	490	2	9	-	-	-	2	9	-	-	-	-	-	-	2	2	
SP131	24	24	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP132	57	58	27	SP001	480-481	8	138	6	109	-	-	11	241	-	1	85	-	-	-	-	-	-	-
SP140	39	37	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	
SP141	33	32	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP142	62	49	19	SP001	-	1	9	-	-	-	-	1	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP143	25	25	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP144	40	33	16	-	-	-	2	11	-	-	-	2	11	9	9	16	-	-	-	-	-	-	
SP145	46	33	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	7	1	15	-	-	
SP146	28	26	15	-	-	-	-	1	7	-	-	-	1	7	1	15	-	-	-	-	-	-	
SP147	25	24	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP148	40	33	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP149	27	27	17	SP017+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP150	26	26	15	SP134+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP151	33	33	15	SP006+	-	2	5	1	7	-	-	2	12	-	1	17	-	-	-	-	-	-	
SP152	28	18	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP153	24	24	16	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP154	25	25	15	SP001	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP155	26	26	15	SP001	-	-	-	-	-														

第9節 6-2区の調査(図58~61、表18)

- 位置 6-1区の西側、12区の東側に位置する調査区である。幅員は6.5m、延長は52mを測る。
- 層序 基本層序は耕土、床土を経て黄灰色細砂もしくは砂礫に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は東側で3.4m、西側で3.5mを測る。
- 検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物跡2棟、溝2条、土坑2基、柱穴15基である。その他、落込みを5箇所で検出した。遺構は調査区中央部分に主に分布し、西端と東端は希薄であった。
- SB01 調査区の南壁沿いで、SP01-SP03の柱穴列を検出した。対になる柱穴を調査区内で確認できていないが、2分間しか伸びないことから調査区外に展開する建物跡と判断した。主軸はSP01-SP03でN77°Wである。検出部分の延長は4.8mを測る。柱間寸法は西側から2.2m、2.6mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径17~32cmを測る。深さは遺構検出面から42~55cmを測る。埋土は暗褐色細砂が主体となる。
- SB02 SB01の東側に隣接して検出した。SP04-SP07の3間分の柱穴を確認した。主軸はSP04-SP07でN77°WでSB01と共通する。検出部分の延長は4.5mを測る。SB01と同じく調査区外に展開する建物跡と判断した。SP07がSD01を切っている。柱間寸法は西側から1.3m、1.5m、1.7mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径27~34cm、深さは遺構検出面から56~62cmである。埋土は暗褐色細砂が主体となる。
- 遺物はSP04とSP05から出土した。SP04の検出段階で瓦器碗524が出土した。SP05からは比較的まとまった遺物の出土があった。埋土上層から手づくね成形の土師器皿526~528、白磁碗532、瓦器碗533が出土し、埋土下層から須恵器碗530・531、土師器甕534が出土した。掘方からは土師器平高台碗529が出土した。底部系切りで法量は縮小している。SP06からは土師器甕の口縁部525が出土した。これらの遺物から、建物はⅣ期古段階に位置づけられ、棟方向の共通するSB01も同様と考えられる。
- 溝 2条検出した。
- SD01 切合い関係からSB02に先行する遺構である。延長7.28mを検出した。上幅は最大1.8m、下幅は最大70cm、深さは遺構検出面から最大で56cmを測る。溝の断面形状は逆台形を呈す。溝の主軸はN35°Wである。11区で検出したSD01と方向、埋土とも共通することから一連の区画遺構と見られる。方向的には4-1区に伸びるが延長部分は検出されていない。出土遺物がないことから詳細な時期は不明であるが、切合い関係からSB02に先行しⅣ期古段階以前の遺構であることは確実であるが、主軸方向が大きく異なることから、近接した時間幅ではなく、ある程度の時間差を想定できることから、Ⅲ期以前の遺構と想定する。
- SD02 SD01の西側約17m離れた位置で、延長約6mを検出した。上幅は最大90cm、下幅は最大40cmを測り、深さは遺構検出面から最大7cmと比較的浅い。断面形状は皿状を呈す。溝の主軸はN5°Wである。SD01のように区画溝の可能性を想定することは困難で

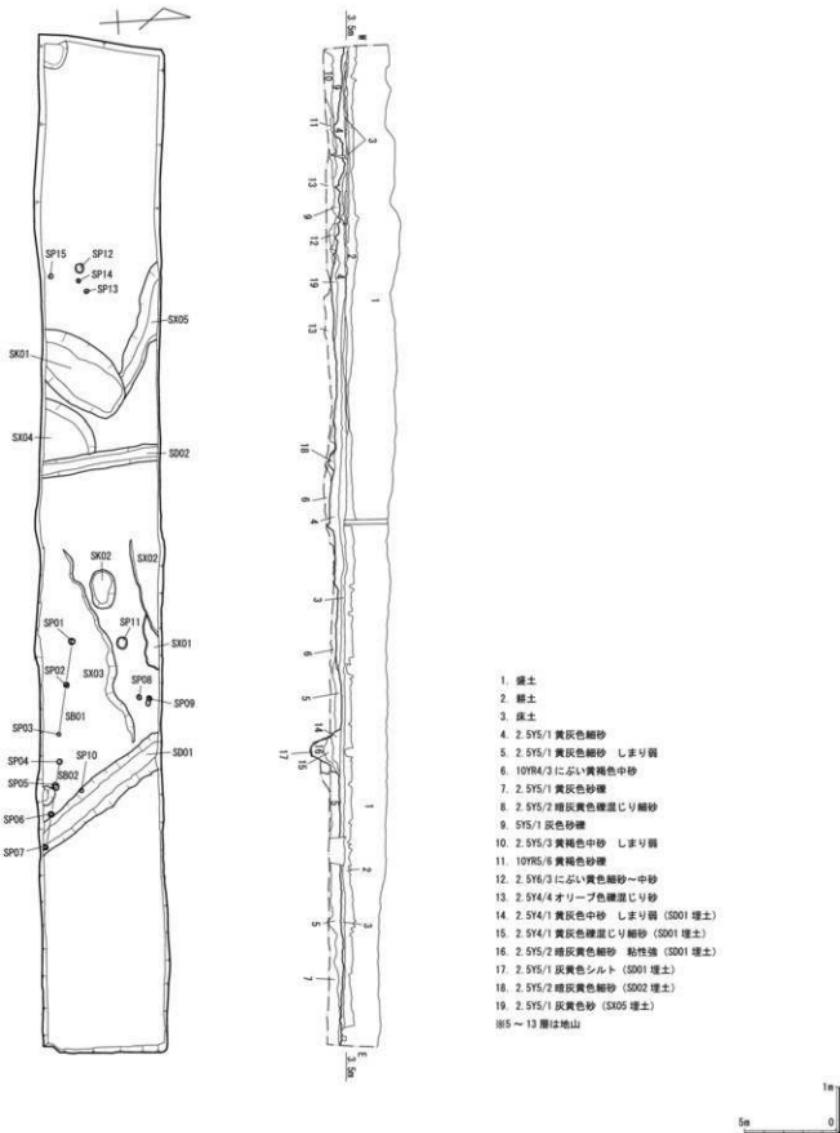


図58 6-2区平面図・土層断面図 (S=1/250・1/100)

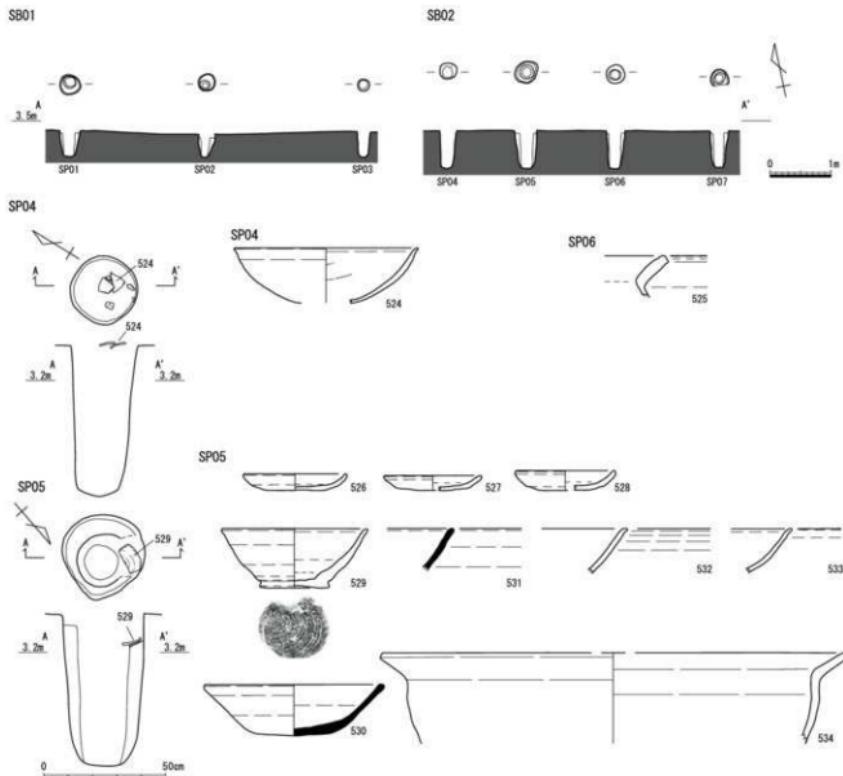


図59 SB01・SB02平面図・断面図 (S=1/80・1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

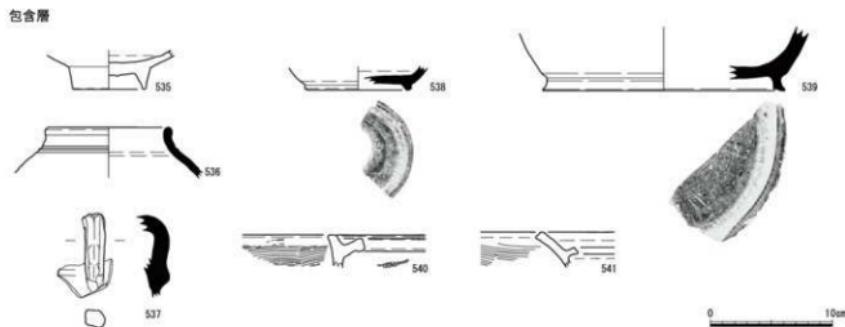


図60 6-2区包含層出土遺物実測図 (S=1/4)

あるため、その性格については判然としない。出土遺物は細片が多く、図化に耐える遺物は少ない。手づくね成形の土師器皿542・543、須恵器壺544を図示した。														
土坑 2基検出した。埋土の雰囲気は後述するSXと大きな違いはないが、遺構検出段階で平面プランが確認できたものを土坑として区別した。														
SK01 調査区の中央やや西側で検出した土坑である。平面規模は長辺5m以上、短辺3m、深さは遺構検出面から40cmを測る。遺物は土坑底面から土師器羽釜545がばらばらになつた状態で出土した。底部の破片は出土していない。他の遺物は出土していない。														
SK02 調査区のほぼ中央部で検出した土坑である。平面規模は長辺2.0m、短辺1.3m、深さは遺構検出面から最大で18cmを測る。遺物は細片のみ出土し、遺構の性格に関連するものはなかった。図化に耐える遺物はない。														
落込み 遺構検出中に明確に色調変化が認められるものの、土坑と比較し平面プランが確定できないものをSXと呼称した。5基検出した。わずかに遺物を含むものの堆積過程による一時的な色調変化によるものである可能性もある。														
SX03 北肩は比較的明晰な掘込みを確認できたが、南側は滑らかに高まり掘方を確認できない。埋土中から土師器三足鍋脚部546が出土している。他のSXからは図化に耐える遺物の出土は認められなかった。														
柱穴 15基検出した。前述した建物に伴う柱穴以外からは図化に耐える遺物の出土はない。														
遺構に伴わ ない遺物 包含層からは142点の遺物が出土した。その内訳は食膳具9.8%、調理具47.8%、貯蔵具19%である。細片が多く図化できるものは少ない。535は白磁碗の底部、536は須恵器壺の口縁部で頸部に沈線2条が巡る。537は須恵器双耳壺の耳である。538は須恵器杯Bで底部はヘラ切りである。539は須恵器壺で底部にはヘラケズリ後に輪高台を貼り付けている。540は土師器羽釜、541は瓦質土器羽釜である。														
表18 6-2区遺構一覧														
遺構名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	特記事項	周轍遺物	土師器食膳具 点数 重量(g)	須恵器食膳具 点数 重量(g)	その他食膳具 点数 重量(g)	食具合計 点数 重量(g)	調理具合計 点数 重量(g)	貯蔵具合計 点数 重量(g)	その他遺物 点数 重量(g)	不明 点数 重量(g)	
SP01	728	186	56	SP06-, SP07-, SP10-	-	1 18	-	真1	31 2	49	-	1 119	-	-
SP02	605	81	7	SK04+ [529(301)]	542-544	36 182	16 163	真1	5 53	320	11 211	3 140	-	1 96
SP03	446	322	206	SK05+	545	-	-	-	-	-	1 658	-	-	-
SP04	260	177	100	[429(301)]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP05	290	178	10	SK06+	-	-	5 50	-	-	5 50	4 240	-	-	-
SP06	290	178	10	SK07+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP07	(500)	(190)	12	SK08+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP08	(1,050)	(480)	8	-	548	12 30	1 23	-	-	13 53	2 143	-	-	3 30
SP09	(760)	(215)	10	SK09-	-	6 11	13 29	真1	52 20	92	8 75	2 4	-	7 15
SP10	(715)	(105)	12	SK10+	-	5 10	4 5	-	-	9 15	6 45	-	-	7 27
SP11	33	32	55	SP01+	-	2 5	5 5	-	-	2 5	1 5	-	-	-
SP12	27	26	56	SP02+	-	2 5	5 5	-	-	2 5	1 5	-	-	-
SP13	20	17	42	SP03+	-	2 5	5 5	-	-	2 5	1 3	-	-	1 5
SP14	28	27	58	SP04+	524	4 12	-	真1	32 9	44	-	-	-	-
SP15	34	34	62	SP05+	628-634	57 349	11 179	自1/五2 8/18	71 555	16 376	1 1	28	-	2 1
SP16	30	29	59	SP06, 5001+	525	3 2	1 2	-	4 4	3 47	-	-	-	4 2
SP17	30	(26)	69	SP07, 3001+	-	11 21	2 13	-	-	13 34	-	-	-	-
SP18	27	27	56	SP08+	-	4 12	5 5	真1	8 27	-	-	-	-	-
SP19	52	25	26	-	-	6 11	3 8	-	-	11 19	-	-	-	-
SP20	21	19	40	SP09+	-	6 9	9 9	-	-	6 9	-	-	-	-
SP21	60	53	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP22	48	43	3	[5(3)P01]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP13	23	22	8	[5(3)P02]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP14	20	18	5	[5(3)P03]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP15	29	20	7	[5(3)P04]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

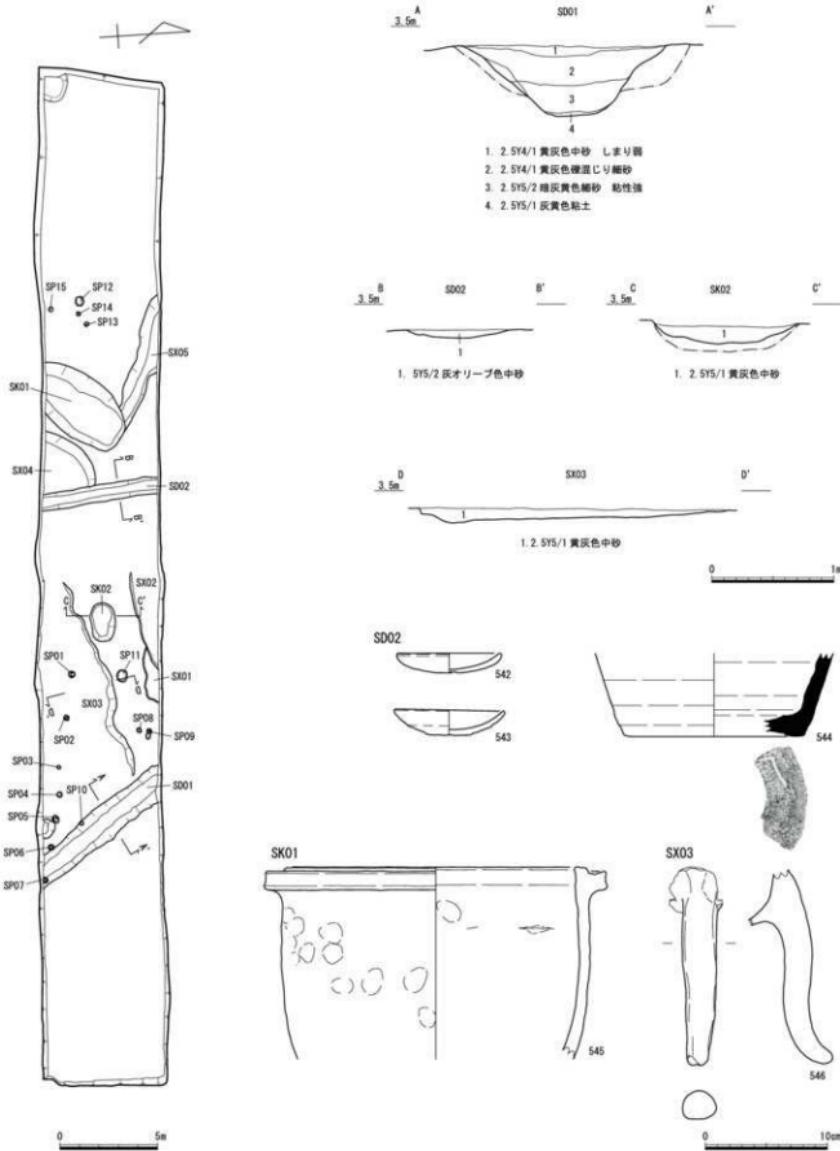


図61 6-2区遺構位置図 (S=1/250)、遺構断面図 (S=1/40)、遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

第10節 7区の調査(図62・63、表19)

- 位置** 6区の東側、9区の北側に位置する調査区で幅員は6.5m、延長は41mである。
- 層序** 基本層序は耕土、床土を経て、灰色～黄灰色シルト層に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は東側で3.2m、西側で2.9mを測る。
- 検出遺構** 検出した遺構は土坑2基、柱穴15基、杭穴である。遺構は西端から7mの範囲において密集した状態で検出した。調査区の東側については、遺構は極めて希薄であった。このことから7区が遺跡の東端であると考えられる。また、過去には水路に平行する里道際で、五輪塔らしき石製品が出土したようである。里道付近は基幹水路にも近く、この水路の前身と考えられる6-1区SD03や後述する12-2区SD01からも五輪塔が出土している。本遺跡においては五輪塔は水路周辺から出土する傾向が指摘できる。
- SK01** 調査区の西部で検出した。平面プランは南北に長い長円形を呈し、SP10～12、SK02と切り合う。平面規模は長辺1.2m、短辺70cmを測る。深さは遺構検出面から8cmを測る。底部ヘラ切りの土師器杯547と須恵器椀548が出土した。
- SK02** 調査区の西部で検出した。平面プランは一部調査区外に延びるが東西に長い長円形を呈すと考えられる。SK01を切る。平面規模は長辺1.2m、短辺50cm以上、深さは遺構検出面から9cmを測る。底部ヘラ切りの土師器皿549が出土した。
- 柱穴** 15基検出したが、いずれも規則性はうかがえず建物等に伴うものではなく、性格は不明である。
- SP01からは須恵器椀550、SP05からは須恵器碗551、SP07からは須恵器椀552と553、SP10からは須恵器椀554・555が出土した。554は平高台部が極めて低く痕跡程度となっている。
- 遺構に伴わ
ない遺物** 遺構検出中に195点の遺物が出土した。その内訳は食膳具が64.6%、調理具が25.1%、貯蔵具が7.1%である。細片が多いがそのうち主要なものを図化した。556は手づくね成形の土師器皿、557は底部糸切りの托皿、558～560は須恵器椀、561は瓦器椀で器面は摩滅している。562～564は白磁碗、いずれも口縁部に玉縁を持つIV類で、563は小型の碗である。565は土師器壺、566は須恵器壺底部、567は須恵器壺である。明確に時期を特定できる遺物は少ないが、概ねⅢ期からⅣ期にかけてのものを主体としている。

表19 7区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	遺構遺物	土師器食膳具	漆器食膳具	その他食膳具	食膳具合計	調理具合計	貯蔵具合計	其他の遺物	不明		
	占数	累積(g)	占数		占数	累積(g)	占数	累積(g)	占数	累積(g)	占数	累積(g)	占数	累積(g)	
SD01	124	70	8	SP10-11、SP11-12、SP12-13、SP13-14、SP14-15	18	105	4	20	白1	2	15	127	3	40	
SD02	115	50	8	SP10-11、SP11-12	54	8	27	9	白1	-	17	102	2	10	
(SP01)	40	29	8	-	550	-	1	15	-	1	19	-	-	-	
SP02	38	35	11	-	-	1	5	1	5	-	2	10	-	-	
(SP03)	33	30	12	-	-	1	2	-	-	-	1	2	-	-	
SP04	49	45	10	-	-	5	19	-	-	9	19	9	105	-	
SP05	58	36	10	-	551	-	1	5	-	1	5	-	-	-	
SP06	27	29	9	-	-	1	8	-	-	1	8	-	-	-	
(P01)	42	42	16	-	552-553	2	16	5	82	-	2	86	-	1	8
SP08	31	27	8	-	-	-	1	3	-	1	3	-	-	-	
SP09	38	36	12	-	-	-	1	5	-	1	5	-	-	-	
SP10	(36)	30	15	SK02-1、SK02-2、SK03-1、SK03-2	554-555	6	21	2	30	-	8	31	2	25	
SP11	(22)	20	8	SK02-3、SK03-3	-	-	2	9	-	2	8	1	5	-	
SP12	41	39	15	SK01-1	-	4	26	1	8	-	5	34	-	-	
SP13	31	30	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP14	30	28	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP15	25	24	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

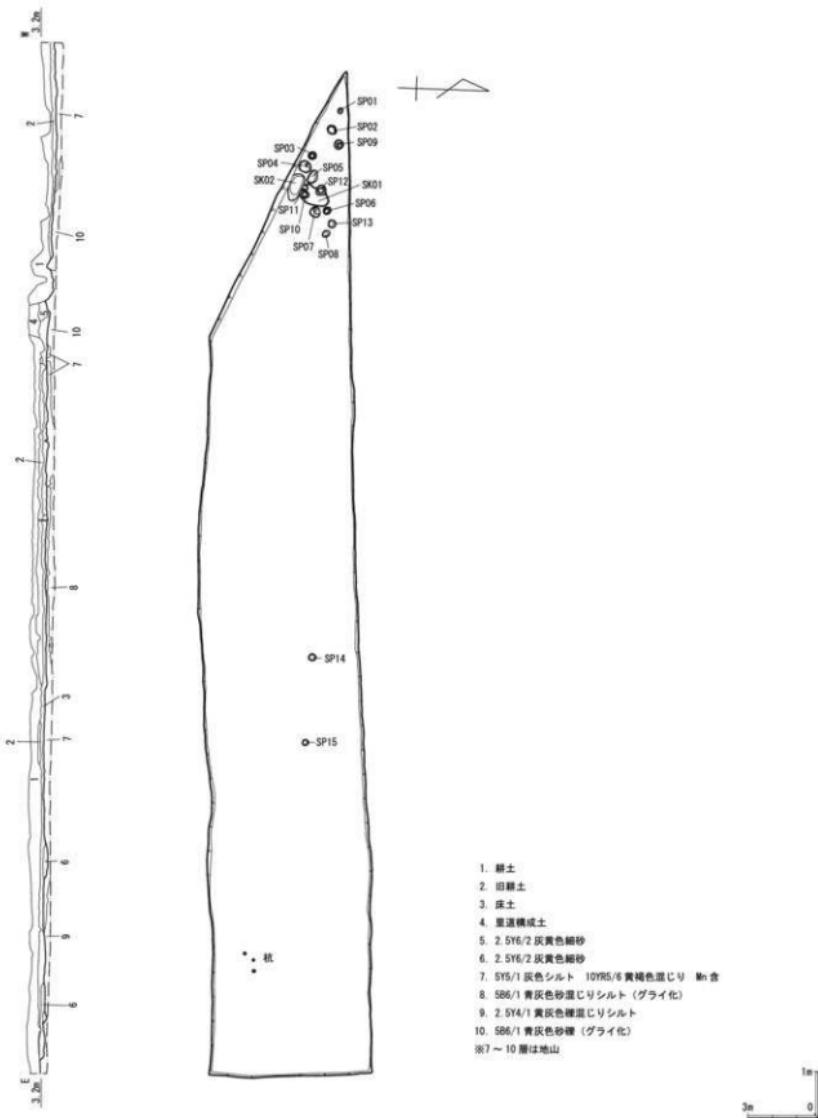


図62 7区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)

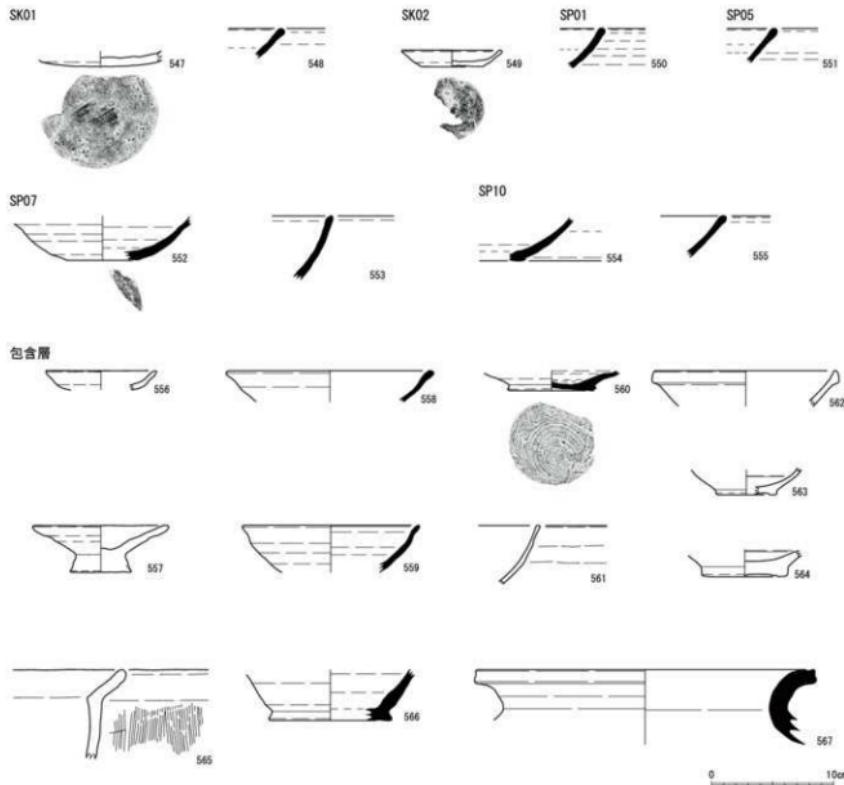


图63 7区出土遗物实测图 (S=1/4)

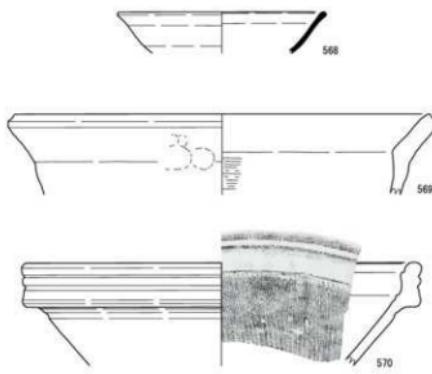
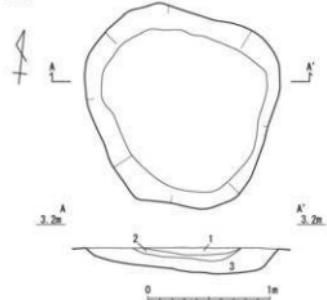
第11節 8区の調査(図64・65、表20)

- 位置 9区の南側、10-2区の東側に位置する。幅員は7.5m、延長は約86mを測る。
- 層序 基本層序は耕土、床土を経て灰オリーブ色～暗灰黄色細砂に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。SD03東側の里道を境にして、それより東側は西側に比べ一段下がる。遺構検出面の標高は西端で2.9m、東端で2.8mである。
- 検出遺構 検出した遺構は溝3条、土坑2基、柱穴3基、鋤溝、杭穴である。鋤溝は幅20～50cmを測り、主軸はN22°E～N25°Eである。
- SK01 調査区西部で検出した。長辺1.64m、短辺1.6m、深さは遺構検出面から21cmを測る。遺構の時期は堺・明石系播鉢570が出土していることから江戸時代後半である。須恵器碗568、土師器甕569等が出土したが、混入とみられる。
- SK02 SK01の南側1mで検出した隅丸方形の土坑である。長辺1.71m、短辺1.41m、深さは遺構検出面から10cmを測る。埋土はSK01と同じく黄灰色シルトで、染付蓋571、施釉陶器皿572、施釉陶器杯573が出土した。SK01とともに江戸時代の耕作に伴う遺構と考えられる。
- 遺構に伴わ 遺構検出中に遺物が52点出土した。内訳は食膳具約42%、調理具約21%、貯蔵具ない遺物 約13%、江戸時代の遺物約17%である。図化に耐える遺物はない。

表20 8区遺構一覧

遺構名	高さ(cm)	幅(2辺)(cm)	奥行き(cm)	特記事項	開発遺物	土器類食膳具	遺産部食膳具	その他食膳具	食膳具合計	調理具合計	貯蔵具合計	その他の遺物	不明
	(1辺)	(2辺)	(奥行き)			品数	重量(g)	品数	重量(g)	品数	重量(g)	品数	重量(g)
SD01 (1辺)	51	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD02 (2辺)	80	10	SK01-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SD03 (2辺)	65	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP01 (1辺)	160	21	SD02+ SD03	569-570	1	6	-	1	5	2	22	-	-
SP02 (1辺)	71	14.5	-	571-572	2	15	2	17	-	2	20	1	163
SP03 (1辺)	21	20	5	-	-	1	4	-	1	87	1	14	12.2
SP04 (1辺)	45	33	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12.7
SP05 (1辺)	23	20	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10.6

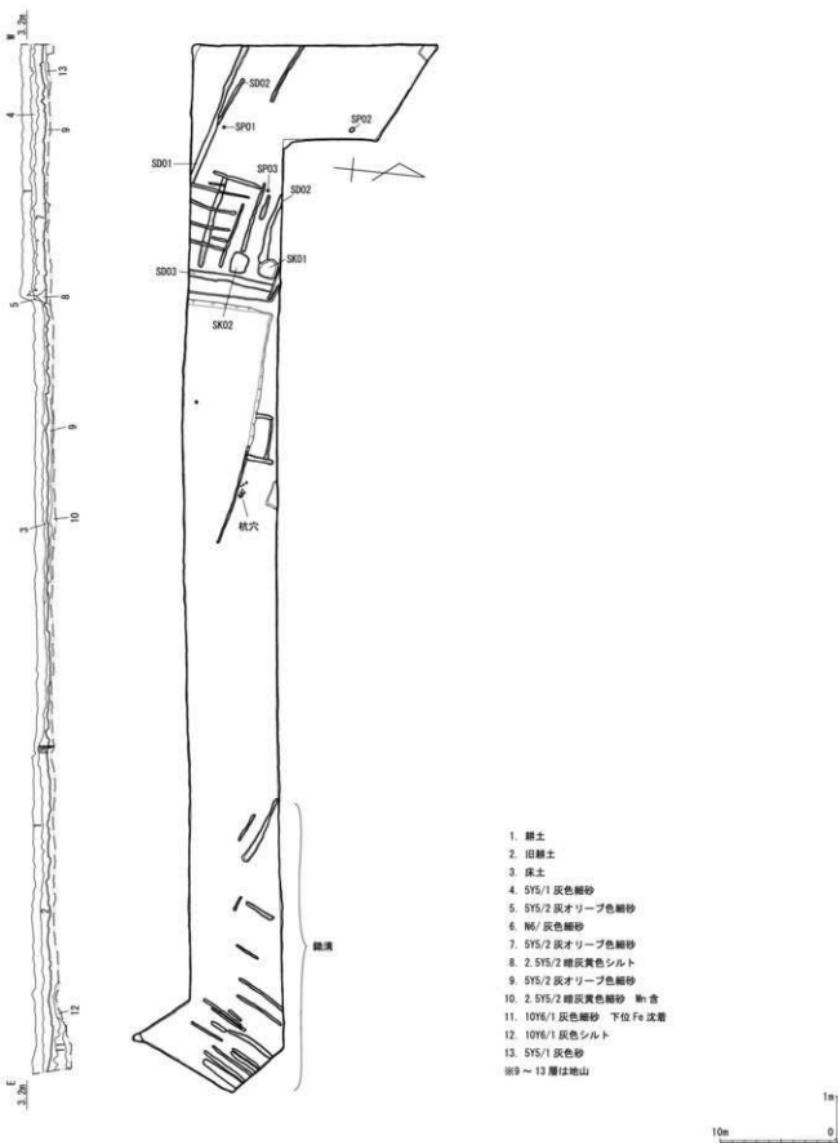
SK01



SK02



図64 SK01平面図・断面図 (S=1/40)、SK01・SK02出土遺物実測図 (S=1/4)



第12節 9区の調査(図66~70、表21)

位置 8区の北側、10-1区の東側に位置し、T字状に展開する調査区である。幅員は東西方向が6.5m、南北方向が7.5mを測り、東西方向の延長は約104mである。

層序 基本層序は耕土、黄灰色中砂を経て、遺構検出面である黄灰色細砂または砂礫層に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は東側で2.9m、西側で3.1mである。

検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物跡1棟、溝4条、土坑4基、柱穴29基、鋤溝、杭穴である。遺構の検出状況としては、調査区の東西方向では鋤溝が全域に分布し、東端で土坑を3基検出した。柱穴は南北に延びる部分で集中して検出した。

SB01 調査区の南部で検出した。検出状況はSD02、SK01と重なる。SP26をSK01の下層で検出したことからSK01が後出する。検出位置から調査区外に広がると考えられ、2間×1間以上の建物跡であろう。

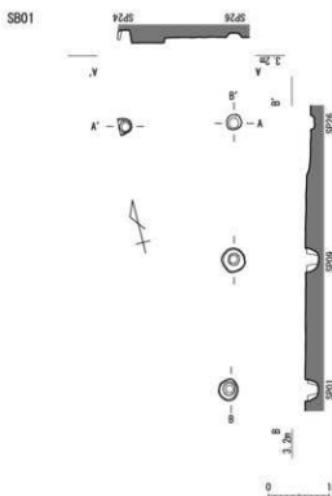


図66 SB01平面図・断面図 (S=1/80)

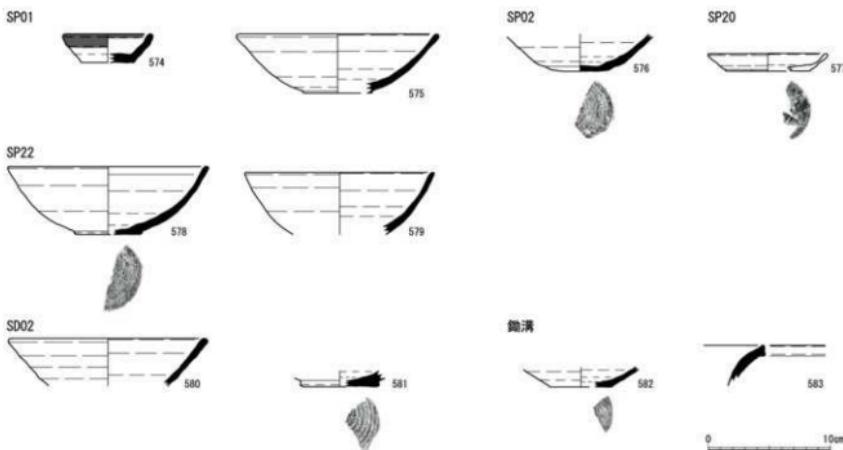


図67 9区遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

SP01-SP26を基準とした棟方向はN20°Eである。平面規模は南北方向2間で4.4m、東西方向1間で1.8m以上を測る。柱穴間の寸法はSP01-SP26間では2.2m等間である。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25~40cm、深さは遺構検出面から6~22cmを測る。

遺物はSP01から須恵器皿574と須恵器椀575が出土した。574は口径10cm以下であり、相生窯編年ではD段階から出現する器種である。口縁部に重ね焼き痕跡が明瞭に残る。575は底部の大部分を欠損するが、高台部が痕跡程度に残る椀であろう。これらの遺物から概ね時期はIV期古段階に位置づけられる。

溝 4条検出した。いずれも性格等は不明であるが延長、幅員、形状等から鋤溝と区別した。

SD01 調査区西部で検出した。延長5m、幅38cm、深さは遺構検出面から最大で5cmを測る。規模は鋤溝と大差ないが、主軸がSD02と平行している。

SD02 平面プランはSB01と切り合うが、直接的な切合がないため新旧関係は不明である。SK01に切られる。延長21.8m、幅は概ね一定で最大で50cm、深さは遺構検出面から最大で9cmを測る。溝の断面形状は浅いコ字状を呈し、調査区の端から端まで途切れることなく検出した。溝の主軸はN21°Eである。埋土中から須恵器椀580・581が出土した。

SD03 SB01の東側60cmの位置で検出した。延長9.56m以上、幅は最大で1.78m、深さは遺構検出面から11cmを測る。断面形状は浅い皿状を呈す。SK01を切っている。溝の主軸はN25°EでSD02とほぼ同一である。鋤溝の可能性もあるが、幅は広く、SB01の北側でさらに大きく広がるなど様相が異なっている。遺物は細片が出土したが、図示できるものはない。

SD04 SB03の東側約3.5mで検出した。延長11.4m、深さは3cmと極めて浅い。幅は調査区南側では幅81cmと広く、北側に向かって徐々に狭くなり15cmとなる。遺物は出土していない。

土坑 4基検出した。SK01を除いていずれも耕作に伴う遺構である。

SK01 調査区の南部で検出した。SB01とSD02を切り、SD03に切られる。平面形は円形を呈すと考えられる。規模は長辺1.77m、短辺1.56m、深さは遺構検出面から最大で8cmを測る。遺物は細片のみで、性格等も判然としない。

SK03 調査区の東端で検出した土坑である。SK03とSK04の周辺は地形の落込みに該当し、本来の遺構検出面より約40cm下がっている。平面プランは落込みの下位で検出したが、遺構の本来の掘込み面は耕土直下である。SK03は調査区外に延びるため全容は不明であるが、概ね円形を呈すものと考えられる。平面規模は直径1.2m、深さは遺構検出面から58cmを測る。壁面には曲物と見られる木質が遺存していた。耕作に伴う野井戸と考えられる。

SK04 SK03の南約50cmで検出した土坑である。付近は本来の遺構検出面より約40cm下がっている。一部調査区外へ広がるが、平面形は南北に長い円形を呈すものと考えられる。平面規模は長辺1.9m以上、短辺1.4m、深さは遺構検出面から48cmを測る。土坑北面下部において礫と木質を検出した。SK03と同様、耕作に伴う遺構と考えられる。

SK05 SK03の東約3mの位置で検出した土坑である。平面形は円形を呈し、規模は直径

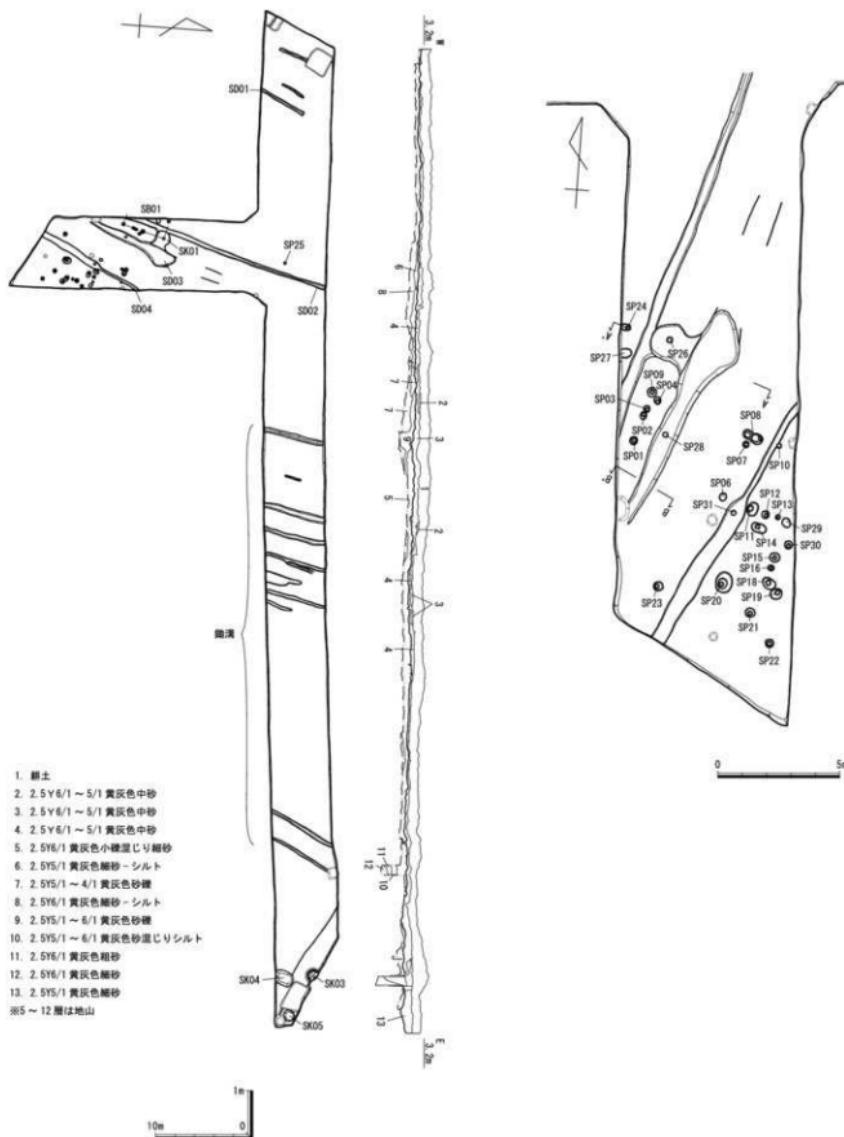


図68 9区平面図・土層断面図 ($S=1/500 \cdot 1/100$)、柱穴位置図 ($S=1/200$)

1.18m、深さは遺構検出面から92cmを測る。SK03と同様、壁面に曲物とみられる木質が遺存しており野井戸と考えられる。遺物は図示に耐えないが江戸時代の陶磁器片が出土している。SK03からも江戸時代の遺物細片が出土していることから、これらの遺構は江戸時代に位置づけられる。

柱穴

29基検出した。建物跡に伴うものを除いて、その性格は不明である。

SP02からは須恵器碗576、SP20からは底部ヘラ切りの土師器皿577、SP22からは須恵器碗578・579が出土した。

排水溝

調査区東側で排水溝を検出した。主軸方向はN10°～27°Eを測る。埋土中からは須恵器碗582と須恵器壺583が出土している。近辺から混入したものであろう。

遺構に伴わ ない遺物

遺構検出中に2,347点の遺物が出土した。その内訳は食膳具63.4%、調理具19.3%、貯蔵具5.2%である。遺構数に比べて出土量は多い。

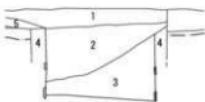
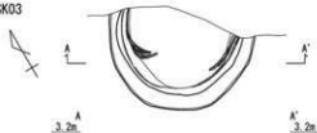
584・585は土師器皿で、584は底部ヘラ切りである。586～592は須恵器碗で平高台のものから高台の消失したものまで含む。593は竈の口縁部であろう。594・595は須恵器鉢で、いずれも口縁端部は外反する。596は底部糸切りの須恵器鉢である。597は輪高台の須恵器壺もしくは鉢の底部である。高台内に爪形状圧痕が認められる。598～601は白磁碗である。598と601はIV類、599はV類もしくはVI類、600はII類である。602は白磁皿II類である。603は瀬戸焼鉢皿、604・605は備前焼擂鉢である。603～605は15世紀から16世紀代に位置づけられる。606は土師器羽釜、607は須恵質に焼成された丸瓦である。608は花崗岩製の砥石、4面とも使用痕が認められる。仕上砥であろう。

表21 9区遺構一覧

遺構名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁遺物	土師器食膳具 品数	直巻食膳具 品数	直巻食膳具 重量(g)	その他食膳具 品数	直巻食膳具 重量(g)	その他食膳具 品数	直巻食膳具 重量(g)	食膳具合計 品数	直巻食膳具 重量(g)	調理具合計 品数	直巻食膳具 重量(g)	直巻食膳具 品数	直巻食膳具 重量(g)	その他の遺物 品数	直巻食膳具 品数	直巻食膳具 重量(g)	不明 品数	
SK01	500	38	5	—	—	4	13	5	26	—	—	9	39	—	—	1	12	—	—	—	—		
SK02	(2,180)	90	9	—	580・581	27	60	17	95	—	—	44	155	9	79	1	15	—	—	—	—		
SK03	265	176	10	—	—	19	88	12	25	—	—	31	93	7	57	—	—	—	—	—	—		
SK04	140	21	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
SK05	177	156	8	[5000・5001・5140]	—	44	76	18	67	—	—	62	145	17	178	1	28	—	—	3	17		
SK03	200	180	58	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	22		
SK04	(190)	138	48	—	—	—	—	—	1	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	2	107		
SK05	110	106	92	—	—	—	—	—	1	11	—	—	1	11	—	—	1	39	113	78	9	998	
SP01	34	31	22	SB01	574・575	7	28	4	68	—	—	11	96	5	178	—	—	—	—	—	—	—	
SP02	24	21	15	—	—	—	—	2	38	—	—	2	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP03	26	25	15	—	—	—	1	2	—	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP04	30	27	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP06	33	36	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP07	28	25	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP08	86	42	19	—	—	—	2	3	—	—	—	2	3	2	5	—	—	—	—	—	—	—	
SP09	40	38	27	SB01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP10	20	19	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP11	58	43	14	—	—	2	3	—	—	—	—	2	3	1	6	—	—	—	—	—	—	—	
SP12	32	30	13	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP13	22	25	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP14	62	38	11	—	—	—	—	1	5	—	—	1	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP15	41	39	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP16	25	24	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP18	60	43	12	—	—	2	2	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP19	48	43	26	—	—	4	22	—	—	—	—	4	22	1	11	—	—	—	—	—	—	—	
SP20	86	70	26	—	577	10	31	2	9	—	—	12	40	1	3	—	—	—	—	2	6	—	
SP21	40	36	17	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP22	33	23	8	—	578・579	—	2	116	—	—	2	116	—	—	1	11	—	—	—	—	—	—	
SP23	40	38	11	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP24	75	(24)	11	SB01	—	11	21	3	11	—	—	14	32	2	18	—	—	—	—	—	—	—	
SP25	25	24	5	—	—	1	1	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP26	25	23	6	SB01	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP27	40	(26)	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP28	21	21	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP29	41	31	6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP30	32	32	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SP31	20	30	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
■遺構	—	—	—	—	—	582・583	93	126	99	261	—	—	103	327	27	384	1	20	—	—	14	96	—

©SK02, SP05, 17は欠番

SK03

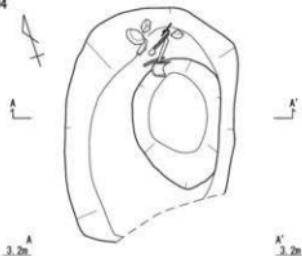


1. 2. SY6/1 黄灰色細砂
2. 2. SY3/1 ~ 5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト
3. N3/ ~ SY1/1 灰色~オリーブ墨色砂混じりシルト
4. 2. SY5/1 黄灰色粗砂
5. 2. SY5/1 黄灰色細砂

SK05



SK04



1. 10YR4/1 ~ 2. SY4/1 褐灰色~黄灰色砂混じりシルト
2. 10YR4/1 ~ 2. SY4/1 褐灰色~黄灰色砂混じりシルト 土器・礫含
3. 10YR4/1 ~ 2. SY4/1 褐灰色~黄灰色砂混じりシルト



図69 SK03・SK04・SK05平面図・断面図 (S=1/40)

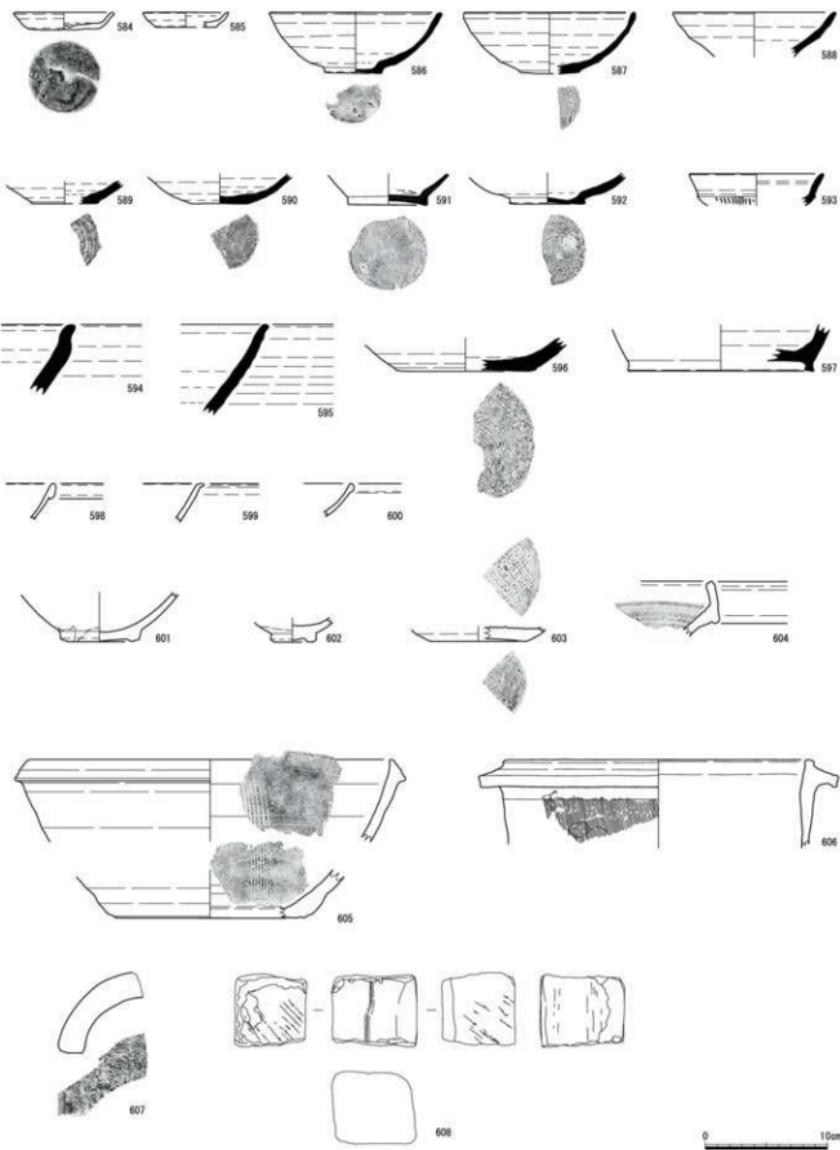


图70 9区出土遗物实测图 (S=1/4)

第13節 10-1区の調査(図71~81、表22・23)

位置	11区の東側、5区の南側に位置する調査区である。延長は里道をはさみ97mである。調査は4次にわたるが、本書では里道を境に10-1区と10-2区とに分けて記述する。10-1区は幅員7.5m、延長53.5mを測る。
層序	基本層序は耕土、床土、遺物包含層である褐灰色細砂を経て、黄灰色細砂または砂礫層に至る。遺構は全てこの層の上面において検出した。遺構検出面の標高は概ね3.1mであるが、調査区南端は地山が落ち込んでおり、最深部で標高2.7mを測る。
検出遺構	検出した遺構は掘立柱建物跡4棟、土坑墓2基、溝7条、土坑7基、柱穴98基である。検出状況としてはSD06の北側に遺構が集中し、南側は極めて希薄になる。掘立柱建物跡は10-1区と11区の東側にまたがる。便宜上、区毎に報告するが、本来分けて記載する必然性はないため、建物跡については11区と通し番号とした。ただし、柱穴については調査の都合上10-1区と11区とで個別に番号を振っている。
SB01	調査区のはば中央で検出した。検出状況はSB02とSB04と重なるが、柱穴の直接の切合は確認できない。搅乱により一部の柱穴を確認できていないが全容を検出したと考える。2間×4間の總柱建物跡と考える。SP80-SP103を基準とした棟方向はN15°Eである。平面規模は梁行方向2間で5.4m、桁行方向4間で8.2mを測る。平面積は44.28m ² である。柱穴間の寸法は梁行方向SP06-SP80間で西側から2.7m、2.6mを測る。桁行方向SP80-SP103で北側から1.95m、2.15m、2.0m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径20~35cmである。深さは遺構検出面から20~35cmを測る。埋土は暗褐色細砂が主体となる。
	遺物はSP06、SP10、SP13、SP23、SP24から出土した。SB01の北東隅にあたる柱穴であるSP06からは掘方底よりやや浮いた位置から須恵器皿609が出土した。SP10からは土師器皿610が出土した。体部は直線的に立ち上がり、外面はナデによりわずかに凹む。SP12では土師器皿611・612が掘方から、柱痕跡の埋土中からは須恵器皿613が出土した。611の口縁端部はナデにより三角形状を呈す。SP13から出土した土師器皿614も口縁端部は三角形状を呈す。SP23の土師器皿615は端部を丸くおさめる。SP24の位置では遺構検出中にまとまって遺物が出土した。遺物の直下にSP24の平面プランを検出したため、厳密には埋土からの出土ではないが本遺構に帰属させた。土師器皿618を下にし、その上面から土師器皿616と617が出土した。砥石619は甕の口縁部に一部重なった状態で出土した。花崗岩製の砥石である。これらの遺物からSB01はⅣ期新段階に位置づけられる。
SB02	調査区のはば中央、東壁に沿う位置で検出した。平面プランはSB01と切り合い、調査区外に広がる。2間×1間以上の側柱建物跡と推測できる。SP22-43を基準とした棟方向はN9°Wである。平面規模はSP22-SP43間で3.8m、SP22-SP20間で2.0m以上を測る。柱穴間の寸法はSP22-SP43間で北側から2.3m、1.5mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25~34cmを測る。深さは遺構検出面から22~26cmを測る。
	遺物はSP20、SP22、SP33、SP41から出土した。SP20の掘方からは土師器皿620と土師器杯621と622が出土した。620は器面摩滅のため詳細は不明であるが、621と

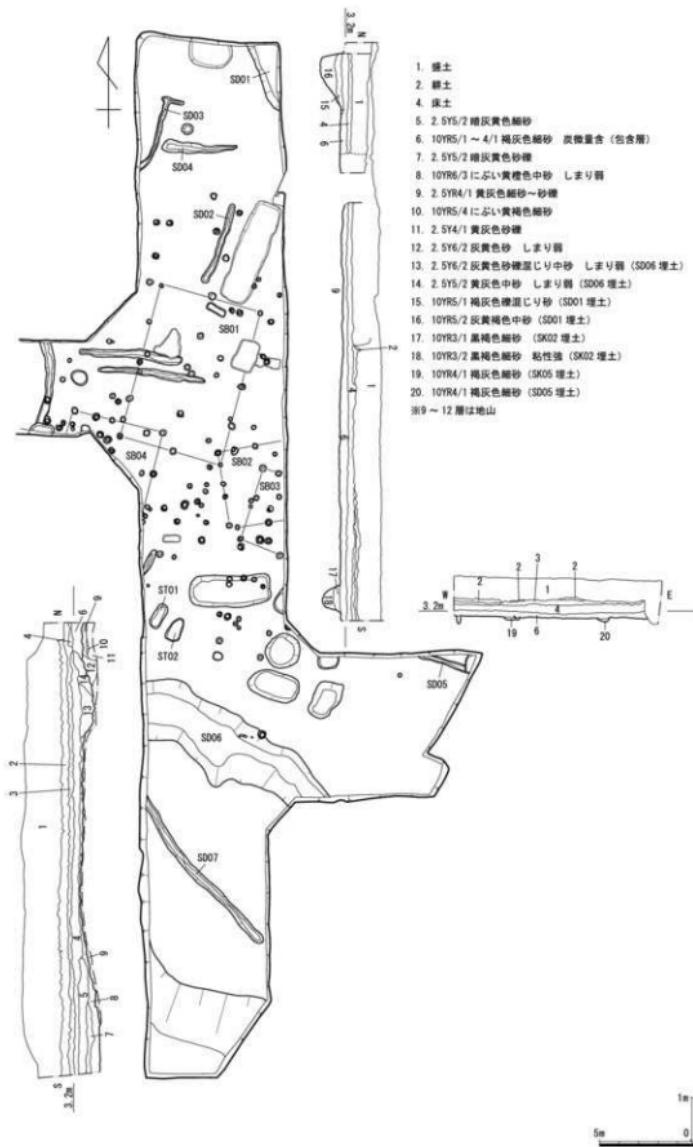


図71 10-1区平面図・土層断面図 (S=1/250・1/100)

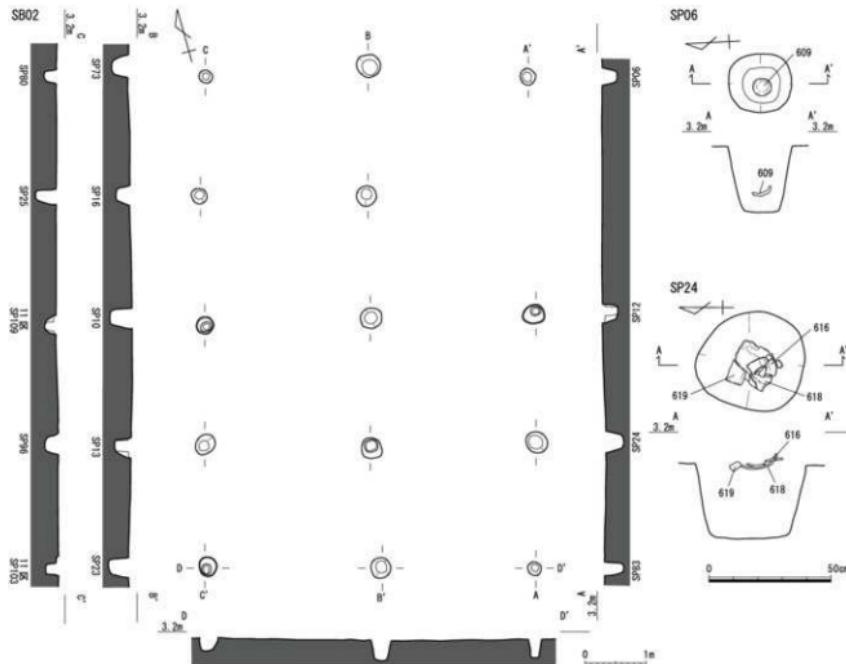


図72 SB01平面図・断面図 (S=1/80 + 1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

622は底部に指圧痕が残る。621は粘土紐を巻き上げて成形している。SP22の埋土からは手づくね成形の土師器皿623～625が出土した。SP33の埋土からは須恵器椀626、SP41の埋土からは土師器皿627と須恵器椀628が出土した。出土遺物から概ねⅣ期新段階に位置づけられる。ただし、SP20の出土遺物はⅠ期に位置づけられるものである。

SB03 調査区のほぼ中央、東壁に沿う位置で検出した。検出状況はSB02と重なるが、柱穴の直接的な切合い関係は確認できない。調査区外に広がる。2間×1間以上の東西棟の建物跡と推測できる。SP28-SP44を基準とした棟方向はN17°Eである。平面規模はSP28-SP44間で3.8m、SP44-SP48間で2.2m以上である。柱穴間の寸法はSP28-SP44間で北側から1.9m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径24～34cmを測る。深さは遺構検出面から16～18cmを測る。図示に耐える遺物の出土はない。

ST01 調査区の中央部、建物跡の分布が希薄な部分で検出した。検出時に既に青磁碗の口縁部が露出していた。平面プランは南北方向に長い隅丸長方形を呈す。軸方向は

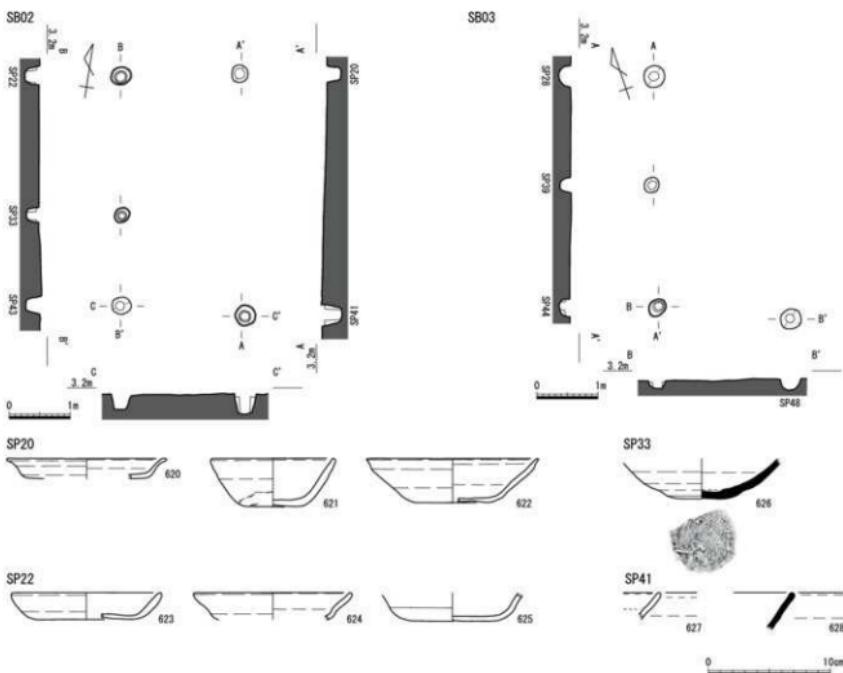


図73 SB02・SB03平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物実測図 (S=1/4)

N28° Eである。検出規模で長辺1.28m、短辺57cm、深さは遺構検出面から最大で16cmを測る。遺物の出土状況から墓と考えられる。土層観察では木棺痕跡が確認できないことから土葬墓と考えられる。遺物の配置から頭位は北向きと推測する。土坑北側から土師器皿4点629～632、竜泉窯系青磁碗633が出土した。土師器皿は青磁碗を囲うように配され、土師器皿631のみ青磁碗の下位から出土した。これらはいずれも正置の状態で出土した。

629～632は手づくね成形の土師器皿で、いずれも端部を丸くおさめるが歪みがあり、粗雑な作りとの印象を受ける。633は龍泉窯系青磁碗で内面に片彫で蓮華文を描く。土師器皿の法量と青磁碗の存在から、遺構の時期はIV期古段階と考えられる。

ST02 ST01の東側約50cmの位置で検出した。軸方向はN26° EでST01と概ね揃っており、両者に関連があることが想定できる。平面プランは南北に長い隅丸長方形を呈す。検出規模で長辺1.05m、短辺67cm、深さは遺構検出面から最大で13cmを測る。ST01と同様、遺物の出土状況から墓と考える。木棺痕跡が確認できないことから土葬墓と考えられる。遺物の配置から頭位は北向きであろう。土坑北側から青磁碗1点と須恵器椀1点、土師器皿1点、刀子1点、漆膜が出土した。埋土中からは植葉型瓦器椀635が出土した。青磁碗は土坑内西部で検出し、逆位の状態であった。それと対向する位置からは須恵器椀636と土師器皿634が正置の状態で出土した。土師器皿は須恵器椀の上位から出土した。土坑北肩で漆膜と刀子を検出した。漆膜は遺存状態が悪く痕跡が残る程度であり、本来の形状は不明である。刀子は漆膜の下位から出土した。刃先部分を欠損しており、埋土中からも接合する破片は出土しなかった。須恵器椀636も半身を欠損しているが、残存部分の出土は確認できなかった。

土師器皿634は手づくね成形で口縁端部が三角形形状を呈する。須恵器椀636は底部糸切りで口縁部は玉縁状に肥厚する。類例は生柄遺跡の集石遺構から出土している。青磁碗637は同安窯系青磁碗で外面に樹目文、内面に花文と点描文が描かれる。638は鉄製刀子で切先を欠損する。残存長は14.6cmを測る。ST01との前後関係は判然としないが、遺構の時期はST01と同様のIV期古段階と考えられる。

溝 7条検出した。SD06を除く溝はいずれも建物等の遺構との関連がうかがえず、性格は判然としない。

SD01とSD04、SD06から遺物が出土した。SD01は調査区北部で検出した。土師器長胴壺639が出土している。口縁端部は上方へわずかに拡張する。SD04からは土師器杯640が出土した。

SD06 ST02の南約2mの位置で北西から南東方向に検出した。延長約10m、幅は最大で3.6m、深さは遺構検出面から最大25cmを測る。SP98に切られる。溝の断面形状は皿状を呈す。溝肩のラインは平行ではなく凸凹が認められる。この溝より南側では建物跡等は検出できない。墓も近接して掘られるなどこの溝が集落の南限を画している可能性がある。SD06を西側へ延長した位置に後述する11区SX01がある。

遺物は溝底面附近からまとめて出土した。特に西側で集中しており、土師器杯654、瓦器碗655・656、須恵器碗657～664が出土した。溝の東側では土師器皿653と須恵器鉢665が出土している。653は底部ヘラ切りの土師器皿である。654は底部ヘラ切りの土師器杯、655・666は和泉型瓦器椀で656は見込に平行暗文を施す。657

ST01

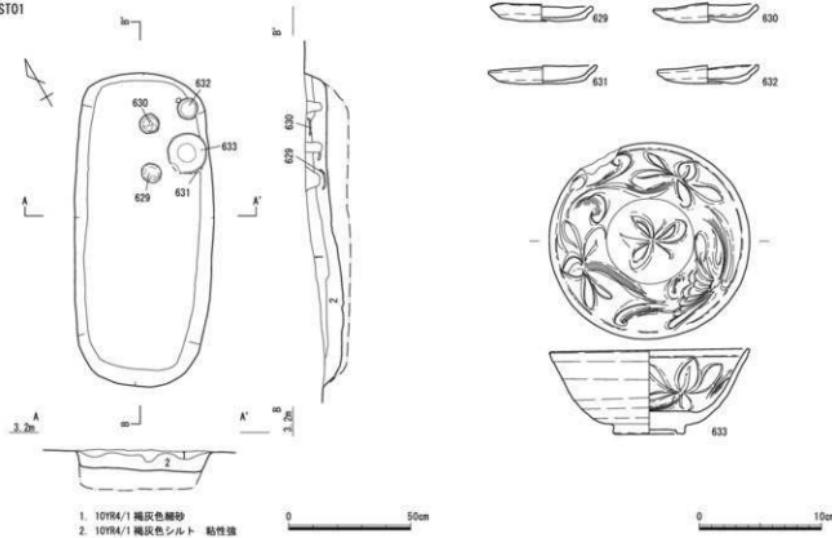


図74 ST01平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

ST02

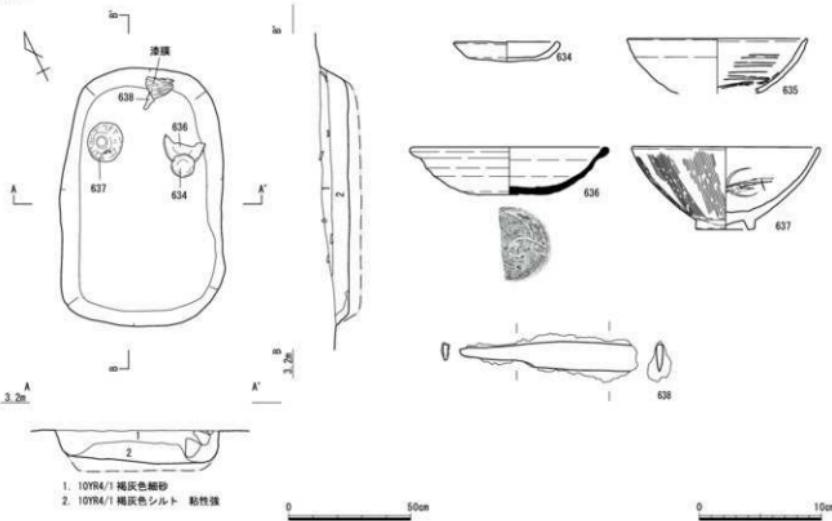


図75 ST02平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

は底部糸切りの須恵器杯、658~664は須恵器碗で664を除き、底部糸切りである。661~664の色調は白色を呈す。665~666は須恵器鉢で口縁部がわずかに拡張し外反する。667~669は土師器甕である。その他、馬の歯、獸骨が溝の東部から出土している。遺物は総じてⅣ期古段階に位置づけられる。

土坑 7基検出した。遺物は出土しているものの、性格はいずれも判然としない。

SK01 調査区南部で検出した円形の土坑である。平面規模は直径約1.8m、深さは遺構検出面から最大で10cmを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、埋土は暗褐色細砂で、須恵器碗641・642が出土した。

SK03 SK01の北約1.5mの位置で検出した東西方向に長い隅丸長方形を呈する土坑である。平面規模は長辺4.16m、短辺1.6m、深さは遺構検出面から15cmを測る。遺物は手づくね成形の土師器皿644、土師器杯645、須恵器碗646・647が出土した。

土坑出土遺物 遺物は細片が多く図化に耐えるものは少ない。SK02からは須恵器碗643、SK04からは須恵器碗648~652が出土した。651の色調は白色を呈している。

表22 10-1区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁地物	土師器皿類	須恵器皿類	その他の地物	金物	銀物	銅物	玻璃	漆器	骨角貝	野焼き合計	野焼き合計	その他の遺物	不明		
ST01	139	57	13	-	639~633	100	248	67	81	10	(2,485)	97	381	14	14	48	130			
ST02	108	67	13	-	634~636	6	51	5	123	44	25,285	14	500	5	40	-	11	8		
SK01	376	(142)	38	-	638	3	30	-	-	3	30	4	248	-	-	-	-			
SK02	388	65	15	-	-	2	20	-	-	2	20	-	-	-	-	-	2	9		
SK03	(446)	32	10	-	-	5	13	2	8	-	7	21	1	25	-	-	-	-		
SK04	43	40	13	-	640	2	15	1	2	-	3	17	-	-	-	-	-	-		
SK05	(264)	34	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SK06	(1,095)	360	25	[48:SB01]	653~669	115	595	159	2,354	85	170	229	3,079	74	1,716	15	834	-	17	2,497
SK07	(935)	50	9	[49:SB02]	-	3	9	-	-	3	9	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK01	181	10	-	-	641~642	15	39	13	108	-	-	28	147	7	45	-	-	-	-	
SK02	135	51	19	-	643	13	201	4	58	-	-	17	258	1	31	-	-	-	1	2
SK03	413	180	15	-	[644~647]	4	85	5	71	-	-	8	156	1	10	1	77	-	-	-
SK04	237	140	19	-	648~652	-	-	11	195	-	-	15	195	1	18	-	-	-	-	-
SK05	196	61	8	-	-	4	6	1	8	-	-	8	18	2	25	-	-	-	-	-
SK06	200	116	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SK07	142	36	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

柱穴 98基検出した。

柱穴内から遺物の出土は認められるが、大半が細片であり、図化に耐えるもののみ図80に示した。

SP08 検出位置はSB01内にあたる。建物を構成する柱穴ではないため、本来的な性格は不明である。埋土下層から土師器皿が4点まとめて出土した。670のみ底部糸切りで、671~673は底部ヘラ切りである。法量から判断すれば、Ⅲ期新段階に位置づけられる遺物である。

SP18 SB01の東側にある搅乱の下から検出した。埋土下層から須恵器碗口縁部674が出土した。

柱穴出土遺物 SP02からは底部糸切りの土師器碗675、SP04からは須恵器碗676、SP05からは手づくね成形の土師器皿677、SP07からは手づくね成形の土師器皿678と679が出土した。SP09からは手づくね成形の土師器皿680、SP19からは底部ヘラ切りの土師器皿681、口縁端部外面に沈線を施す土師器杯682、ヘラケズリを体部下位に施す土師器杯683、土師器杯口縁部684が出土した。総じてⅠ期に位置づけられる。

SP32からは土師器杯685、須恵器皿686が出土した。686は底部糸切りかと思われるが付着物が多く断定できない。SP38からは石鍋片687が出土した。SP54からは須恵器碗口縁部688、SP68からは見込に暗文の観察できる瓦器碗689、SP74からⅠ期

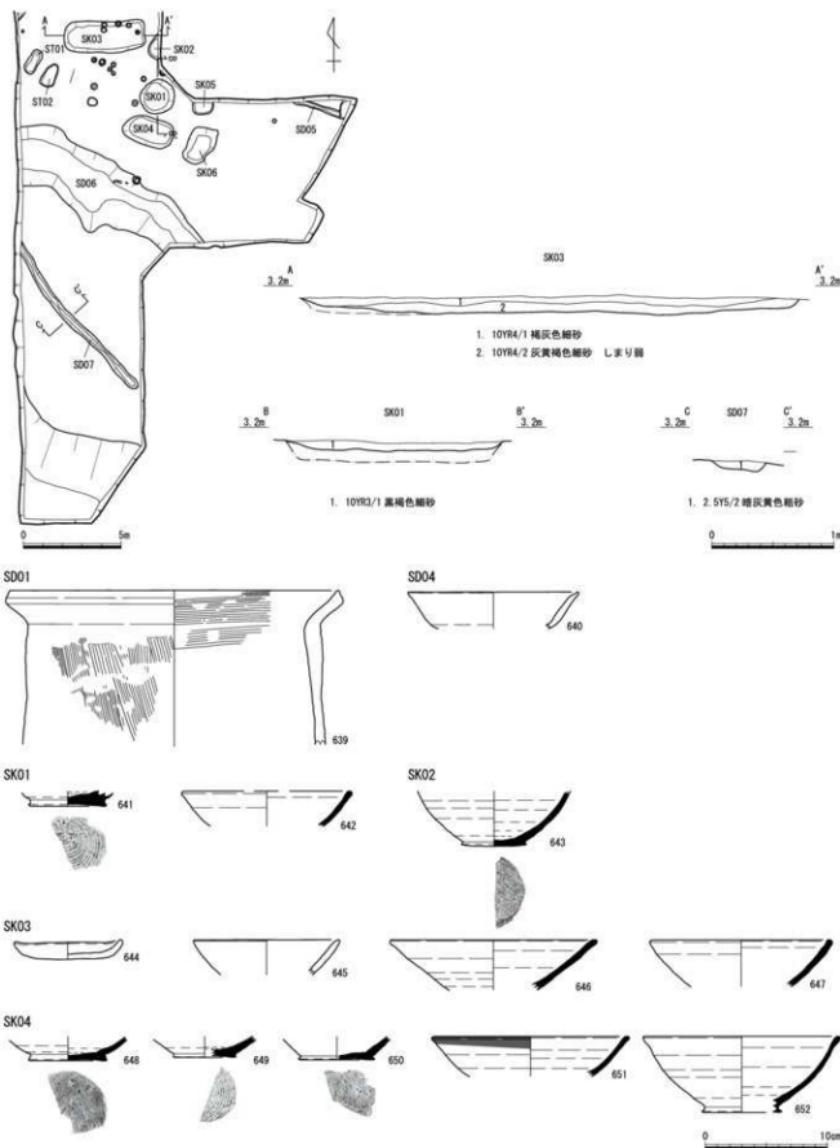


图76 10-1区土坑・溝平面図・断面図 (S=1/250・1/40)、出土遺物実測図 (S=1/4)

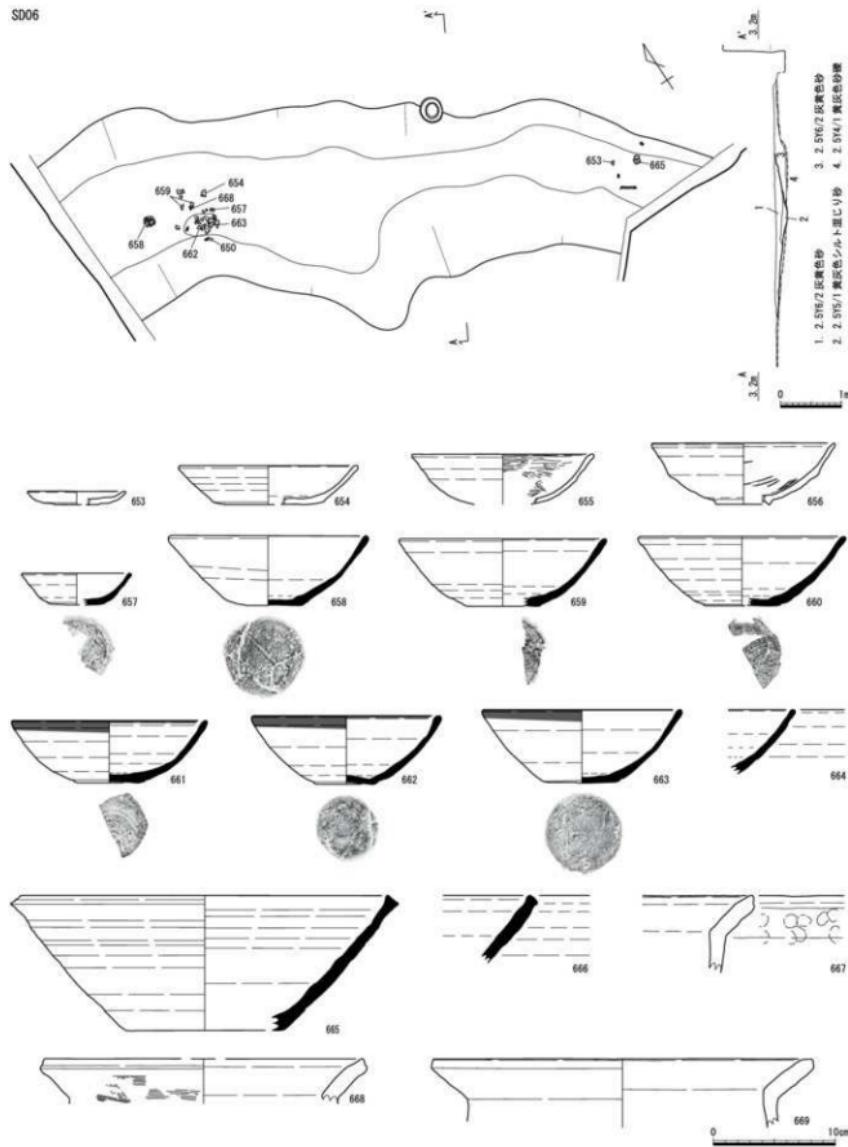


図77 SD06平面図・断面図 (S=1/80)、出土遺物実測図 (S=1/4)



図78 10-1区遺構位置図 (S=1/150)

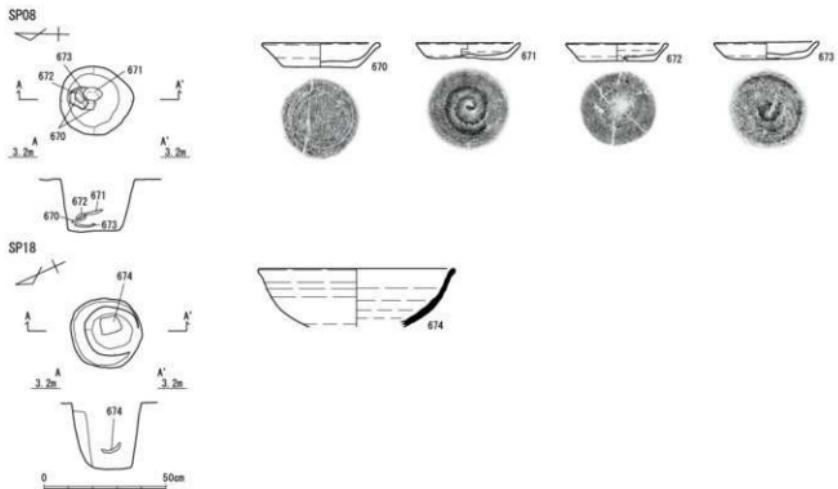


図79 SP08・SP18平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

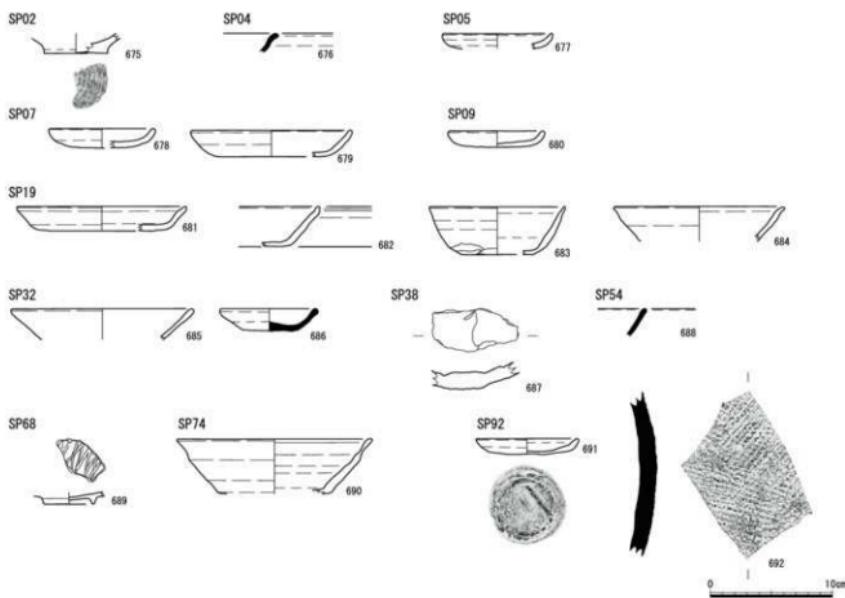


図80 10-1区柱穴出土遺物実測図 (S=1/4)

遺構に伴わ
ない遺物

に位置づけられる土師器杯690が出土している。SP92からは底部ヘラ切りの土師器皿691と須恵器壺692が出土した。これらの遺物はSB02でも確認したようにⅠ期のものとⅣ期の遺物が存在する。Ⅱ・Ⅲ期の遺物は目立たず、両時期の遺物が目立っている。

包含層からは1,674点の遺物が出土した。内訳は食膳具67.8%、調理具約13.4%、貯蔵具8.3%である。

693～699は土師器皿である。693は底部ヘラケズリを施したもの。694～696は底部ヘラ切り、697～699は手づくり成形である。700は底部ヘラ切りの土師器杯である。701～703は底部糸切りの須恵器皿、704は瓦器皿、705～709は和泉型の瓦器椀である。709は見込に平行暗文を観察できる。710は摘みの付く須恵器蓋、711は須恵器杯蓋、712と713は須恵器蓋で、摘みの有無は不明である。714は土師器杯、715は須恵器杯、716～723は須恵器椀である。底部の観察できる個体は全て糸切りで、723は高台が痕跡程度となっている。724は須恵器壺の底部であろう。底部ヘラ切り後に輪高台を貼り付けている。725～727は白磁碗である。725・726は太宰府分類Ⅳ類、727はV-1類である。728は青白磁合子蓋である。729は須恵器壺、口縁端部を上方へ拡張している。730は風字硯である。有堤式で硯頭のみ残存している。硯面は使用により平滑になっている。堤部外側はヘラケズリで仕上げている。731は竈である。焚口部及び底部の破片である。732は土師器羽釜、733は土師器壺である。

遺物は時期幅を持つが、総じてⅣ期の遺物が多く、Ⅰ期の遺物がこれに次ぐ。その様相は柱穴出土遺物等と矛盾はなく、明確な遺構は検出できていないものの本調査区周辺にもⅠ期段階において集落が展開していた可能性が高い。

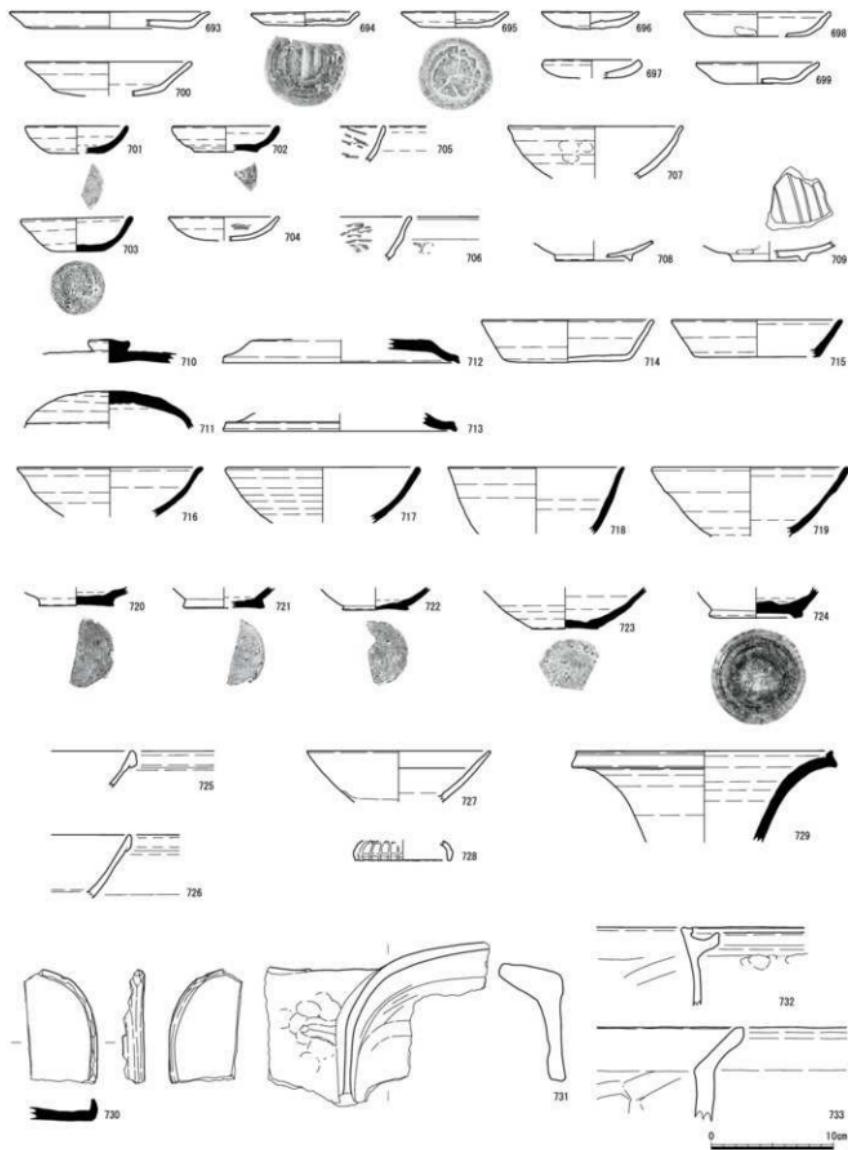


图81 10-1区包含层出土遗物实测图 (S=1/4)

表23 10-1区柱穴一覧

調査名	長さ(m)	幅さ(m)	高さ(m)	特記事項	用耕遺物	土師器食器類 品数 基準(a)	漆器食器類 品数 基準(a)	その他食器類 品数 基準(a)	金縛り合計 品数 基準(a)	錦縛り合計 品数 基準(a)	貯蔵具合計 品数 基準(a)	その他の遺物 品数 基準(a)	不明 品数 基準(a)
SP01	57	54	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP02	35	26	23	-	675	1	15	-	-	1	15	-	-
SP03	21	19	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP04	27	19	26	-	676	2	4	2	-	4	8	-	-
SP05	23	20	23	-	677	2	8	-	-	2	8	-	-
SP06	25	24	28	SP01	606	3	10	1	44	-	4	34	-
SP07	29	24	27	-	616-539	5	51	-	-	5	52	1	10
SP08	49	38	27	-	676-572	7	61	-	-	7	67	-	-
SP09	31	31	31	-	680	3	12	-	-	3	12	1	6
SP10	34	34	34	SP01	610	2	30	-	-	2	30	-	-
SP11	26	23	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP12	40	30	27	SP01	611-613	7	38	2	16	20.2	5	11	58
SP13	39	25	25	SP01	614	2	18	-	-	2	15	-	-
SP14	24	24	14	119SP04	717-729	2	2	3	31	1	2	8	-
SP15	35	33	14	-	-	-	-	1	7	-	1	2	-
SP16	34	33	22	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP17	28	24	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP18	29	26	17	-	674	-	-	1	45	-	1	45	-
SP19	51	41	17	-	681-684	12	142	9	-	13	151	-	-
SP20	31	27	28	SP01	620-622	20	217	1	2	22	219	5	89
SP21	41	45	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP22	35	30	23	SP01	623-625	7	71	-	-	7	71	1	12
SP23	35	34	22	SP01	615	4	76	-	-	4	76	1	22
SP24	45	41	29	SP01	616-619	4	115	-	-	4	115	1	415
SP25	27	26	26	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP26	35	30	27	-	-	5	2	2	11	3	13	-	-
SP27	34	22	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP28	38	35	37	SP03	-	-	-	-	-	-	2	37	-
SP29	32	31	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP30	26	21	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP31	22	22	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP32	27	24	14	-	686-688	1	10	1	90	-	2	80	1
SP33	27	23	22	SP03	-	1	52	-	-	1	52	-	-
SP34	33	30	14	-	625	-	-	1	52	-	-	-	-
SP35	45	38	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP36	31	27	21	-	-	3	3	-	-	3	3	1	20
SP37	29	22	15	SP01+	-	1	1	2	13	-	3	14	1
SP38	29	26	14	-	687	1	8	-	-	1	8	-	1
SP39	26	23	15	SP03	-	1	4	-	-	1	4	-	-
SP40	19	18	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP41	36	34	30	SP01	627-628	4	14	8	33	-	10	47	-
SP42	24	21	17	-	-	1	2	-	-	1	2	-	-
SP43	26	26	26	-	682	-	1	1	6	-	2	7	-
SP44	32	26	18	SP03	-	1	1	1	6	-	1	6	-
SP45	37	34	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP46	37	33	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP47	41	37	25	-	-	1	10	-	-	1	10	-	-
SP48	36	33	8	SP03	-	8	20	2	4	-	10	24	2
SP49	19	18	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP50	27	25	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP51	36	32	18	-	-	1	10	-	-	1	10	-	-
SP52	38	31	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SP53	24	21	16	-	7	10	4	64	-	13	74	-	-
SP54	14	12	13	-	688	-	1	5	-	1	5	-	-
SP55	31	29	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP56	24	22	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP57	27	26	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP58	39	32	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP59	25	23	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP60	23	21	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP61	19	18	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP62	21	21	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP63	39	28	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP64	49	43	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP65	29	26	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP66	36	(17)	12	-	-	-	-	2	11	-	2	11	-
SP67	20	19	13	-	-	-	-	2	11	-	-	-	-
SP68	27	25	21	-	689	8	44	4	12	1	5/5	12	64
SP69	27	25	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP70	34	33	11	119SP04	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP71	29	26	27	-	-	2	2	1	17	-	3	19	1
SP72	36	34	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP73	40	37	23	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP74	31	29	19	-	690	1	38	-	-	1	38	-	-
SP75	31	26	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP76	38	32	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SP77	33	27	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP78	31	27	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SP79	34	31	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP80	25	22	18	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP81	25	25	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP82	29	25	12	-	-	1	9	-	-	1	9	-	-
SP83	23	21	30	SP01	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP84	30	22	31	-	681-692	9	80	1	2	-	10	67	1
SP85	37	31	13	SP03	-	-	-	-	-	-	-	-	1
SP86	27	21	37	SP03	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP87	30	26	21	SP03	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP88	40	27	21	SP01	-	-	1	14	-	1	14	-	-
SP89	38	24	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP90	43	40	13	2006-4	-	6	14	5	11	-	11	29	1

第14節 10-2区の調査 (図82)

位置 10-1区の南側、8区の西側に位置する調査区である。現道の拡幅部分に該当し、幅員は平均3m、延長は40mを測る。

層序 基本層序は盛土、耕土、灰黄褐色～黃灰色シルトを経て黃灰色砂礫もしくは暗灰色シルトの地山に至る。この層の上面が遺構検出面と想定される。遺構検出面の標高は概ね3.0mである。調査区の南側では地山がなだらかに下がり、最深部で標高2.8mを測る。

検出遺構 全く確認できなかつた。10-1区南端で検出した落込みと本調査区の北端の位置は概ね対応するが、10-1区から伸びる落込みは確認できなかつた。

10-1区においてはSD07以南に遺構が確認できず、10-2区においても遺構が確認されていない。こうした遺構と遺物が希薄な状況は12-3区と共に通するものである。

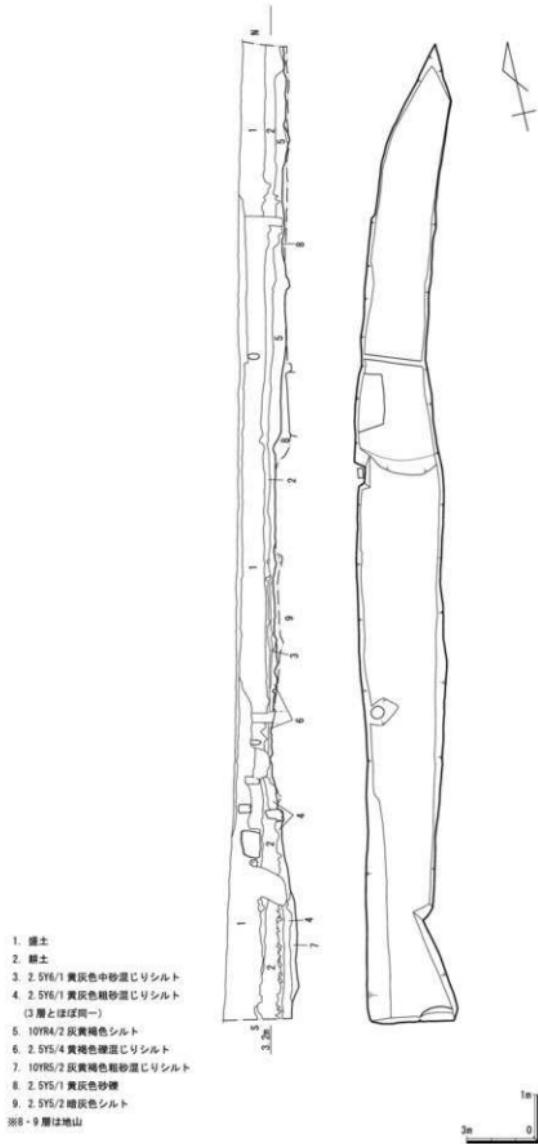


図82 10-2区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)

第15節 11区の調査(図83~95、表24~26)

- 位置** 10区の西側、6区の南側に位置する調査区である。幅員は5m、延長は96mを測る。調査は2次に分けて行った。
- 層序** 基本層序は耕土、床土を経て黄灰色砂礫層に至る。調査区の東部のみ10-1区で認められた遺物包含層である褐灰色細砂が砂礫の上位に堆積している。調査区の西部では砂礫層が落ち込み、その上位に褐色細砂が堆積している。遺構は全て砂礫層の上面で検出した。遺構検出面の標高は東側で3.3m、SX01より西側で2.9mである。
- 検出遺構** 検出した遺構は掘立柱建物跡5棟、土坑墓1基、溝4条、土坑11基、柱穴120基である。検出状況は調査区のはば中央に位置するSD01より東側に遺構が集中する。西側では地形が落ち込み、遺構が希薄になる。
- SB04** 10-1区と11区が接する位置で検出した。検出状況はSB05と重なるが、柱穴の直接的な切合い関係は確認できない。SB05とはほぼ一連の位置関係となるが、柱間寸法から別々の建物跡と解釈した。調査区外に広がるため全容は判然としないが、2間×2間以上の建物跡である。10-1区SP14-SP89を基準とした棟方向はN11°Eである。平面規模は東西方向2間で4.7m、南北方向2間以上で4.3m以上を測る。柱穴間の寸法はSP14-SP96の東西方向で西側から2.5m、2.2mを測る。SP14-SP89の南北方向で北側から2.1m、2.2mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径28~34cm、深さは遺構検出面から10~16cmを測る。
SP102と10-1区SP14から団化に耐える遺物が出土した。SP102の埋土下層からは手づくね成形の土師器皿734・735・736が出土している。SP14からは須恵器椀737・738が出土した。738は底部糸切りである。SP77からは瓦器皿739が出土した。遺物が少なく、厳密に時期を比定することは難しいが、土師器皿の様相から概ねⅣ期古段階に位置づけられると考える。
- SB05** 調査区の東端で検出した。検出状況はSB04、SB06と重なるが、柱穴の直接的な切合いは存在しない。調査区外に広がる2間×1間以上の建物跡である。SP71-SP77を基準とした棟方向はN18°Eである。平面規模は東西方向2間で5.3m、南北方向は2.1m以上を測る。柱穴間の寸法はSP77-SP98の東西方向で西側から2.6m、2.7mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径30~36cm、深さは遺構検出面から20~28cmを測る。
- 遺物はSP77から瓦器皿739が出土している。
- SB06** 調査区の東側北壁沿いで検出した。検出状況はSB05、SB07と重なるが、柱穴の直接の切合い関係は確認できない。調査区外に広がる。検出状況では1間×2間以上の建物跡であるが、側溝中にも柱穴が存在した可能性がある。SP67-SP81を基準とした棟方向はN45°Wである。平面規模は東西方向2間で4.4m、南北方向2.1m以上を測る。柱穴間の寸法はSP67-SP81間で西から2.1m、2.3mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径34~40cmを測る。深さは遺構検出面から20~30cmである。
- SP67とSP79から団化に耐える遺物が出土した。SP67の掘方から底部ヘラ切りの土師器皿740、SP79からは底部ヘラ切りの土師器皿741が出土した。
- SB07** 調査区東側、北壁沿いで検出した。検出状況はSB05と重なるが柱穴の直接的な切

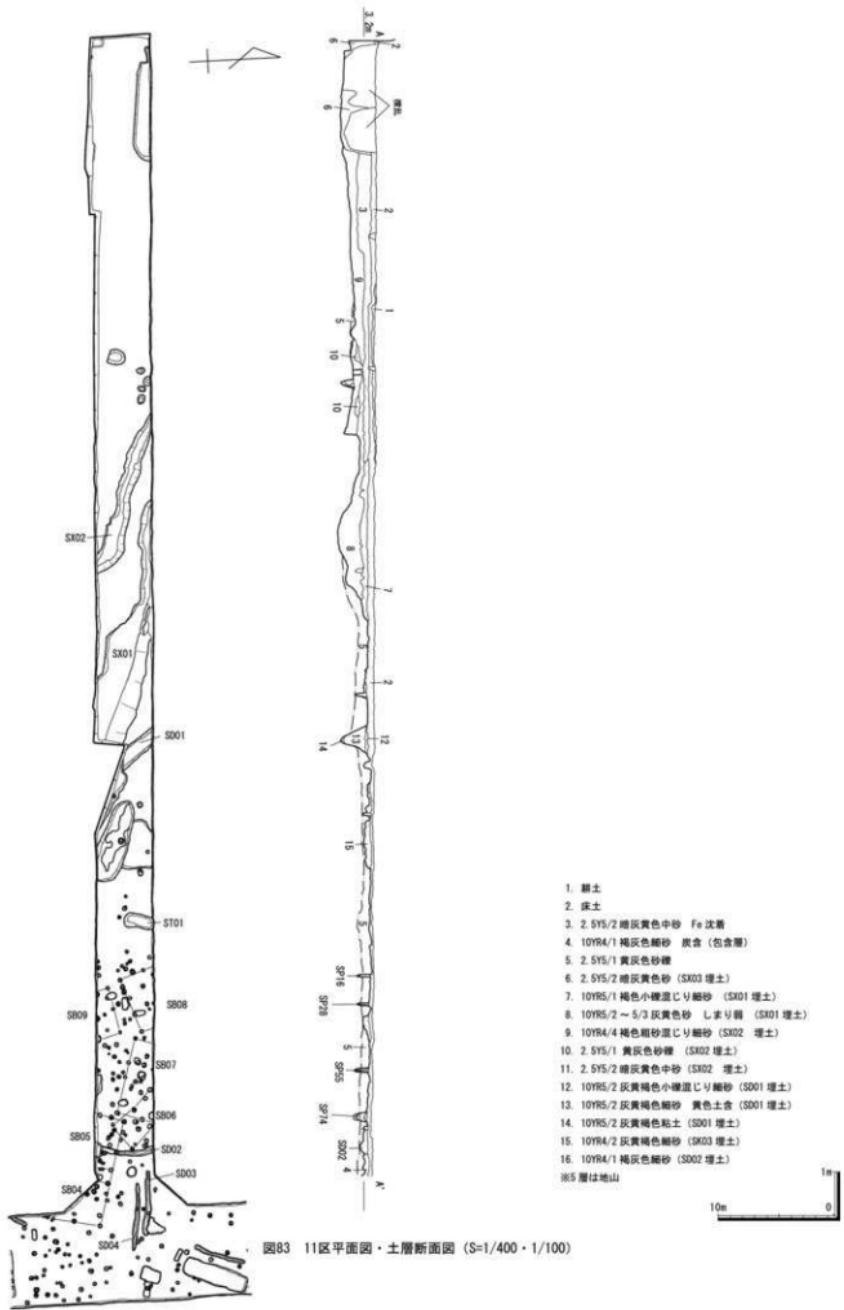


図83 11区平面図・土層断面図 (S=1/400・1/100)

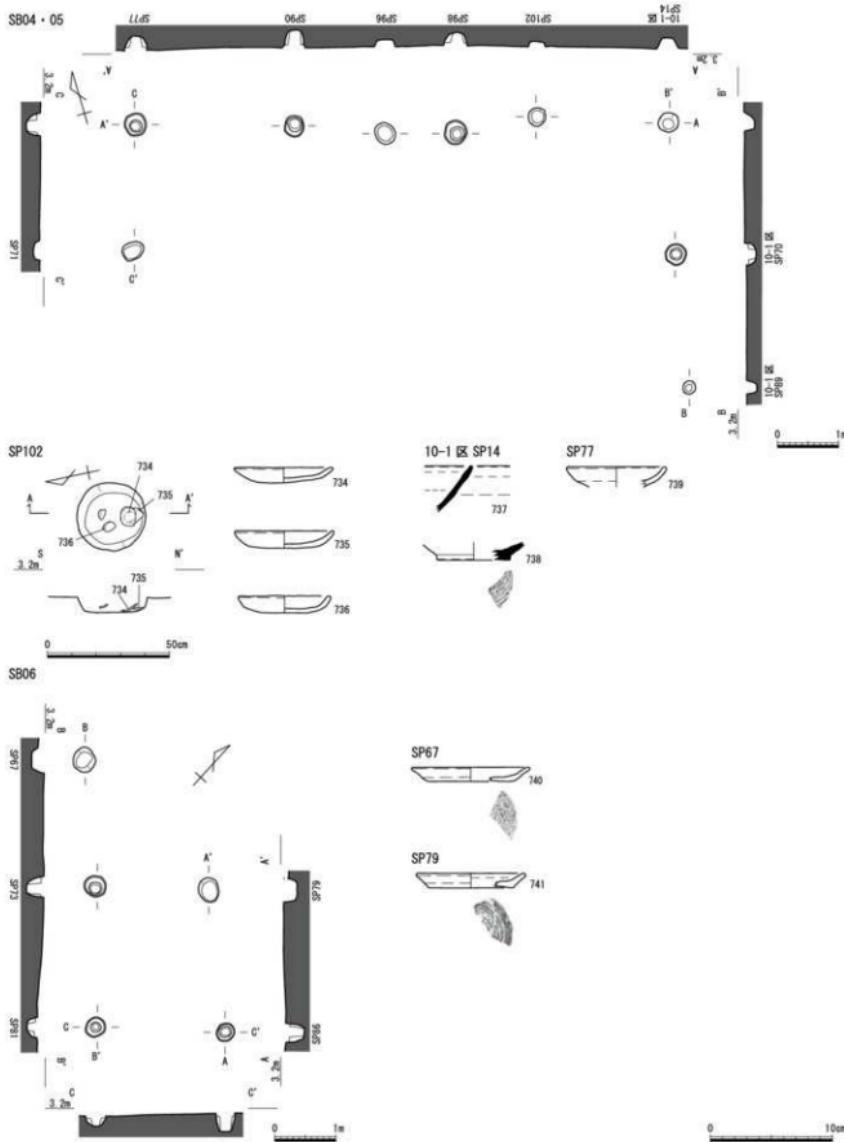
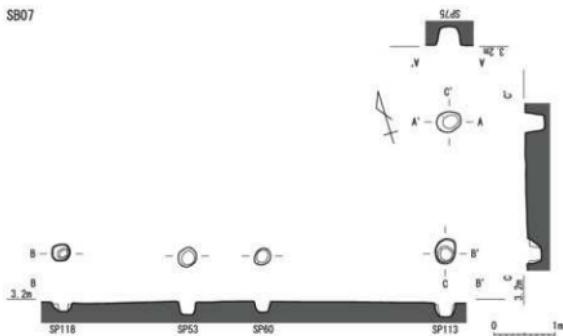
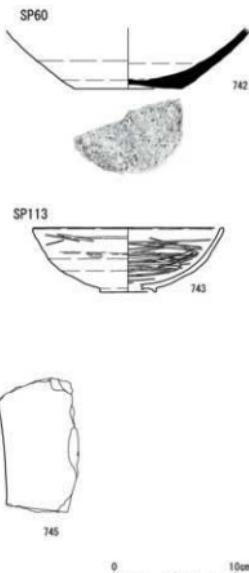


図84 SB04・SB05・SB06平面図・断面図 (S=1/80・1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

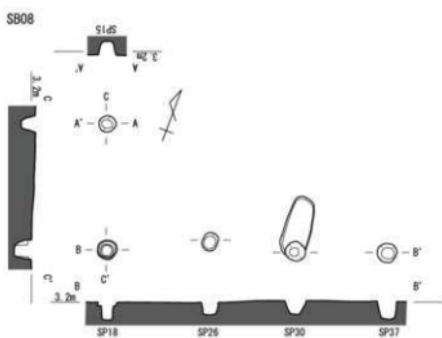
SB07



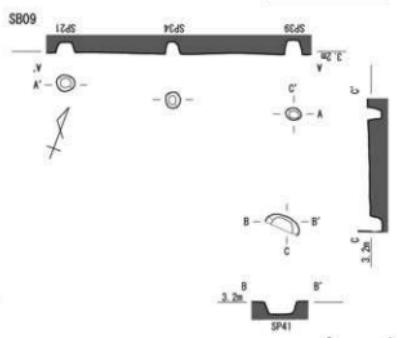
SP113



SB08



SP09



SP18



SP37



SP41



0 10cm

図85 SB07・SB08・SB09平・断面図 (S=1/80・S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

合い関係は確認できない。調査区外に広がると考えられ全容は不明であるが、検出状況では3間×1間以上の建物跡である。SP75-SP113を基準とした棟方向はN18°Eである。平面規模は東西方向3間で6.3m、南北方向2.2m以上である。柱穴間の寸法はSP113-SP118間で西から2.0m、1.2m、3.0mを測り、バラつきが大きい。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径26~40cmを測る。深さは遺構検出面から14~30cmである。

SP60、SP75、SP113から出土した遺物を図示した。SP60からは須恵器鉢742が出土した。SP75の埋土中位から白磁碗744の底部が出土した。太宰府分類IV-1類である。下層からは砥石745が出土した。凝灰岩製で3面に使用痕跡が確認できる。SP113からは瓦器椀743が出土した。和泉型瓦器椀III-1期の資料である。これらの遺物から概ねIV期古段階の時期と想定される。

SB08 SB09の北側で検出した。3間×1間以上の建物跡である。SP15-SP18を基準とした棟方向はN20°Wである。平面規模は東西方向3間で4.6m、南北方向は2.1m以上を測る。柱穴間の寸法はSP18-SP37間で西から2.0m、1.2m、3.0mを測り、バラつきが大きい。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径30~40cmを測る。深さは遺構検出面から20~28cmである。柱穴から遺物の出土はないが、建物の主軸が西に傾くことからSB08と同様の時期と考える。

SP18からは手づくね成形の土師器皿746、SP26からは手づくね成形の747、同掘方から須恵器壺748が出土した。SP37からは非ロクロ成形の土師器杯749と底部糸切りの須恵器椀750が出土した。10-1区SB02同様、I期の資料とIV期の資料が混在する状況であるが、総じてIV期に位置づけられる。棟方向が西に傾く状況も10-1区SB02と同様で、これらは同時期の所産と考えられる。

SB09 調査区の南壁に沿って検出した。2間×1間以上の建物跡である。SP39-SP41を基準とした棟方向はN15°Wである。平面規模は東西方向2間で3.8m、南北方向は1.9m以上である。柱穴間の寸法はSP21-SP39間で西から1.8m、2.0mを測る。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径25~60cmを測る。深さは遺構検出面から18~20cmである。

遺物はSP41から出土した。底部指圧痕の残る土師器杯751と須恵器椀口縁部753が、掘方から751と同じ土師器杯口縁部752が出土した。遺物はI期に位置づけられるが、棟方向がSB08と共通することから同時期の建物跡であろう。

ST01 SB09から西へ約3.2mで検出した。検出時には石材が露出しており、それを囲うように隅丸長方形の南北方向に長い平面プランを確認した。平面規模は長辺2.4m、短辺1.2m、深さは遺構検出面から最大で25cmを測る。墓の主軸はN20°Eである。土坑中央に板状の石材が5石連なっている。その周囲を取り囲むように側面・小口を構成すると考えられる石材が認められた。土坑中央で検出した石材は側面・小口にあたる石材とは直接組み合わない。このことから天井を構成する石材とは判断できないが、北側にある一部の石材を除き、石材の底面レベルが比較的揃っているため、木棺の上部に置かれていた石材と思われる。長辺約40cm、短辺30cm、厚さ15cm程度の割石である。側面及び小口の石材はそれよりもやや小ぶりで長辺25cm、短辺10~20cm、厚さ20cmである。側面と小口部分で検出した石材は一部抜けている部分もあるが土坑の周

間に配された状況であった。土坑北側では木棺痕跡が確認できることから掘方内に棺を納めた後、周囲を石で囲った構造であったと考えられる。木棺の木質は全く残存していなかったが、木質の一部が粘土化するとともに側板と小口板とを連結した鉄釘を8本検出した。鉄釘はいずれも折釘で758・759には木質が遺存している。2本の釘が鋤着したものも出土している。木棺は痕跡から南北に長く長辺1.67m、短辺40cmと想定される。棺内北側には土壤化した被葬者の脚部と考えられる粘土が確認された。埋土については全量篩選別したが歯等は見つからなかった。土坑南側から白磁碗756と土師器皿754が正置の状態で出土した。土師器皿755は底面よりやや浮いた状態で出土した。托皿の西側からガラス玉757が出土した。遺物の出土状況から頭位は南向きと想定する。

南側小口の棺外にあたる部分から土師器皿760～764と土師器杯765が重なった状態で出土した。これらは棺外副葬品と考えられる。土師器はいずれも底部ヘラ切りである。棺東側の石材が欠けている部分からは須恵器甕片766が直立した状態で出土している。この遺物は副葬品というよりも石材の代替として棺を開んだものと推測する。遺物の様相からⅢ期新段階に位置づけられる。

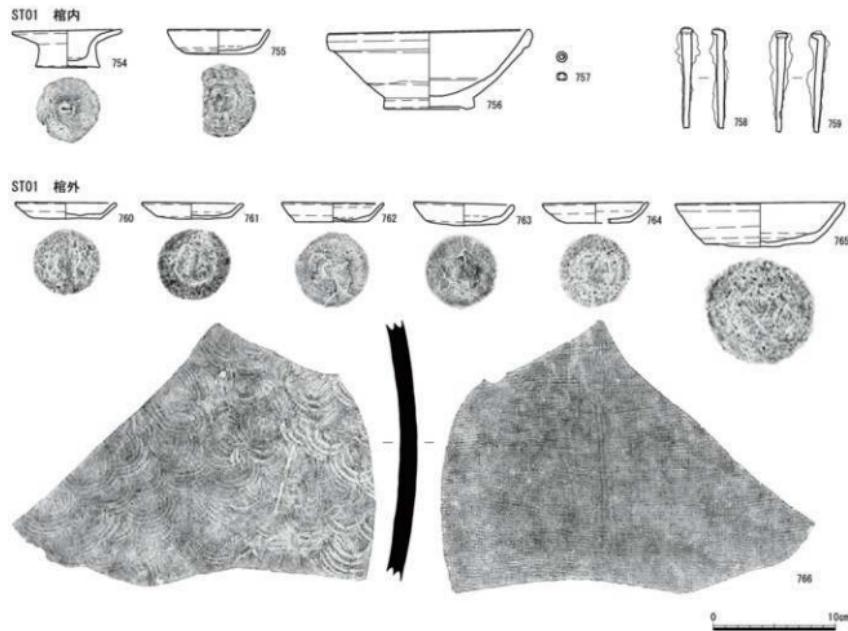


図86 ST01出土遺物実測図 (S=1/4)

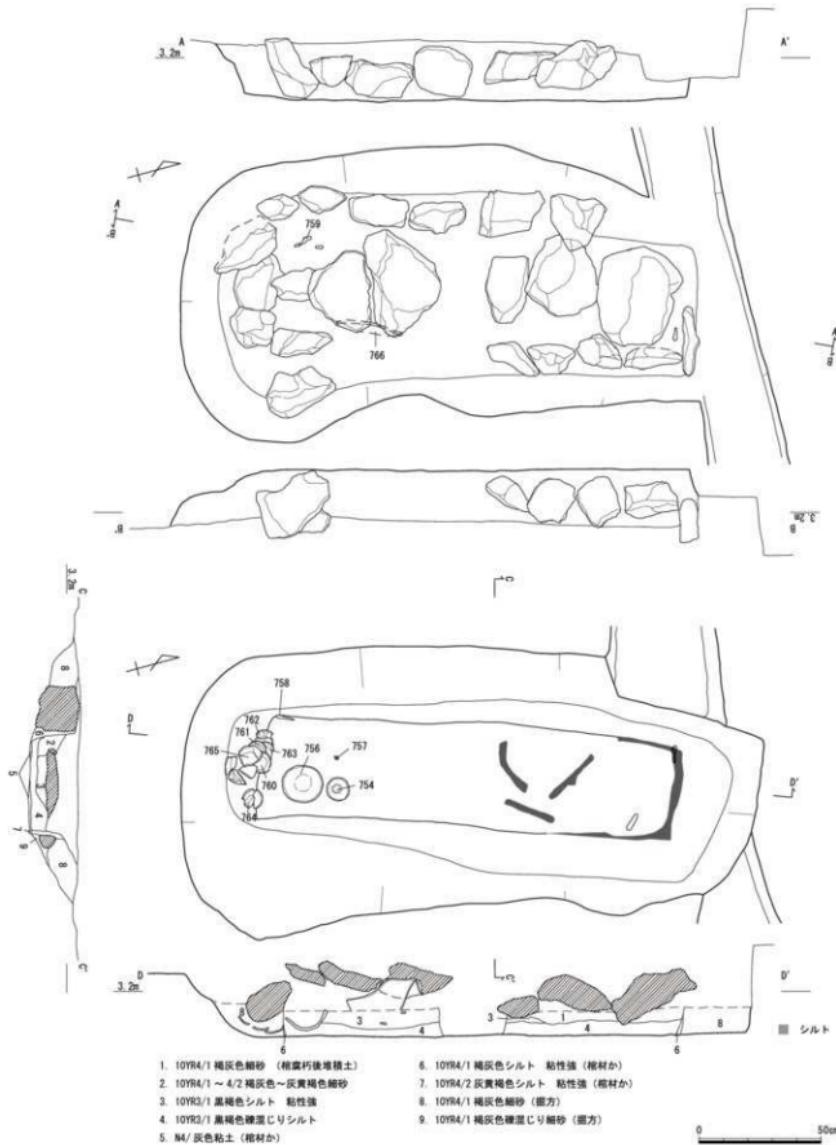


図87 ST01平面図・断面図 (S=1/20)

溝	4条検出した。SD01を除けば、その性格は判然としない。
SD01	調査区のほぼ中央で検出した。SK01に切られている。延長5.5m、幅1.18m、深さは遺構検出面から50cmを測る。溝の主軸はN35°Wで、6-2区SD01と接続すると考えられ、何らかの区画溝と考えられる。遺物は出土していない。
SD02	調査区の東部で検出した。検出状況はSB05と重なり、SP90がSD02を切ることからSB05に先行する。延長4.1m、幅52cm、深さは遺構検出面から最大で13cmを測る。建物跡との関係は不明であり、性格は判然としない。遺物は土師器蓋767、須恵器椀768が出土した。
土坑	11基検出した。他の調査区に比べて大型の平面形を呈すものが多いが、遺構の性格が判明するものはない。遺物は細片が多く、図示に耐えるSK02とSK03、SK11について記載し、他は一覧にて示す。
SK02	SD01の東約4mで検出した東西方向に長い楕円形を呈す土坑である。一部調査区外へ広がる。検出状況はSK03を切り、SP120に切られる。平面規模は長辺6.97m、短辺2.45m、深さは遺構検出面から14cmを測る。埋土中より須恵器椀768が出土した。
SK03	SK02の北側で検出した。平面プランはSK02に切られ、調査区外に広がるため全容は不明である。平面規模は長辺4.2m、短辺2.05m、深さは遺構検出面から最大で17cmを測る。遺物は埋土中から須恵器椀770、白磁碗771、土師器壺772が出土した。
SK11	調査区西部の落込みSX02の下層にあたる砂礫層上面で検出した。平面形は南北方向に伸びる長円形を呈すと考えられる。平面規模は長辺1.44m以上、短辺1.25m、深さは遺構検出面から最大で22cmを測る。埋土はにぶい黄褐色細砂でSX02の埋土に近い。周辺で検出したSK07～SK10についても同様の埋土である。遺物は青磁碗769が出土した。遺構の雰囲気から落込み下層に集落等が広がるようには考えられない。
落込み	調査区の西部の大半は地山が落ち込み、11区東側との比高差は30～40cmを測る。規模は調査区を超えて広がるため不明であるが、12区から10-1区の南側まで続いている。
SX01	落込みのうち、東側で溝状になった部分をSX01とした。自然堆積土により埋まっているため、南側の肩の掘込みが明確に確認できず、溝と呼称するには違和感があったことからSXと呼称した。埋土中から多くの遺物が出土した。なお、10-1区で検出したSD06は位置的に本遺構の延長部分である可能性が高い。
	遺物は図89・90に示した。773～779は手づくね成形の土師器皿である。780は土師器杯である。781は平高台土師器椀である。底部の詳細は不明であるがC1タイプであろう。782は紐状の輪高台を貼り付ける椀で白色を呈す。783～789は白磁碗、790は青磁碗、791～793は瓦器椀である。794は内黒の黒色土器で底部は糸切り平高台である。類例は梶原・番丁田遺跡から出土している。795は土師器壺である。体部は直立し、端部はそのまま丸くおさめる。796・797・801は土師器壺である。797は口縁部が逆L字状に立ち上がる器形である。798～800は土師器羽釜で、鉄鍋を祖形とする器形である。802～805は三足壺の脚部で、803は瓦質羽釜の脚部である。806～809は須恵器椀でいずれも糸切りである。高台の無い806・807と平高台を有す808・809がある。810・811は須恵器鉢はいずれも端部の拡張がない。810はやや内湾し、811は直線的な体部である。812は須恵器壺底部である。813～816は須恵器壺である。813・814は外面に平行タタキ、816は外面に格子タタキを施す。817～822は瓦で、817

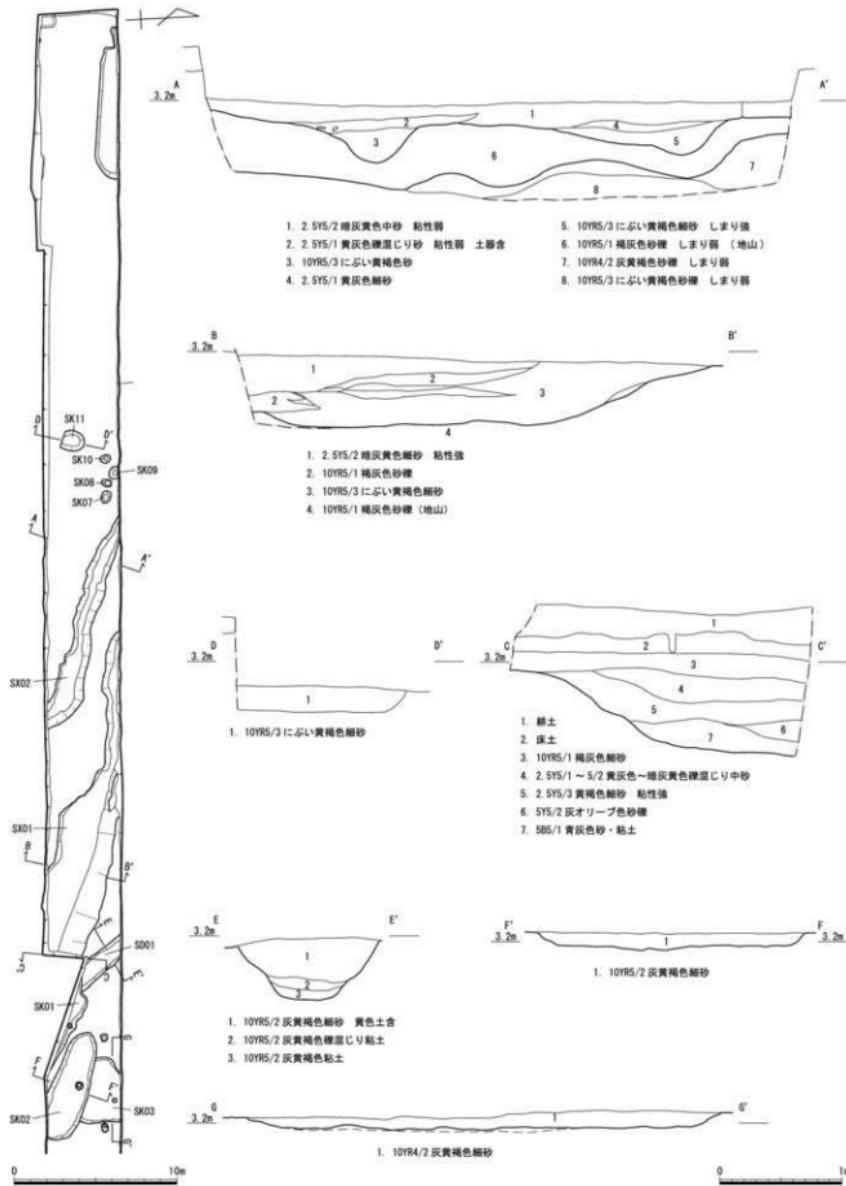


図88 SX01・SX02・SD01・SK02・SK03平面図・断面図 (S=1/300・1/40)

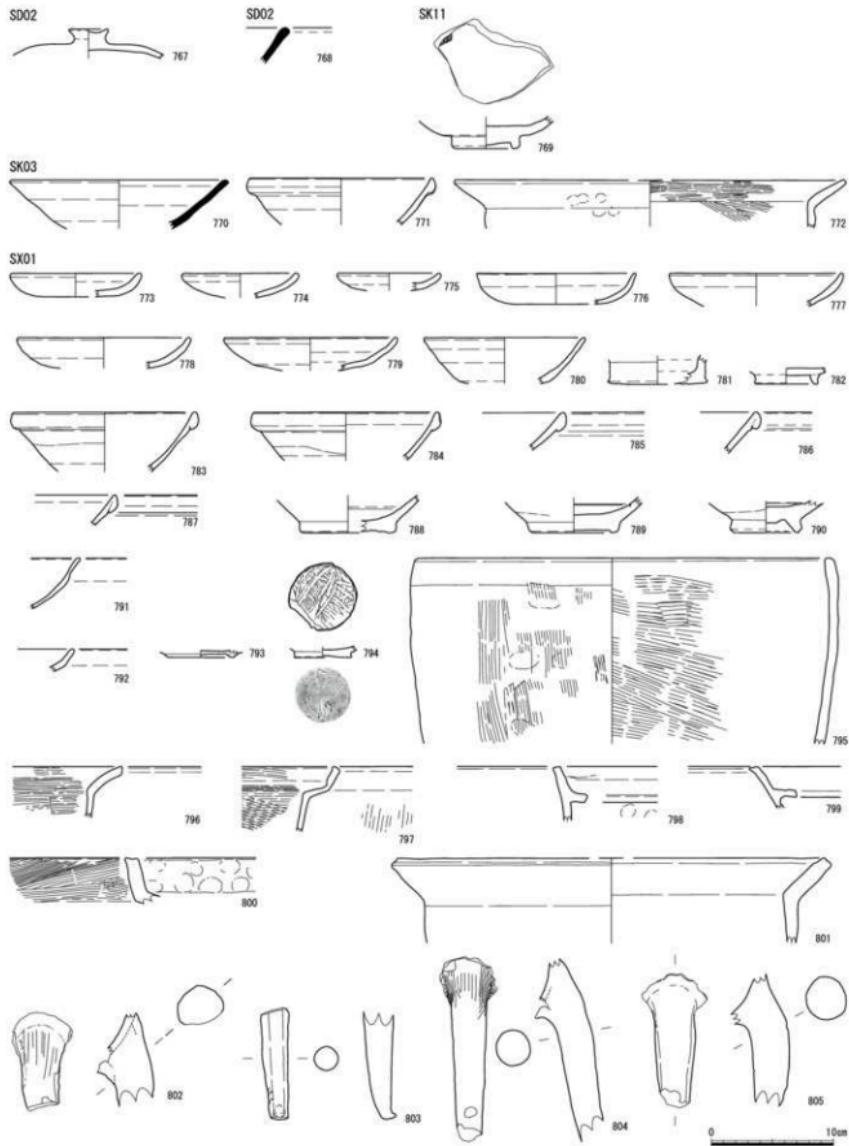


図89 SD02・SK02・SK03・SK11・SX01出土遺物実測図 (S=1/4)

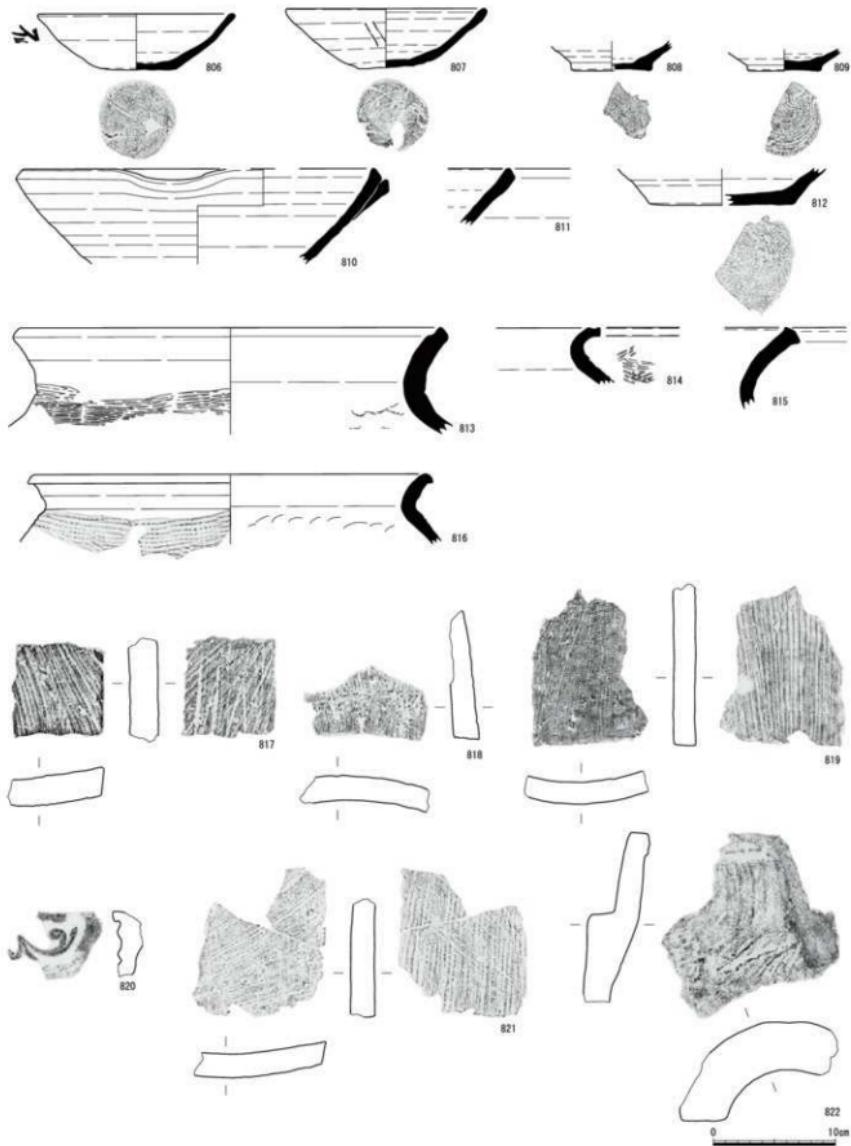


図90 SX01出土遺物実測図 (S=1/4)

～819、821は平瓦。817と821は凸面に平行タタキ後斜め方向の粗いハケを施す。内面も同様のハケを施す。818は凸面綱目タタキである。819は凸面に縦方向の平行タタキ、822は丸瓦で側面端部を面取りする。特筆できる遺物として均整唐草文軒平瓦820がある。平安時代後期に位置づけられるもので本町遺跡、あるいは播磨国分寺跡で出土しているものと同文である。遺物は総じてⅣ期古段階におさまるもので、10-1区SD06と同時期である。遺物の様相からも両者が一連の遺構である可能性が高い。

SX02 東端は一部溝状を呈すが、全体としては調査区西端まで続く落込みである。トレチ4において砂礫層の下位まで断割りを行った。本区の遺構検出面とした砂礫層は厚さ20～50cmであり、その下位に新たな砂礫層の堆積を確認した。SX01からは多くの遺物が出土したが、SX02からは図化に耐える遺物は出土していない。

柱穴 120基検出した。建物に伴うのは27基で、伴わないものが93基である。遺物の出土状況を把握できた5基について記載する。その他は一覧に示した。

SP56 検出位置はSB07の内側にあたるが、SB07との関係は不明である。平面形は概ね円形を呈し、平面規模は直径71cm、深さは遺構検出面から23cmを測る。埋土中から比較的まとまって遺物が出土した。823は土師器皿で底部へラ切りである。824・825は土師器杯、826は底部糸切りの土師器椀、827～831は須恵器椀である。827は底部を摩滅しているがヘラ切りとみられる。830・831は糸切りである。832は須恵器の片口部分である。827が古層を示すが概ねII期新段階に位置づけられる。

SP68 検出位置はSB06の内部にあたるが、SB06との関係は不明である。平面形は円形を呈し、平面規模は直径約30cm、深さは遺構検出面から41cmを測る。埋土から土師器皿833が、掘方から須恵器椀834・835が出土した。

SP72 検出位置はSB05の内側にあたるが、SB05との関係は不明である。平面形は円形を呈し、平面規模は長辺38cm、短辺32cm、深さは遺構検出面から18cmを測る。柱痕跡の直径は約20cmを測る。柱痕跡内の埋土上位から瓦質土器三足羽釜836が出土した。脚部貼付け痕が残る。

SP80 検出位置はSB06の内側にあたるが、SB06との関係は不明である。平面形は円形を呈し、平面規模は直径約40cm、深さは遺構検出面から18cmを測る。埋土から中空の土師器托皿837と須恵器壺838が出土した。このうち838については、9区と10区の包含層から出土した破片が接合した。

SP88 SD02に近接した位置で検出した。平面形は長円形を呈し、平面規模は長辺46cm、

表24 11区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁地質	土師器食器類		漆器食器類		その他食器類		食器合計		漆器合計		狩猟具合計		その他遺物			
						点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)		
SD01	240	120	25	木棺巻167、鉢形40 754-764	140	630	31	138	632	438	14	1206	41	225	1	188 ガラス	1	83	41		
SD01	170	120	48	806-807	6	20	1	5	-	-	7	25	-	-	2	128	-	-	2	66	
SD01	410	53	13	SP56+ SP99-	767	-	5	-	-	-	2	-	2	-	2	192	-	-	1	64	
SD03	527	46	9	10-1【SP01】	-	5	24	1	2	-	-	6	26	-	-	-	-	-	-	1	
SD04	556	40	11	10-1【SP10】	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
SD04	600	80	10	SD01+	-	1	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
SD02	(697)	245	14	SD33+	768	47	114	19	87	瓦1	3	67	204	19	187	5	171 セ1	67	9	25	
SD04	(470)	(205)	17	SD30-	770-772	8	12	4	84	SD1	42	11	138	6	135	3	77	-	-	1	50
SD04	156	8	9	-	-	1	5	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD05	170	(38)	10	-	-	9	2	2	3	-	-	11	12	1	8	-	-	-	-	-	
SD06	122	(43)	8	SD02+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD07	75	58	24	【下層SK01】	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	19	-	-	-	-	-	
SD08	64	43	17	【下層SK02】	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD09	75	56	24	【下層SK03】	-	1	2	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD10	55	56	16	【下層SK04】	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SD11	(144)	81	17	【下層SK05】	769	-	-	-	-	1	106	1	106	-	-	-	-	-	-	-	
SD01	(2,000)	(360)	173	SD22	162	979	131	1,305	81/64/1	1,250/15	308	2,715	120	2,135	62	3,419 ■/■/■	265/1856	43	4,735		
SD02	(1,260)	(180)	30	-	-	45	154	19	66	白1	14	65	234	17	127	4	180	-	-	2	27

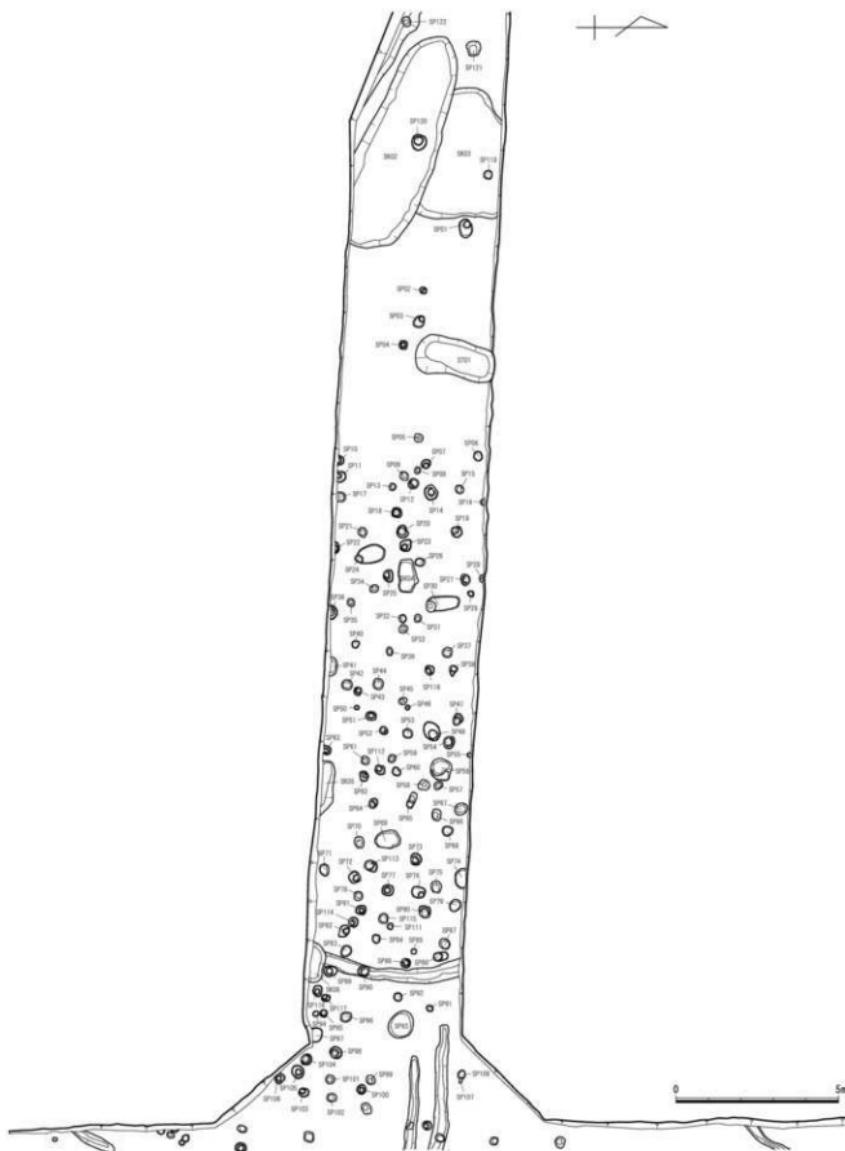


図91 11区遺構位置図 ($S=1/150$)

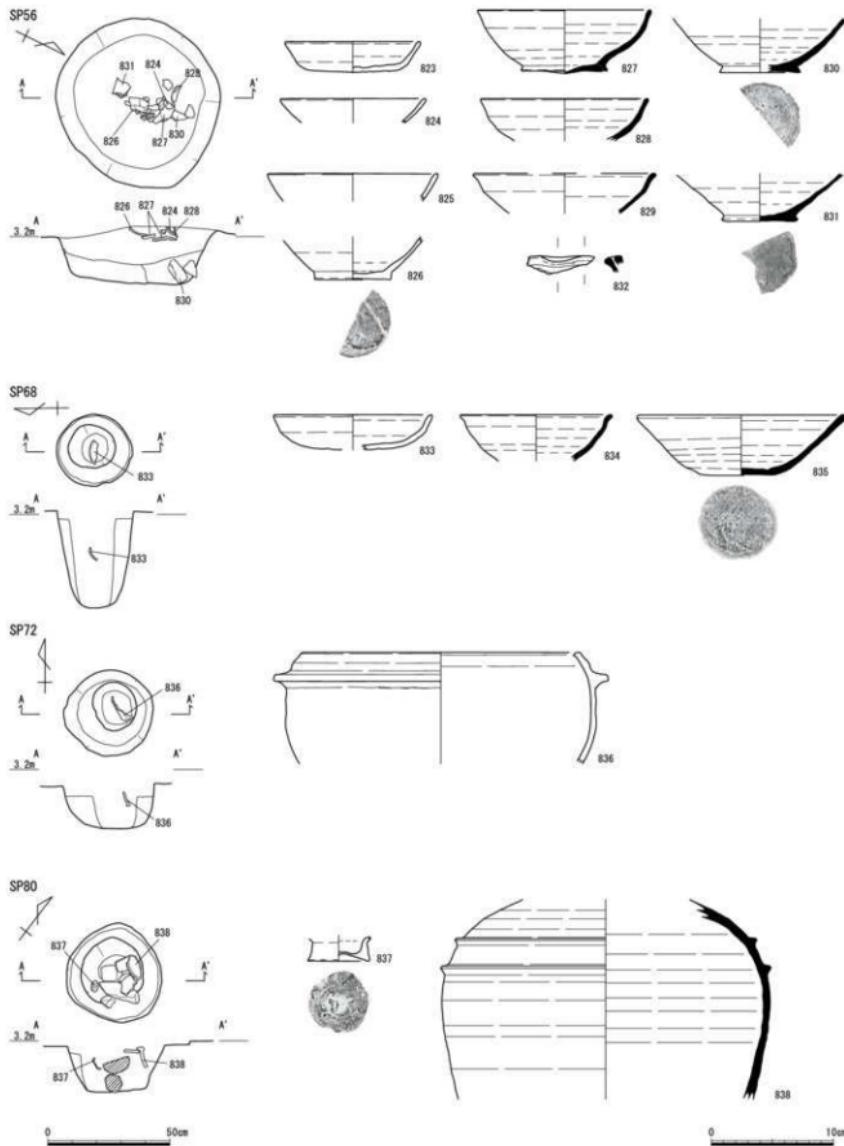


図92 SP56・SP68・SP72・SP80平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

短辺27cm、深さは遺構検出面から22cmを測る。柱痕跡の直径は約25cmを測り、埋土の上位から須恵器鉢の底部839が出土した。

柱穴出土遺物 SP02からは土師器堀脚部840、SP14からは底部糸切りの須恵器碗841、SP22からは須恵器碗842、SP33からは土師器皿843～850がまとめて出土した。SP47からもまとまって土師器皿851～854が出土した。いずれも端部をシャープに作り出している。法量は8.0cm前後に縮小しており、Ⅳ期新段階に位置づけられる。SP48からは須恵器碗855、SP54からは須恵器碗856、SP87からは須恵器碗857、SP92からは須恵器碗858、SP104からは軒丸瓦860が出土した。瓦当面は剥落している。SP112からは須恵器鉢859が出土した。

遺構に伴わない遺物 包含層からは多くの遺物が出土した。総数は1,414点である。内訳は食膳具62.5%、調理具23.6%、貯蔵具5.3%である。

861は土師器蓋、862は底部糸切りの土師器碗、863は同安窯系青磁皿、864は青磁碗で見込の釉を輪状に搔き取り、内面に横点描文を描く。865は白磁碗、866は瓦器皿、867～870は瓦器碗で、868～870は和泉型である。871は須恵器杯、底部ヘラ切りである。872～880は須恵器碗で、底部の確認できるもののうち、878のみ静止糸切り、他は回転糸切りである。881・884は須恵器鉢、882・883は須恵器壺である。885・887・888は土師器甕、888は口縁部が水平に折れ、やや下方に延びる。886は土師器羽釜、889は土師器三足堀の脚部である。890は瓦質三足羽釜である。脚部と同一個体であるが、接点がないため図上復元した。891は輪羽口、892は石鍋の残欠である。遺物は時期幅を有するが、Ⅳ期のものが主体となり、Ⅰ期の遺物が10-1区に比べて少ない傾向にある。

表25 11区柱穴一覧 (1)

遺物名	長径(cm)	短径(cm)	高さ(cm)	特記事項	場所	土師器食膳具 点数	基底器食膳具 点数	その他食膳具 点数	食膳具合計 点数	調理具合計 点数	貯蔵具合計 点数	軒瓦具合計 点数	その他の遺物 点数	不明 点数
SP01	55	45	24			2	1	0	3	2	—	—	—	—
SP02	21	71	10		840	4	5	—	—	4	5	2	139	—
SP03	37	36	13			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP04	29	26	10			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP05	36	27	19			—	1	4	—	—	1	4	—	—
SP06	29	(16)	10			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP07	31	26	22			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP08	21	17	7			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP09	31	25	11			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP10	32	(14)	21			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP11	34	(25)	16			—	1	1	—	—	1	1	—	—
SP12	32	30	28			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP13	23	19	10			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP14	42	19	18		841	—	1	79	—	—	1	79	—	—
SP15	26	28	17	SB008		2	25	—	—	2	25	—	—	—
SP16	21	(17)	7			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP17	30	(27)	16			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP18	30	29	28	SB008	746	3	25	—	—	3	25	—	—	—
SP19	36	35	19			—	4	10	—	—	4	10	—	—
SP20	40	34	20			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP21	27	26	14	SB009		—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP22	38	(15)	20		842	—	1	8	—	—	1	8	—	—
SP23	42	37	20			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP24	97	97	21			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP25	36	29	21			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP26	36	25	19	SB008	747-748	4	22	—	—	4	22	—	1	20
SP27	36	28	25			—	1	3	1	4	—	2	7	2
SP28	24	(12)	9			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP29	31	24	11			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP30	193	45	23	SB008		—	4	10	1	2	—	5	12	—
SP31	25	21	21			—	—	—	—	—	—	—	1	24
SP32	24	22	11			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP33	29	26	—	SB008-850	17	58	—	—	—	17	58	3	80	—
SP34	21	23	20	SB009		—	3	5	—	—	3	5	—	—
SP35	27	25	—			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP36	47	(28)	23			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP37	32	32	28	SB008	749-750	2	66	1	39	—	3	191	1	24
SP38	34	35	17			—	—	—	—	—	—	—	—	1
SP39	28	19	23	SB009		—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP40	24	23	6			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP41	58	(21)	17	SB009	751-752	11	154	2	18	—	19	170	2	12
SP42	23	21	—			—	—	—	—	—	—	—	—	—
SP43	27	25	15			—	—	—	—	—	1	8	1	17
SP44	36	33	29			—	—	—	—	—	—	—	—	—

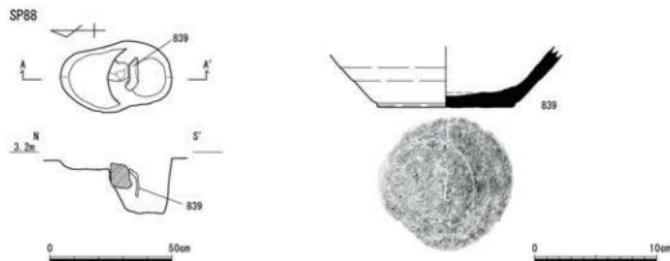


図93 SP88平面図・断面図 (S=1/20)、出土遺物実測図 (S=1/4)

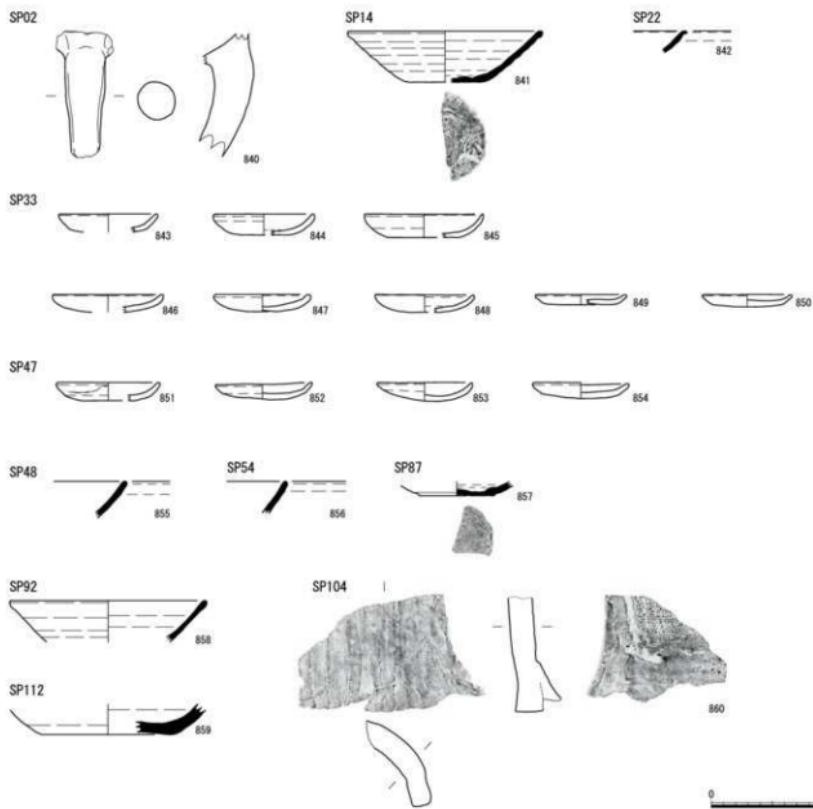


図94 11区柱穴出土遺物実測図 (S=1/4)

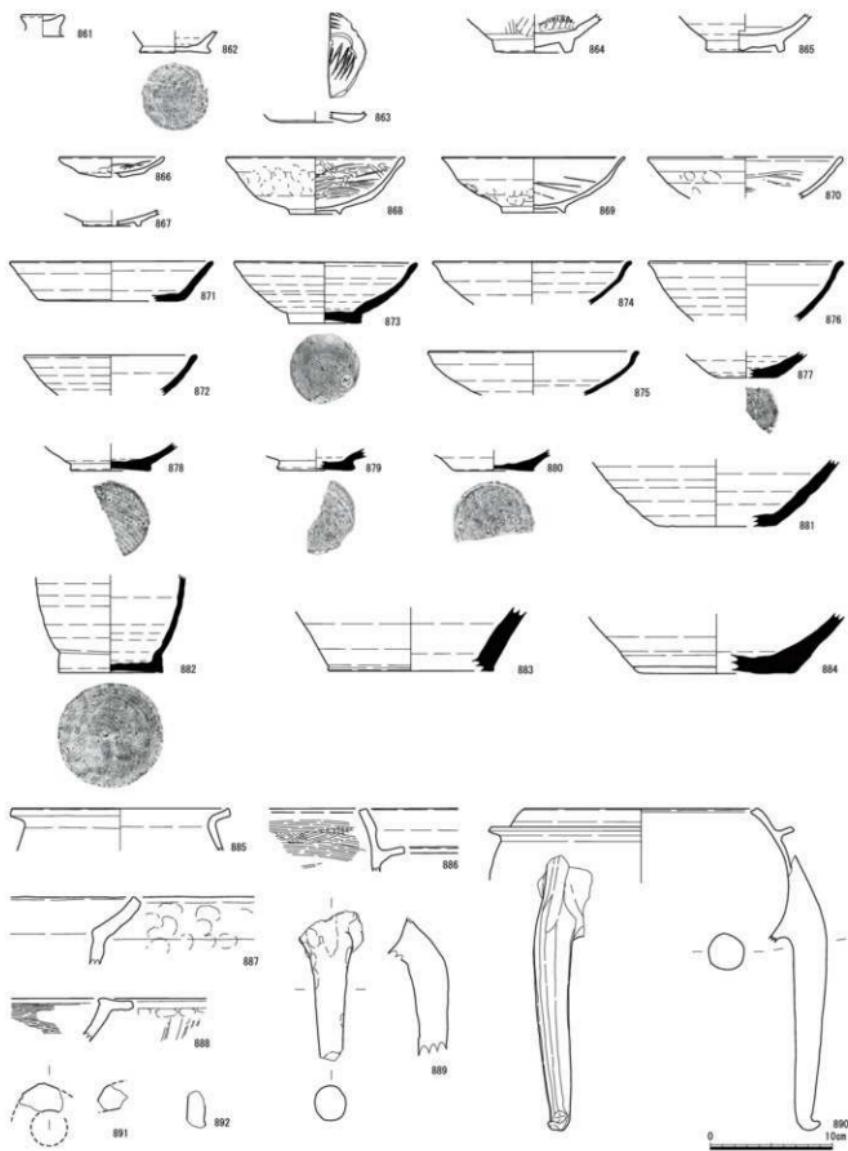


图95 11区包含层出土遗物实测图 ($S=1/4$)

表26 11区柱穴一覧 (2)

測定名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	地盤透水性	土被り合算		底面合算		その他合算		食糧合算		調査合算		野菜合算		その他の植物		
						点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	
SP45	27	21	19	-	-	5	8	-	-	-	9	8	2	46	-	-	-	-	-	
SP46	16	14	17	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	
SP47	27	20	19	-	SP1-154	23	235	1	5	-	24	240	1	60	-	-	-	-	-	
SP48	13	13	20	-	-	855	-	-	-	-	1	10	-	-	-	-	-	-	-	
SP50	14	14	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP51	32	27	18	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	1	10	-	-	-	
SP52	27	23	16	-	-	1	4	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	
SP53	37	29	21	SP67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP54	41	34	19	-	-	856	2	13	1	5	-	3	18	-	-	-	-	-	-	
SP55	18	(14)	7	-	-	7	3	1	2	-	2	5	1	32	-	-	-	-	-	
SP56	69	41	21	-	SP3-152	14	195	11	295	-	25	421	10	154	1	42	-	-	1	20
SP57	27	24	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP58	35	33	18	-	-	1	5	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	
SP59	27	22	16	-	-	1	4	1	5	-	2	9	-	-	-	-	-	-	-	
SP60	29	25	17	SP67	742	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP61	29	25	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP62	28	17	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP63	27	(22)	27	-	-	1	2	2	6	-	3	8	-	-	-	-	-	-	-	
SP64	33	26	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP65	51	22	11	-	-	3	3	-	-	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	
SP66	33	27	16	-	-	1	2	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	
SP67	39	36	21	SP66	740	1	9	1	20	-	2	29	1	32	-	-	-	-	-	
SP68	31	30	41	-	SP3-635	6	50	5	289	-	11	339	3	46	-	-	-	-	1	1
SP69	27	24	17	-	-	2	10	-	-	-	2	10	-	-	-	-	-	-	-	
SP70	35	30	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP71	38	28	9	SP67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP72	36	35	18	-	SP66	-	-	2	15	-	2	15	1	152	-	-	-	-	-	
SP73	39	33	28	SP66	-	10	16	2	6	-	12	22	1	2	-	-	1	17	-	
SP74	61	(33)	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP75	31	29	39	SP67	144-745	8	25	-	SP1-54	7	79	2	45	-	-	總計1	321	-	-	
SP76	43	35	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP77	35	34	21	SP67	739	-	-	-	-	-	萬1	9	5	-	-	1	49	-	-	
SP78	29	26	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	
SP79	39	33	24	SP66	741	6	35	4	12	-	10	47	1	35	-	-	1	4	-	
SP80	41	39	18	-	SP66	2	38	-	-	-	2	38	2	47	1	570	-	-	-	
SP81	32	29	21	SP66	-	-	2	3	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	
SP82	42	31	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP83	37	31	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP84	27	24	15	-	-	1	1	-	-	-	1	2	6	-	-	-	-	-	-	
SP85	17	16	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP86	29	26	32	SP66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP87	36	31	28	-	SP67	1	1	1	12	-	2	13	-	-	-	-	-	-	-	
SP88	46	27	-	SP66	839	-	1	4	-	-	1	4	1	335	-	-	-	-	-	
SP89	42	32	36	SP66	-	2	2	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	
SP90	35	31	21	SP65, SP67+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP91	31	19	10	-	-	2	3	-	-	-	3	4	-	-	-	-	-	-	-	
SP92	27	26	22	-	SP67	-	-	1	15	-	1	15	1	5	-	-	-	-	-	
SP93	67	73	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP94	21	18	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP95	23	23	3	SP67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP96	39	30	11	SP64	-	1	5	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	
SP97	41	(22)	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP98	40	26	25	SP65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP99	28	27	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP100	36	29	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP101	26	(15)	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	4
SP102	26	27	6	SP64	734-736	15	87	2	10	-	17	87	1	6	1	5	-	-	2	18
SP103	37	27	19	10-15(S67)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
SP104	37	31	19	-	SP67	-	1	11	-	-	1	11	2	67	-	-	總計1	309	-	
SP105	43	35	22	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	
SP106	32	34	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP107	14	10	10	SP106+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP108	(31)	24	13	SP107-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP109	26	27	29	10-15(S67)	-	2	6	-	-	-	2	6	-	-	-	-	-	-	-	
SP110	25	26	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP111	20	19	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP112	33	30	18	-	SP67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	60	-	-	-	-
SP113	40	33	22	SP67	743	1	1	-	-	-	SP1	66	2	87	-	-	-	-	-	-
SP114	31	29	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-	
SP115	38	28	17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP116	34	27	16	-	-	3	6	2	3	-	5	9	-	-	-	-	-	-	-	
SP117	27	22	13	-	-	1	4	-	-	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	
SP118	31	28	21	SP67	-	-	-	-	-	-	SP1	8	9	-	-	-	-	-	-	-
SP119	26	26	18	SP67-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP120	46	46	11	SP67-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP121	45	45	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP122	31	26	13	SP67+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

*SP49、SP100は文書

第16節 12-1区の調査(図96・97、表27・29)

位置 4区の南側、11区の西側に位置する調査区である。幅員は約10m、総延長は約120mを測る。12区の調査は4次にわたって行った。水路の北側に位置し4区と接する調査区を12-1区、水路南側の十字路部分を12-2区、さらに南側の市道に接する調査区を12-3区と呼称した。本調査区の延長は約20mである。調査区西側の道路は、西山廟所への参道である。

層序 基本層序は耕土、床土、灰色砂砾層である。遺構は全て灰色砂砾層の上面で検出した。遺構検出面の標高は3.5mを測る。

検出遺構 検出した遺構は掘立柱建物跡1棟、土坑墓1基、溝3条、土坑3基、柱穴37基である。遺構は調査区南西部を除く全域に広がる。参道の間知石組みを調査区西壁で検出した。

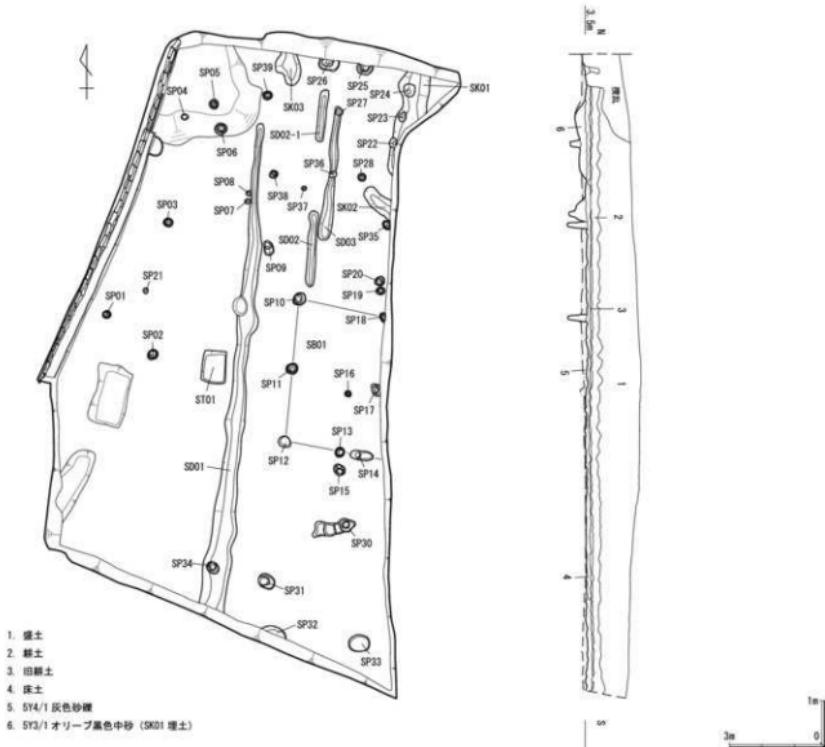


図96 12-1区平面図・土層断面図 (S=1/150・1/100)

SB01 調査区の中央、東壁沿いで検出した2間×1間以上の建物跡である。SP10-SP12を基準とした棟方向はN2°Eである。平面規模は南北方向2間で4.4m、南北方向2.6m以上を測る。柱穴間の寸法はSP10-SP12間で北から2.1m、2.3mである。柱穴の平面形は基本的に円形を呈し、大きさは直径29~40cmを測る。深さは遺構検出面から12~21cmである。SP12から出土した須恵器輪893は高台が退化し痕跡程度となっている。

ST01 SB01の1.8m西側の位置で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、木棺痕跡が確認できることから土葬墓と考える。長さ98cm、幅73cm、深さは遺構検出面から12cmを測り、主軸はN1°Eである。墓の南西部において龍泉窯系青磁碗906と土師器皿903～905が出土した。土師器皿は3枚が重なっていた。いずれも原位置をほぼ保っていると考えられる。遺物の周辺からは埋土と明らかに異なる粘土が検出された。これらは骨の土壌化したものと思われるが、部位等の詳細は不明である。遺物の検出状況から南頭位と考えられる。

903~905は手づくね成形の土師器皿である。口縁端部はナデにより三角形状を呈す。906は龍泉窯系青磁碗で外面に鷄蓮弁文を描く。土師器皿からはIV期の新古を決めがたいが、青磁碗からIV期新段階に位置づける。

満 3条検出した。SD01は4-1区SD02の延長、SD02とSD03のいずれかは3区SD01、4-1区SD03の延長である可能性が高い。

主城 3基確認した。

SK01 調査区の北東隅で検出した。平面形は調査区外へ広がるため全容は不明である。溝となる可能性もあるが4-1区で延長を確認していないため土坑とした。検出規模は長辺3.2m、短辺95cm、深さは遺構検出面から17cmを測る。

埋土から底部糸切りの土師器楕898～900、底部糸切りの須恵器楕901、土師器羽釜902が出土した。土師器楕と須恵器楕の様相からⅢ期に位置づけられる。

柱穴 37基を検出した。SD01の東側で検出数が増加するものの、建物跡に伴うものを除けば、性格は判然としない。

SP24からは須恵器突帯椀894、SP27からは土師器椀895、SP38からは黒色土器B類椀896が出土した。

石組構 廝所への参道部分が一部調査区に接していたため、参道の間知石組みを確認した。石組みは基礎に胴木を敷き、間知石を2段積んでいる。遺物の出土がないため、詳細な時期は不明であるが、姫路地域では間知石が使用されるのは近代になってからであるため、本石組みも近代以降に位置づけられよう。

遺構に伴わ
ない遺物 遺構検出中に305点の遺物が出土した。その内訳は食膳具47.8%、調理具16.4%、
貯蔵具8.2%である。細片が多く、土師器泥釜897のみ図示した。

表27 12-1区遗嘱一管

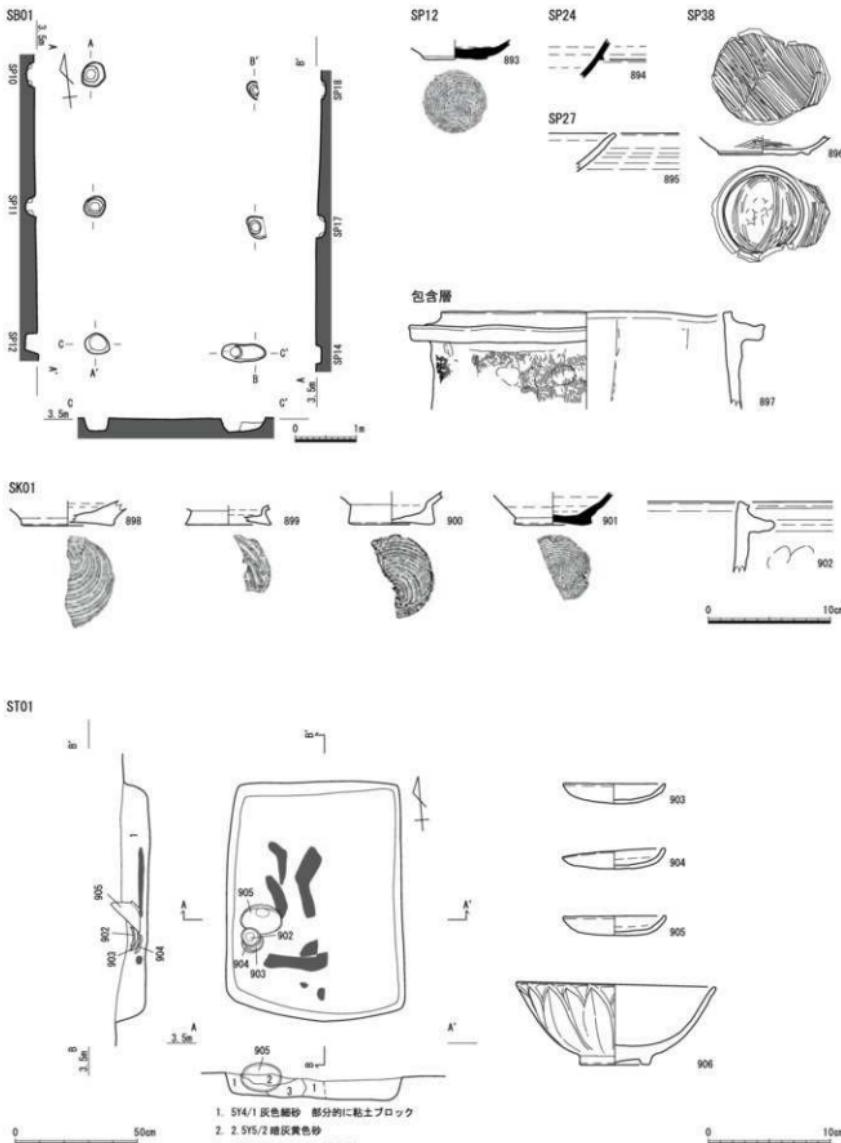


図97 SB01・ST01平面図・断面図 (1/80・1/20)、12-1区遺構出土遺物実測図 (S=1/4)

第17節 12-2区の調査(図98~100、表28・30)

- 位置** 12-1区の南側、6-2区の西側に位置する調査区である。十字形を呈し、南北方向約45m、幅約10m、東西方向約40m、幅6mを測る。
- 層序** 基本層序は耕土、床土を経て黄灰色砂礫層に至る。遺構は全て砂礫層上面で検出した。遺構検出面の標高は3.4~3.5mである。
- 検出遺構** 検出した遺構は溝1条、土坑2基、柱穴31基である。検出状況は溝と土坑が調査区北端、柱穴が中央から東寄りにかけて確認されたが、全体的に遺構密度は希薄であった。
- 溝** 1条検出した。
- SD01** 調査区の北端で検出した。調査区の北を流れる基幹水路の前身と考えられる。全容は調査区外に広がるため不明であるが、検出規模で延長9.2m、幅1.23m、深さは遺構検出面から41cmを測る。6-1区SD03と一連となる遺構であろう。埋土は水平に堆積する5層をはさんで大きく上下に分離できる。遺物はSK02に隣接した位置から五輪塔の空風輪915が、溝の東端から水輪916~918が3個並んで出土した。いずれも花崗岩製である。915は頂部を欠損し、風輪の上部は平坦に仕上げられている。水輪はいずれも最大径が胴部上半にある。その他、底部糸切りの須恵器壺907、土師器羽釜908、外面に格子タタキを施す須恵器壺909、備前焼擂鉢910、備前焼壺911、布目瓦912~914が出土した。913と914は凸面縄目タタキである。これらの遺物からSD01の時期を特定することは困難であるが、出土遺物の様相から近世以前に埋められ、その後現在の水路の位置に付け替えられたと考えられる。
- 土坑** 2基検出した。
- SK01・SK02** 調査区の北端で検出した土坑である。検出状況は8字状を呈し、SD01を切っている。検出状況では2つの土坑と認識したが、本来は一連で機能していた可能性がある。北側のSK02は長辺1.43m、短辺1.35m、深さは遺構検出面から35cmを測る。土坑底面に石を2列に設置し、溝状を呈する。その上に蓋石を設置し、暗渠状の構造となっている。この石組みは調査区を越えて北へ伸びている。石組みの規模は延長1m以上、幅24cmを測る。使用石材は凝灰岩の割石で、一辺30cm程度の石材の面を揃える形で設置している。蓋石はやや大きく長辺50cm程の石材を使用している。南側に位置するSK01にはそうした施設はない。SK01は長辺1.74m、短辺1.58mの長円形を呈す素掘りの土坑で、深さは遺構検出面から54cmを測る。SK02を介して給排水する仕組みであった可能性もある。遺物は土師器や須恵器の細片が出土したが、本遺構に伴うものではないと考える。SD01を切っていることから、江戸時代の耕作に伴う施設と推測される。
- 柱穴** 調査区の中央部から東側にかけて散漫に検出した。総数は31基である。建物跡を構成するものはない。遺物の出土も極めて少なく時期、性格とも不明である。
- 遺構に伴わ
ない遺物** 遺構検出中に遺物が43点出土した。いずれも細片であり、近世陶磁器と江戸時代の瓦である。時期は不明であるが土錘が1点出土している。

表28 12-2区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	周縁物	土師器食器類		須恵器食器類		その他食器類		食器具合計		須恵器合計		貯蔵器合計		その他の遺物		不明	
						品目	数量	重量(g)	品目	数量	重量(g)	品目	数量	重量(g)	品目	数量	重量(g)	品目	数量	重量(g)	
SD01	970	173	41	907(-)			2	-		-	-	4	6	270	9	323	莫輪4.4	14,500	1,767	9	101
SK01	174	158	54	SD01(+)		-	2	4		20	-	1	24	-	15	-	-	-	-	3	57
SK02	143	135	35	-		3	10	-		青1	7	4	17	-	-	-	-	青1	192	1	3

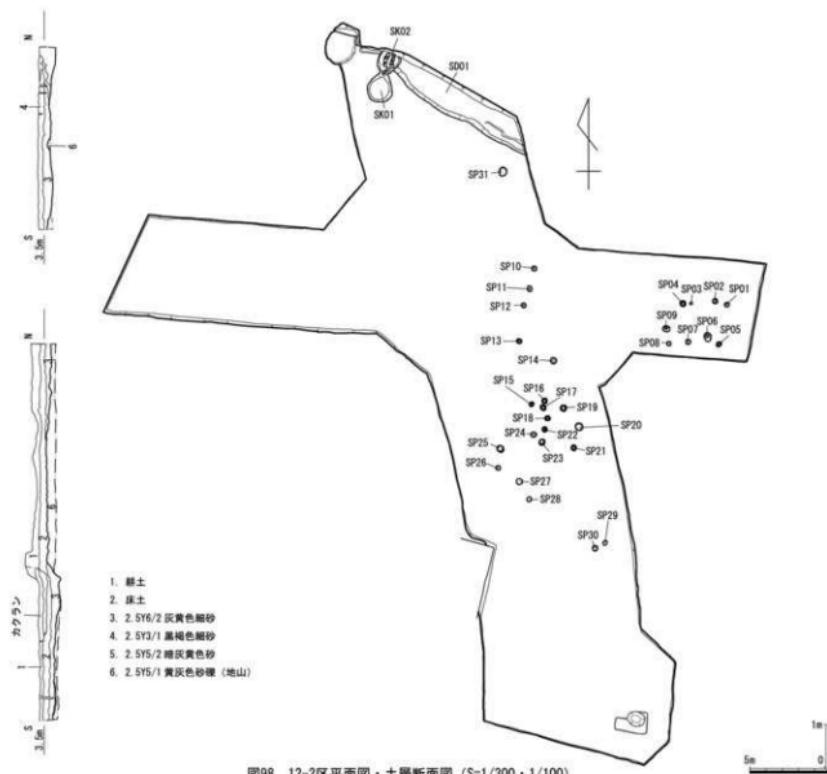


図98 12-2区平面図・土層断面図 (S=1/300・1/100)

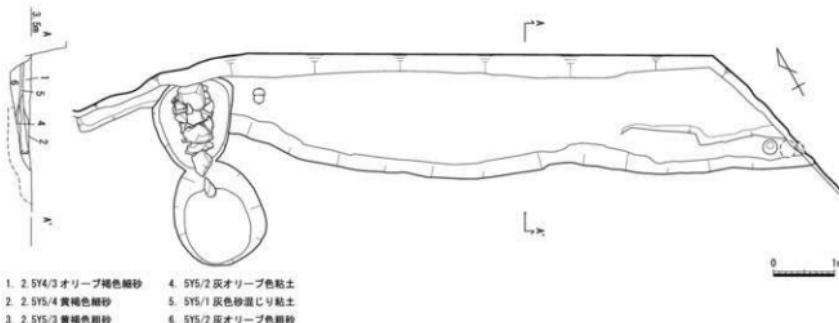
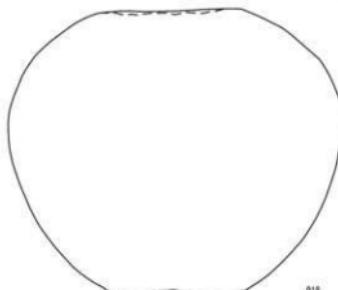
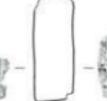
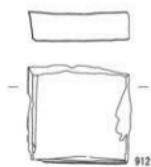
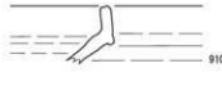


図99 SD01・SK01・SK02平面図・断面図 (S=1/80)

SD01



0 10cm

図100 SD01出土遺物実測図 (S=1/4)

表29 12-1区柱穴一覧

調査名	長さ(cm)	幅広(cm)	深さ(cm)	特記事項	両端面		両側面		その他側面		金棒具合計		鋼管具合計		竹籠具合計		その他の道具		不明	
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
SP1	25	24	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP2	31	31	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP3	29	26	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 5	
SP4	21	19	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP5	29	27	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP6	38	35	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP7	17	16	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP8	16	15	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP9	46	29	14	-	-	-	1	18	-	-	-	1	18	-	-	-	-	-	-	
SP10	39	38	18	500+	-	-	-	-	1	2	-	-	1	2	-	-	-	-	-	
SP11	37	39	18	500+	-	-	2	3	-	-	2	3	-	-	-	-	-	-	-	
SP12	40	35	21	500+	893	6	32	4	90	-	-	8	122	-	-	-	-	1	3	
SP13	31	30	18	-	-	-	2	4	-	-	-	2	4	-	-	-	-	-	-	
SP14	71	29	27	500+	-	-	-	-	1	13	-	-	1	13	-	-	-	-	-	
SP15	36	33	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP16	19	19	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP17	37	25	15	500+	-	-	-	-	1	3	-	-	1	3	-	-	-	-	-	
SP18	29	18	12	500+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP19	27	23	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP20	32	29	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP21	18	15	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP22	30	22	14	500+1	-	2	4	-	-	-	2	4	1	6	-	-	-	-	-	
SP23	25	23	17	500+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP24	29	27	15	500+	894	-	1	5	-	-	1	5	-	-	1	19	-	-	-	
SP25	50	29	30	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	1	5	
SP26	62	32	18	-	-	-	1	2	1	6	-	2	8	-	-	-	-	-	-	
SP27	22	21	11	5000+	895	3	15	-	-	-	3	15	-	-	-	-	-	-	-	
SP28	24	24	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP29	136	42	14	-	-	-	-	-	1	21	-	-	1	21	-	-	-	-	-	
SP30	63	43	11	-	-	-	-	-	3	14	-	-	3	14	-	-	-	-	-	
SP31	81	22	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP32	64	51	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP33	40	34	18	500+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP34	29	22	11	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	2	18	-	-	-	-	
SP35	24	18	11	500+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP36	27	25	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP37	15	13	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP38	27	25	8	-	-	-	-	-	-	-	基1	45	1	45	-	-	-	-	-	

④ SP29は空

表30 12-2区柱穴一覧

調査名	系高(cm)	幅広(cm)	深さ(cm)	特記事項	両端面		両側面		その他側面		金棒具合計		鋼管具合計		竹籠具合計		その他の道具		不明	
					点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
SP1	30	26	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP2	33	32	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP3	17	16	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP4	37	35	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP5	34	30	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 1	
SP6	56	45	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP7	31	30	20	-	-	-	1	3	-	-	-	1	3	-	-	-	-	1	1	
SP8	45	36	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP9	27	27	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP10	31	30	17	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	
SP11	36	29	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP12	30	28	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP13	22	30	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP14	25	28	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP15	21	17	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP16	34	33	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP17	34	34	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP18	34	31	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP19	40	38	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP20	47	46	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP21	58	53	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP22	32	30	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP23	39	30	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP24	35	33	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP25	46	38	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP26	30	28	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 1	-	
SP27	29	28	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP28	31	29	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP29	32	25	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP30	35	32	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SP31	55	47	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第18節 12-3区の調査(図101・102、表31)

- 位置** 12-2区の南側に位置する調査区である。延長は37.5m、幅員は10mである。
- 層序** 基本層序は盛土、耕土、床土を経てにぶい黄褐色細砂～砂礫層に至る。遺構は全てにぶい黄褐色層の上面で検出した。遺構検出面の標高は3.5～3.6mである。
- 検出遺構** 検出した遺構は、井戸2基、土坑5基、鋤溝である。鋤溝は3条確認した。鋤溝はおよそN56°Eを主軸としており、幅約20cmから30cm、深さ5cmから10cmを測る。
- SE01** 調査区北部で検出した石組み井戸である。掘方の平面形は円形を呈し、規模は長辺1.43m、短辺1.35m、深さは遺構検出面から1.44mである。石組みの内径は70cmを測る。遺物は近現代の陶磁器が出土した。
- SE02** SE01の南側2mで検出した。SK04を切っている。掘方の平面形は円形を呈し、規模は直径約1.6m、深さは遺構検出面から1.18mを測る。石組みは掘方の中央部で検出した。2石組んでいるのみで下部には続かない。石組みの下層は直径約70cmの素掘りとなり、木質等は検出できていないが、この部分に本来は曲物が据えてあった可能性がある。遺物は出土していない。
- 土坑** 径1.2m～1.5mを測る5基の土坑を確認した。埋土は浅黄色を呈している。遺物は出土していないが、江戸時代以降と考えられる。調査区は西蓮寺の旧境内に該当することからこれらの遺構は寺院に伴うものと想定される。
- 本調査区においては、10-2区と同様に平安時代～鎌倉時代に遡る明確な遺構が検出されなかった。
- 遺構に伴わない遺物** 遺構検出中に遺物が24点出土した。いずれも細片である。土錐が1点出土しているが近世陶磁器が大半である。

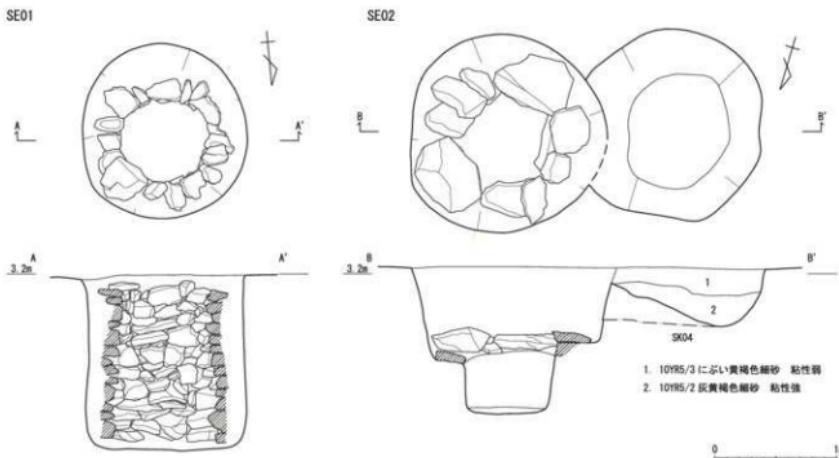


図101 SE01・SE02・SK04平面図・断面図 (S=1/40)

表31 12-3区遺構一覧

遺構名	長辺(cm)	短辺(cm)	深さ(cm)	特記事項	発掘場所	土師器食器類 点数	重量(g)	漆器類食器類 点数	重量(g)	その他食器類 点数	重量(g)	食器類合計 点数	重量(g)	漆器類合計 点数	重量(g)	軽量食器類 点数	重量(g)	不明 点数	重量(g)		
SK01	143	135	144	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5	-	-	-	-	5	76		
SK02	164	160	118	(SK03)、SK04+	-	3	20	1	8	-	-	4	28	-	-	1	18	-	-	75	1,582
SK03	156	150	118	(SK01)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	48	
SK04	130	130	11	(SK02)	-	-	-	-	-	-	-	4	5	-	-	-	-	-	-	1	
SK04	154	140	42	(SK04)、SK02-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	46	
SK05	120	115	22	(SK05)	-	-	-	-	-	-	-	1	12	-	-	-	-	-	43	724	
SK06	150	150	15	(SK06)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	254	

⑥ SK03穴蓋

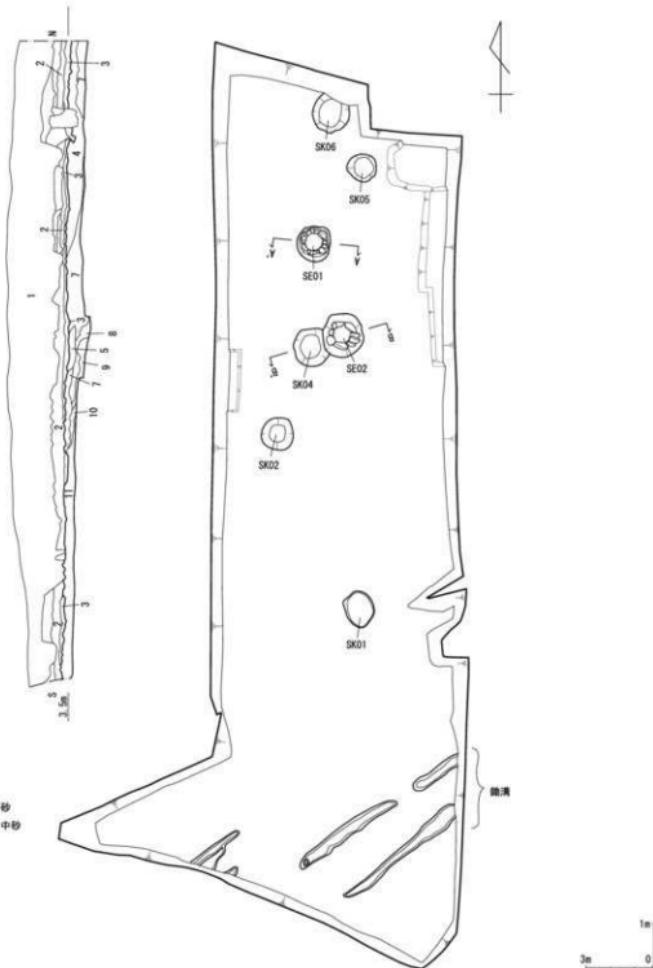


図102 12-3区平面図・土層断面図 (S=1/200・1/100)